

茨城県教育財団文化財調査報告第323集

上野陣場遺跡 2

中根・金田台特定土地区画整理
事業地内埋蔵文化財調査報告書 XI

平成 21 年 3 月

独立行政法人都市再生機構茨城地域支社
財団法人茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第323集

うえ の じん ば
上野陣場遺跡 2

中根・金田台特定土地区画整理
事業地内埋蔵文化財調査報告書 XI

平成 21 年 3 月

独立行政法人都市再生機構茨城地域支社
財団法人茨城県教育財団

序

茨城県は、つくば市を日本における科学技術の研究開発の中核として、さらに国際交流の拠点としてふさわしい街にすべく整備を進めております。

この新しい街づくりの一環として、つくば市と独立行政法人都市再生機構茨城地域支社は、市と首都圏を直結する「つくばエクスプレス」の整備とその沿線開発を一体的に進める土地区画整理事業を計画的に推進しています。

しかしながら、この事業地内には埋蔵文化財包蔵地である上野陣場遺跡が所在することから、これを記録保存の方法により保護する必要があるため、当財団が独立行政法人都市再生機構茨城地域支社から開発区域内における埋蔵文化財発掘調査事業の委託を受け、平成12年度に上野陣場遺跡1区の発掘調査を実施しました。その成果は既に「文化財調査報告」第182集として刊行したところです。

本書は、平成18・19年度に調査を実施した上野陣場遺跡2・3区の成果を取録したものです。本書が、学術的な研究資料としてはもとより、郷土の歴史に対する理解を深めるために活用されることによりまして、教育・文化の向上の一助となれば幸いです。

最後になりますが、発掘調査から本書の刊行に至るまで、委託者であります独立行政法人都市再生機構茨城地域支社から多大なご協力を賜りましたことに対し、厚く御礼申し上げますとともに、茨城県教育委員会、つくば市教育委員会をはじめ、関係各位からいただいた御指導、ご協力に対し、深く感謝申し上げます。

平成21年3月

財団法人茨城県教育財団
理事長 稲葉節生

例 言

1 本書は、独立行政法人都市再生機構茨城地域支社の委託により、財団法人茨城県教育財団が平成18年6月1日から8月31日及び平成19年4月1日から5月31日まで発掘調査を実施した茨城県つくば市大字上野字成井895番地の1ほかに所在する上野陣場遺跡の発掘調査報告書である。

2 当遺跡の発掘調査期間及び整理期間は、以下のとおりである。

調査 平成18年6月1日～平成18年8月31日

平成19年4月1日～平成18年5月31日

整理 平成19年11月1日～平成20年1月31日

平成20年9月1日～平成20年12月31日

3 当遺跡の発掘調査は、平成18年度が調査課長川井正一のもと、平成19年度が調査課長瓦吹堅のもと以下の者が担当した。

平成18年度

首席調査員兼班長 櫻村宣行

主任調査員 田中幸夫

主任調査員 花見勝博

平成19年度

首席調査員兼班長 三谷 正

主任調査員 栗田 功

主任調査員 小川貴行

4 整理及び本書の執筆・編集は、整理課長村上和彦のもと、以下の者が担当した。

平成19年度 副主査 川井正一

平成20年度 主任調査員 齋藤和浩

5 本書の執筆分担は、下記のとおりである。

川井正一 第1章～第3章第2節の一部 第3章第3節 第5節の一部

齋藤和浩 第1章～第3章第2節の一部 第3章第4節 第5節の一部

凡 例

- 1 当遺跡の地区設定は、日本平面直角座標第IX系座標を原点とし、 $X = +12,880\text{m}$ 、 $Y = +26,080\text{m}$ の交点を基準点 (A 1a1) とした。なお、この原点は、日本測地系による基準点である。

大調査区は、この基準点を基に遺跡範囲内を東西南北各々40m四方に分割し、さらに、この大調査区を東西・南北に各々10等分し、4m四方の小調査区を設定した。

大調査区の名称は、アルファベットと算用数字を用い、北から南へA、B、C・・・、西から東へ1、2、3・・・とし、「A1区」のように呼称した。さらに小調査区は、北から南へa、b、c・・・j、西から東へ1、2、3・・・0とし、名称は大調査区の名称を冠して「A1a1区」のように呼称した。

- 2 抄録の北緯及び東経の欄には、世界測地系に基づく緯度・経度を () を付けて併記した。

- 3 遺構・遺物・土層の実測図、一覧表、遺物観察表等で使用した記号は次のとおりである。

遺構 S I - 竪穴住居跡 S B - 掘立柱建物跡 N S K - 粘土探掘坑 S D - 溝跡 S K - 土坑
P G - ビット群

遺物 P - 土器・陶器 TP - 拓本記録土器 DP - 土製品 Q - 石器・石製品 M - 金属製品

土層 K - 攪乱

- 4 土層観察と遺物における色調の判定には、「新版標準土色帖」(小山正忠・竹原秀雄編著 日本色研事業株式会社)を使用した。

- 5 土層解説中の含有物については、各々総量で記述した。

- 6 遺構・遺物実測図の縮尺は、次のとおりである。


(1) 遺構全体図は400分の1、遺構実測図は原則として60分の1で掲載した。

(2) 遺物実測図は原則として3分の1で掲載した。種類や大きさにより異なる場合があり、それらについては個々に縮尺を表示した。

(3) 遺構及び遺物の実測図中の表示は次のとおりである。

 焼土・赤彩・施釉

 炉・火床面・繊維土器断面

 竈部材・粘土・黒色処理

 油煙

●土器・陶器 ▲土製品 ■石器・石製品 △金属製品 -----硬化面

- 7 遺物観察表及び遺構一覧表の作成方法は、次のとおりである。

(1) 遺物番号は通し番号とし、挿図、観察表、写真図版に記した番号と同一とした。

(2) 計測値の単位はcm及びgで示した。

(3) 遺物観察表及び遺構一覧表とも () は現存値、[] は推定値であることを示している。

(4) 備考欄には、土器の現存率及び写真図版番号を記した。

- 8 竪穴住居跡の「主軸」は、炉・竈を通る軸線とし、主軸方向は、その他の遺構の長軸(径)方向と共に、座標北からみて、どの方向にどれだけ振れているかを角度で表示した(例 N-10°-E)。

- 9 遺構番号については、各遺構毎に既調査時の最終番号の次から付した。

目 次

序	
例言	
凡例	
目次	
概要	1
第1章 調査経緯	3
第1節 調査に至る経緯	3
第2節 調査経過	4
第2章 位置と環境	5
第1節 地理的環境	5
第2節 歴史的環境	5
第3章 調査の成果	11
第1節 調査の概要	11
第2節 基本層序	11
第3節 2区の遺構と遺物	15
1 縄文時代の遺構と遺物	15
(1) 陥し穴	15
(2) 土坑	16
2 弥生時代の遺構と遺物	20
竪穴住居跡	20
3 古墳時代の遺構と遺物	21
竪穴住居跡	21
4 奈良・平安時代の遺構と遺物	23
(1) 竪穴住居跡	23
(2) 土坑	46
5 中世・近世の遺構と遺物	49
(1) 墓坑	49
(2) 土坑	54
6 その他の遺構と遺物	56
(1) 竪穴住居跡	56
(2) 土坑	57
(3) ビット群	66
(4) 遺構外出土遺物	68
第4節 3区の遺構と遺物	73
1 古墳時代の遺構と遺物	73
竪穴住居跡	73

2	奈良・平安時代の遺構と遺物	78
(1)	竪穴住居跡	78
(2)	掘立柱建物跡	106
(3)	粘土探掘坑	111
(4)	土坑	123
3	その他の遺構と遺物	126
(1)	掘立柱建物跡	126
(2)	溝跡	129
(3)	土坑	131
(4)	ピット群	142
(5)	遺構外出土遺物	148
第5節	まとめ	151
写真図版		PL1～PL34
抄録		

上野陣場遺跡の概要

【はじめに】

上野陣場遺跡は、つくば市と土浦市の境を流れる桜川右岸の台地上に位置し、平成12年度に続いて平成18・19年度にも発掘調査が行われました。調査の結果、縄文時代から近世までの集落が断続的に営まれていたことが明らかになっています。とくに古墳時代後期及び平安時代の集落跡が中心の複合遺跡です。「上野陣場」という遺跡名が示すように、室町時代後半（約550～400年前）に武士たちの屋敷があったと伝えられている場所です。



〈これまで調査した上野陣場遺跡の全体図〉

④



〈平成19年度の調査区〉



北側から見た調査区完掘状況



掘立柱建物跡の調査

【調査のあらまし】

今回の調査は、「つくばエクスプレス」沿線開発関連の土地区画整理事業予定地内に上野陣場などの遺跡があることから、遺跡の内容を記録するため、茨城県教育財団が行いました。

【調査の内容】



縄文時代の陥し穴です。深さが 1.04 mあり、動物を捕らえるために掘られました。この穴から縄文時代の早期～前期の土器が見つかっています。

江戸時代のお墓です。底面の中央部から人骨1体が折りたたまれた状態で見つかっています。古銭や数珠などの副葬品も確認されました。



平安時代の住居の竈跡（現在のコンロにあたります）です。火が良くあたるように、高さ調節のための支脚に土器を逆さにして使っています。また、竈を丈夫にするために土器を使って周りを補強しています。

凸凹した地面は粘土を採ったあとです。その粘土を使って土器や竈を作ったしりていました。この穴から多くの土器の破片が見つかりました。最後はゴミ捨て場として使われていたようです。

【わかったこと】

今回の調査から上野陣場遺跡の北部・南部の土地利用の様子がわかりました。南の斜面部には、粘土を採った後、使用済みや壊れた土器を捨てる穴が見つかりました。これまでの調査から上野陣場の集落は、縄文時代から平安時代まで、若干の盛衰を繰り返しながら継続して営まれていたことがわかりました。調査した範囲は集落の東半部にあたり、集落の範囲はさらに西方向に広がり、一大集落が展開していたと考えられます。

第1章 調査経緯

第1節 調査に至る経緯

つくば市は、世界に開かれた国際交流の中心、世界の科学技術をリードする研究開発の拠点として、21世紀の新しい街づくりを進めている。その一環として取り組んでいるのが、2005年8月に開業したつくば市と首都圏を直結する「つくばエクスプレス」沿線の開発である。中根・金田台地区については、住宅・都市整備公団つくば開発局（平成9年10月から住宅・都市整備公団茨城地域支社に、平成11年10月から都市基盤整備公団茨城地域支社に、平成16年7月から独立行政法人都市再生機構茨城地域支社に名称を変更）を事業主体として、土地区画整理事業を進めている。

平成6年11月18日、住宅・都市整備公団つくば開発局長は茨城県教育委員会教育長あてに、中根・金田台特定土地区画整理事業地内における埋蔵文化財の所在の有無及びその取り扱いについて照会した。これを受けて茨城県教育委員会は平成7年度に現地踏査を実施した。さらに、平成11年10月28、29日、12月15日に試掘調査を実施し、上野陣場遺跡の所在を確認した。平成11年12月22日、茨城県教育委員会教育長は、都市基盤整備公団茨城地域支社長あてに、事業地内に上野陣場遺跡が所在すること及びその取り扱いについて別途協議が必要であることを回答した。

平成12年3月21日、都市基盤整備公団茨城地域支社長から茨城県教育委員会教育長に対して、文化財保護法第57条の3の第1項の規定に基づき、土木工事等のための埋蔵文化財包蔵地の発掘についての通知が提出された。茨城県教育委員会教育長は、計画変更による現状保存が困難であることから記録保存のための発掘調査が必要であると決定し、平成12年3月23日、都市基盤整備公団茨城地域支社長あてに、工事着手前に発掘調査を実施するよう通知した。併せて埋蔵文化財の調査機関として財団法人茨城県教育財団を紹介した。

そこで、財団法人茨城県教育財団は都市基盤整備公団茨城地域支社から上野陣場遺跡発掘調査事業に関する委託を受け、平成12年6月1日から第1次発掘調査を実施した。

平成18年2月24日、独立行政法人都市再生機構茨城地域支社長から、茨城県教育委員会教育長あてに、中根・金田台特定土地区画整理事業に係る埋蔵文化財発掘調査の実施についての協議書が提出された。平成18年2月24日、茨城県教育委員会教育長は、独立行政法人都市再生機構茨城地域支社長あてに上野陣場遺跡について、発掘調査の範囲及び面積等について回答し、併せて埋蔵文化財の調査機関として財団法人茨城県教育財団を紹介した。

財団法人茨城県教育財団は、独立行政法人都市再生機構茨城地域支社長から上野陣場遺跡埋蔵文化財発掘調査事業について委託を受け、平成18年6月1日から8月31日まで第2次調査を実施した。

平成19年2月23日、独立行政法人都市再生機構茨城地域支社長から、茨城県教育委員会教育長あてに、中根・金田台特定土地区画整理事業に係る埋蔵文化財発掘調査の実施についての協議書が提出された。平成19年2月27日、茨城県教育委員会教育長は、独立行政法人都市再生機構茨城地域支社長あてに上野陣場遺跡について、発掘調査の範囲及び面積等について回答し、併せて埋蔵文化財の調査機関として財団法人茨城県教育財団を紹介した。

財団法人茨城県教育財団は、独立行政法人都市再生機構茨城地域支社長から上野陣場遺跡埋蔵文化財発掘調査事業について委託を受け、平成19年4月1日から5月31日まで第3次調査を実施した。

第2節 調査経過

上野陣場遺跡の調査は、第2次調査が平成18年6月1日から8月31日まで、第3次調査が平成19年4月1日から5月31日までの、延べ5か月間にわたって実施した。

以下、その概要を表で記載する。

期間 行程	平成18年	7月	8月	平成19年	5月
	6月			4月	
調査準備 表土除去 遺構確認	■			■	
遺構調査		■	■		■
遺物洗浄 注記作業 写真整理	■	■	■	■	■
補足調査 撤 収					■

第2章 位置と環境

第1節 地理的環境

上野陣場遺跡は茨城県つくば市大字上野字成井895番地の1ほか1に所在している。

つくば市は茨城県の南西部に位置し、東方約5kmには霞ヶ浦、北端には筑波山がある。当遺跡付近の地勢は、筑波山の南西麓を南下する桜川の低地と、西側を小貝川によって限られた標高25～26mでほぼ平坦な筑波・稲敷台地からなっている。この台地には、花室川、蓮沼川、東谷田川、西谷田川など中小河川が南流して、台地縁部を樹枝状に開析している。そのため、谷津や低地が南北に細長く発達し（第1図）、北から南に細長く延びる舌状台地が形成されている。桜川によって大きく開析された流域には、標高約5mほどの沖積低地が形成され、台地との標高差は約20mである。

筑波・稲敷台地は、千葉県北部から茨城県南部に広がる常総台地の一部であり、地質的には、新生代第四紀洪積世に形成された地層が堆積している。下層は成田層及び竜ヶ崎層と呼ばれる砂層・砂礫層が主体をなし、その上部に板橋層または常総粘土層と呼ばれる灰白色粘土層、さらにその上部に関東ローム層が堆積し、最上部は腐植土層となっている¹⁾。関東ローム層は、新期ロームに属し、武蔵野ローム、立川ロームに比定され、軽石層の分布から、富士・箱根火山群の活動に由来するものと考えられる。

当遺跡は、つくば市の東部（旧新治郡桜村）、桜川右岸の北側に張り出した標高24～28mの舌状台地上に立地している。台地は長さ400m、幅250mで、北西から北側と東側に幅の狭い支谷が入り込み、その低位面との比高は約10mほどである。そのうち調査2区は、本来の台地から北方向へ幅40mで舌状に張り出した尾根状の台地上で、調査3区は、東側から南側に回り込んでいる支谷に面する南斜面部に位置している。支谷を挟んだ約100m南東の台地上には上野古屋敷遺跡が所在する。

当遺跡とその周辺の土地利用の現状は、台地上は、縁辺部の一部が雑木林のほか主として畑地で、遺跡を挟む谷津と桜川流域の低地は水田として利用されている。

第2節 歴史的環境

上野陣場遺跡は縄文時代前期、弥生時代後期、古墳時代前・後期、奈良・平安時代及び中世・近世を中心とした複合遺跡である。ここでは、桜川と花室川流域の同時代の遺跡を中心に分布の概要について述べる。

旧石器時代の遺跡数は他の時代と比べて極めて少ない。10か所の石器集中地点が確認され、3か所の石器集中地点からナイフ形石器、搔器、楔形石器、尖頭器、石核、石刃などが多数出土した花室川左岸の東岡中原遺跡²⁾（54）のほか、花室川左岸の柴崎遺跡³⁾（7）、蓮沼川左岸の刈間神田遺跡⁴⁾ などからナイフ形石器や尖頭器が出土している。

縄文時代の遺跡は、多数確認されている。桜川右岸では、上野古屋敷遺跡⁵⁾（早期～中期）（2）、柴崎遺跡（早期～前期、後期）、上野天神遺跡（中期）（5）、花室遺跡（中期～晩期）（46）、金田西坪B遺跡（中期～晩期）（56）、上境旭台貝塚（後期～晩期）（73）、中根中谷津遺跡⁶⁾（後期～晩期）（71）などがある。

弥生時代の遺跡は他の時代と比べて少なく、隣接する上野古屋敷遺跡や、北西1.5kmに位置している玉取向山遺跡⁷⁾ で集落跡が確認されているほか、数か所である。

古墳時代の遺跡は、当流域では61遺跡が確認されている。桜川右岸では、当遺跡と谷津を挟んで南東に位置している上野古屋敷遺跡で、前期から中期にかけての集落跡が確認されている。また、後期の集落跡が確認されている柴崎遺跡、中期の集落跡が確認されている東岡中原遺跡のほか、栗原中台遺跡(14)、栗原大山遺跡(10)、上境作ノ内遺跡(76)などの包蔵地が数多く存在している。古墳は、当遺跡の北西に当地域最大の全長80mの前方後円墳である上野天神塚古墳(4)や上野定使古墳群(3)が存在している。その他、栗原愛宕塚古墳(11)、栗原十日塚古墳(9)をはじめ、桜川右岸台地縁辺部に玉取古墳群、円筒埴輪・人物埴輪・動物埴輪が出土した上境滝ノ台古墳群(74)、埴輪片・石棺破片が出土した横町古墳群(63)、前方後円墳2基・円墳1基から構成される松塚古墳群(27)などが確認されている⁸⁾が、様相が判明しているものはいずれも後期である。

奈良・平安時代の当該地は、河内郡菅田郷に属し、北は筑波郡に接している。12世紀には田中の庄に属していた。菅田郷の郷域は、「新編常陸国誌」によれば、現在のつくば市松塚を東端とし、横町、中根、金田、上野、上境、柴崎、東岡、妻木、さらに花室川を越えて学園都市の中央部である吾妻、天久保を経て、苅間、大橋、新井、柳橋と蓮沼川に沿って西へ広がり、大白碓、小白碓を西限とした地域に比定している⁹⁾。この地域における奈良・平安時代の遺跡は41か所確認されているが、蓮沼川流域は希薄で、桜川と花室川に挟まれた中根、金田を中心とする台地上に集中している。すなわち、当遺跡の南約2kmに位置し、国指定史跡である金田官衙遺跡(金田西遺跡(59)・金田西坪A遺跡(57)・金田西坪B遺跡)、九重東圓庵寺(58)を中心として、約4km四方に密集している。金田西坪A遺跡は従来から河内郡家の正倉跡と推定されていたが、2002年に金田西・金田西坪B遺跡及び九重東圓庵寺の確認調査を実施したところ、多数の掘立柱建物跡等が確認され、河内郡家の郡庁院、正倉院及び関連建物群であることが明らかになった¹⁰⁾。九重東圓庵寺は、礎石、瓦塔、瓦、蔵骨器などが出土しており、確認調査で基壇の一部と溝、堂宇と想定される掘立柱建物跡が検出されているが、寺域や伽藍配置等については不明である¹¹⁾。河内郡家の周辺には、西側に隣接し、金田官衙遺跡とはほぼ同時期に展開し密接に関係する集落跡と考えられている東岡中原遺跡、北西約2kmにあり160軒以上の堅穴住居跡や掘立柱建物跡が検出された柴崎遺跡などが存在している。これらの集落は、当遺跡の集落を含めて河内郡衙を支えた集落と考えられている。

中世・近世以降の遺跡は、近年の分布調査で数多く確認され、中世は54遺跡、近世は50遺跡に及んでいる¹²⁾。当遺跡の南西約1kmに位置している柴崎遺跡では、中世の方形堅穴遺構が95基確認され、12～13世紀の集落跡と想定されている。また、栗原古塚遺跡(17)、栗原沼向遺跡(19)、栗原白旗遺跡、栗原土器屋遺跡(29)などの包蔵地も確認されている。これ以外に城館跡も多く、桜川右岸には方徳故城跡、柴崎片岡上館跡(69)、金田城跡(60)、花室城跡(45)、上ノ室城跡があり、桜川左岸には小田氏の居城であった国指定史跡小田城跡、田土部館跡などが位置している。仏教関連遺跡としては、筑波山の南、三村山麓一帯に中世寺院群が存在しており、つくば市三村山清冷院極楽寺跡には、13世紀半ば、大和の高僧忍性が来住して、布教に努めたと伝えられている¹³⁾。当地域は鎌倉時代から室町時代にかけては小田氏、戦国時代においては小田氏と佐竹氏の支配下となり、中世末まで上野地区は上境・中根・土器屋・松塚・横町・柴崎地区で一郷を構成し、筑波郡と境を接することから境郷とも呼ばれていた。江戸時代は上野・栗原地区は堀氏玉取藩の知行地であったが、旧桜村の多くは土浦藩に属することになり、明治4年(1871年)の廃藩置県に至っている。

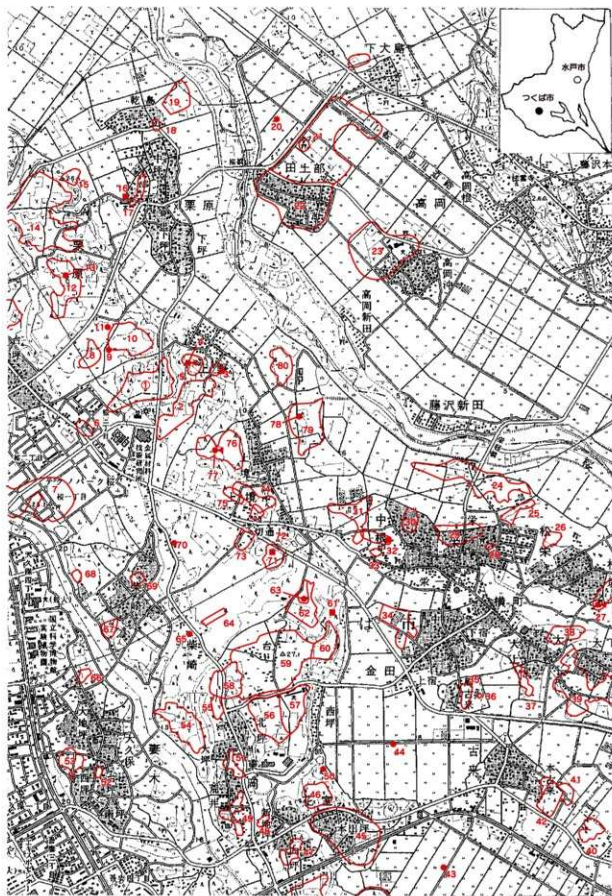
※ 文中の〈 〉内の番号は、第1図及び表1中の該当遺跡番号と同じである。

註

- 1) 大森昌衛・峰須紀夫「茨城の地質をめぐって」『日曜の地学』8 築地書館 1979年9月
- 2) a 成島一也「中根・金田台特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ 中原道跡1」『茨城県教育財団文化財調査報告』第155集 2000年3月
b 成島一也・宮田和男「中根・金田台特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅲ 中原道跡2」『茨城県教育財団文化財調査報告』第159集 2000年3月
c 白田正子・高野節夫・仲村浩一郎・島田和宏「中根・金田台特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅳ 中原道跡3」『茨城県教育財団文化財調査報告』第170集 2001年3月
d 駒澤悦郎「東岡中原道跡4 中根・金田台特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅶ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第252集 2004年3月
- 3) a 土生朗治「研究学園都市計画桜菜崎土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書(Ⅲ) 菜崎道跡Ⅲ区」『茨城県教育財団文化財調査報告』第72集 1992年3月
b 萩野悟梧「研究学園都市計画桜菜崎土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書(Ⅳ) 菜崎道跡Ⅱ区・Ⅲ区」『茨城県教育財団文化財調査報告』第93集 1994年9月
- 4) a 成島一也「(仮称)葛城築特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅰ 神田道跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第121集 1997年3月
b 長岡正雄「(仮称)葛城築特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ 神田道跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第134集 1998年3月
- 5) a 三谷正・桑村裕「上野古屋敷道跡1 中根・金田台特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅸ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第285集 2007年3月
b 川井正一「上野古屋敷道跡2 中根・金田台特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅹ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第307集 2008年3月
- 6) 川村満博「(仮称)中根・金田台特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅰ 中根中谷津道跡1」『茨城県教育財団文化財調査報告』第139集 1998年9月
- 7) a 石橋光・関口友紀「玉取道跡-火葬場建設に伴う発掘調査報告-」つくば市教育委員会 2000年3月
b 奥沢哲也「玉取向山道跡 限立つくば養護学校(仮称)整備事業地内埋蔵文化財調査報告書」『茨城県教育財団文化財調査報告』第263集 2006年3月
- 8) 桜村史編さん委員会「桜村史 上巻・下巻」桜村教育委員会 1982年3月
- 9) 中山信名著 栗田寛補訂「新編常陸国誌」宮崎報恩会版 峯書房 1978年12月
- 10) 白田正子「金田西道跡 金田西坪B道跡 九重東岡廃寺 中根・金田台特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅶ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第209集 2003年3月
- 11) a 九重廃寺道跡調査団「東岡道跡-九重廃寺跡調査報告-」桜村教育委員会 1984年3月
b 白田正子「九重東岡廃寺確認調査報告書1」茨城県教育財団 2001年3月
- 12) a つくば市教育委員会「つくば市道跡分布調査報告書 - 谷部地区・桜地区-」2001年3月
b つくば市教育委員会「つくば市道跡地図」2001年7月
- 13) 筑波町史編纂専門委員会「筑波町史 上巻」つくば市 1991年3月

参考文献

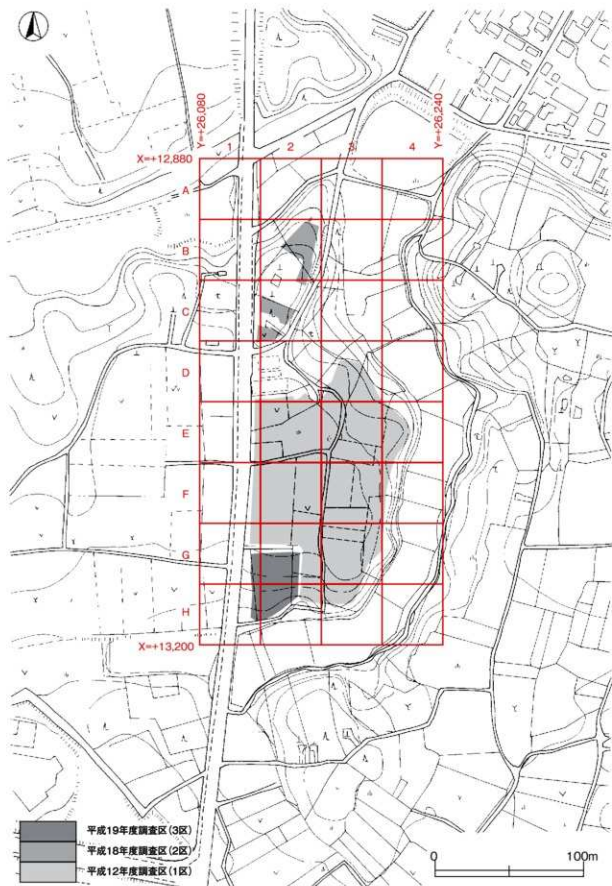
- 『茨城県道跡地図』茨城県教育委員会 2001年3月
川上直登・長谷川聡・大塚雅昭「中根・金田台特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書 上野陣場道跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第182集 2002年3月



第1図 上野陣場遺跡周辺遺跡分布図（国土地理院2万5千分の1「上郷」「常陸藤沢」）

表1 上野陣場遺跡周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	時代						番号	遺跡名	時代					
		旧石器	縄文	弥生	古墳	奈・平	中近世			旧石器	縄文	弥生	古墳	奈・平	中近世
①	上野陣場遺跡		○	○	○		○	41	古来遺跡						○
2	上野古屋敷遺跡	○	○	○	○	○	○	42	古来館跡						○
3	上野定使古墳群				○			43	上ノ室桑里						○
4	上野天神塚古墳				○			44	金田本田遺跡						○
5	上野天神遺跡		○		○			45	花室城跡		○	○	○	○	○
6	上野中塚遺跡		○		○	○		46	花室遺跡		○				○
7	柴崎遺跡				○	○	○	47	花室寺山前遺跡		○				○
8	栗原大山西遺跡				○	○		48	花室溝向遺跡						○
9	栗原十日塚古墳				○			49	家園天神前遺跡						○
10	栗原大山遺跡				○	○		50	花室大日塚古墳				○		○
11	栗原愛宕塚古墳				○			51	家園南遺跡						○
12	栗原五竜遺跡		○		○	○	○	52	妻木宮前遺跡						○
13	栗原五龍塚古墳				○			53	妻木坪内遺跡						○
14	栗原中台遺跡		○	○	○	○	○	54	家園中原遺跡	○	○		○	○	○
15	栗原登戸遺跡						○	○	55	家園中畑遺跡					○
16	栗原古塚古墳			○					56	金田西坪B遺跡				○	○
17	栗原古塚遺跡					○	○	○	57	金田西坪A遺跡					○
18	栗原遺跡						○	○	58	九重東岡麩寺					○
19	栗原沼向遺跡				○	○	○	○	59	金田西遺跡		○		○	○
20	稲荷塚古墳				○				60	金田城跡					○
21	広畑遺跡				○	○	○	○	61	金田古墳				○	
22	田土部館跡								62	横町庚申塚遺跡		○		○	○
23	五斗内遺跡				○	○			63	横町古墳群				○	○
24	中根遺跡				○	○	○	○	64	柴崎大塚遺跡					○
25	松塚鷲打遺跡						○	○	65	柴崎稲荷前古墳				○	
26	松塚高畑遺跡				○	○	○	○	66	妻木鴻ノ黒遺跡				○	○
27	松塚古墳群				○				67	柴崎南遺跡		○		○	○
28	柴屋敷付遺跡						○	○	68	柴崎ボツケ遺跡					○
29	栄土器屋遺跡						○	○	69	柴崎片岡上館跡				○	○
30	中根屋敷附館跡						○	○	70	柴崎大日古墳				○	○
31	中根不業拔遺跡		○				○	○	71	中根中谷津遺跡	○	○			○
32	中根とりおい塚古墳				○				72	中根中谷津古墳				○	
33	中根宮ノ前遺跡						○	○	73	上埴旭台貝塚					
34	金田竜宮橋遺跡				○	○	○	○	74	上埴流ノ台古墳群				○	
35	古来北ノ崎遺跡								75	上埴滝ノ臺遺跡		○	○		
36	古来島ノ前塚						○	○	76	上埴作ノ内遺跡		○	○	○	
37	大南遺跡						○	○	77	上埴作ノ内古墳群				○	
38	大白畑遺跡					○	○	○	78	上埴どんどん塚古墳				○	
39	大寺前遺跡				○	○	○	○	79	上埴古屋敷遺跡				○	○
40	吉瀬黄金遺跡				○	○	○	○	80	上埴北ノ内遺跡				○	



第2図 上野陣場遺跡グリッド設定図(独立行政法人都市再生機構茨城地域支社・金田台地区現況調整土地図2500分の1)

第3章 調査の成果

第1節 調査の概要

上野陣場遺跡は、つくば市の東部に位置し、桜川右岸の標高24～28mの舌状台地上に立地している。遺跡の範囲は東西400m、南北290mと広大なものであるが、平成18年度の調査面積は1,813㎡で、平成19年度の調査面積は1,579㎡である。

今回の調査は、平成12年度の第1次調査に続く第2次、第3次調査で、第2次調査区（2区）は第1次調査区（1区）の北側、第3次調査区（3区）は第1次調査区の南西側にあたる。当遺跡は1区の第1次調査で、縄文時代から近世までの複合遺跡であることが判明している。2区においては、縄文時代の陥し穴1基、土坑6基、弥生時代の竪穴住居跡1軒、古墳時代の竪穴住居跡1軒、奈良・平安時代の竪穴住居跡12軒、土坑3基、中世の土坑3基、江戸時代の墓坑4基、時期不明の竪穴住居跡1軒、土坑55基、ピット群3か所を確認した。3区においては、古墳時代の竪穴住居跡1軒、奈良・平安時代の竪穴住居跡15軒、掘立柱建物跡2棟、粘土探掘坑11基、土坑5基、時期不明の掘立柱建物跡2棟、溝跡2条、土坑60基、ピット群3か所を確認した。

遺物は、第2次・第3次合わせて遺物収納コンテナ（60×40×20cm）に75箱出土している。主な出土遺物として、縄文時代のものは縄文土器片（深鉢）、石器（鎌、匙）、弥生時代のものは弥生土器片（甕）、古墳時代のものは土師器（坏、甕）、須恵器（坏、蓋）、土製品・石製品（小玉）、奈良・平安時代のものは土師器（坏、高台付坏、碗、皿、甕、鉢）、須恵器（坏、高台付坏、蓋、盤、コップ形土器、甕、瓶）、灰軸陶器（碗、長頸瓶）、土製品（管玉、支脚）、石器（紡錘車、砥石）、金属製品（刀子、鋸状金具、鎌、釘）、中世・近世のものは土師質土器（皿）、金属製品（釘、古銭）などである。

第2節 基本層序

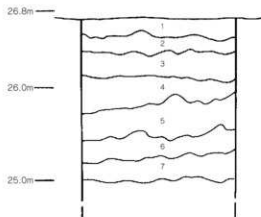
2区の南部（C2d3区）にテストピットを設定して、基本土層の観察を行った（第3図）。

第1層は、黒褐色を呈する現耕作土である。粘性・締まりとも普通で、層厚は15～25cmである。

第2層は、暗褐色を呈する腐植土層である。粘性・締まりとも普通で、層厚は9～24cmである。

第3層は、褐色を呈するソフトローム層である。粘性、締まりともにやや強く、層厚は22～30cmである。

第4層は、黒色粒子・赤色粒子を微量に含む、暗褐色を呈するソフトローム層である。粘性、締まりともにやや強く、層厚は19～32cmである。第1黒色帯（BB I）に相当する。



第3図 基本土層図

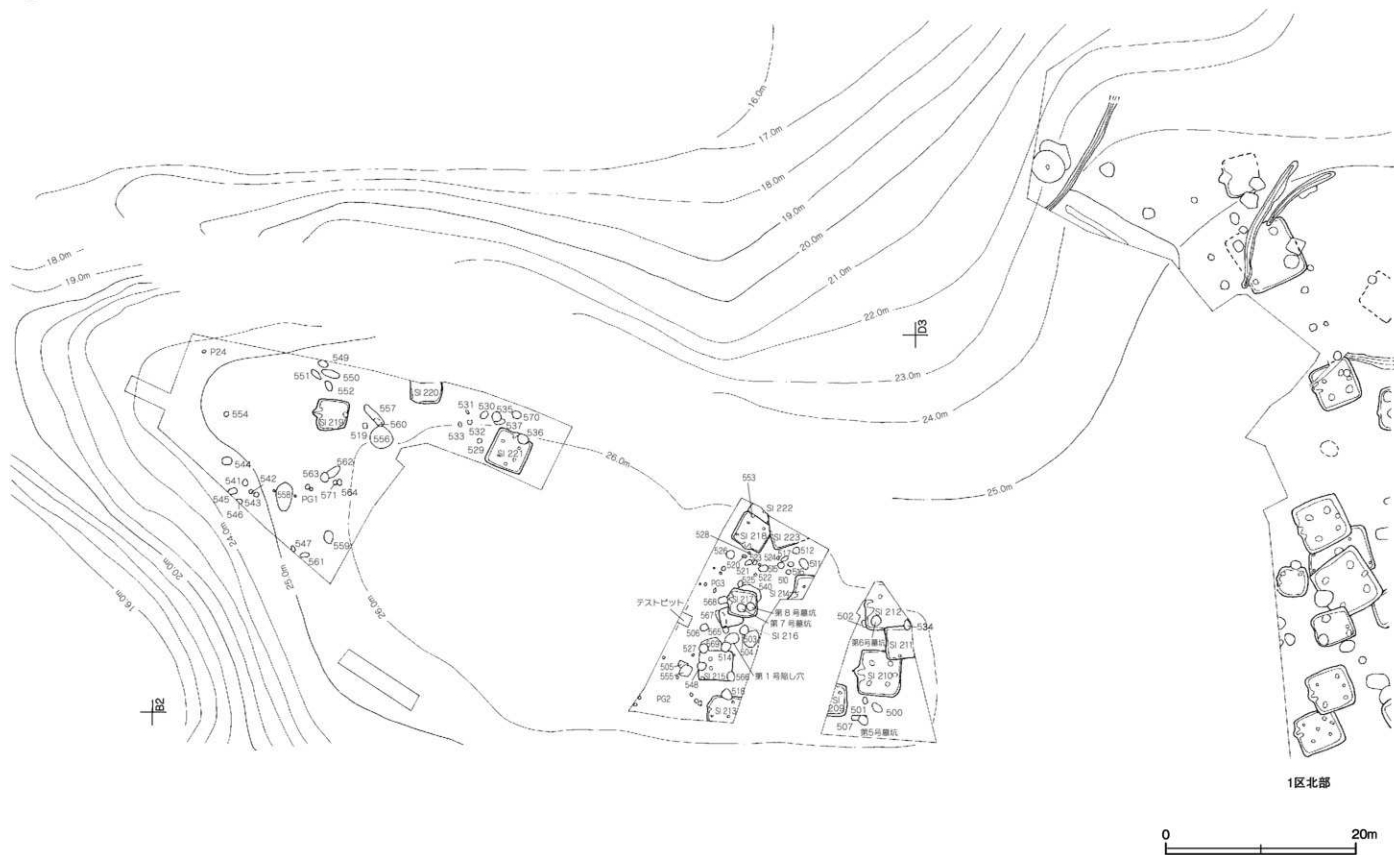
第5層は、黒色粒子を多量、赤色スコリアを微量含む、褐色を呈するソフトローム層である。粘性・締まりともにやや強く、層厚は24～47cmである。

第6層は、黒色粒子・白色粒子を微量含む、褐色を呈するソフトローム層である。粘性・締まりともにやや強く、層厚は21～32cmである。

第7層は、黒色粒子・赤色スコリアを微量含む、褐色を呈するハードローム層である。粘性・締まりともに極めて強く、層厚は17～30cmである。

第8層は、白色粒子・赤色スコリアを微量含む、明褐色を呈するハードローム層である。粘性・締まりともに極めて強い。層厚は下層が未掘のため不明である。

住居跡等、古墳時代以降の遺構は、第3層の上面で確認できた。



第4図 上野陣場遺跡2区遺構全体図

第3節 2区の遺構と遺物

1 縄文時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、陥し穴1基、土坑6基が確認されている。以下、それらの遺構と遺物について記述する。

(1) 陥し穴

第1号陥し穴 (SK 513) (第5図)

位置 調査区南部のC2区で、標高26mの台地平坦部に位置している。

重複関係 北西部を第514号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径1.59m、短径1.08mの楕円形で、長径方向はN-25°-Wである。深さは104cmで、底面は皿状である。壁は長径方向がほぼ直立し、短径方向は外傾して立ち上がっている。

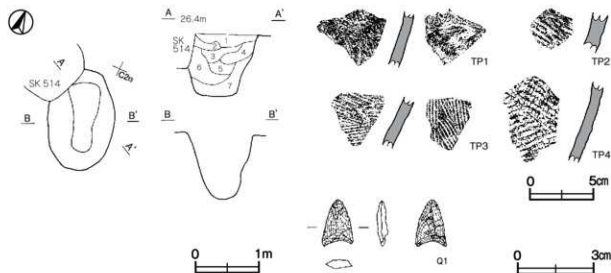
覆土 7層に分層できる。大半の層にロームブロックが含まれ、ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

1	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	5	褐色	ロームブロック・炭化物微量
2	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	6	褐色	ローム粒子少量・焼土粒子・炭化粒子微量
3	暗褐色	ロームブロック少量・焼土粒子・炭化粒子微量	7	褐色	ロームブロック・炭化粒子微量
4	褐色	ロームブロック微量			

遺物出土状況 縄文土器片33点、石器1点(石鏃)、剥片2点が、覆土から出土している。

所見 時期は、出土土器から早期終末から前期初頭に比定できる。台地平坦部に位置し、長径方向は台地が延びる方向とほぼ同じである。周辺から同様の遺構は確認されていない。



第5図 第1号陥し穴・出土遺物実測図

第1号陥し穴出土遺物観察表 (第5図)

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
TP1	縄文土器	深鉢	細砂・織羅	明赤褐色	普通	外・内面ともに条状文	覆土中	破片 PL11
TP2	縄文土器	深鉢	長石・石英・織羅	橙	普通	外面条状文	覆土中	破片 PL11
TP3	縄文土器	深鉢	細砂・織羅	橙	普通	外・内面条状文	覆土中	破片 PL11
TP4	縄文土器	深鉢	細砂・織羅	にぶい橙	普通	早期縄文	覆土中	破片 PL11

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特 徴	出土位置	備考
Q1	石鏝	1.82	1.25	0.4	0.70	黒曜石	押圧剥離痕	覆土中	PL14

(2) 土坑

第503号土坑 (第6図)

位置 調査区南部のC2区で、標高26mの台地平坦部に位置している。

重複関係 北東部を第504号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径1.95m、短径1.60mの楕円形で、長径方向はN-45°-Wである。深さは18cmで、底面は平坦である。壁は、外傾して立ち上がっている。南東壁寄りに深さ22cmのピットが掘られている。

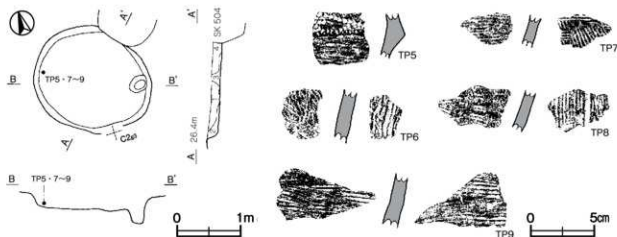
覆土 4層に分層できる。すべての層にロームブロックが含まれ、ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

- | | | | | | |
|---|-----|--------------------------------|---|-----|----------------------|
| 1 | 黒褐色 | ロームブロック・炭化物少量、焼土粒子微量 | 4 | 暗褐色 | ロームブロック・炭化物中量、焼土粒子微量 |
| 2 | 褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量 | | | |
| 3 | 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子少量、粘土ブロック・焼土粒子微量 | | | |

遺物出土状況 縄文土器片25点が、覆土中から出土している。TP5・TP7～TP9は、西壁際の覆土下層から出土している。TP6は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から早期終末から前期初頭に比定できる。



第6図 第503号土坑・出土遺物実測図

第503号土坑出土遺物観察表 (第6図)

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	特 徴	出土位置	備考
TP5	縄文土器	深鉢	細砂・繊維	橙	普通	千歳竹管による連続刺突文	覆土下層	破片
TP6	縄文土器	深鉢	細砂・雲母・繊維	明赤褐	普通	外・内面条張文	覆土中	破片
TP7	縄文土器	深鉢	細砂・繊維	にぶい赤褐	普通	外・内面条張文	覆土下層	破片
TP8	縄文土器	深鉢	砂粒・雲母・繊維	にぶい赤褐	普通	外・内面条張文	覆土下層	破片
TP9	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい赤褐	普通	外・内面条張文	覆土下層	破片 PL11

第540号土坑（第7図）

位置 調査区南部のC 2 f4区で、標高26mの台地平坦部に位置している。

重複関係 西半部を第217号住居、北東壁を第525号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 南北径2.66mで、東西径は1.96mが確認されただけであるが、長径方向がN-13°-Eの楕円形と推測できる。深さは15cmで、底面は平坦である。壁は、外傾して立ち上がっている。

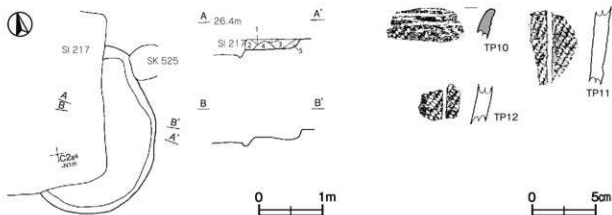
覆土 5層に分層できる。すべての層にロームブロックが含まれ、ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

1 暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量	4 褐色	ロームブロック少量
2 褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量	5 褐色	ロームブロック・焼土粒子微量
3 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量		

遺物出土状況 縄文土器片4点が、覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から中期（加曾利E式期）に比定できる。



第7図 第540号土坑・出土遺物実測図

第540号土坑出土遺物観察表（第7図）

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
TP10	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい褐色	普通	沈線文と早期縄文	覆土中	破片 PL11
TP11	縄文土器	深鉢	長石・石英・チャート	灰褐色	普通	早期縄文を地文として履位の沈線	覆土中	破片 PL11
TP12	縄文土器	深鉢	長石・石英・チャート	褐色	普通	早期縄文を地文として履位の沈線	覆土中	破片 PL11

第558号土坑（第8図）

位置 調査区南部のB 2 d6区で、標高25mの台地緩斜面部に位置している。

規模と形状 長径3.00m、短径1.53mの楕円形で、長径方向はN-89°-Wである。深さは73cmで、底面は平坦である。壁は、外傾して立ち上がっている。

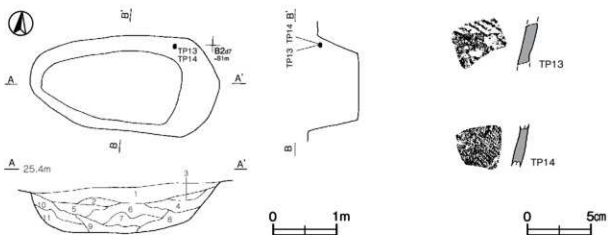
覆土 11層に分層できる。1層は自然堆積であるが、他の層にはロームブロックが含まれ、ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

1 褐色	色 炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量	7 暗褐色	ロームブロック少量
2 暗褐色	色 ロームブロック微量（締まり強い）	8 褐色	ロームブロック少量
3 黒褐色	色 ローム粒子・炭化粒子微量	9 褐色	ロームブロック中量
4 暗褐色	色 炭化粒子少量、ロームブロック微量	10 暗褐色	ロームブロック微量（締まり弱い）
5 褐色	色 ロームブロック微量	11 暗褐色	ロームブロック中量
6 褐色	色 ロームブロック中量、炭化粒子微量		

遺物出土状況 縄文土器片4点が出土している。TP13・TP14は、北東隅の覆土上層から出土している。

所見 時期は、出土土器から中期に比定できる。



第8図 第558号土坑・出土遺物実測図

第558号土坑出土遺物観察表(第8図)

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
TP13	縄文土器	深鉢	細砂・繊維	にぶい褐	普通	単節縄文	覆土中	破片
TP14	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	橙	普通	単節縄文	覆土中	破片

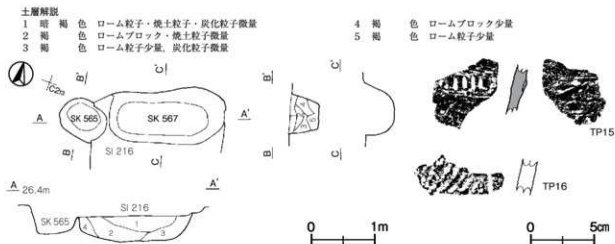
第565号土坑(第9図)

位置 調査区南部のC2区3区で、標高26mの台地平坦部に位置している。

重複関係 南東部を第216号住居に掘り込まれている。北東部で第567号土坑と接している。

規模と形状 長径0.82m、短径0.59mの楕円形で、長径方向はN-80°-Wである。深さは44cmで、底面は平坦である。壁は、わずかに外傾して立ち上がっている。

覆土 5層に分層できる。1層は自然堆積であるが、他の層にはロームブロックが含まれ、ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。



第9図 第565・567号土坑、第565号土坑出土遺物実測図

遺物出土状況 縄文土器片7点が、覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から中期（加曾利E式期）に比定できる。

第565号土坑出土遺物観察表（第9図）

番号	種別	形模	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
TP15	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	黒褐色	普通	外・内面ともに条紋文 隆帯の棒状工具による押圧	覆土中	破片
TP16	縄文土器	深鉢	長石・石英	明黄褐色	普通	早期縄文を地文に覆位の比類	覆土中	破片

第567号土坑（第9図）

位置 調査区南部のC2e2区で、標高26mの台地平坦部に位置している。

重複関係 南部を第216号住居に掘り込まれている。南西部で第565号土坑と接している。

規模と形状 長軸1.86m、短軸0.86mの隅丸長方形で、長軸方向はN-70°-Eである。深さは48cmで、底面は平坦である。壁は、外傾して立ち上がっている。

覆土 4層に分層できる。大半の層にロームブロックが含まれ、ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------|------|---------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック微量 | 4 褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子微量 |

遺物出土状況 縄文土器片7点が、覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から早期終末に比定できる。

第569号土坑（第10図）

位置 調査区南部のC2e2区で、標高26mの台地平坦部に位置している。

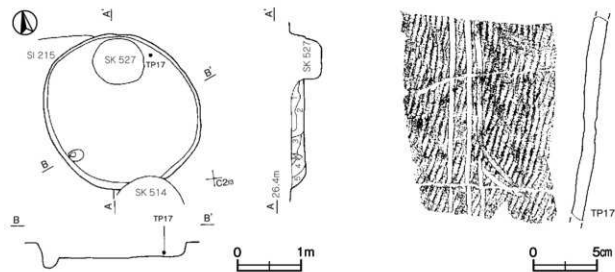
重複関係 西部を第215号住居、北部を第527号土坑、南壁を第514号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径2.57m、短径2.37mの円形である。深さは25cmで、底面は平坦である。壁は、直立している。

覆土 5層に分層できる。大半の層にロームブロックが含まれ、ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 2 褐色 | ロームブロック微量 | 5 褐色 | ローム粒子中量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | | |



第10図 第569号土坑・出土遺物実測図

遺物出土状況 縄文土器片13点、石鏃1点が、覆土中から出土している。TP17は、北東部の覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器から中期（加曾利E式期）に比定できる。

第569号土坑出土遺物観察表（第10図）

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
TP17	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	いぶい橙	普通	早期縄文を地文とし縦位の沈線文	覆土中	破片 PL11

表2 縄文時代土坑一覧表

番号	位置	平面形	長径(軸)方向	規模(m, 深さ12cm)		壁面	底面	覆土	出土遺物	時期	備考
				長径(軸) × 短径(軸)	深さ						
503	C2位	楕円形	N-45°-W	1.95 × 1.60	18	外傾	平坦	人為	縄文土器	早期	本跡→SK504
540	C2位	[楕円形]	N-13°-E	2.66 × (1.96)	15	外傾	平坦	人為	縄文土器	中期	本跡→SI217-SK325
558	B246	楕円形	N-89°-W	3.00 × 1.53	73	外傾	平坦	人為	縄文土器	中期	
565	C2位	楕円形	N-80°-W	0.82 × 0.59	44	外傾	平坦	人為	縄文土器	中期	本跡→SI216
567	C2e2	楕丸長方形	N-70°-E	1.86 × 0.86	48	外傾	平坦	人為	縄文土器	早期	本跡→SI216
569	C2e2	円形	-	2.57 × 2.37	25	直立	平坦	人為	縄文土器・石鏃	中期	本跡→SI215-SK514-527

2 弥生時代の遺構と遺物

当該時代の遺構は、竪穴住居跡1軒が確認されている。以下、遺構と遺物について記述する。

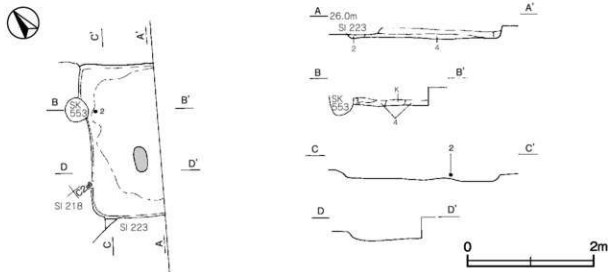
竪穴住居跡

第222号住居跡（第11・12図）

位置 調査区南部のC2位6区で、標高25.5mの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 南壁部を第223号住居、西壁を第218号住居・第553号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 南東部が調査区域外に存在していることから南北軸2.45mで、東西軸は1.04mしか確認できなかったが、主軸方向がN-31°-Eの方形と推測できる。壁高は12cmで、外傾して立ち上がっている。



第11図 第222号住居跡実測図

床 ほぼ平坦で、壁際を除いた部分に硬化面が認められる。中央部やや南寄りの東西20cm、南北40cmの範囲は、火を受けて焼土化している。

覆土 4層に分層できる。層厚が薄い。ロームブロックが含まれている状況から埋め戻されている。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量 3 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
 2 暗褐色 炭化粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量 4 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量

遺物出土状況 弥生土器片2点が出土している。2は、北西壁寄りの覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器から後期に比定できる。



第12図 第222号住居跡出土遺物実測図

第222号住居跡出土遺物観察表（第12図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴はか		出土位置	備考
									口唇部にキザミ 2部一対の貼部	口縁部下面に竹管による連続刺突と 一部附加糸一種縄文		
1	弥生土器	壺	[14.8]	(5.3)	—	長石・石英・雲母	にぶい碧	普通			北西部下層	破片
2	弥生土器	壺	—	(5.2)	—	細砂・雲母	黒褐	普通			覆土中	破片

3 古墳時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、竪穴住居跡1軒が確認されている。以下、遺構と遺物について記述する。

竪穴住居跡

第213号住居跡（第13図）

位置 調査区南部のC2e1区で、標高26mの台地平坦部に位置している。

重複関係 東壁部を第518号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 南及び西部が調査区域外にあることから、東西軸は2.50m、南北軸は3.10mしか確認できなかったが、主軸方向がN-7°-Eの方形と推測できる。壁高は19cmで、ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、確認できた範囲では壁際を除いて硬化面が認められる。

竈 北壁に付設されている。西壁が調査区域外にあるため明確ではないが、東壁寄りと考えられる。焚口部から煙出部まで88cm、燃焼部幅37cmである。袖部は床面を若干掘りくぼめ、地山の上に粘土粒子を含む灰褐色土を積み上げて構築されている。煙道部は、壁外へ弧状に奥行き37cm、幅70cm掘り込んで構築されている。火床部は床面を若干掘り込み、褐色土を埋め戻している。火床面は火を受けて赤変硬化している。

竈土層解説

- 1 褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 10 褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
 2 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 11 赤褐色 焼土ブロック・粘土粒子少量
 3 灰褐色 粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 12 にぶい赤褐色 焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
 4 灰褐色 ローム粒子・粘土粒子少量、焼土ブロック微量 13 灰オレンジ色 粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
 5 灰褐色 焼土ブロック・粘土粒子微量 14 灰オレンジ色 焼土ブロック・炭化粒子微量
 6 灰褐色 粘土粒子少量、焼土粒子微量 15 灰褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
 7 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 16 暗褐色 粘土粒子少量、焼土ブロック微量
 8 灰褐色 焼土粒子・粘土粒子少量 17 明褐色 ロームブロック少量
 9 灰褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量

ピット 3か所。P1～P3は深さ18～28cmで、北東コーナー部を除くコーナー部に位置していることから支柱穴である。

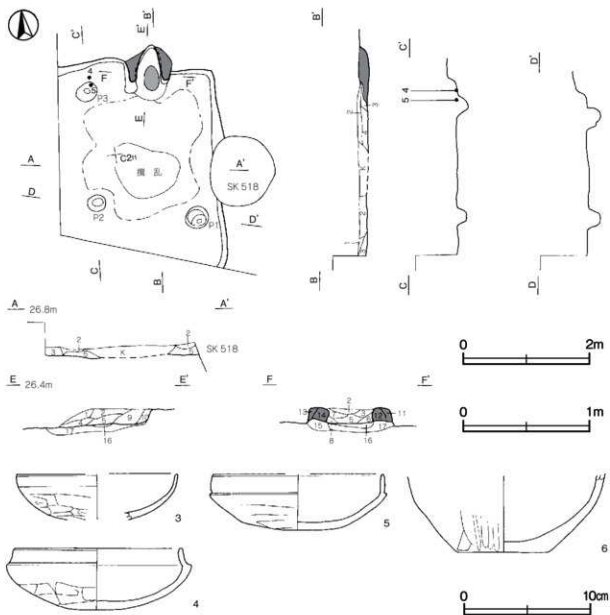
覆土 5層に分層できる。すべての層にロームブロックが含まれ、ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|--------|-----------------------|-------|-----------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量 | 4 暗褐色 | 焼土粒子・炭化粒子中量、ロームブロック少量 |
| 2 黒暗褐色 | 焼土粒子中量、ロームブロック・炭化粒子微量 | 5 黒褐色 | ロームブロック・炭化物・焼土粒子中量 |
| 3 黒暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器坏3点、土製支脚1点のほか、土師器片14点(坏4・壺10)が出土している。また、流れ込んだ縄文土器片12点、弥生土器片7点も出土している。4は北西コーナー部寄りの床面、5はP3の上面から出土している。いずれも住居の廃絶時に遺棄されたものと思われる。

所見 時期は、出土土器から後期の6世紀後葉に比定できる。



第13図 第213号住居跡・出土遺物実測図

第213号住居跡出土遺物観察表 (第13図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴はか	出土位置	備考
3	土師器	坏	[12.6]	(3.6)	—	長石・石英・雲母	におい黄褐色	普通	口縁部ナデ 底部不定方向のへう割り	北西部床面	40% PL11
4	土師器	坏	13.2	4.9	—	砂粒・雲母・スコリア	黄	普通	体部ロクロナデ 底部横位のへう割り	覆土中	100% PL11
5	土師器	坏	[13.4]	4.4	—	砂粒・雲母・スコリア	におい黄褐色	普通	口縁部横ナデ 底部横位のへう割り	F3上面	50% PL11
6	土師器	甕	—	(6.1)	7.2	長石・石英・雲母	におい赤褐色	普通	体部下半縦位のへう磨き 底部ナデ	覆土中	10%

4 奈良・平安時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、竪穴住居跡12軒、土坑3基が確認されている。以下、それらの遺構と遺物について記述する。

(1) 竪穴住居跡

第209号住居跡 (第14・15図)

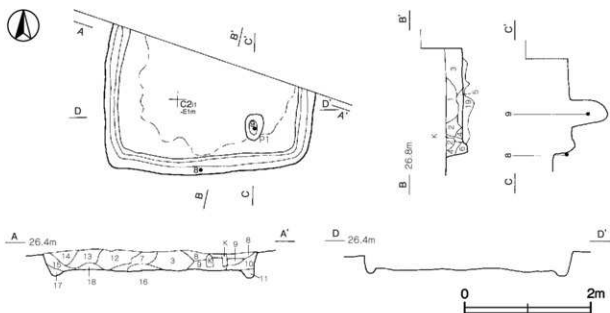
位置 調査区南部のC2h1区で、標高26mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 北半部が調査区域外にあることから東西軸は3.30mで、南北軸は2.10mしか確認できなかったが、主軸方向がN-3°-Eの方角と推測できる。壁高は30cmで、ほぼ直立している。

床 はほぼ平坦で、壁際を除いて硬化面が認められる。中央部は貼床で、深さ10～20cmの掘方内にロームブロックを含む褐色土を埋め戻している。壁下には壁溝が通っている。

ピット 深さ59cmで、南東コーナー部に位置していることから支柱穴と考えられるが、南西コーナー部では確認されなかった。

覆土 19層に分層できる。大半の層にロームブロックが含まれ、ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。19層は、貼床の構築土である。



第14図 第209号住居跡実測図

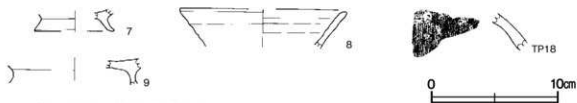
土層解説

1	極暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	11	にぶい褐色	ロームブロック微量
2	暗褐色	ローム粒子・炭化粒子微量	12	褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	13	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
4	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	14	褐色	ローム粒子・焼土粒子
5	褐色	ロームブロック微量	15	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子微量
6	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子少量	16	褐色	ロームブロック少量・焼土粒子微量
7	褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	17	にぶい褐色	ローム粒子少量
8	褐色	ロームブロック少量・焼土粒子・炭化粒子微量	18	褐色	ロームブロック少量・焼土粒子少量
9	褐色	ローム粒子少量・焼土粒子微量	19	褐色	ロームブロック中量
10	褐色	ロームブロック中量・焼土粒子微量			

遺物出土状況 土師器片31点(坏13・高台付坏3・寛15)、須恵器片10点(坏4・高台付坏1・寛4・鉢1)のほか、流れこんだ縄文土器片17点が出土している。8は南壁下の壁溝内、9はP1の覆土中層から出土している。

いずれも住居の廃絶時に遺棄されたものと思われる。

所見 時期は、確定できる出土土器が少ないが、9世紀中葉に比定できる。



第15図 第209号住居跡出土遺物実測図

第209号住居跡出土遺物観察表 (第15図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴はか		出土位置	備考
									外・内面	口ノテ		
7	土師器	高台付坏	—	(1.7)	—	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	高台部	口ノテ	覆土中	5%
8	須恵器	坏	(13.2)	(3.0)	—	長石・石英	灰	普通	外・内面	口ノテ	南壁溝内	5%
9	須恵器	高台付坏	—	(2.1)	—	長石・石英	黄灰	普通	高台部	口ノテ	P1中層	5%
TP18	須恵器	瓶	—	(2.8)	—	細砂	灰黄	良好	外面無文の平行引き	内面無文の当て具	覆土中	破片

第210号住居跡 (第16～18図)

位置 調査区南部のC2j2区で、標高26mの台地平坦部に位置している。

重複関係 南東コーナー部を第211号住居に掘り込まれている。

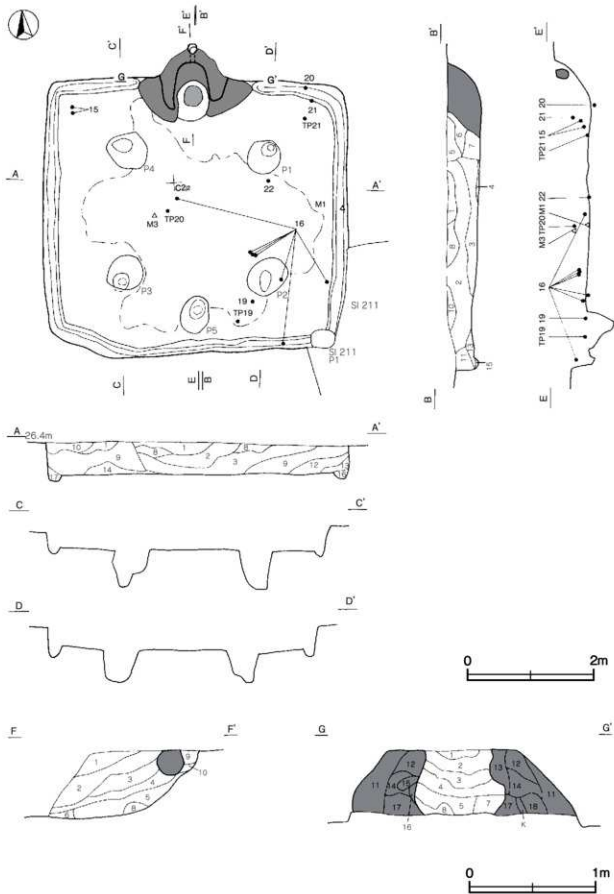
規模と形状 長軸4.80m、短軸4.45mの方形で、主軸方向はN-4°-Eである。壁高は25～38cmで、ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、壁際を除いて硬化面が認められる。壁下には壁溝が全周している。

竈 北壁中央部に付設されている。焚口部から煙出部まで129cm、燃焼部幅56cmである。袖部は床面と同じ高さの地山の上に粘土粒子を含む灰褐色土を積み上げて構築されている。煙道部は、壁外へ逆U字状に奥行き60cm、幅100cm掘り込んで構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さで、火床面は火を受けて赤変硬化している。

竈土層解説

1	灰褐色	粘土粒子少量・焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量	10	灰褐色	炭化粒子・粘土粒子少量・焼土粒子微量
2	灰褐色	粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	11	灰褐色	粘土ブロック少量・焼土粒子微量
3	灰褐色	粘土粒子少量・焼土粒子微量	12	灰褐色	粘土ブロック少量・焼土粒子・炭化粒子微量
4	灰褐色	焼土ブロック・粘土ブロック・炭化粒子微量	13	灰褐色	焼土粒子少量・ロームブロック・粘土ブロック微量
5	にぶい赤褐色	灰中量・焼土ブロック少量・炭化物微量	14	灰褐色	細砂少量・粘土ブロック微量
6	黒褐色	炭化粒子少量・焼土ブロック微量	15	褐色	ロームブロック微量
7	暗赤褐色	焼土ブロック・炭化粒子微量	16	にぶい赤褐色	粘土粒子中量・焼土粒子少量・細砂微量
8	赤褐色	焼土ブロック・炭化粒子少量・粘土ブロック微量	17	灰褐色	細砂少量・ロームブロック・粘土ブロック・焼土粒子微量
9	赤褐色	炭化物・粘土粒子少量・焼土粒子微量	18	褐色	ロームブロック少量・焼土ブロック・炭化粒子微量



第 16 图 第210号住居跡实测图

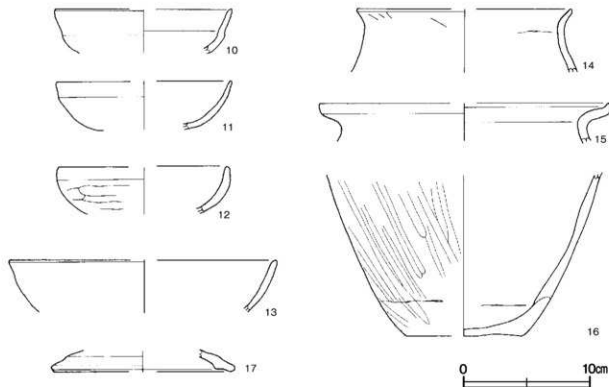
ピット 5か所。P1～P4は深さ48～60cmで、各コーナー部寄りに位置していることから主柱穴である。P5は深さ42cmで、竈と向かい合う南壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットとみられる。覆土 17層に分層できる。大半の層にロームブロックや焼土ブロックが含まれ、ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

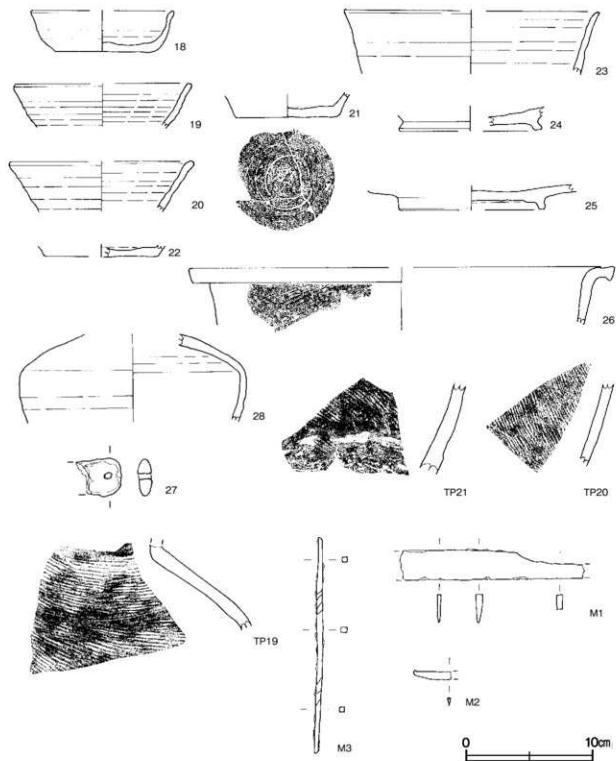
1	黒褐色	ロームブロック中量、炭化物・焼土粒子微量	8	褐色	ロームブロック中量、炭化物少量、焼土ブロック微量
2	黒褐色	炭化物中量、ロームブロック・焼土ブロック微量	9	黒褐色	焼土ブロック・炭化物少量、ロームブロック微量
3	褐色	ロームブロック中量、炭化物少量、焼土粒子・粘土粒子微量	10	黒褐色	ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量
4	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子少量、焼土ブロック・粘土粒子微量	11	灰褐色	ロームブロック中量、粘土ブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量
5	黒褐色	ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量	12	灰褐色	焼土粒子・炭化粒子中量、ローム粒子少量
6	褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量	13	黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量
7	暗褐色	粘土粒子中量、焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量	14	褐色	炭化物・焼土粒子少量、ロームブロック微量
			15	明褐色	ローム粒子中量、炭化粒子微量
			16	褐色	ロームブロック・炭化粒子微量
			17	褐色	ローム粒子中量、炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片458点(坯119・碗1・甕338)、須恵器片127点(坯76・高台付埴2・蓋7・盤1・瓶3・甕38)、鉄製品3点(刀子2・紡軸1)のほか、流れこんだ縄文土器片105点、土錘1点、石鎌2点が出土している。22はP1南側、19はP2南側の床面からそれぞれ出土している。20は北東隅、M1は東壁下の壁溝内からそれぞれ出土している。15は北西隅の覆土下層から出土している。16は中央部から東壁下にかけての床面あるいは覆土下層から出土した破片が接合している。21は北東隅、M3は中央部の覆土上層からそれぞれ出土している。21・M3以外は、住居廃絶時に遺棄されたものと思われる。

所見 時期は、出土土器から8世紀前葉に比定できる。



第17図 第210号住居跡出土遺物実測図(1)



第18図 第210号住居跡出土遺物実測図(2)

第210号住居跡出土遺物観察表 (第17・18図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
10	土師器	杯	[14.0]	(3.4)	-	細砂・雲母・スコリア	橙	普通	口縁部横ナデ 底部ヘラナデ	覆土中	5%
11	土師器	杯	[13.8]	(3.8)	-	細砂・スコリア	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ 底部横位ヘラナデ	覆土中	30%
12	土師器	杯	[13.4]	(3.7)	-	細砂	明赤褐	普通	口縁部横ナデ 底部横位のヘラ型リ	覆土中	5%

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴はか	出土位置	備考
13	土師器	鉢	[21.4]	(4.0)	—	細砂・雲母・スコリア	にぶい黄褐色	普通	外面ヘラナデ 内面横ナデ	覆土中	5%
14	土師器	壺	[16.8]	(5.0)	—	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	口縁部横ナデ 体部ナデ	覆土中	破片
15	土師器	甕	[23.0]	(3.0)	—	長石・石英・雲母	褐色	普通	器面薄織により調整痕不明	北西下層	破片
16	土師器	甕	—	(12.9)	[9.2]	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	普通	体部下子縁位のヘラ磨き 内面横位のヘラナデ	中央下層	20% PL11
17	須恵器	甕	[14.6]	(1.6)	—	長石・石英	灰	普通	外・内面クロコナデ	覆土中	破片
18	須恵器	環	[11.2]	3.3	7.6	長石・石英・雲母	灰白	普通	体部クロコナデ 底部不定方向のヘラ削り	覆土中	30%
19	須恵器	環	[13.8]	(3.5)	—	長石・石英・雲母	黄褐色	普通	外・内面クロコナデ	P 2 南床面	10%
20	須恵器	環	[14.4]	(4.0)	—	長石・石英・雲母	黄灰	普通	外・内面クロコナデ	北東隅壁端	5%
21	須恵器	環	—	(1.9)	8.0	長石・石英・雲母	暗灰黄	普通	体部クロコナデ 底部回転ヘラ削り	北東隅中層	30%
22	須恵器	環	—	(1.0)	[9.0]	長石・石英・雲母	にぶい褐色	不良	底部不定方向のヘラ削り	P 1 南床面	10%
23	須恵器	高台付環	[20.0]	(5.0)	—	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	外・内面クロコナデ	覆土中	5% 22と同型体片
24	須恵器	高台付環	—	(1.9)	[10.7]	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	体部クロコナデ 底部回転ヘラ削り	覆土中	30% 22と同型体片
25	須恵器	甕	—	(1.9)	[11.5]	長石・石英・雲母	灰黄	普通	体部クロコナデ 底部回転ヘラ削り	覆土中	30%
26	須恵器	鉢	[33.6]	(5.0)	—	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部外面斜位の平行叩き	覆土中	破片
27	須恵器	把手	—	—	—	細砂・雲母	にぶい黄褐色	普通	雑なナデ	覆土中	破片
28	須恵器	長圓瓶	—	(7.0)	—	細砂	灰黄	良好	クロコナデ 肩部に自然軸	覆土中	破片
TP19	須恵器	甕	—	(6.6)	—	長石・石英・雲母	灰白	普通	体部外面横位の平行叩き 内面無文の当て具痕	覆土中	破片
TP20	須恵器	甕	—	(6.5)	—	長石・石英	灰	普通	外面斜位の平行叩き 内面ナデ	覆土中	破片
TP21	須恵器	甕	—	(7.1)	—	長石・石英・雲母	灰黄	普通	外面斜位の平行叩き 体部下端手持ちヘラ削り	覆土中	破片

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 1	刀子	[14.6]	2.3	0.5	(27.4)	鉄	片側 刃部基部とも先端部欠損	東壁溝	PL14
M 2	刀子	(2.9)	0.6	0.2	(0.72)	鉄	基部欠損	中央部上層	
M 3	回転	17.1	0.5	0.5	10.0	鉄	中央部の長さ7cmは螺旋状に屈んである	中央部上層	PL14

第211号住居跡 (第19図)

位置 調査区南部のC 2 j2区で、標高26mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第210・212号住居跡を掘り込み、竈南袖部を第534号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 南半部が調査区域外にあることから、東西軸は3.40mで、南北軸は2.69mしか確認できなかったが、主軸方向がN-83°-Eの方形と推測できる。壁高は4~21cmで、直立している。

床 はほぼ平坦で、南壁から竈にかけての中央部に硬化面が認められる。壁溝が、西壁から北壁の一部にかけて認められる。

竈 東壁中央部に付設されているが、南側袖部は第534号土坑に掘り込まれ、全体的に上部を削平されているため、北側袖部の基部と火床面が確認できただけである。火床部は床面を若干掘り込み、火床面は火を受けて赤変硬化している。

ピット 深さ39cmで、西壁際のやや北寄りに位置していることから、出入り口施設に伴うピットとみられる。

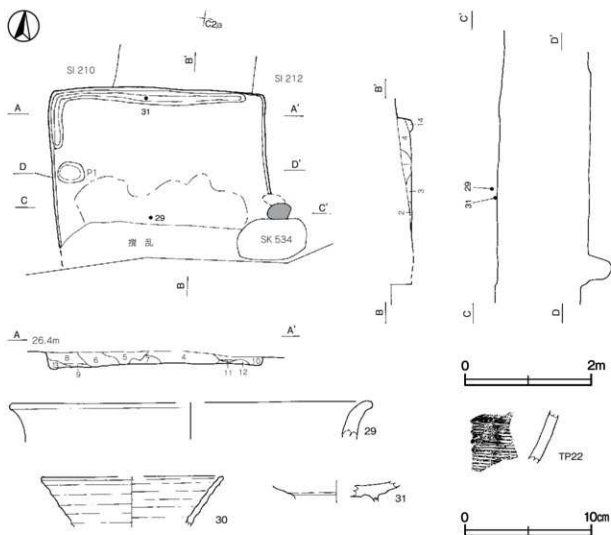
覆土 14層に分層できる。大半の層にロームブロックが含まれ、ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

1	褐色	色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	8	暗褐色	色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 (締まり強い)
2	暗褐色	色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	9	褐色	色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
3	褐色	色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	10	暗褐色	色	ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量
4	褐色	色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量	11	暗褐色	色	炭化粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量
5	暗褐色	色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	12	褐色	色	ロームブロック少量、焼土粒子微量
6	暗褐色	色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量	13	暗褐色	色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 (締まり弱い)
7	褐色	色	ロームブロック少量	14	にぶい褐色	色	ローム粒子少量、炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片50点(坯15・高台付坯1・甕34)、須恵器片20点(坯16・高台付坯1・甕3)のほか、流れこんだ縄文土器片9点、剥片1点が出土している。29は中央部の覆土下層、31は北壁下の壁溝内からそれぞれ出土している。いずれも住居廃絶時に遺棄されたものと思われる。

所見 時期は、出土土器から9世紀中葉に比定できる。



第19図 第211号住居跡・出土物実測図

第211号住居跡出土遺物観察表(第19図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
29	土師器	甕	[28.2]	(30)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外・内面ロクロナテ	中央下層	破片
30	須恵器	坯	[14.4]	(39)	-	長石・石英	黄灰	普通	体部ロクロナテ 体部下層手持ちヘラ削り	覆土中	5%
31	須恵器	高台付坯	-	(1.6)	-	長石・石英・雲母	灰	不且	体部ロクロナテ	北壁溝	10%
TP22	須恵器	鉢	-	(4.2)	-	長石・石英・雲母	灰	普通	外面横位の平行印き 内面ナテ	覆土中	破片

第212号住居跡(第20～22図)

位置 調査区南部のC2j3区で、標高26mの台地平坦部に位置している。

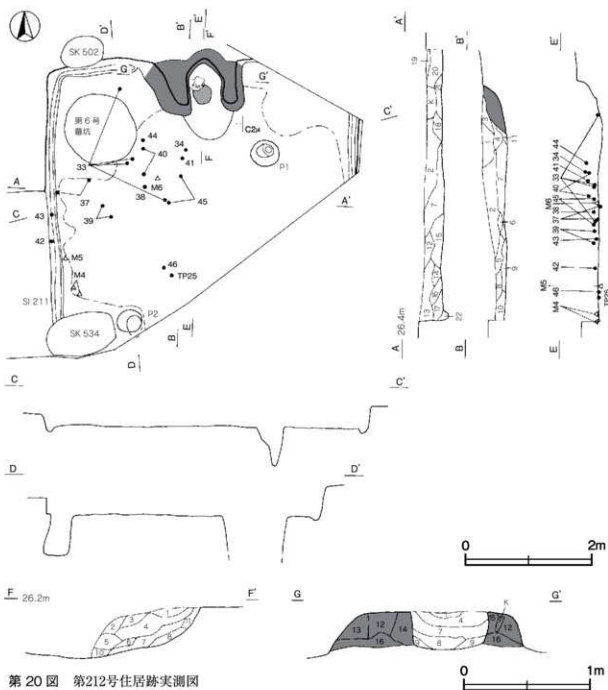
重複関係 西部を第211号住居、北西コーナー部を第6号墓坑と第502号土坑、南西コーナー部を第534号土坑に

掘り込まれている。

規模と形状 南東部及び北東部が調査区域外にあることから、東西軸は5.00mで、南北軸は4.60mしか確認できなかったが、主軸方向がN-0°の方角と推測できる。壁高は17~48cmで、ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、確認できた範囲ではコーナー部を除いて硬化面が認められる。壁下には、確認できた範囲で壁溝が認められる。

竈 北壁中央部に付設されている。焚口部から煙出部まで148cm、燃焼部幅55cmである。袖部は床面と同じ高さの地山の上に粘土粒子・細礫を含む灰褐色土を積み上げて構築されている。煙道部は、壁外へ弧状に奥行き20cm、幅58cm掘り込んで構築されている。火床部は床面を若干掘り込み、火床面は火を受けて赤変硬化している。燃焼部の下層から土師器甕の大破片が出土している。



第20図 第212号住居跡実測図

竪土層解説

1	黒 褐色	焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量	9	にぶい赤褐色	焼土粒子・粘土粒子少量、炭化物微量
2	灰 褐色	粘土粒子中量、焼土ブロック・炭化粒子微量	10	灰 褐色	炭化物・粘土粒子少量、焼土ブロック微量
3	灰 褐色	粘土粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量	11	にぶい赤褐色	焼土粒子少量、炭化粒子・粘土粒子微量
4	灰 褐色	焼土ブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量	12	灰 褐色	砂質粘土粒子中量、焼土粒子微量
5	灰 褐色	粘土ブロック中量、焼土ブロック少量・炭化粒子微量	13	灰 褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子少量、炭化粒子微量
6	灰 褐色	粘土粒子中量、炭化粒子微量	14	灰 褐色	砂質粘土粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量
7	にぶい赤褐色	粘土粒子少量、焼土ブロック微量	15	にぶい赤褐色	砂質粘土粒子中量、焼土ブロック微量
8	暗 赤 褐色	粘土粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量	16	灰 褐色	砂質粘土粒子・細礫少量、ロームブロック・焼土ブロック微量

ピット 2か所。P1は深さ63cmで北東コーナー寄り、P2は深さ65cmで南西隅に位置していることから主柱穴である。

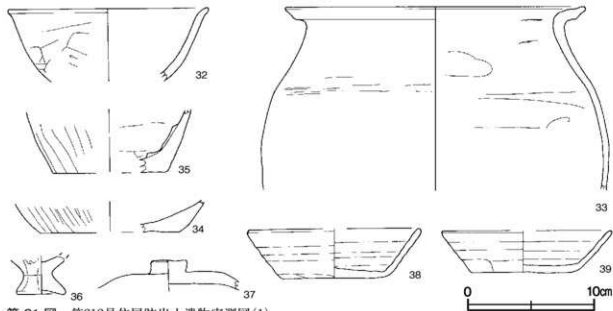
覆土 22層に分層できる。大半の層にロームブロックや焼土ブロックが含まれ、ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

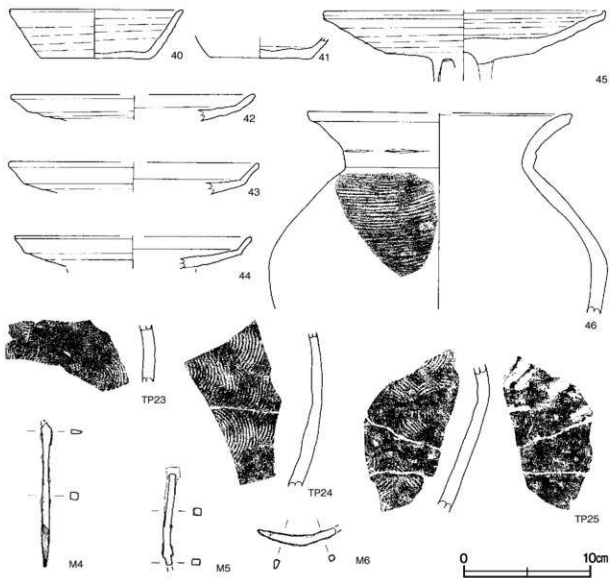
1	黒 暗褐色	粘土粒子少量、ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量	12	暗 暗褐色	焼土粒子少量、ロームブロック・炭化物・粘土粒子微量
2	黒 褐色	焼土ブロック・炭化物・粘土粒子少量、ロームブロック微量	13	黒 暗褐色	炭化粒子少量、焼土粒子・粘土粒子微量
3	灰 褐色	炭化粒子・粘土粒子少量・焼土ブロック・ローム粒子微量	14	暗 褐色	焼土粒子・粘土粒子少量、炭化粒子微量
4	灰 褐色	焼土粒子少量、粘土ブロック・炭化物微量	15	暗 褐色	焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
5	黒 褐色	粘土粒子少量、焼土ブロック・炭化物微量	16	暗 褐色	粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
6	黒 暗褐色	粘土ブロック・焼土粒子微量	17	暗 褐色	ロームブロック・焼土粒子微量
7	暗 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量	18	暗 褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
8	暗 褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量	19	暗 褐色	炭化粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量
9	暗 褐色	粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	20	暗 褐色	焼土粒子少量、ロームブロック・炭化粒子微量
10	暗 褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量	21	暗 褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
11	灰 褐色	粘土粒子少量、ロームブロック・焼土ブロック微量	22	黒 褐色	焼土粒子少量、ロームブロック微量

遺物出土土況 土師器甕1点、須恵器坏3点、蓋・高盤各1点、鉄鍔4点のほか、土師器片215点(坏46・碗1・甕167・手捏土器1)、須恵器片93点(坏61・蓋7・盤8・瓶1・甕16)が出土している。また、流れ込んだ縄文土器片40点、剥片2点も出土している。37・M5は西壁寄り、46は南部、M6は中央部のいずれも床面から、42・43は西壁下、39は西壁寄り、38・45は中央部、M4は南西壁寄りのいずれも覆土下層から、34・41は竪前面、40・44は北西コーナー寄りのいずれも覆土中層からそれぞれ出土している。33は、北西部の広い範囲の覆土下層から出土した破片が接合している。42・43・46は、住居廃絶時に遺棄された可能性があるが、他は北西部から投棄されたものと思われる。

所見 時期は、出土土器から8世紀中葉に比定できる。



第21図 第212号住居跡出土遺物実測図(1)



第 22 図 第212号住居跡出土遺物実測図(2)

第212号住居跡出土遺物観察表 (第21・22図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
32	土師器	碗	[156]	(5.7)	-	細砂・スコリア	明赤褐	普通	体部ロクロナデ 体部下半部位のヘウ割り	腹土中	5%
33	土師器	壺	237	(14.6)	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	口頸部積ナデ 体部ナデ	北西部下層	30% PL12
34	土師器	壺	-	(2.5)	[11.0]	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	体部下半部位のヘウ割り 底部本葉痕	腹面中層	破片
35	土師器	壺	-	(5.0)	[9.0]	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	体部下半部位のヘウ割り 底部本葉痕	腹土中	破片
36	土師器	1-ナメテ	-	(3.1)	3.7	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	全面ナデ	腹土中	40%
37	須恵器	蓋	-	(2.5)	-	長石・石英・雲母	灰白	普通	天井部回転ヘウ割り	西部床面	70% PL12
38	須恵器	坏	[134]	3.9	8.2	長石・石英	灰	普通	体部ロクロナデ 底部二方向のヘウ割り	中央部下層	30%
39	須恵器	坏	[133]	3.3	8.2	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	不良	体部下端手持ちヘウ割り 底部ナデ	西部下層	50% PL11
40	須恵器	坏	135	3.9	8.5	細砂・雲母・スコリア	にぶい橙	普通	体部下端手持ちヘウ割り 底部一方向のヘウ割り	北西部中層	90% PL11
41	須恵器	坏	-	(1.7)	7.8	長石・石英・雲母	灰白	不良	器面剥落により調整痕不明	腹面中層	30%
42	須恵器	壺	[192]	(2.0)	-	長石・石英・雲母	雑灰	普通	外・内面ロクロナデ	西壁階下層	破片
43	須恵器	壺	[195]	(2.4)	-	長石・石英・雲母	灰黄	普通	外・内面ロクロナデ	西壁階下層	10%
44	須恵器	壺	[196]	(2.5)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	外・内面ロクロナデ	北西部中層	10%

番号	器種	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴はか	出土位置	備考
45	須恵器	高盤	[222]	(5.6)	-	長石・石英・雲母	灰黄	不良	外・内面ロクロナデ 透孔3方	中央部下層	80% PL12
46	須恵器	甕	[210]	(15.8)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	不良	口縁部ロクロナデ 外面外面積位の平行叩き	南部床面	10% PL12
TP23	須恵器	甕	-	(4.6)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	不良	外面同心円文の叩き 内面無文の当て具痕	覆土中	破片
TP24	須恵器	甕	-	(12.2)	-	長石・石英・雲母	灰白	不良	外面同心円文の叩き 内面無文の当て具痕	覆土中	破片
TP25	須恵器	甕	-	(11.6)	-	長石・石英・雲母	灰黄	不良	外面同心円文の叩き 内面無文の当て具痕	覆土中	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M4	竈	(11.4)	0.9	0.5	(9.5)	鉄	片方の長距離	南西隅下層	PL14
M5	竈	(7.9)	1.2	0.5	(7.73)	鉄	刃部・頸部とも欠損 基部に筒有り	西壁側床面	PL14
M6	刀子	(6.2)	1.2	0.4	(2.44)	鉄	基部基部欠損 刃長4cm	中央部床面	

第214号住居跡（第23図）

位置 調査区南部のC2h4区で、標高26mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 大部分が調査区域外にあり、竈の一部から北東コーナー部しか調査できなかった。東西軸は2.65m、南北軸は2.60mしか確認できなかったが、主軸方向がN-5°-Eの方形あるいは長方形と推測できる。壁高は27cmで、ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、確認できた範囲では壁際を除いて硬化面が認められる。壁下には、確認できた範囲で壁溝が認められる。竈東側の床面から炭化材3点が出土している。

竈 北壁に付設されている。西壁が調査区域外にあるため明確ではないが、ほぼ中央部と考えられる。焚口部から煙出部まで142cmである。袖部は東側しか確認できなかったが、床面と同じ高さの地山の上に粘土粒子を含む灰褐色土を積み上げて構築されている。煙道部は、壁外へ三角形に奥行き60cm掘り込んで構築されている。火床部は床面を若干掘り込んでおり、火床面は火を受けて赤変硬化している。

竈土層解説

1	灰褐色	粘土粒子少量、焼土ブロック微量	9	暗赤褐色	焼土ブロック少量
2	灰褐色	粘土粒子少量、炭化物・焼土粒子微量	10	灰褐色	粘土粒子中量、焼土粒子微量
3	灰褐色	粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	11	赤褐色	粘土粒子中量、焼土ブロック少量
4	灰褐色	粘土粒子中量、焼土ブロック・炭化粒子微量	12	灰褐色	粘土粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量
5	灰褐色	焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量	13	灰褐色	粘土粒子少量、焼土ブロック・細礫微量
6	灰褐色	焼土ブロック・炭化粒子微量	14	にぶい赤褐色	粘土粒子少量、炭化物・焼土粒子・細礫微量
7	にぶい赤褐色	粘土粒子中量、焼土ブロック少量	15	褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
8	暗赤褐色	粘土粒子少量、焼土ブロック・炭化物微量			

ピット 深さ48cmで、北東コーナー部に位置していることから支柱穴である。

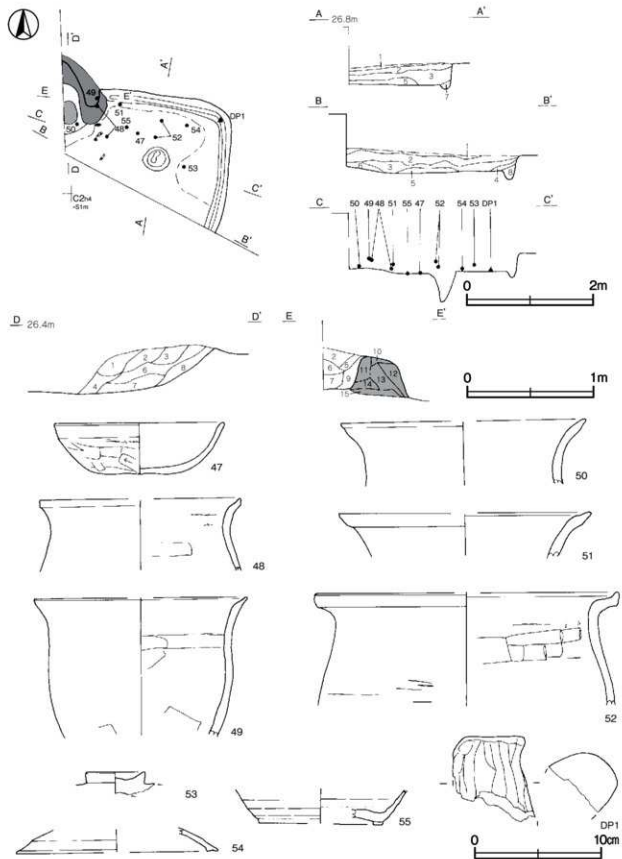
覆土 8層に分層できる。大半の層にロームブロックあるいは焼土ブロックが含まれ、不自然な堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

1	暗褐色	焼土ブロック・炭化物・ローム粒子微量	5	暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
2	黒褐色	焼土粒子少量、炭化物・ローム粒子微量	6	暗褐色	焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
3	黒褐色	焼土ブロック・炭化物・ローム粒子少量	7	褐色	ローム粒子少量、ロームブロック・焼土ブロック微量
4	暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	8	褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器環1点、土製支脚1点のほか、土師器片61点（環17・甕4）、須恵器片6点（環2・蓋2・高台付環1・甕1）が出土している。47は竈東側の床面、54・環1は北東コーナー寄りの覆土下層、53は北東部の覆土中層、49は竈右袖部の上部からそれぞれ出土している。48は竈右袖部の上部と覆土下層から出土した破片が接合している。47・49・50・54・55・環1は、住居の廃絶時に遺棄された可能性があるが、他は埋め戻し時に混入したものと思われる。

所見 時期は、出土土器から8世紀前葉に比定できる。床面から炭化材が出土していることから、焼失住居と思われる。



第23図 第214号住居跡・出土遺物実測図

第214号住居跡出土遺物観察表 (第23図)

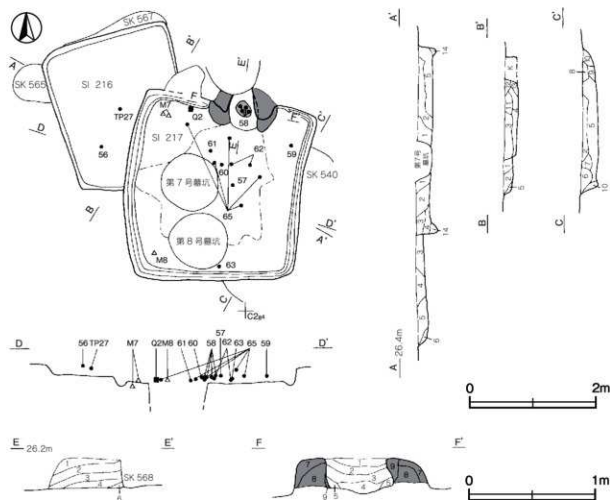
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴はか	出土位置	備考
47	土師器	坏	13.3	4.0	-	長石・石英・スコリア	橙	普通	口縁部横ナデ 体・底部横位のヘラ削り	竈東床面	80%
48	土師器	甕	[16.0]	(5.7)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口頸部横ナデ 体部ナデ	竈輪部前面	破片
49	土師器	甕	[17.0]	(11.0)	-	長石・石英・雲母	黄橙	普通	口頸部横ナデ 体部ナデ	竈内部上部	20%
50	土師器	甕	[19.4]	(5.2)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	器面剥落により調整痕不明	竈内床面	破片
51	土師器	甕	[20.0]	(3.4)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	器面剥落により調整痕不明	北東部中層	破片
52	土師器	甕	[24.0]	(9.0)	-	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	口頸部横ナデ 体部ナデ	北東部中層	10%
53	灰土器	蓋	-	(1.8)	-	長石・石英・雲母	灰黄	普通	ロクロナデ	北東部中層	破片
54	灰土器	蓋	[15.9]	(1.8)	-	細砂・雲母・スコリア	にぶい橙	不良	ロクロナデ	北東部下層	破片
55	灰土器	高台付坏	-	(2.9)	[9.8]	細砂・雲母	灰白	普通	体部ロクロナデ 底部回転ヘラ削り	北東部下層	20%

番号	器種	上部径	高さ	基部径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP1	支脚	4.8	(6.5)	-	(119.5)	土質(細砂)	側面縦位のヘラナデ	北東部下層	

第216号住居跡 (第24・25図)

位置 調査区南部のC2区で、標高26mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第565・567号土坑を掘り込み、南東部を第217号住居に掘り込まれている。



第24図 第216・217号住居跡実測図

規模と形状 長軸2.32m、短軸2.06mの長方形で、主軸方向はN-16°-Wである。壁高は15cmで、外傾して立ち上がっている。

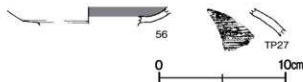
床 ほぼ平坦であるが、北西へ向かって若干傾斜している。

覆土 6層に分層できる。大半の層にロームブロックが含まれ、ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

1	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	4	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2	褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	5	褐色	ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量
3	褐色	ロームブロック少量	6	褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量

遺物出土状況 土師器片9点(坏1・高台付坏1・甕7)、須恵器甕片1点のほか、流れこんだ縄文土器片2点が出土している。56は南西コーナー部の覆土上層、TP27は中央部の覆土中層から出土している。いずれも埋め戻し時に混入したものと思われる。



所見 時期は、確定できる出土土器が少ないが、第217号住居に掘り込まれていることから8世紀中葉以前である。

第25図 第216号住居跡出土遺物実測図

第216号住居跡出土遺物観察表(第25図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
56	土師器	高台付坏	-	(1.4)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面ロクロナテ 内面横位のヘラ磨き	覆土中	破片
TP27	須恵器	甕	-	(2.3)	-	長石・石英・雲母	黒褐	普通	外面横位の平引き 内面ナデ	覆土中	破片

第217号住居跡(第24・26・27図)

位置 調査区南部のC2区3区で、標高26mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第216号住居跡、第540号土坑を掘り込み、中央部を第7・8号墓坑、竈煙出部を第568号土坑にそれぞれ掘り込まれている。

規模と形状 長軸2.95m、短軸2.80mの方形で、主軸方向はN-6°-Eである。壁高は25cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、壁際を除いた部分に硬化面が認められる。壁下には壁溝が全周している。

竈 北壁のやや東壁寄りに付設されている。煙出部が失われているため、確認できる長さは70cmで、燃焼部幅は52cmである。袖部は、床面と同じ高さの地山の上に粘土粒子を含む灰褐色土を積み上げて構築されている。煙道部は、壁外へ幅100cm掘り込んで構築されている。火床部は床面と同じ高さで、火床面は火を受けて赤変硬化している。

覆土層解説

1	灰褐色	粘土ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子・細礫微量	6	灰褐色	粘土粒子少量、焼土ブロック微量
2	灰褐色	粘土ブロック・炭化物微量	7	灰褐色	粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子・細礫微量
3	灰褐色	粘土粒子少量、炭化物・焼土粒子微量	8	灰褐色	焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・細礫微量
4	暗赤褐色	粘土ブロック・粘土粒子微量	9	にぶい赤褐色	焼土ブロック・粘土粒子少量
5	にぶい赤褐色	粘土粒子少量、焼土ブロック微量			

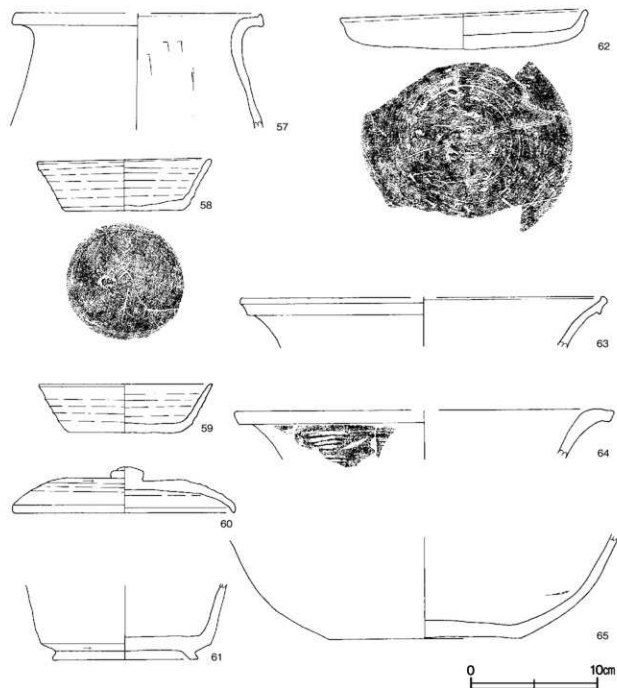
覆土 14層に分層できる。半数の層にロームブロックが含まれ、ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

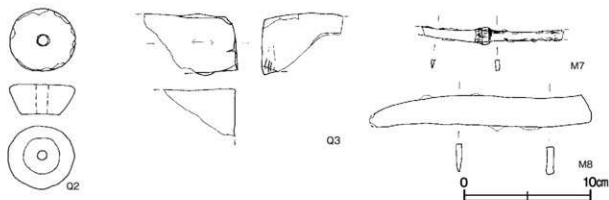
1	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	8	暗褐色	ローム粒子・炭化粒子微量
2	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	9	褐色	ロームブロック少量
3	褐色	ローム粒子少量、焼土粒子微量	10	にぶい褐色	ロームブロック微量
4	褐色	ローム粒子少量	11	褐色	ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
5	褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量	12	褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
6	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子微量	13	褐色	ロームブロック微量
7	暗褐色	ローム粒子少量	14	明褐色	ロームブロック微量

遺物出土状況 須恵器坏2点、蓋・釜・鉢各1点、石製品2点（紡錘車・砥石）、鉄製品2点（刀子）のほか、土師器片101点（坏17・甕84）、須恵器片30点（坏12・高台付坏1・蓋7・甕9・鉢1）が出土している。また、流れこんだ縄文土器片48点、弥生土器片7点も出土している。M7は北西コーナー部の床面、61は竈前面、M8は南西コーナー部、Q2は北西コーナー部のいずれも覆土下層、60・62は竈前面、63は南壁際の覆土中層から、57は中央部の覆土上層からそれぞれ出土している。58は、竈の燃焼部下層から出土した破片、65は竈前面の覆土上層から下層にかけての広範囲から出土した破片がそれぞれ接合している。57・63・65は、住居廃絶後に投棄されたもので、その他は廃絶時に遺棄されたものと思われる。

所見 時期は、出土土器から8世紀中葉に比定できる。



第26図 第217号住居跡出土遺物実測図(1)



第27図 第217号住居跡出土遺物実測図(2)

第217号住居跡出土遺物観察表(第26・27図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
57	土師器	甕	[19.6]	(9.0)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部ロクロナデ 体部ヘラナデ	中央部上層	破片
58	須恵器	坏	13.5	4.1	9.5	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部ロクロナデ 底部一方へのヘラ削り	壺腹中部	100% PL12
59	須恵器	坏	13.6	3.8	9.0	長石・石英・雲母	灰黄	普通	体部ロクロナデ 底部一方へのヘラ削り	覆土中	98% PL12
60	須恵器	蓋	17.5	3.7	-	長石・石英・雲母・細礫	にぶい黄橙	普通	天舟部回転ヘラ削り 外・内面ロクロナデ	壺腹中層	98% PL12
61	須恵器	高台付坏	-	(6.0)	11.5	長石・石英・雲母	黄灰	不良	体部ロクロナデ 底部回転ヘラ削り ヘラ記号	壺腹下層	40%
62	須恵器	甕	19.3	3.1	16.6	長石・石英・雲母	黄灰	普通	口縁部ロクロナデ 底部回転削り ヘラ記号	壺腹中層	60% PL12
63	須恵器	甕	[28.8]	(3.9)	-	長石・石英	灰	良好	体・内面ロクロナデ	壺腹中層	破片
64	須恵器	鉢	[30.2]	(3.8)	-	長石・石英・雲母	灰	普通	口縁部ロクロナデ 体部横位の平行引き	覆土中	破片
65	須恵器	鉢	-	(8.1)	15.2	砂粒・雲母・スコリア	灰黄緑	不良	器面摩滅により調整痕不明	壺腹覆土中層 下層	30%

番号	器種	長さ(㎜)	幅	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q2	紡錘車	5.2	-	2.4	0.9	70.8	凝灰岩	全面研磨 上面外用部部塗成	覆土中	PL14
Q3	砥石	(7.4)	(6.4)	(4.8)	-	(141.0)	凝灰岩	砥面1面	北西隅下層	
M7	刀子	(11.3)	1.5	0.4	-	(9.8)	鉄	刃部先端欠損 基部に貴金属と木質遺存	北西隅床面	PL14
M8	鎌	17.5	2.8	0.5	-	48.9	鉄	基部の折り返しは無し	南西隅下層	PL14

第218号住居跡(第28図)

位置 調査区南部のC25区で、標高26mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第222号住居跡を掘り込み、東壁部を第553号土坑、南東コーナー部を第223号住居にそれぞれ掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.52m、短軸3.40mの方形で、主軸方向はN-60°-Wである。壁高は5~17cmで、外傾して立ち上がっている。

床 はほぼ平坦で、壁際を除いた部分に硬化面が認められる。

竈 北西壁の中央部に付設されている。焚口部から煙出部まで90cm、燃焼部幅は26cmである。袖部は、地山を若干掘り残して基部として、その上に粘土粒子を含む灰褐色土を積み上げて構築されている。煙道部は、壁外へ三角形状に奥行き20cm、幅70cm掘り込んで構築されている。火床部は床面よりやや高く、火床面は火を受けて赤変硬化している。

壺土層解説

- | | |
|------------------------------|-----------------------------|
| 1 にぶい赤褐色 焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量 | 4 灰褐色 ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量 |
| 2 灰褐色 焼土ブロック・炭化粒子微量 | 5 にぶい赤褐色 粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 灰褐色 粘土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量 | |

ピット 3か所。P1は深さ48cm、P2は深さ38cmで、コーナー部に位置していることから主柱穴である。P3は深さ15cmで、P1・P2の配置とバランスを欠くことから性格は不明である。

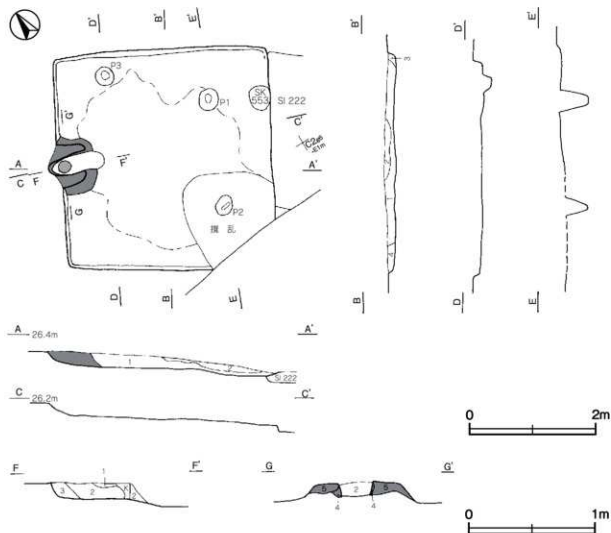
覆土 4層に分層できる。すべての層にロームブロックが含まれ、ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

- | | | | | | |
|---|-----|-------------------------|---|----|-----------------------|
| 1 | 褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 | 褐色 | 炭化粒子少量、ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 2 | 黒褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量 | 4 | 褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片10点(坏3・甕7)、須恵器坏片2点のほか、流れこんだ縄文土器片2点、石鏃1点が出土している。

所見 時期は、確定できる出土土器が無いが、第223号住居に掘り込まれていることから8世紀前葉から9世紀前葉の間と考えられる。



第28図 第218号住居跡実測図

第219号住居跡 (第29・30図)

位置 調査区北部のB2e8区で、標高25.5mの台地緩斜面部に位置している。

規模と形状 長軸3.20m、短軸3.13mの方形で、主軸方向はN-4°-Eである。壁高は11~24cmで、西・南

壁はほぼ直立し、東・北壁は外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、壁際を除いた部分に硬化面が認められる。壁溝が、西半部の壁下を巡っている。

竈 北壁のやや東壁寄りに付設されている。焚口部から煙出部まで115cm、燃焼部幅は93cmである。袖部は、床面を若干掘りくぼめ、粘土粒子を含む灰褐色土を積み上げて構築されている。煙道部は、壁外へ三角形に奥行き50cm、幅82cm掘り込んで構築されている。火床部は床面を若干掘りくぼめており、火床面は火を受けて赤変硬化している。13～15層は、袖部構築のための掘方内への埋土である。

竈土層解説

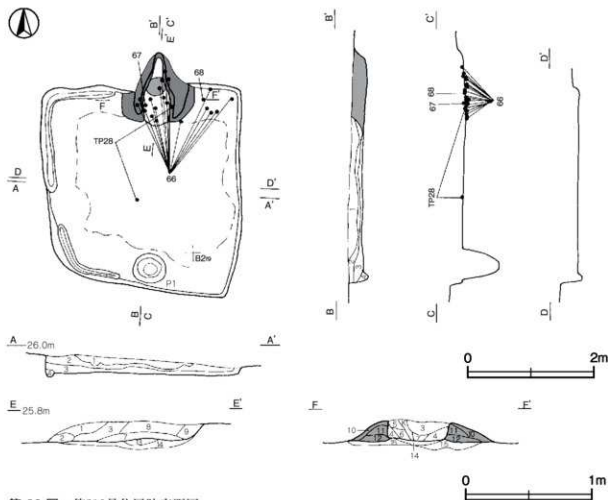
1 灰 褐色	粘土粒子少量、ロームブロック・焼土粒子微量	9 にぶい赤褐色	焼土ブロック少量、ロームブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
2 灰 褐色	粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	10 灰 褐色	粘土粒子少量、炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量
3 灰 褐色	粘土粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量	11 褐色	粘土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子微量
4 灰 褐色	粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	12 灰 褐色	粘土粒子少量、ロームブロック・焼土ブロック微量
5 灰 褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	13 にぶい赤褐色	焼土ブロック・粘土粒子少量、炭化粒子微量
6 灰 褐色	焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量	14 褐色	ローム粒子中量、焼土ブロック少量、炭化粒子・粘土粒子微量
7 にぶい赤褐色	焼土ブロック・炭化物・粘土粒子微量	15 明 褐色	ローム粒子中量
8 灰 褐色	粘土粒子少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量		

ピット 深さ56cmで、竈と向かい合う南壁際に位置していることから出入り口施設に伴うピットとみられる。

覆土 4層に分層できる。レンズ状に堆積していることから自然堆積である。

土層解説

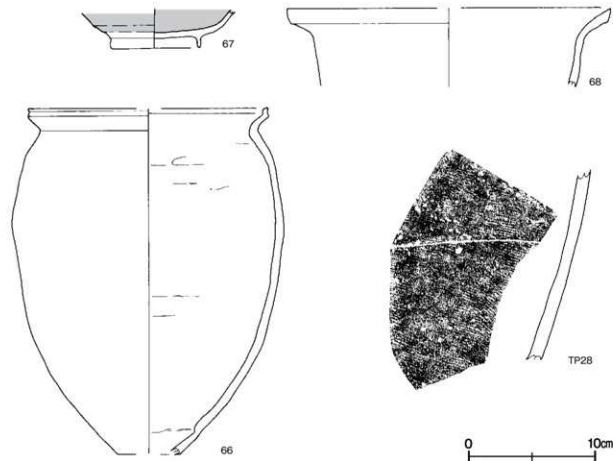
1 極暗褐色	炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量	3 褐色	ロームブロック・炭化粒子微量
2 褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	4 にぶい褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量



第 29 図 第219号住居跡実測図

遺物出土状況 土師器甕・灰軸陶器碗各1点のほか、土師器片29点(坏9・甕20)、須恵器片2点(甕・鉢)が出土している。また、流れこんだ縄文土器片19点も出土している。66は北東コーナー部と竈内から出土した破片、TP28は竈の火床面と中央部の床面から出土した破片がそれぞれ接合している。67は竈の火床面、68は竈東側の床面からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀中葉に比定できる。



第30図 第219号住居跡出土遺物実測図

第219号住居跡出土遺物観察表(第30図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴はか	出土位置	備考
66	土師器	甕	[19.0]	27.5	[5.0]	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	普通	口頸部横ナデ 体部器面摩滅により調整痕不明	竈裏土下層	40% PL12
67	灰軸陶器	碗	-	(3.1)	6.7	細砂	オリーブ灰	良好	体部口シロナデ 軸は刷毛造り	竈裏土下層	40% PL12
68	須恵器	鉢	[25.6]	(6.2)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	不良	口縁部口シロナデ	竈東床面	破片
TP28	須恵器	甕	-	(14.8)	-	長石・石英・雲母	灰	普通	外面斜位の平行叩き 内面無文の当て具痕	竈裏土下層	破片

第220号住居跡(第31図)

位置 調査区北部のB2h9区で、標高25.5mの台地緩斜面部に位置している。

規模と形状 東部が調査区域外にあるため南北軸は3.27mで、東西軸は2.27mしか確認できなかったが、主軸方向がN-4°-Eの方形と推測できる。壁高は10~25cmで、外傾して立ち上がっている。

床 はほぼ平坦で、西壁寄りに硬化面が認められる。南壁下から西壁下および北壁下の一部に壁溝が認められる。

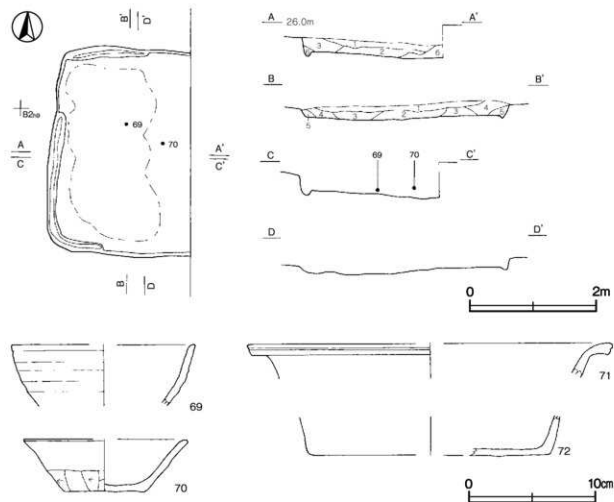
覆土 6層に分層できる。大半の層にロームブロックや粘土ブロックが含まれ、ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------------|-------|------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック中量、粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 2 褐色 | ローム粒子中量、粘土ブロック少量、炭化物微量 | 6 明褐色 | 炭化粒子少量、ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 3 褐色 | ロームブロック少量、粘土ブロック・炭化粒子微量 | | |
| 4 褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 須恵器坏1点のほか、土師器片17点（坏5・高台付坏1・甕11）、須恵器片6点（坏2・甕4）が出土している。また、流れこんだ縄文土器片12点も出土している。69は中央部の覆土下層、70は中央部の覆土中層から出土している。いずれも住居の廃絶後に投棄されたものと思われる。

所見 時期は、出土土器から9世紀中葉に比定できる。



第31図 第220号住居跡・出土遺物実測図

第220号住居跡出土遺物観察表（第31図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴はか	出土位置	備考
69	須恵器	坏	[14.4]	(4.8)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	不貞	外・内面ロクロナテ	中央部下層	破片
70	須恵器	坏	[12.8]	4.1	6.4	長石・石英・雲母	灰黄	普通	体部下半手持ちヘラ削り 底部一方向のヘラ削り	中央部中層	40% PL13
71	須恵器	甕	[28.6]	(2.7)	-	長石・石英・雲母	灰黄	不貞	器頭摩滅により調整痕不明	覆土中	破片
72	須恵器	鉢	-	(3.2)	[19.0]	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	不貞	体部下層横位のヘラ削り	覆土中	10%

第221号住居跡 (第32・33図)

位置 調査区南部のB 277区で、標高26mの台地平坦部に位置している。

重複関係 竈を第536号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.90m、短軸3.88mの方形で、主軸方向はN-115°-Eである。壁高は40～62cmで、ほぼ直立している。

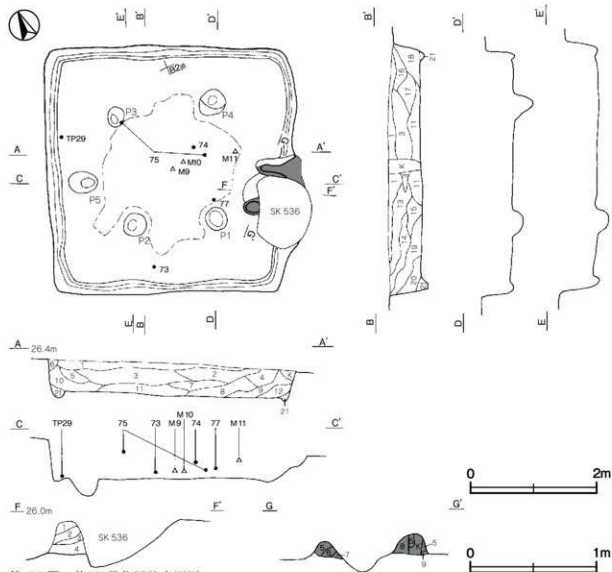
床 ほぼ平坦で、壁際を除いた部分に硬化面が認められる。壁下には壁溝が全周している。

竈 南東壁のやや南寄りに付設されている。大部分が第536号土坑に掘り込まれているため、焚口部から煙出部まで推定150cm、確認できた燃烧部幅75cmである。袖部は、床面と同じ高さの地山の上に粘土粒子を含む灰褐色土を積み上げて構築されている。煙道部は、壁外へ奥行き約80cm掘り込んで構築されている。

竈土層解説

- | | |
|-------------------------------|----------------------------------|
| 1 灰褐色 粘土粒子少量、炭化粒子微量 | 6 灰褐色 粘土ブロック中量 |
| 2 灰褐色 焼土ブロック・粘土ブロック微量 | 7 灰褐色 粘土粒子少量 |
| 3 灰褐色 粘土粒子少量、焼土粒子微量 | 8 灰褐色 焼土粒子・粘土粒子少量、ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 4 にいり赤褐色 粘土粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量 | 9 にいり赤褐色 焼土ブロック中量、粘土粒子少量 |
| 5 灰褐色 粘土ブロック少量 | |

ピット 5か所。P1～P4は深さ17～34cmで、各コーナー部寄りに位置していることから支柱穴である。P5は深さ28cmで、南壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットとみられる。



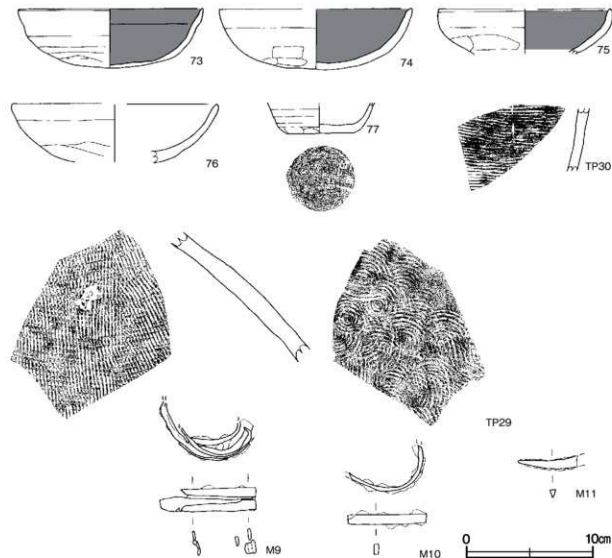
第32図 第221号住居跡実測図

覆土 21層に分層できる。大半の層にロームブロックが含まれ、ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

土層解説					
1	褐色	ロームブロック微量	12	にぶい褐色	ロームブロック・炭化物・焼土粒子少量、粘土ブロック微量
2	褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	13	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3	褐色	ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量	14	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子微量
4	暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量	15	暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
5	褐色	ローム粒子少量	16	暗褐色	焼土ブロック・ローム粒子微量
6	褐色	ロームブロック・焼土粒子微量	17	褐色	ロームブロック微量
7	褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	18	暗褐色	ロームブロック微量
8	褐色	ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック微量	19	暗褐色	ロームブロック少量、炭化物・焼土粒子微量
9	にぶい褐色	粘土ブロック少量、ロームブロック・焼土粒子微量	20	暗褐色	ローム粒子少量
10	褐色	ロームブロック少量、炭化物微量	21	明褐色	ロームブロック少量
11	褐色	ロームブロック少量			

遺物出土状況 土師器坏4点、鉄製品3点(刀子1・不明2)のほか、土師器片87点(坏38・甕49)、須恵器片16点(坏8・甕2・甕6)が出土している。また、流れこんだ縄文土器片82点、石鏃・剥片各1点も出土している。73は南壁寄り、77・M9・M10は中央部、TP29は西壁際のいずれも覆土下層から、74は中央部、M11は竈前面のいずれも覆土上層から出土している。75は、P3上部の覆土上層と中央部の覆土下層から出土した破片が接合している。いずれも住居廃絶後に投棄されたものと思われる。

所見 時期は、出土土器から8世紀前葉に比定できる。



第33図 第221号住居跡出土遺物実測図

第221号住居跡出土遺物観察表 (第33図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴はか	出土位置	備考
73	土師器	坏	14.5	4.8	-	細砂・スコリア	橙	普通	口縁部ロクロナデ 底部横位のヘラ削り	南部下層	60% PL13
74	土師器	坏	[15.2]	4.8	-	細砂・雲母・スコリア	明赤褐	普通	口縁部ロクロナデ 底部横位のヘラ削り	中央部上層	40% PL13
75	土師器	坏	[13.5]	(3.5)	-	長石・石英・角閃石	橙	普通	口縁部ロクロナデ 底部不定方向のヘラ削り	中央部下層	20%
76	土師器	坏	[16.3]	(4.6)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部ロクロナデ 底部不定方向のヘラ削り	覆土中	20%
77	須恵器	坏	-	(2.4)	5.4	長石・石英・雲母	灰黄	普通	体部下縁手持ちヘラ削り 底部一方向のヘラ削り	最前部中層	50%
TP29	須恵器	甕	-	(10.6)	-	長石・石英・磁礫	黄灰	普通	外面縦位の平行引き 内面同心円文の当て具痕	西壁際下層	破片 PL13
TP30	須恵器	甕	-	(5.0)	-	長石・石英	灰	普通	外面縦位の平行引き 内面ナデ	覆土中	破片

番号	器種	長さ(㎜)	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M9	鍔状金具	(7.5)	0.8~1.0	0.25	(23.6)	鉄	幅0.8~1.0cmの鍔状金具が3本束になっている	中央部下層	PL14
M10	鍔状金具	(6.0)	0.8	0.3	(9.2)	鉄	M9と同種のもので同一個体の可能性有り	中央部下層	
M11	刀子	(4.71)	0.82	0.42	(3.08)	鉄	基部欠損	最前部上層	

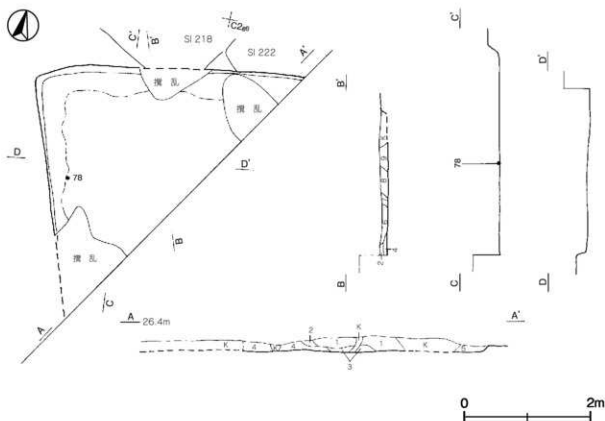
第223号住居跡 (第34・35図)

位置 調査区南部のC2g5区で、標高25.5mの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第218・222号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 南東部が調査区域外に存在していることから南北軸2.90mで、東西軸は3.90mしか確認できなかったが、主軸方向N-74°-Eの方形と推測できる。壁高は16cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、壁際を除いた部分に硬化面が認められる。



第34図 第223号住居跡実測図

覆土 9層に分層できる。大半の層にロームブロックが含まれ、ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

1	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	6	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子微量
2	暗褐色	粘土粒子少量、ローム粒子微量	7	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量
3	褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	8	暗褐色	ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量
4	褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	9	褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
5	暗褐色	焼土粒子少量、炭化物・ローム粒子微量			

遺物出土状況 土師器高台付碗1点のほか、土師器片7点(環1・高台付碗1・壺5)、須恵器片3点(環2・壺1)が出土している。また、流れこんだ剥片1点も出土している。78は西壁寄りの床面から出土しており、住居廃絶時に遺棄されたものと思われる。

所見 時期は、出土土器から9世紀中葉に比定できる。



第35図 第223号住居跡出土遺物実測図

第223号住居跡出土遺物観察表(第35図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴はか	出土位置	備考
78	土師器	高台付碗	[174]	61	7.6	長石・石英・雲母	橙	普通	体部下端回転ヘラ削り 内面横位のヘラ磨き	西部床面	60% PL13
79	土師器	高台付碗	-	(2.8)	-	砂粒・雲母・スコリア	橙	普通	体部外面ロコナテ 内面ヘラ磨き	覆土中	20%
80	須恵器	環	-	(1.5)	[7.6]	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部下端ヘラ削り 底部一方向のヘラ削り	覆土中	5%

表3 奈良・平安時代堅穴住居跡一覧表

番号	位置	平面形	主軸方向	規模(m) (長軸×短軸)	標高(cm)	床面	内部施設				覆土	主な出土遺物	時期	備考
							土間	土間入口	ピット	竈				
200	C2a1	[方形]	N-3°-E	3.30×2.10	30	平坦	全周	1	-	-	人為	土師器・須恵器	9 C中	
210	C2d	方形	N-4°-E	4.80×4.45	25~38	平坦	全周	4	1	-	北壁 人為	土師器・須恵器・鉄製品	8 C前	本跡→S211
211	C2d	[方形]	N-83°-E	3.40×2.69	4~21	平坦	一部	-	1	-	東壁 人為	土師器・須恵器	9 C中	S210・212→本跡→SK534
212	C2d	[方形]	N-0°	5.00×4.60	17~48	平坦	全周	2	-	-	北壁 人為	土師器・須恵器・鉄製品	8 C中	本跡→S211・SK502・534・第6号基坑
214	C2b4	[方形]	N-5°-E	(2.65)×(2.60)	27	平坦	全周	1	-	-	北壁 人為	土師器・須恵器・支脚	8 C前	
216	C2c	長方形	N-16°-W	2.32×2.06	15	平坦	-	-	-	-	人為	土師器・須恵器	8 C中以降	SK565・567→本跡→S217
217	C2c	方形	N-6°-E	2.95×2.80	25	平坦	全周	-	-	-	北壁 人為	土師器・須恵器・鉄製品・石製品	8 C中	S216・SK340→本跡→SK568・環7-8号基坑
218	C2c	方形	N-60°-W	3.52×3.40	5~17	平坦	-	2	-	1	北西壁 人為	土師器・須恵器	8C前-9C前	S222→本跡→S223・SK553
219	B2c6	方形	N-4°-E	3.20×3.13	11~24	平坦	一部	-	1	-	北壁 自然	土師器・須恵器・灰陶器	9 C中	
220	B2b9	[方形]	N-4°-E	3.27×2.27	10~25	平坦	一部	-	-	-	人為	土師器・須恵器	9 C中	
221	B2d	方形	N-115°-E	3.90×3.88	40~62	平坦	全周	4	1	-	南東壁 人為	土師器・須恵器・鉄製品	8 C前	本跡→SK536
223	C2c5	[方形]	N-74°-E	(3.90)×(2.90)	16	平坦	-	-	-	-	人為	土師器・須恵器	9 C中	S218・222→本跡

(2) 土坑

第527号土坑(第36図)

位置 調査区南部のC2e2区で、標高26mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第215号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長径0.95m、短径0.90mの円形である。深さは53cmで、底面は皿状である。壁は、外傾して立ち上がっている。

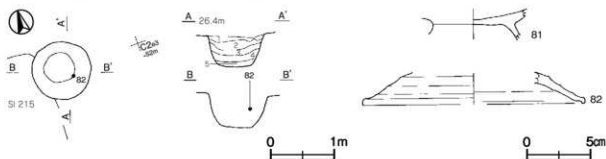
覆土 5層に分層できる。大半の層にロームブロックが含まれ、ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------|-------|----------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・粘土粒子微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 | 5 褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ローム粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片6点(坏5・高台付碗1)、須恵器片3点(坏1・蓋2)のほか、弥生土器片1点が出土している。82は、南部の覆土中層から出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀中葉に比定できる。



第36図 第527号土坑・出土遺物実測図

第527号土坑出土遺物観察表(第36図)

番号	類別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴はか	出土位置	備考
81	土師器	高台付碗	-	(2.5)	-	長石・石英・雲母	明赤褐	不良	器面摩滅により調整痕不明	覆土中	20%
82	須恵器	蓋	[17.6]	(2.5)	-	長石・石英・雲母	灰	普通	天井部回転へり削り 外周部ロクロナデ	南部中層	20%

第534号土坑(第37図)

位置 調査区南部のC2j3区で、標高26mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第211・212号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸1.10m、短軸0.68mの隅丸長方形で、長軸方向はN-83°-Eである。深さは39cmで、底面は平坦である。壁は、外傾して立ち上がっている。

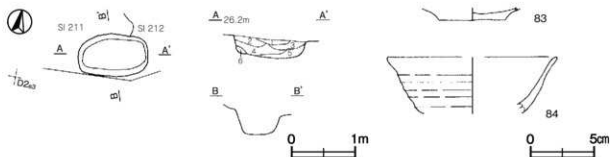
覆土 6層に分層できる。大半の層にロームブロックや焼土ブロックが含まれ、ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------|-------|----------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 暗褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子微量 |
| 2 暗褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 | 5 褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 | 6 暗褐色 | ローム粒子少量 |

遺物出土状況 土師器片16点(坏1・皿1・甕14)、須恵器坏片3点が、覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀中葉に比定できる。



第 37 図 第534号土坑・出土遺物実測図

第534号土坑出土遺物観察表（第37図）

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
83	土師器	皿	-	(1.0)	5.4	細砂・角閃石・スコリア	にふい煙	普通	体部ロクロナデ 底部ヘラナデ	覆土中	20%
84	須恵器	杯	(13.4)	(4.5)	-	炭石・石英・雲母	灰青	不良	体部ロクロナデ	覆土中	5%

第556号土坑（第38図）

位置 調査区南部のB 2g8区で、標高26mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第557・560号土坑と接している。

規模と形状 長径2.45m、短径2.30mの円形である。深さは90cmで、底面は平坦である。壁は、外傾して立ち上がっている。

覆土 6層に分層できる。大半の層にロームブロックが含まれ、ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

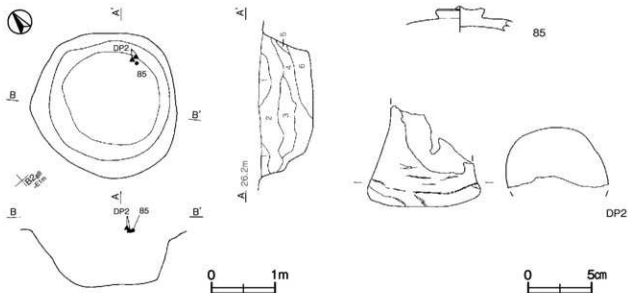
土層解説

1	暗褐色	ロームブロック・黒色粒子少量、炭化粒子微量	4	暗褐色	ロームブロック・黒色粒子微量
2	黒褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	5	褐色	ローム粒子少量、黒色粒子微量
3	黒褐色	ロームブロック・炭化粒子・黒色粒子微量	6	褐色	ロームブロック少量、黒色粒子微量

遺物出土状況 土師器壺片19点、須恵器蓋片1点、土製支脚1点のほか、縄文土器片12点が出土している。

85・DP2は、東部の覆土上層から出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀中葉に比定できる。



第 38 図 第556号土坑・出土遺物実測図

第556号土坑出土遺物観察表（第38図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
85	須恵器	壺	-	(21)	-	長石・石英・雲母	灰白	不良	器面摩滅により調整痕不明	東部上層	5%

番号	器種	上部径	高さ	下部径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP2	支脚	-	(80)	9.0	(227.0)	土(細砂)	側面ナテ 基底面裏ワズ	東部上層	30%

表4 奈良・平安時代土坑一覽表

番号	位置	平面形	長径方向	規模 (m, 深さはcm)		壁面	底面	覆土	出土遺物	備考 新旧関係 (古→新)
				長径(軸) × 短径(軸)	深さ					
527	C 2 c2	円形	-	0.95 × 0.90	53	外傾	皿状	人為	縄文土器・土師器・須恵器	SI215→本跡
534	C 2 j3	隅丸長方形	N-83°-E	1.10 × 0.68	39	外傾	平坦	人為	土師器・須恵器	SI211・212→本跡
506	B 2 g8	円形	-	2.45 × 2.30	90	外傾	平坦	人為	縄文土器・土師器・須恵器・支脚・銅片	SK507・560

5 中世・近世の遺構と遺物

中世・近世の遺構は、墓坑4基、土坑3基が確認されている。以下、それらの遺構と遺物について記述する。

(1) 墓坑

第5号墓坑 (SK 508) (第39図)

位置 調査区北部のC 1 i0区で、標高26mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第507号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.07m、短径0.98mの円形である。深さは40cm

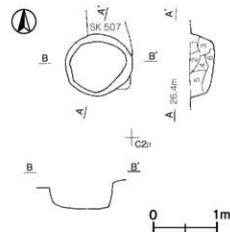
で、底面は平坦である。壁は直立している。

覆土 6層に分層される。中層から下層にかけての3・4・6層には骨粉が混じっている。ロームブロックが含まれ、ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 褐色 ロームブロック中量、焼土粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量、骨粉
- 4 褐色 ローム粒子・炭化粒子微量、骨粉
- 5 暗褐色 ロームブロック中量
- 6 極暗褐色 ロームブロック少量、骨粉

所見 副葬品は無いが、覆土中に骨粉が混じっており、覆土が埋め戻されていることから、本跡は墓である。時期は、他の墓坑と同じ江戸時代と考えられる。



第39図 第5号墓坑実測図

第6号墓坑 (SK 509) (第40図)

位置 調査区北部のC 2 j3区で、標高26mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第212号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.22m、短径1.10mの楕円形で、長径方向はN-32°-Wである。深さは142cmで、底面は平坦である。壁は直立している。

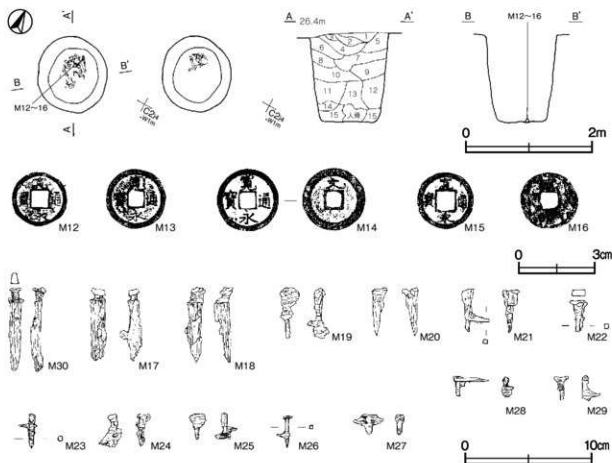
覆土 15層に分層される。すべての層にロームブロックが含まれ、南側から埋め戻されている。

土層解説

1	褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	9	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子微量
2	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子微量	10	暗褐色	ロームブロック微量
3	褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量	11	褐色	ロームブロック少量、炭化物・焼土粒子微量
4	暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量	12	暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量
5	暗褐色	焼土粒子少量、ロームブロック微量	13	暗褐色	ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量
6	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	14	暗褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック微量
7	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・粘土粒子微量	15	にぶい褐色	ローム粒子中量
8	褐色	ロームブロック微量			

遺物出土状況 底面中央部から頭蓋骨・肋骨・大腿骨など人骨1体が、折りたたまれた状態で出土している。頭蓋骨は北壁寄りにあり、西を向いている。ほかに人骨が存在した下位の底面から古銭5点（寛永通寶4・不明1）、人骨周辺の覆土下層から木片が付着した釘30点も出土している。

所見 木片が付着している釘が出土していること、土坑の形状と人骨の状況から座棺が用いられたことが分かる。古銭は副葬品で、時期は、寛永通寶が新寛永銭であることから江戸時代の17世紀中葉以降と考えられる。



第40図 第6号墓坑・出土遺物実測図

第6号墓坑出土遺物観察表（第40図）

番号	銭名	径	厚さ	孔幅	重量	初周年	材質	特徴	出土位置	備考
M12	寛永通寶	2.25	0.1	0.7	2.24	1668年	銅	新寛永銭 無背	覆土下層	
M13	寛永通寶	2.45	0.1	0.6	2.60	1668年	銅	新寛永銭 無背	覆土下層	
M14	寛永通寶	2.50	0.1	0.65	3.30	1668年	銅	新寛永銭 背面に文	覆土下層	PL14
M15	寛永通寶	2.25	0.1	0.75	2.12	1668年	銅	新寛永銭 無背	覆土下層	
M16	寛永通寶	2.30	0.1	0.65	2.72	1668年	銅	新寛永銭 無背	覆土下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M17	釘	(5.78)	-	-	(4.48)	鉄	板目に打ち込まれている 頭部から3.5cmに直交する別釘あり	覆土下層	PL14
M18	釘	(5.93)	-	-	(4.12)	鉄	板目に打ち込まれている	覆土下層	PL14
M19	釘	(3.90)	-	-	(2.08)	鉄	板目と柵目に打ち込まれている	覆土下層	
M20	釘	(3.75)	0.3	0.3	(1.44)	鉄	頭部欠損 板目と木口に打ち込まれている	覆土下層	
M21	釘	(3.33)	0.4	0.4	(2.56)	鉄	直角に折れ曲がっている 板目に打ち込まれている	覆土下層	
M22	釘	(2.51)	0.3	0.3	(1.12)	鉄	頭部長方形 板目に打ち込まれている	覆土下層	
M23	釘	(2.71)	0.25	0.25	(0.96)	鉄	板目と柵目に打ち込まれている	覆土下層	
M24	釘	(2.55)	-	-	(1.20)	鉄	板目と柵目に打ち込まれている	覆土下層	
M25	釘	(2.0)	0.3	0.3	(0.78)	鉄	板目と柵目に打ち込まれている	覆土下層	
M26	釘	(2.04)	0.25	0.25	(0.45)	鉄	板目と柵目に打ち込まれている	覆土下層	
M27	釘	(1.5)	0.3	0.3	(1.05)	鉄	板目に打ち込まれている	覆土下層	
M28	釘	(1.6)	0.3	0.3	(0.70)	鉄	板目と柵目に打ち込まれている	覆土下層	
M29	釘	(1.8)	0.25	0.25	(0.52)	鉄	板目と柵目に打ち込まれている	覆土下層	
M30	釘	(6.58)	-	-	(3.58)	鉄	頭部は長方形 板目と木口に打ち込まれている	覆土下層	PL14

第7号墓坑 (SK 538) (第41・42図)

位置 調査区北部のC 2 B3区で、標高28mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第217号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長径0.97m、短径0.91mの円形である。深さは130cmで、底面は平坦である。底面の外周部に幅10cm、深さ2cmの溝が巡っている。壁は直立している。

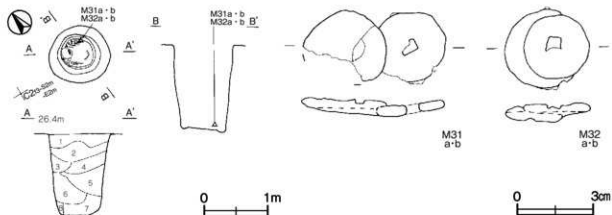
覆土 8層に分層される。すべての層にロームブロックか焼土ブロックが含まれ、埋め戻されている。

土層解説

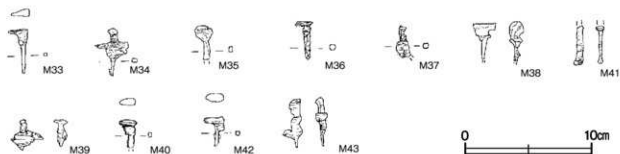
1 褐色	ロームブロック中量	5 暗褐色	ロームブロック中量
2 褐色	焼土ブロック少量	6 褐色	ロームブロック微量
3 褐色	ロームブロック少量	7 明褐色	ロームブロック少量
4 暗褐色	ロームブロック少量	8 にぶい褐色	ロームブロック微量

遺物出土状況 底面から頭蓋骨・肋骨・大腿骨など人骨1体が、折りたたまれた状態で出土している。頭蓋骨は西壁寄りに存在している。ほかに北壁寄りの覆土下層から古銭4点(鉄銭)、人骨周辺の覆土下層から木片が付着した釘44点も出土している。

所見 木片が付着している釘が出土していること、土坑の形状と人骨の状況から座棺が用いられたことが分かる。古銭は剛磨品で、時期は、第6・8号墓坑と同じ江戸時代の17世紀中葉以降と考えられる。



第41図 第7号墓坑・出土遺物実測図



第 42 図 第 7 号墓坑出土遺物実測図

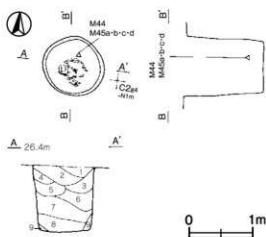
第 7 号墓坑出土遺物観察表(第41・42図)

番号	鉄名	径	厚さ	孔幅	重量	初測年	材質	特徴	出土位置	備考
M31a	不明	2.5	-	0.7	(10.5)	-	鉄	M31bが付着 布付着	覆土下層	
M31b	不明	-	-	-		-	鉄	1/3欠損 M31aが付着 布付着	覆土下層	
M32a	不明	2.4	0.15	0.6	(11.9)	-	鉄	M32bが付着	覆土下層	
M32b	不明	-	-	-		-	鉄	M32aが付着 錆により計測不能	覆土下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M33	釘	3.60	0.3	0.3	0.96	鉄	頭部三角形 板目と板目に打ち込まれている	覆土下層	PL14
M34	釘	3.69	0.3	0.3	(1.60)	鉄	板目と板目に打ち込まれている	覆土下層	
M35	釘	(2.70)	0.35	0.35	(1.22)	鉄	板目と板目に打ち込まれている	覆土下層	
M36	釘	3.09	-	-	(0.91)	鉄	湾曲している 板目と板目に打ち込まれている	覆土下層	
M37	釘	(2.66)	0.3	0.3	(1.22)	鉄	板目と板目に打ち込まれている	覆土下層	
M38	釘	(2.80)	-	-	(1.30)	鉄	板目と板目に打ち込まれている	覆土下層	
M39	釘	(3.10)	0.3	0.3	(1.20)	鉄	頭部楕円形 板目に打ち込まれている	覆土下層	
M40	釘	(2.20)	0.35	0.35	(0.92)	鉄	頭部楕円形 板目と板目に打ち込まれている	覆土下層	
M41	釘	(3.00)	0.35	0.35	(0.47)	鉄	頭部欠損 板目に打ち込まれている	覆土下層	
M42	釘	(1.90)	0.3	0.3	(0.68)	鉄	頭部楕円形 板目に打ち込まれている	覆土下層	
M43	釘	3.80	-	-	2.62	鉄	板目と板目に打ち込まれている	覆土下層	PL14

第 8 墓坑 (SK 539) (第 43・44 図)

位置 調査区北部の C 2 f3 区で、標高 28m の台地平坦部に位置している。



第 43 図 第 8 号墓坑実測図

重複関係 第 217 号住居跡を掘り込んでいる。

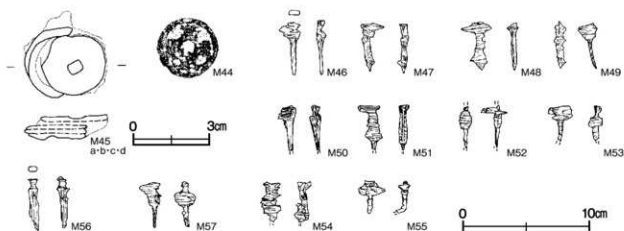
規模と形状 長軸 1.00m, 短軸 0.94m の円形である。深さは 125cm で、底面は平坦である。壁は直立している。

覆土 9 層に分層される。すべての層にロームブロックが含まれ、埋め戻されている。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム大ブロック少量
- 2 褐色 ロームブロック中量
- 3 暗褐色 ロームブロック微量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック少量
- 5 暗褐色 ロームブロック多量
- 6 暗褐色 ロームブロック中量
- 7 明褐色 ロームブロック中量
- 8 にぶい褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 9 褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 底面中央部から頭蓋骨・肋骨・大腿骨など人骨1体が、折りたたまれた状態で出土している。頭蓋骨は西壁寄りに存在している。ほかに北壁寄りの覆土下層から古銭5点（寛永通寶1・鉄銭4）、人骨周辺の覆土下層から木片が付着した釘42点、木製の数珠に塗布されていたとみられる漆の被膜数点も出土している。所見 木片が付着している釘が出土していること、土坑の形状と人骨の状況から座棺が用いられたことが分かる。古銭・数珠は副葬品で、時期は寛永通寶が新寛永銭であることから江戸時代の17世紀中葉以降と考えられる。



第44図 第8号墓坑出土遺物実測図

第8号墓坑出土遺物観察表（第44図）

番号	銭名	径	厚さ	孔幅	重量	初鑄年	材質	特徴	出土位置	備考
M44	寛永通寶	2.4	0.15	-	4.58	1668年	銅	無背	覆土下層	
M45a	不明	2.5	-	0.65	(16.2)	-	鉄	M45 b～dが付着	覆土下層	
M45b	不明	-	0.13	-		-	鉄	M45 a・c・dが付着	覆土下層	
M45c	不明	-	0.13	-		-	鉄	M45 a・b・dが付着	覆土下層	
M45d	不明	-	-	-		-	鉄	M45 a～cが付着	覆土下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M46	釘	4.2	-	-	1.14	鉄	頭部長方形 板目と木口に打ち込まれている	覆土下層	PL14
M47	釘	3.8	-	-	1.24	鉄	板目と木口に打ち込まれている	覆土下層	PL14
M48	釘	3.8	0.3	0.3	1.24	鉄	板目に打ち込まれている	覆土下層	
M49	釘	3.6	-	-	1.16	鉄	板目と板目に打ち込まれている	覆土下層	
M50	釘	(3.6)	-	-	(1.32)	鉄	板目と木口に打ち込まれている	覆土下層	
M51	釘	(3.5)	-	-	(1.78)	鉄	板目に打ち込まれている	覆土下層	
M52	釘	(2.32)	0.35	0.35	(0.73)	鉄	頭部欠損 板目と板目に打ち込まれている	覆土下層	
M53	釘	(2.71)	-	-	(1.1)	鉄	板目と板目に打ち込まれている	覆土下層	
M54	釘	(3.18)	-	-	(2.68)	鉄	頭部楕円形 板目と板目に打ち込まれている	覆土下層	
M55	釘	(2.46)	0.25	0.25	(1.04)	鉄	板目と板目に打ち込まれている	覆土下層	
M56	釘	4.0	0.5	0.5	1.00	鉄	頭部楕円形 板目と木口に打ち込まれている	覆土下層	
M57	釘	3.6	0.3	0.3	1.80	鉄	板目と板目に打ち込まれている	覆土下層	

表5 墓坑一覧表

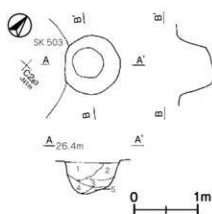
番号	位置	平面形	長径方向	規模 (m, 深さはcm)		壁面	底面	覆土	出土遺物	備考 新旧関係(古→新)
				長径(軸) × 短径(軸)	深さ					
5	C 1B	円形	-	1.07 × 0.98	40	外傾	皿状	人為	骨粉	SK307→本跡
6	C 2B	楕円形	N-32°-W	1.22 × 1.10	142	直立	平坦	人為	古銭・釘・人骨	SZ12→本跡
7	C 2B	円形	-	0.97 × 0.91	130	直立	平坦	人為	古銭・釘・人骨	SZ17→本跡
8	C 2B	円形	-	1.00 × 0.94	125	直立	平坦	人為	古銭・釘・人骨	SZ17→本跡

(2) 土坑

第504号土坑 (第45図)

位置 調査区南部のC 2B区で、標高26mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第503号土坑を掘り込んでいる。



規模と形状 長径0.97m, 短径0.95mの円形である。深さは52cmで、底面は皿状である。壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 5層に分層される。大半の層にロームブロックや粘土ブロックが含まれ、ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

- 1 褐色 ロームブロック中量, 炭化物少量, 粘土ブロック・焼土粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量, 粘土ブロック・焼土粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック・炭化物中量, 粘土ブロック・焼土粒子微量
- 4 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子少量, 粘土ブロック微量
- 5 褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子少量, 粘土ブロック・焼土粒子微量

遺物出土状況 土師器甕片4点, 須恵器高台付坏片1点, 陶器甕片1点が出土している。いずれも細片で、図示できるものはない。

所見 覆土が埋め戻されており、形状から墓坑の可能性もあるが、性格は不明である。時期は、出土土器から中世とみられる。

第45図 第504号土坑実測図

第514号土坑 (第46図)

位置 調査区南部のC 2B区で、標高26mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第1号陥し穴, 第215号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.15m, 短径1.10mの円形である。深さは58cmで、底面は平坦である。壁は直立している。

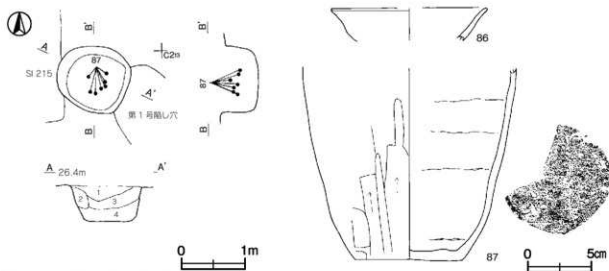
覆土 4層に分層される。ロームブロックが含まれ、ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

- 1 暗褐色 炭化粒子少量, ロームブロック・焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 4 褐色 ロームブロック・焼土粒子少量, 炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器甕1点のほか、縄文土器片8点, 弥生土器片2点, 土師器片30点(坏2・甕28), 土師質土器片2点(皿・鍋)が出土している。87は、南東部の覆土中層から出土している。

所見 覆土が埋め戻されており、形状から墓坑の可能性もあるが、性格は不明である。時期は、出土土器から中世とみられる。



第46図 第514号土坑・出土遺物実測図

第514号土坑出土遺物観察表(第46図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴はか	出土位置	備考
86	土師質土器	皿	[12.4]	(2.6)	-	砂粒・雲母・スコリア	にぶい褐色	普通	外・内面ロタロナデ	覆土中	10%
87	土師器	甕	-	(15.3)	8.4	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	体部下半截位のヘラ張り 内面ナデ	中央部中層	30% PL13

第536号土坑 (第47図)

位置 調査区南部のB2j8区で、標高26mの台地斜面部に位置している。

重複関係 第221号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.20m、短径1.00mの楕円形で、長径方向はN-43°-Eである。深さは53cmで、底面は鍋底状で、南西部にビット状の落ち込みを有している。壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 5層に分層される。ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

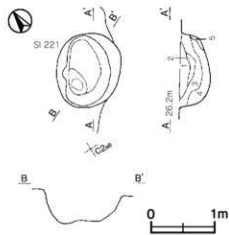
土層解説

- 1 黒褐色 炭化物中量、焼土ブロック・ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子少量、粘土ブロック・炭化物微量
- 3 暗褐色 ロームブロック・炭化物中量、焼土粒子微量
- 4 黒褐色 ローム粒子中量、炭化物少量、焼土粒子微量
- 5 灰褐色 焼土ブロック中量、炭化物・ローム粒子少量

遺物出土状況 縄文土器片2点、土師器片8点(坏6・甕2)。

土師質土器小皿片3点が、覆土中から出土している。

所見 覆土が埋め戻されているが、性格は不明である。時期は、出土土器から中世とみられる。



第47図 第536号土坑実測図

表6 中世・近世土坑一覧表

番号	位置	平面形	長径方向	規模 (m, 深さ14cm)		壁面	底面	覆土	出土遺物	備考
				長径(軸) × 短径(軸)	深さ					
504	C2ロ	円形	-	0.97 × 0.96	52	外傾	皿状	人為	土師器・須恵器・陶器	SK503→本跡
514	C2ロ	円形	-	1.15 × 1.10	58	直立	平坦	人為	縄文土器・弥生土器・土師器・土師質土器	第1号陥し穴・SI215→本跡
536	B2j8	楕円形	N-43°-E	1.20 × 1.00	53	外傾	有段	人為	縄文土器・土師器・土師質土器	SI221→本跡

6 その他の遺構と遺物

遺物が出土していないことなどから時期を決定できない遺構として、竪穴住居跡1軒、土坑55基、ピット群3か所が存在する。竪穴住居跡については文章で記述し、その他の遺構については、遺物が出土しているものや特徴的なもののみ文章で記述し、それ以外のものは実測図と一覧表を掲載する。

(1) 竪穴住居跡

第215号住居跡 (第48図)

位置 調査区南部のC2e2区で、標高26mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第569号土坑を掘り込み、南壁部を第566号土坑、東壁部を第514・527号土坑、北壁部を第548号土坑、中央部を第2号ピット群(P9～P11)に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.50m、短軸は3.10mしか確認できなかったが、主軸方向がN-0°の長方形と推測できる。壁高は5cmで、ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、壁際を除いた部分に硬化面が認められる。

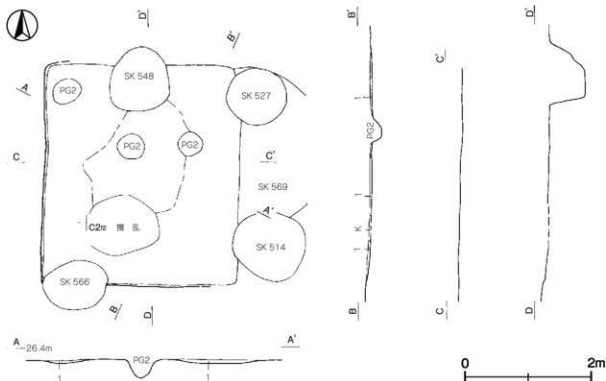
竈 北壁のほぼ中央部に付設されているが、第548号土坑に掘り込まれているため、火床部の一部しか確認できなかった。

覆土 単一層である。層厚が薄いことから堆積状況は不明である。

土層解説

1 暗褐色 ロームブロック中量、炭化物・焼土粒子微量

所見 時期は、出土遺物が皆無であるため不明であるが、竈を有していることから、古墳時代後期以降とみられる。



第48図 第215号住居跡実測図

(2) 土坑

今回の調査で、時期・性格ともに不明の土坑55基が確認されている。これらの土坑のうち出土遺物があり、特徴的なものについては文章で紹介し、それ以外の土坑については規模と形状について一覧表と実測図(第55～58図)を掲載することとする。

第526号土坑 (第49図)

位置 調査区南部のC2f5区で、標高26mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径0.84m、短径0.74mの楕円形で、長径方向はN-65°-Eである。深さは37cmで、底面は鍋底状である。壁は外傾して立ち上がっているが、南側は段をなしている。

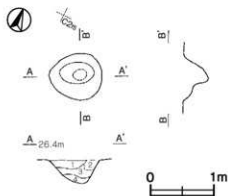
覆土 4層に分層される。半数の層にロームブロック・焼土ブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

1	暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物中量
2	褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量
3	褐色	ローム粒子中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量
4	褐色	ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片1点、土師器甕片2点、須恵器片3点(坏1・甕2)が、覆土中から出土している。

所見 覆土が埋め戻されているが、時期・性格ともに不明である。



第49図 第526号土坑実測図

第537号土坑 (第50図)

位置 調査区北部のB2j8区で、標高26mの台地斜面部に位置している。

重複関係 東壁部を第535号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径1.08m、短径0.57mの楕円形で、長径方向はN-14°-Wである。深さは43cmで、底面は平坦である。壁は外傾して立ち上がっている。

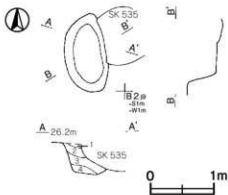
覆土 4層に分層される。ロームブロック・粘土ブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

1	褐色	粘土ブロック・炭化物少量、ローム粒子・焼土粒子微量
2	褐色	ローム粒子中量、炭化物少量、焼土粒子微量
3	褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
4	褐色	ロームブロック中量、粘土ブロック・炭化物少量、焼土粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片1点、土師器甕片2点が、覆土中から出土している。

所見 覆土が埋め戻されているが、時期・性格ともに不明である。

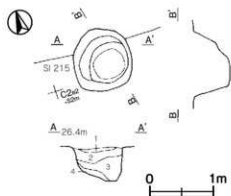


第50図 第537号土坑実測図

第548号土坑 (第51図)

位置 調査区南部のC2e2区で、標高26mの台地斜面部に位置している。

重複関係 第215号住居跡を掘り込んでいる。



第 51 図 第548号土坑実測図

規模と形状 長径0.98m, 短径0.93mの円形である。深さは57cmで、底面は平坦である。壁は外傾して立ち上がっているが、北側は段をなしている。

覆土 4層に分層される。ロームブロック・焼土ブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 極暗褐色 ロームブロック・焼土粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック・粘土粒子微量
- 4 暗褐色 焼土ブロック・ローム粒子微量

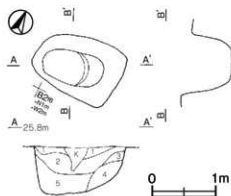
遺物出土状況 縄文土器片1点が、覆土中から出土している。

所見 覆土が埋め戻されているが、時期・性格ともに不明である。

第559号土坑 (第52図)

位置 調査区南部のB 2 e5区で、標高25.5mの台地斜面部に位置している。

規模と形状 長径1.50m, 短径1.02mの不整形円形で、長径方向はN-67°-Eである。深さは72cmで、底面は鍋底状である。壁は外傾して立ち上がっている。



第 52 図 第559号土坑実測図

覆土 5層に分層される。ブロック状の堆積から、埋め戻されている。

土層解説

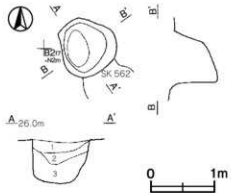
- 1 極暗褐色 焼土ブロック・炭化物微量
- 2 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 4 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量
- 5 褐色 ローム粒子中量、焼土粒子微量

遺物出土状況 土師器甕片1点が、覆土中から出土している。

所見 覆土が埋め戻されているが、時期・性格ともに不明である。

第563号土坑 (第53図)

位置 調査区南部のB 2 e7区で、標高25.5mの台地斜面部に位置している。



第 53 図 第563号土坑実測図

重複関係 第562号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径0.93m, 短径0.90mの円形である。深さは65cmで、底面は鍋底状である。壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 3層に分層される。ロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 褐色 ロームブロック少量
- 3 褐色 ロームブロック微量

遺物出土状況 土師器甕片2点, 須恵器甕片1点が, 覆土中から出土している。

所見 覆土が埋め戻されているが, 時期・性格ともに不明である。

第566号土坑 (第54図)

位置 調査区南部のC2口区で, 標高26mの台地平坦部に位置している。

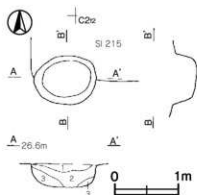
重複関係 第215号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.00m, 短径0.76mの楕円形で, 長径方向はN-90°である。深さは35cmで, 底面は鍋底状である。壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 3層に分層される。ロームブロックが含まれていることから, 埋め戻されている。

土層解説

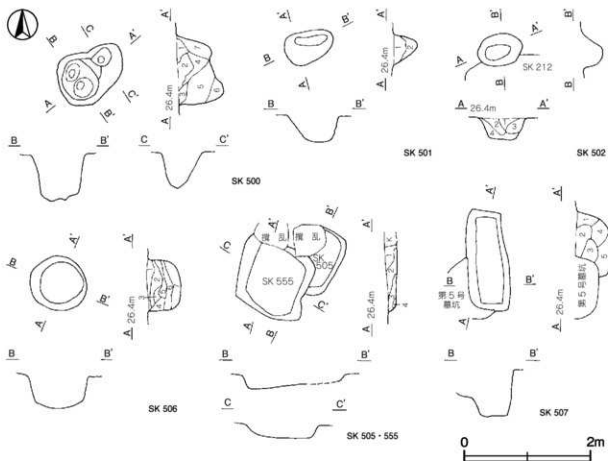
- | | | |
|---|-----|-------------------|
| 1 | 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 2 | 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 | 褐色 | ローム粒子少量 |



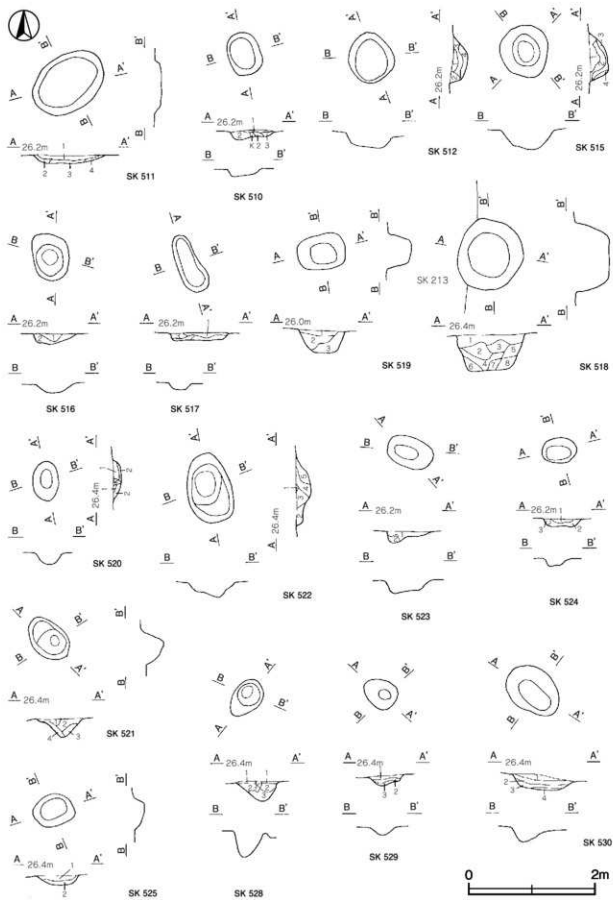
第54図 第566号土坑実測図

遺物出土状況 縄文土器片1点が, 覆土中から出土している。

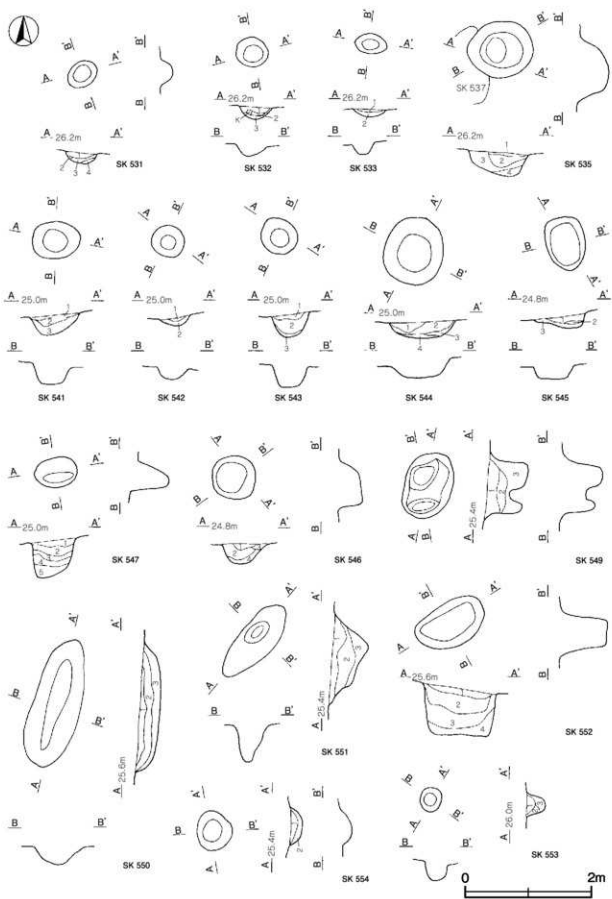
所見 覆土が埋め戻されているが, 時期・性格ともに不明である。



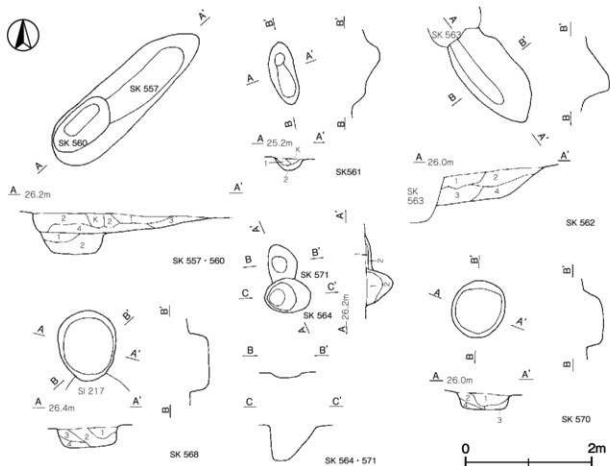
第55図 時期不明土坑実測図 (1)



第 56 图 时期不明土坑实测图 (2)



第 57 图 时期不明土坑实测图 (3)



第 58 図 時期不明土坑実測図 (4)

第500号土坑土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------|-------|---------------------|
| 1 褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 5 褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 6 褐色 | ローム粒子少量 |
| 3 褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | | |

第501号土坑土層解説

- | | | | |
|-------|----------------|------|---------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 | 2 褐色 | ロームブロック・炭化物少量 |
|-------|----------------|------|---------------|

第502号土坑土層解説

- | | | | |
|-------|------------------|------|-----------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 3 褐色 | 焼土ブロック中量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック微量 | 4 褐色 | ロームブロック少量 |

第506号土坑土層解説

- | | | | |
|-------|----------------|-------|---------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 5 褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 褐色 | ロームブロック・炭化物微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | | |

第507号土坑土層解説

- | | | | |
|-------|----------------|-------|-----------|
| 1 褐色 | ロームブロック少量 | 4 褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 3 褐色 | ロームブロック微量 | | |

第510号土坑土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|-------|------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子中量、焼土粒子微量 | 3 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子少量 | | |

第511号土坑土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------|-------|------------------------|
| 1 褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子微量 | 3 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量(粘性弱い) | 4 黒褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量(粘性強い) |

第512号土坑土層解説

- | | | | |
|------|-------------------------|-------|-----------------------|
| 1 褐色 | 炭化粒子中量、ロームブロック少量、焼土粒子微量 | 3 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子中量、焼土粒子微量 |
| 2 褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 | 4 褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 |

第515号土壌層解説

- | | | | |
|-------|-------------------------|------|-----------------------|
| 1 褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量 | 3 褐色 | ロームブロック中量、炭化物・粘土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量 | 4 褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子・粘土粒子微量 |

第516号土壌層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|------|----------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子中量、焼土粒子微量 | 2 褐色 | ロームブロック・炭化粒子中量 |
|-------|-----------------------|------|----------------|

第517号土壌層解説

- | | | | |
|-------|------------------|-------|---------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 3 黒褐色 | 炭化粒子中量、焼土粒子微量 |
| 2 褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | | |

第518号土壌層解説

- | | | | |
|-------|------------------------|-------|----------------------------|
| 1 灰褐色 | ローム粒子・炭化粒子・焼土粒子微量 | 5 暗褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | 炭化粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量 | 6 褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化物少量、焼土粒子微量 | 8 黒褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 |

第519号土壌層解説

- | | | | |
|-------|----------------|------|-----------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 3 褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 褐色 | ロームブロック微量 | | |

第520号土壌層解説

- | | | | |
|------|-----------------------|------|-------------------------|
| 1 褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 2 褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量 |
|------|-----------------------|------|-------------------------|

第521号土壌層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|-------|-------------------------|
| 1 褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子・粘土粒子少量 | 3 黒褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | 炭化粒子中量、ロームブロック・焼土粒子少量 | 4 褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量 |

第522号土壌層解説

- | | | | |
|-------|-------------------------|-------|-----------------------|
| 1 褐色 | ロームブロック・炭化粒子中量 | 4 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子中量 |
| 2 褐色 | 炭化粒子中量、ローム粒子少量、焼土ブロック微量 | 5 褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子中量、焼土粒子微量 | | |

第523号土壌層解説

- | | | | |
|-------|-------------------------|------|------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量 | 2 褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子少量 |
|-------|-------------------------|------|------------------|

第524号土壌層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|--------|--------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 3 極暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | | |

第525号土壌層解説

- | | | | |
|-------|----------------------------|------|------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子少量、焼土粒子・粘土粒子微量 | 2 褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子少量、焼土粒子・粘土粒子微量 |
|-------|----------------------------|------|------------------------------|

第528号土壌層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|--------|---------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 3 極暗褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量 | | |

第529号土壌層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|--------|------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 極暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | | |

第530号土壌層解説

- | | | | |
|-------|------------------------------|-------|-----------------------------|
| 1 褐色 | ローム粒子中量、粘土ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 暗褐色 | ロームブロック・粘土ブロック・炭化物少量、焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・粘土ブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量 | 4 暗褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子少量 |

第531号土壌層解説

- | | | | |
|-------|---------------------|-------|--------------------------------|
| 1 褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 暗褐色 | ロームブロック中量、粘土ブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子微量 | 4 褐色 | ロームブロック中量、粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 |

第532号土壌層解説

- | | | | |
|-------|-------------------------------|------|----------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・炭化物中量、粘土ブロック少量、焼土粒子微量 | 3 褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子微量 |
| 2 褐色 | ローム粒子中量、粘土ブロック・炭化粒子少量 | | |

第533号土壌層解説

- | | | | |
|-------|-------------------------------|--|--|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量 | | |
| 2 暗褐色 | 炭化物中量、ロームブロック・粘土ブロック少量、焼土粒子微量 | | |

第535号土壌層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------------|------|------------------------|
| 1 褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 褐色 | ロームブロック中量、炭化物少量、焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・炭化物少量、粘土ブロック・焼土粒子微量 | 4 褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 |

第541号土壌層解説

- | | | | |
|-------|---------------------|------|-----------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量 | | |

第542号土壌土層解説	
1 褐 色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
2 暗 褐 色	ロームブロック少量、炭化物・焼土粒子微量
第543号土壌土層解説	
1 褐 色	ロームブロック・炭化物少量、粘土ブロック・焼土粒子微量
2 褐 色	ロームブロック少量、炭化粒子・焼土粒子微量
3 明 褐 色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
第544号土壌土層解説	
1 暗 褐 色	ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量
2 灰 褐 色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量
3 暗 褐 色	焼土ブロック中量、ロームブロック・炭化物少量
4 黒 褐 色	焼土ブロック中量、ロームブロック・炭化材少量
第545号土壌土層解説	
1 暗 褐 色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2 褐 色	ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量
3 にふい褐色	ロームブロック中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量
第546号土壌土層解説	
1 暗 褐 色	ロームブロック・炭化物少量、焼土粒子微量
2 黒 褐 色	炭化物中量、ロームブロック・焼土粒子少量
3 暗 褐 色	炭化粒子中量、ローム粒子少量、焼土粒子微量
4 褐 色	ロームブロック中量、炭化物・焼土粒子微量
第547号土壌土層解説	
1 暗 褐 色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2 黒 褐 色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3 暗 褐 色	ロームブロック・炭化粒子少量、焼土ブロック微量
4 褐 色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
5 褐 色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
第549号土壌土層解説	
1 暗 褐 色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2 暗 褐 色	ローム粒子・焼土粒子微量
3 極暗褐色	ローム粒子・焼土粒子微量
第550号土壌土層解説	
1 暗 褐 色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
2 褐 色	ロームブロック・炭化粒子微量
3 褐 色	ロームブロック微量
第551号土壌土層解説	
1 暗 褐 色	ローム粒子・炭化粒子微量
2 暗 褐 色	ローム粒子少量
3 褐 色	ローム粒子少量、炭化粒子微量
第552号土壌土層解説	
1 暗 褐 色	ローム粒子微量
2 暗 褐 色	ロームブロック微量
3 褐 色	ロームブロック微量
4 にふい褐色	ローム粒子微量
第553号土壌土層解説	
1 暗 褐 色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
2 暗 褐 色	ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量
3 褐 色	ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量
第554号土壌土層解説	
1 褐 色	ローム粒子少量、焼土ブロック微量
2 褐 色	ローム粒子少量、炭化粒子微量
第555号土壌土層解説	
1 暗 褐 色	ロームブロック・焼土ブロック微量
2 暗 褐 色	ロームブロック少量、焼土粒子微量
3 暗 褐 色	ロームブロック微量
4 褐 色	ロームブロック・焼土ブロック少量
第557号土壌土層解説	
1 暗 褐 色	黒色粒子少量、ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2 暗 褐 色	ロームブロック・黒色粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
3 褐 色	ロームブロック少量、黒色粒子微量
4 褐 色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
第560号土壌土層解説	
1 褐 色	ロームブロック微量
2 褐 色	ロームブロック少量
第561号土壌土層解説	
1 極暗褐色	ロームブロック微量
2 暗 褐 色	ローム粒子微量
第562号土壌土層解説	
1 暗 褐 色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2 暗 褐 色	ローム粒子・炭化粒子微量
3 褐 色	ロームブロック微量
4 褐 色	ロームブロック・炭化粒子微量
第564号土壌土層解説	
1 褐 色	ロームブロック・炭化粒子微量
2 褐 色	ロームブロック少量
第568号土壌土層解説	
1 暗 褐 色	ロームブロック・炭化物微量
2 暗 褐 色	ロームブロック微量
3 褐 色	ロームブロック微量
4 褐 色	ロームブロック少量
第570号土壌土層解説	
1 暗 褐 色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
2 暗 褐 色	ロームブロック微量
3 褐 色	ロームブロック少量
4 褐 色	ロームブロック微量
第571号土壌土層解説	
1 暗 褐 色	焼土粒子・炭化粒子微量
2 にふい赤褐色	焼土ブロック・炭化粒子微量

表7 時期不明土坑一覽表

番号	位置	平面形	長径(軸)方向	規模 (m, 深さはcm)			壁面	覆土	出土遺物	備考 新旧関係(古→新)		
				長径(軸)	短径(軸)	深さ						
500	C 2 j1	不整楕円形	N-79°-E	1.15	×	0.83	55~75	外傾	有段	人為	縄文土器・土師器	
501	C 2 i1	楕円形	N-60°-E	0.80	×	0.48	44	緩斜	平坦	人為	土師器・須恵器	
502	C 2 i3	楕円形	N-67°-E	0.71	×	0.51	32	緩斜	蓋状	人為		
505	C 2 a2	[長方形]	N-33°-E	1.07	×	[0.75]	13	外傾	平坦	-	縄文土器・土師器・須恵器	本跡→SK555
506	C 2 e3	円形	-	0.94	×	0.85	52	外傾	蓋状	人為	縄文土器・土師器・須恵器	
507	C 1 a0	長方形	N-2°-W	1.60	×	0.65	68	外傾	平坦	人為	土師器・須恵器	本跡→第6号墓坑
510	C 2 g4	隅丸方形	N-12°-W	0.68	×	0.50	11	外傾	蓋状	人為	土師器	
511	C 2 b4	楕円形	N-52°-E	1.25	×	0.87	12	緩斜	平坦	人為	養生土器・土師器・須恵器	
512	C 2 g5	円形	-	0.73	×	0.71	20	外傾	平坦	人為		
515	C 2 g4	円形	-	0.83	×	0.81	29	外傾	蓋状	人為		
516	C 2 g4	楕円形	N-26°-W	0.77	×	0.57	15	緩斜	凹凸	人為	土師器	
517	C 2 g5	楕円形	N-22°-W	0.84	×	0.34	10	外傾	平坦	人為		
518	C 2 f1	円形	-	1.12	×	1.07	54	外傾	平坦	人為		SI213→本跡
519	B 2 8	隅丸方形	N-74°-E	0.76	×	0.54	38	外傾	平坦	人為		
520	C 2 5	楕円形	N-7°-W	0.62	×	0.40	17	外傾	蓋状	人為		
521	C 2 4	楕円形	N-45°-W	0.76	×	0.51	35	外傾	V字	人為		
522	C 2 g4	楕円形	N-12°-W	1.08	×	0.70	25	外傾	有段	人為	縄文土器・土師器・須恵器	
523	C 2 4	楕円形	N-66°-W	0.73	×	0.50	25	外傾	有段	人為		
524	C 2 g5	楕円形	N-78°-E	0.54	×	0.45	13	外傾	平坦	人為		
525	C 2 4	楕円形	N-65°-E	0.64	×	0.54	18	外傾	平坦	人為	土師器	
526	C 2 5	楕円形	N-65°-E	0.84	×	0.74	37	緩斜	有段	人為	縄文土器・土師器・須恵器	
528	C 2 5	楕円形	N-44°-E	0.67	×	0.45	45	外傾	蓋状	自然	縄文土器・養生土器・土師器・須恵器	
529	B 2 8	楕円形	N-46°-W	0.58	×	0.45	15	緩斜	有段	人為	縄文土器・土師器	
530	B 2 8	楕円形	N-50°-W	0.95	×	0.67	19	緩斜	蓋状	人為	土師器	
531	B 2 8	楕円形	N-75°-E	0.51	×	0.38	20	外傾	蓋状	人為	縄文土器	
532	B 2 8	円形	-	0.52	×	0.49	24	緩斜	蓋状	人為		
533	B 2 8	楕円形	N-84°-W	0.55	×	0.32	20	外傾	蓋状	自然		
535	B 2 8	円形	-	1.05	×	0.97	49	外傾	蓋状	人為		SK537→本跡
537	B 2 8	楕円形	N-14°-W	1.08	×	0.57	43	外傾	平坦	人為	縄文土器・土師器	本跡→SK535
541	B 2 c7	楕円形	N-78°-W	0.74	×	0.59	31	外傾	蓋状	自然		
542	B 2 e6	円形	-	0.55	×	0.52	22	外傾	蓋状	自然		
543	B 2 e6	円形	-	0.62	×	0.55	38	外傾	蓋状	自然		
544	B 2 b7	楕円形	N-29°-E	1.07	×	0.95	28	外傾	平坦	自然		
545	B 2 e6	楕円形	N-15°-W	0.88	×	0.62	22	外傾	有段	自然		
546	B 2 e6	円形	-	0.74	×	0.74	37	外傾	平坦	自然		
547	B 2 d5	楕円形	N-83°-E	0.70	×	0.47	60	外傾	蓋状	自然		
548	C 2 e2	円形	-	0.98	×	0.93	57	外傾	平坦	人為	縄文土器	
549	B 2 e0	楕円形	N-29°-E	1.12	×	0.75	53~65	有段	蓋状	人為	縄文土器・土師器	SI215→本跡
550	B 2 e9	隅丸長方形	N-13°-E	2.10	×	0.80	39	外傾	蓋状	自然		
551	B 2 e9	隅丸長方形	N-43°-E	1.45	×	0.56	38	外傾	有段	自然		
552	B 2 e9	楕円形	N-60°-E	1.26	×	0.70	70	外傾	平坦	自然		
553	C 2 8	円形	-	0.40	×	0.36	27	外傾	蓋状	自然	縄文土器・養生土器・土師器・須恵器	
554	B 2 b8	円形	-	0.62	×	0.56	15	外傾	蓋状	自然		
555	C 2 e2	不整方形	N-16°-E	1.15	×	1.14	20	外傾	平坦	自然	須恵器	
557	B 2 8	隅丸長方形	N-47°-E	2.96	×	0.83	33	緩斜	平坦	人為	養生土器・土師器	SK505→本跡
559	B 2 e5	不整楕円形	N-67°-E	1.50	×	1.02	72	外傾	鋼底	人為	土師器	SK560→本跡

番号	位置	平面形	長径(軸)方向	規模 (m, 深さはcm)			埋面	底面	覆土	出土遺物	備考 新旧関係(古→新)
				長径(軸) × 短径(軸)	深さ						
560	B 2 d8	隅丸長方形	N-47°-E	1.12 × 0.53	75	外傾	平坦	人為		本跡→SK557	
561	B 2 d5	楕円形	N-12°-W	1.00 × 0.40	15-25	緩斜	有段	自然	縄文土器・調片		
562	B 2 e7	楕円形	N-36°-W	(1.60) × 0.85	40	緩斜	平坦	人為	縄文土器・土師器	本跡→SK563	
563	B 2 e7	円形	-	0.93 × 0.90	65	外傾	鍋底	人為	土師器・須恵器	SK571→本跡	
564	B 2 e7	楕円形	N-85°-E	0.73 × 0.54	35	緩斜	緩状	人為		SK571→本跡	
566	C 2 f1	楕円形	N-90°	1.00 × 0.76	35	緩斜	鍋底	人為	縄文土器	SI215→本跡	
568	C 2 f3	楕円形	N-8°-W	1.12 × 0.91	30	直立	平坦	人為	縄文土器・土師器・須恵器	SI217→本跡	
570	B 2 j8	円形	-	0.91 × 0.83	30	外傾	平坦	人為			
571	B 2 e7	楕円形	N-15°-W	(0.65) × 0.45	8	緩斜	平坦	人為		本跡→SK564	

(3) ビット群

今回の調査で、北部で1か所、南部で2か所のビット群が確認された。いずれも建物跡を想定できるような配置ではなく、時期も不明である。ここでは、ビット群ごとにビット一覧表と平面図を掲載する。また、群をしない単独のビットも1か所確認されている。

第1号ビット群 (第59図)

調査区北部のB 2 d6～B 2 e6区にかけての東西1.6m、南北24.1mの範囲から、柱穴状のビット4か所が確認された。平面形は長径29～64cmの円形あるいは楕円形で、深さは25～43cmである。分布状況から建物跡は想定できない。出土遺物は無く、時期・性格ともに不明である。

番号	長径	短径	深さ	番号	長径	短径	深さ
1	29	27	41	3	64	48	43
2	29	27	30	4	35	33	25

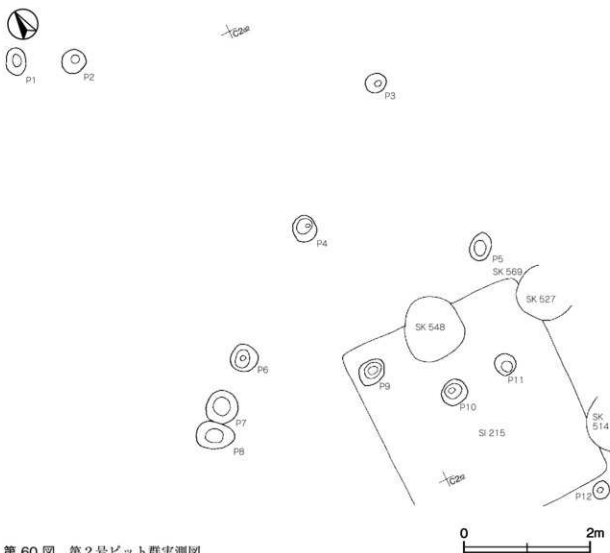


第59図 第1号ビット群実測図

第2号ビット群 (第60図)

調査区南部のC 2 c1～C 2 f2にかけての東西4.8m、南北8.2mの範囲から、柱穴状のビット12か所が確認された。平面形は長径30～61cmの円形あるいは楕円形で、深さは13～41cmである。分布状況から建物跡は想定できない。覆土中から縄文土器片・弥生土器片・土師器片が出土しているビットもあるが、時期・性格ともに不明である。

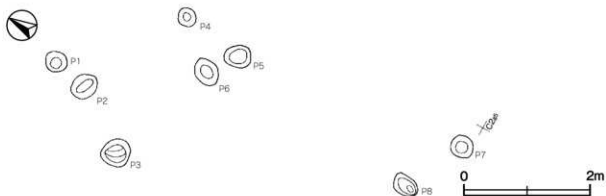
番号	長径	短径	深さ	番号	長径	短径	深さ	番号	長径	短径	深さ
1	45	32	15	5	43	32	13	9	48	38	34
2	40	36	28	6	45	45	41	10	43	38	27
3	34	32	18	7	54	50	13	11	37	32	17
4	43	35	38	8	61	42	20	12	30	25	39



第 60 図 第 2 号ピット群実測図

第3号ピット群 (第61図)

調査区南部の C 2 e4～C 2 f2区にかけての東西2.6m、南北6.3mの範囲から、柱穴状のピット 8 か所が確認された。平面形は長径33～49cmの円形あるいは楕円形で、深さは14～50cmである。分布状況から建物跡は想定できない。P 1 以外の覆土中から土師器片・須恵器片・陶器片が出土しているが、時期・性格ともに不明である。



第 61 図 第 3 号ピット群実測図

ビット計測表

単位はcm

番号	長径	短径	深さ	番号	長径	短径	深さ	番号	長径	短径	深さ
1	35	33	16	4	33	29	50	7	38	38	45
2	45	38	15	5	43	36	14	8	45	30	38
3	49	44	24	6	45	38	14				

単独ビット

ビット計測表

単位はcm

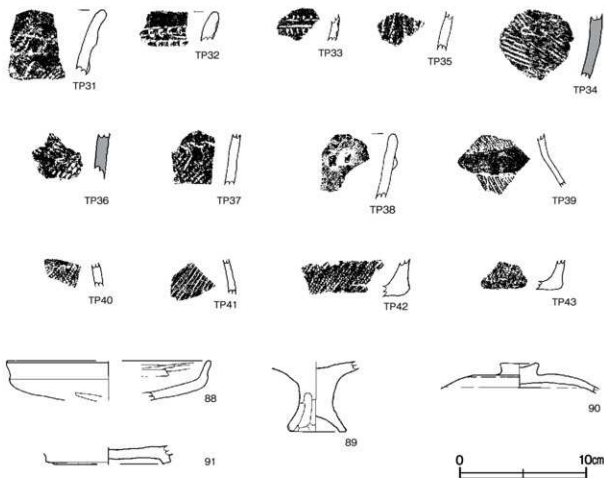
番号	位置	長径	短径	深さ
24	B 2a6	47	45	20

表8 ビット群一覧表

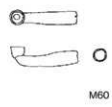
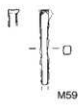
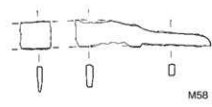
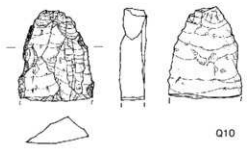
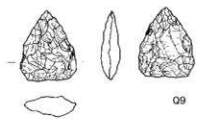
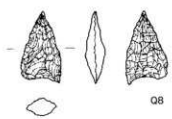
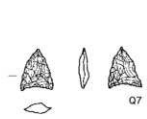
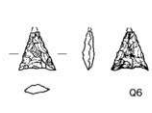
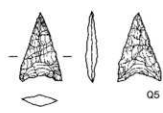
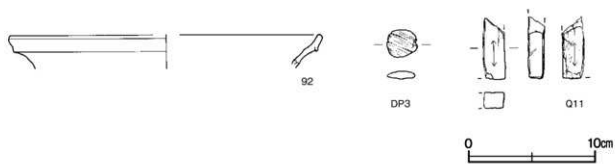
番号	位置	柱穴	柱穴(単位はcm)				出土遺物	備考 新旧関係
			平面形	長径(軸)	短径(軸)	深さ		
1	B 2d6~B 2e6	4	円形・楕円形	29~64	27~48	25~43		
2	C 2c1~C 2d2	12	円形・楕円形	30~61	25~50	13~41	縄文土器・弥生土器・土師器	
3	C 2e4~C 2f4	8	円形・楕円形	33~49	29~44	14~50	土師器・須恵器・陶器	

(4) 遺構外出土遺物

今回の調査で出土した縄文土器・弥生土器・土師器・須恵器・土製品・石器・金属製品などの遺構に伴わない遺物について、実測図(第62・63図)と観察表で紹介する。



第62図 遺構外出土遺物実測図(1)



第 63 图 遺構外出土遺物実測図(2)

遺構外出土遺物観察表 (第62・63図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
88	土師器	甕	[16.2]	3.1	-	長石・石英・スコリア	橙	普通	口縁・胴部内面ヘラ削ぎ 底部外面ヘラナゲ	表土	20%
89	土師器	高坏	-	5.5	4.5	長石・石英・スコリア	橙	普通	全面ナゲ	表土	50%
90	須恵器	甕	-	2.5	-	長石・石英・雲母	灰	不負	天井部回転ヘラ削り	表土	30%
91	須恵器	甕	-	1.4	[10.0]	長石・石英・黒色粒子	灰白	普通	底部回転ヘラ削り	表土	5%
92	須恵器	甕	[24.6]	2.6	-	長石・石英	灰	普通	外・内面ロクロナゲ	表土	破片
TP31	縄文土器	深鉢	-	5.2	-	細砂	にぶい黄緑	普通	縁帯上に早踏縄文の押圧	表土	破片 PL13
TP32	縄文土器	深鉢	-	2.3	-	細砂	橙	普通	手載竹管による平行縄文と連続刺突文	表土	破片 PL13
TP33	縄文土器	深鉢	-	2.3	-	長石・石英・雲母	にぶい黄緑	普通	手載竹管による平行縄文と棒状工具による連続刺突文	表土	破片 PL13
TP34	縄文土器	深鉢	-	5.2	-	細砂・スコリア・織維	赤褐	普通	外面条痕文 内面条痕文を消すナゲ	表土	破片 PL13
TP35	縄文土器	深鉢	-	3.0	-	長石・石英・雲母・スコリア	にぶい黄緑	普通	貝殻織線文	表土	破片 PL13
TP36	縄文土器	深鉢	-	3.6	-	細砂・織維	明赤褐	普通	条痕文	表土	破片 PL13
TP37	縄文土器	深鉢	-	4.1	-	長石・石英・スコリア	にぶい黄緑	普通	結節された早踏縄文	表土	破片 PL13
TP38	弥生土器	甕	-	5.2	-	長石・石英	明褐	普通	附加条一種縄文 頸部無文	表土	破片 PL13
TP39	弥生土器	甕	-	4.3	-	長石・石英・スコリア	明赤褐	普通	附加条一種縄文 頸部2割一付	SK353	破片 PL13
TP40	弥生土器	甕	-	1.8	-	長石・石英	灰黄褐	普通	附加条一種縄文	表土	破片 PL13
TP41	弥生土器	甕	-	2.8	-	長石・石英	にぶい黄緑	普通	附加条一種縄文	表土	破片 PL13
TP42	弥生土器	甕	-	3.0	-	長石・石英	明黄褐	普通	附加条一種縄文	表土	
TP43	弥生土器	甕	-	2.3	-	長石・石英・雲母	にぶい黄緑	普通	附加条一種縄文 底部木葉痕	表土	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP3	土師	2.4	2.2	0.5	2.62	土(細砂)	切り込み1か所	SZ10	
Q4	縦長割片	(4.2)	1.7	0.5	(2.56)	珪質頁岩	押圧割離	C 2 g5R	PL14
Q5	石礫	2.1	1.6	0.5	1.22	チャート	押圧割離による調整	SZ21	PL14
Q6	石礫	(1.5)	1.5	0.4	(0.50)	チャート	押圧割離による調整	SZ18	PL14
Q7	石礫	1.6	1.2	0.4	0.74	チャート	押圧割離による調整	SZ10	PL14
Q8	石礫	2.9	1.6	0.8	2.34	チャート	押圧割離による調整	SZ10	PL14
Q9	石礫	2.75	2.21	0.8	4.60	砂岩	押圧割離による調整	SZ21	PL14
Q10	割片	(3.57)	2.85	0.98	(10.5)	黒曜石	微細割離を有する割片	SK356	
Q11	砥石	(4.9)	(1.7)	1.2	(1.88)	凝灰岩	砥面上下2面	表土	
M58	刀子	(13.0)	2.1	0.5	(26.3)	鉄	刃部先端欠損 両側 貴金属の一部残存	表土	PL14
M59	釘	(5.9)	0.6	0.6	(8.4)	鉄	先端部欠損 頭部方形	表土	PL14
M60	無骨	5.33	1.13	0.05	8.3	真鍮	扉首部 火皿部径1.1cm 火皿と扉首との境目跡	表土	PL14

番号	鏡名	径	厚さ	孔幅	重量	初鋳年	材質	特徴	出土位置	備考
M61	寛永通寶	24	0.1	0.65	2.24	1668年	銅	無背	表土	
M62	寛永通寶	2.35	0.1	0.65	2.62	1668年	銅	無背	表土	
M63	寛永通寶	-	0.1	-	(0.67)	1668年	銅	2/3欠損	表土	



第 64 図 上野陣場遺跡 3 区遺構全体図

第4節 3区の遺構と遺物

1 古墳時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、竪穴住居跡1軒が確認されている。以下、それらの遺構と遺物について記述する。

竪穴住居跡

第225A・B号住居跡（第65・66図）

位置 調査区北西部のG1h9区で、標高25.2mの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第231号住居、第581・611・630号土坑、P271・272に掘り込まれている。

規模と形状 西部が調査区域外で、南西部は斜面部で床が削平されているため、A号は南北軸8.50mで、東西軸は8.10mだけ確認できた。形状から主軸方向がN-20°-Wの方形と推測できる。壁高は10~40cmで、ほぼ直立している。

B号はA号の掘方調査によって確認できたもので、長軸7.20m、短軸6.16mほどの長方形と推測できる。

床 A号は、ほぼ平坦な貼床で、中央部が踏み固められている。貼床はB号の床面上に粘土ブロックを含む褐色土を6cmほど埋めて構築されている。壁溝が南西部を除いて巡っている。

B号の床面は東部が若干低いが、ほぼ平坦である。壁溝が南西部を除いて巡っている。

竈 A号2か所。竈1は北壁東寄り付設されている。焚口部から煙出部まで168cm、燃焼幅67cmである。袖部は床面と同じ高さの地山の上に白色粘土ブロックを含む浅黄色土を積み上げて構築されている。第11~13層は袖部の構築土である。煙道部は、壁外へ弧状に奥行き36cm、幅77cm掘り込んで構築されている。火床部は床面を7cmほど掘り込んでおり、火床面は火を受けて赤変硬化している。第14~21層は掘方への埋土である。竈2は北壁中央部に付設されている。確認された範囲は、煙道部のみ56cmである。竈2に粘土ブロックで壁を構築し、新たに竈1を構築したと思われる。第25~29層は壁の構築土である。

B号の竈は、北壁中央部に付設されており、基部のみが確認できた。

竈土層解説

1 黒褐色	焼土ブロック・粘土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量	15 褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・砂質粘土粒子微量
2 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック少量、炭化粒子微量	16 暗褐色	焼土ブロック多量、ローム粒子微量
3 黒褐色	焼土ブロック・粘土ブロック少量、ロームブロック・炭化粒子微量	17 暗赤褐色	焼土ブロック中量、砂質粘土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
4 暗赤褐色	焼土ブロック中量、粘土ブロック・炭化物少量	18 暗オリーブ色	焼土ブロック多量、砂質粘土ブロック・炭化物少量、ローム粒子微量
5 黒褐色	灰多量、焼土粒子・粘土粒子微量	19 暗赤褐色	焼土ブロック多量、ロームブロック少量
6 黒褐色	粘土ブロック少量、焼土粒子微量	20 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量、粘土ブロック・炭化粒子微量
7 黒褐色	ロームブロック・粘土ブロック・焼土粒子炭化粒子微量	21 暗褐色	焼土ブロック少量、ローム粒子微量
8 褐色	焼土ブロック・粘土ブロック・炭化物少量	22 灰黄褐色	焼土粒子中量、粘土ブロック・炭化粒子少量
9 にぶい黄褐色	砂質粘土粒子多量、焼土ブロック少量、炭化粒子微量	23 褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック少量
10 黒褐色	焼土ブロック・粘土粒子少量、炭化粒子微量	24 にぶい黄色	粘土ブロック多量
11 浅黄色	白色粘土ブロック多量	25 にぶい赤褐色	焼土ブロック中量
12 浅黄色	白色粘土ブロック中量、炭化物少量	26 にぶい黄褐色	粘土ブロック中量
13 灰黄褐色	白色粘土ブロック・炭化物中量	27 褐色	ロームブロック・焼土粒子少量
14 暗褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック・砂質粘土ブロック少量	28 にぶい黄褐色	ローム粒子・砂粒少量
		29 にぶい黄色	粘土ブロック中量
		30 暗赤褐色	粘土ブロック多量、焼土ブロック中量、ロームブロック少量、炭化粒子微量
		31 暗灰黄色	粘土ブロック中量、焼土ブロック少量

ピット A号6か所。P1~P4は深さ52~80cmで、コーナー部に位置していることから主柱穴である。P5は深さ50cmで南壁際に位置していることから出入り口施設に伴うピットである。P6は深さ25cmで、配置から補助柱穴と考えられる。

B号4か所。P7～P10は深さ43～62cmで、コーナー部に位置していることから支柱穴である。

覆土 12層に分層できる。大半の層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。第9層は貼床の構築土である。第10・11層は掘方への埋土である。第12層はB号の壁溝の覆土である。

土層解説

1	黒褐色	ロームブロック・炭化物少量、焼土ブロック	7	暗褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック少量、粘土粒子微量
2	黒褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	8	黒褐色	ローム粒子少量、焼土粒子微量
3	黒褐色	炭化物少量、ローム粒子・焼土粒子微量	9	暗褐色	ロームブロック中量、粘土ブロック少量
4	黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量	10	暗褐色	ロームブロック多量
5	黒褐色	焼土ブロック少量、ロームブロック・粘土ブロック・炭化物微量	11	暗褐色	ロームブロック中量
6	暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック少量、炭化粒子微量	12	黒褐色	ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器8点、甕2点、須恵器環・蓋各1点、土製品2点(小玉)、石製品3点(小玉)のほか、土師器片1212点(坏類576・高坏3・甕類631・瓶2)、須恵器片37点(坏27・甕類10)が散在した状態で出土している。また、流れ込んだ縄文土器片121点(深鉢)も出土している。A号では、94・98は北部の床面、96・99は東部の覆土中層、97は覆土中からそれぞれ出土している。95は中央部の覆土中層から東部の下層にかけて出土した破片、101は北東部の床面から出土した破片、100はP1内から竈火床面にかけて出土した破片がそれぞれ接合したものである。93・Q12はA号の貼床内から出土している。

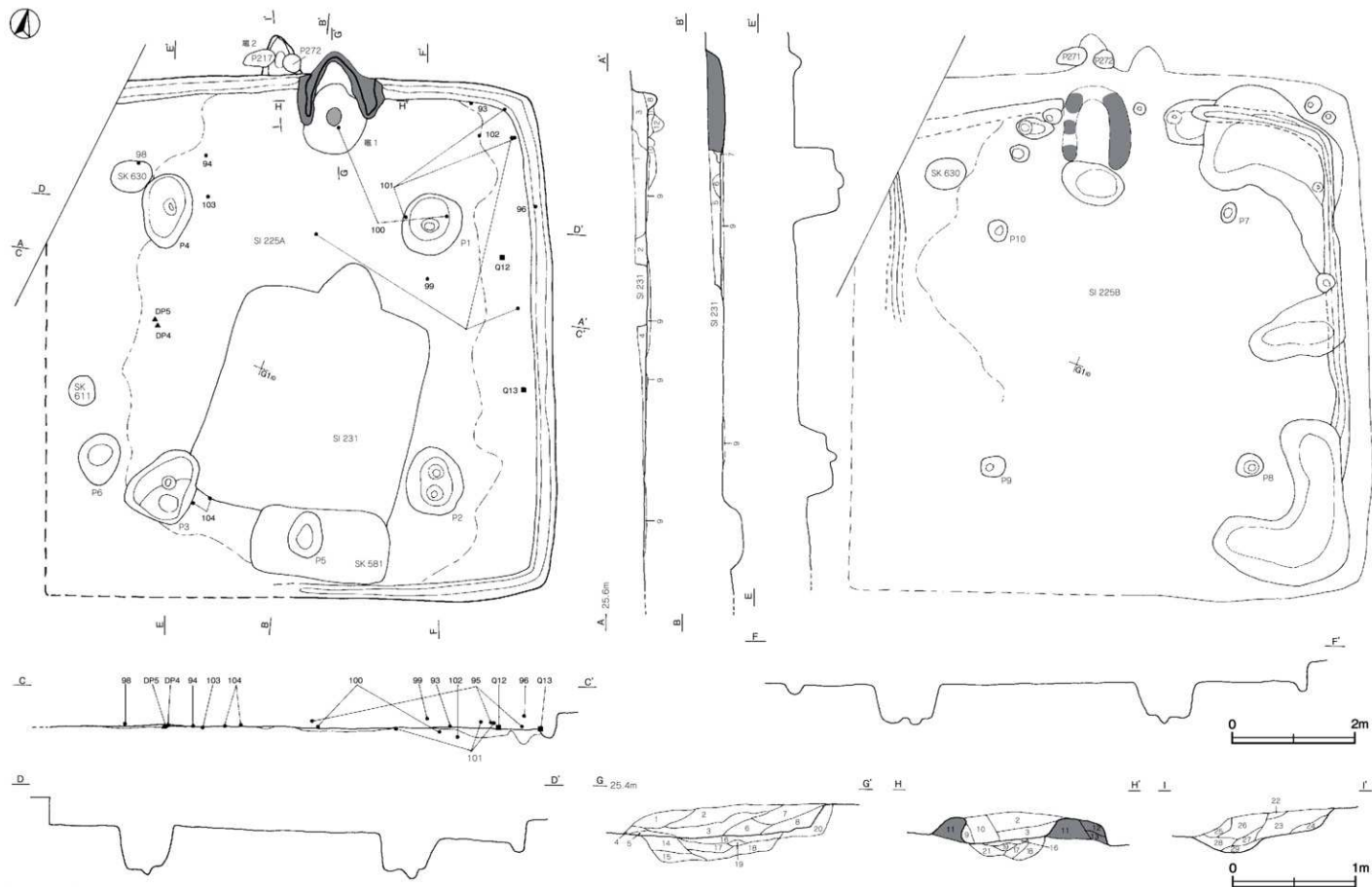
B号では、Q13は東部の床面、DP4・5は中央部の床面、102は北東部、103は北西部の掘方からそれぞれ出土している。104は、第231号住居から混入したものと思われる。

所見 A・B号住居跡ともに竈を有し、柱穴が移動していることからB号の四壁を拡張してA号に建て替えたと判断した。時期は、出土土器からA号・B号共に7世紀中葉から後葉に比定でき、短期間のうちに建て替えが行われたものとみられる。また、A号の竈2に壁材と思われる層が確認できることから、竈2から竈1へ作り替えられている。

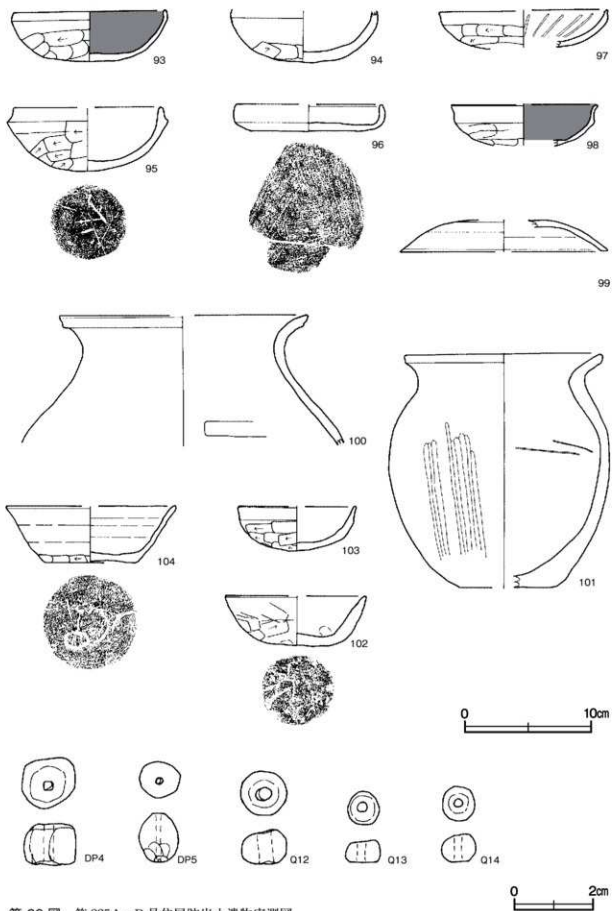
第225A・B号住居跡出土遺物観察表(第66図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
93	土師器	坏	12.0	4.2	-	灰石・石英・赤色粒子	にぶい釉	普通	体部外面へう割り 内面横ナデ	A号貼床内	98% PL27
94	土師器	坏	-	(4.1)	-	灰石・雲母	灰黄釉	普通	体部外面へう割り 内面横ナデ	A号床面	50%
95	土師器	坏	[11.7]	5.0	-	灰石・石英	明赤釉	普通	体部外面へう割り 輪轆痕 内面横ナデ へう記号	A号中層	50% PL27
96	土師器	坏	[11.6]	2.1	10.5	灰石・石英・赤色粒子	明赤釉	普通	内面へうナデ 底部多方向のへう割り	A号中層	70% PL27
97	土師器	坏	[13.4]	(2.9)	-	灰石・石英・赤色粒子	釉	普通	体部外面へう割り 輪轆痕 内面放射状の痕文	A号覆土中	20%
98	土師器	坏	[11.5]	(3.2)	-	灰石・石英・雲母	釉	普通	体部外面へう割り 輪轆痕 内面横ナデ	A号床面	20%
99	須恵器	蓋	[16.4]	(2.4)	-	灰石	黄灰	普通	天弁部回転へう割り	A号中層	5%
100	土師器	甕	[19.6]	(10.2)	-	灰石・石英・雲母	にぶい釉	普通	内面へうナデ	A号P1内	10%
101	土師器	甕	15.5	18.4	[7.0]	灰石・石英・雲母	にぶい赤釉	普通	体部外面へう割り 内面へうナデ 輪轆痕	A号床面	70% PL27
102	土師器	坏	[11.3]	3.9	5.3	灰石・石英・赤色粒子	褐灰	普通	体部外面へう割り 輪轆痕 内・外面指面痕	B号縦方	60% PL27
103	土師器	坏	[9.3]	3.6	-	灰石・石英	明赤釉	普通	体部外面へう割り 内面横ナデ	B号縦方	50% PL27
104	須恵器	坏	[13.4]	4.4	7.0	灰石・石英	褐灰	普通	体部下端手持ちへう割り 底部一方向のへう割り	B号床面	50% PL27

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP4	小玉	1.4	1.1	0.2	2.14	土(石英・細砂)	ナデ 一方向からの穿孔	B号床面	
DP5	小玉	1.1	1.2	0.1	1.26	土(石英・細砂)	ナデ 一方向からの穿孔	B号床面	
Q12	小玉	1.2	0.9	0.4	1.90	滑石	全面研磨 一方向からの穿孔	A号貼床内	PL34
Q13	小玉	0.9	0.6	0.25	0.80	滑石	全面研磨 一方向からの穿孔	B号床面	PL34
Q14	小玉	0.9	0.8	0.2	0.94	粘板岩	全面研磨 一方向からの穿孔	B号縦方	PL34



第 65 图 第225A·B号住居跡実測图



第 66 图 第 225A·B 号住居跡出土遺物実測図

2 奈良・平安時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、竪穴住居跡15軒、掘立柱建物跡2棟、粘土探掘坑11基、土坑5基が確認されている。以下、遺構と遺物について記述する。

(1) 竪穴住居跡

第134号住居跡 (第67・68図)

位置 調査区北東部のG 2 h7区で、標高25.4mの台地緩斜面部に位置している。東部は平成12年度に調査が終了している。

重複関係 第238号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 平成12年度の調査分と合わせると、長軸4.70m、短軸4.02mの長方形と推測でき、主軸方向はN-13°-Eである。壁高は32~42cmで、やや外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、竈前面を中心に踏み固められている。確認された範囲には壁溝が全周している。

ピット 平成12年度のピットの確認状況から、深さ12cmで、コーナー部に位置していることから主柱穴である。

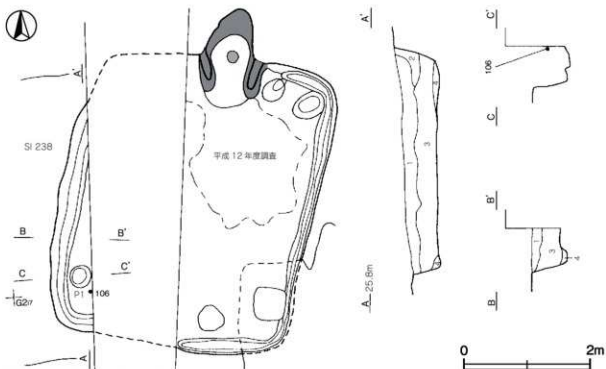
覆土 4層に分層できる。平成12年度の調査では自然堆積と判断したが、各層にロームブロックが多く含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

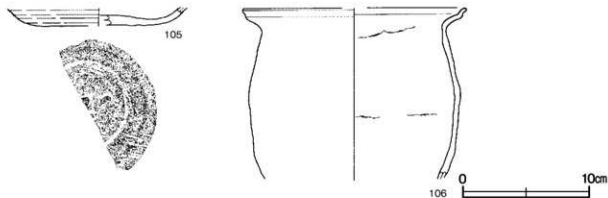
- | | | | |
|-------|---------------------------|-------|-----------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック少量、炭化粒子微量 | 3 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化粒子微量 | 4 黒褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子微量 |

遺物出土状況 今回の調査区からは、土師器甕・須恵器坏各1点のほか、土師器片22点(坏2・甕類20)、須恵器片6点(坏2・甕類4)が出土している。106は南部の覆土中層、105は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 東部は平成12年度に調査が終了しており、その部分については、『茨城県教育財団法人文化財調査報告』第182集を参照されたい。時期は、重複関係や出土土器から9世紀前葉から中葉と考えられる。



第67図 第134号住居跡実測図



第 68 図 第134号住居跡出土遺物実測図

第134号住居跡出土遺物観察表(第68図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴はか	出土位置	備考
105	須臾器	坏	-	(14)	[9.8]	長石・石英	灰	普通	底部回転ヘラ切り痕を残す	覆土中	10%
106	土師器	甕	[17.4]	(13.5)	-	長石・石英・赤褐色胎子	にぶい橙	普通	内・外面ナア 輪積痕	南中層	20%

第224号住居跡 (第69図)

位置 調査区北部のG 2g1区で、標高25.5mの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 北西部の床面を第591号土坑に、南西部の床面を第580号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.40m、短軸3.32mの方形で、主軸方向はN-90°-Eである。壁高は3~12cmで、やや外傾して立ち上がっている。

床 はほぼ平坦で、中央部に硬化面が認められる。壁溝が全周している。

竈 東壁南寄りに付設されている。焚口部から煙出部まで104cm、燃焼部幅55cmである。袖部は床面と同じ高さの地山の上に、粘土粒子を含む灰褐色土を積み上げて構築されている。第8~11層は袖部の構築土である。煙道部は、壁外へ逆U字状に奥行き56cm、幅91cm掘り込んで構築されている。火床部は床面を10cmほど掘り込み、火床面は火を受けて赤変硬化している。

竈土層解説

- | | | | |
|----------|-------------------------|---------|-----------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・炭化物・焼土粒子・粘土粒子微量 | 7 にぶい褐色 | 焼土ブロック中量、ローム粒子少量 |
| 2 黒褐色 | 粘土粒子少量、焼土ブロック微量 | 8 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子微量 |
| 3 黒褐色 | 粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 9 暗褐色 | ローム粒子少量、粘土粒子微量 |
| 4 暗灰黄色 | 焼土ブロック多量、白色粘土ブロック中量 | 10 灰褐色 | ローム粒子・粘土粒子少量 |
| 5 灰黄色 | 白色粘土ブロック中量 | 11 暗灰黄色 | 粘土粒子中量、焼土粒子微量 |
| 6 にぶい赤褐色 | 焼土ブロック多量、白色粘土粒子少量 | | |

ピット 2か所。P1・P2は深さ13cm・32cmで、性格は不明である。

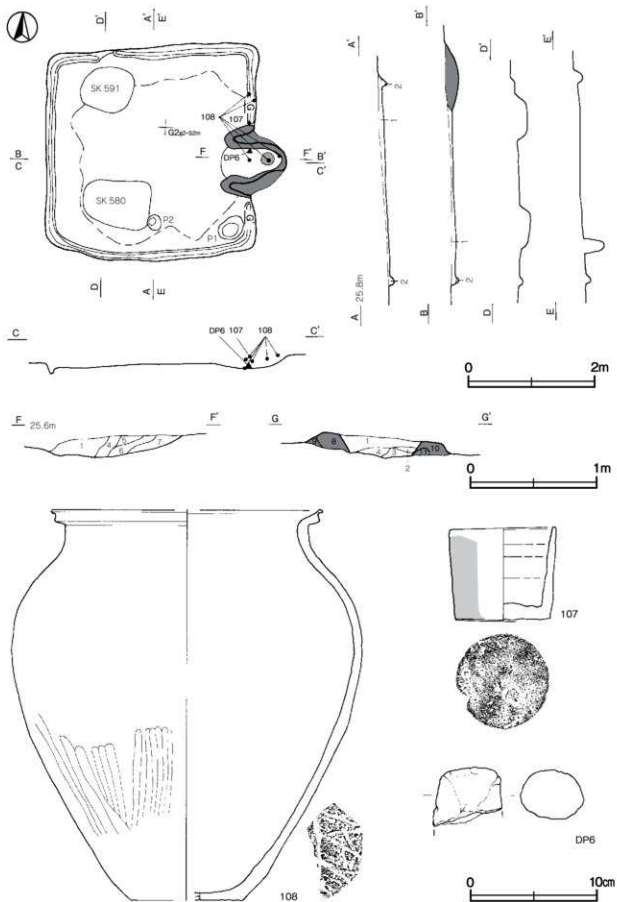
覆土 2層に分層できる。層厚が薄く、堆積状況を判断するのは難しく判然としない。

土層解説

- | | | | |
|-------|----------------------|-------|-----------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・炭化物少量、焼土粒子微量 | 2 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
|-------|----------------------|-------|-----------------------|

遺物出土状況 土師器甕・須臾器コップ形土器・土製品(支脚)各1点のほか、土師器片66点(坏24・甕類42)、須臾器片4点(坏3・甕類1)が散在した状態で出土している。また、流れ込んだ縄文土器片7点(深鉢)も出土している。P6は火床面上に立てられた状態で出土した支脚である。107は東壁際の覆土上層から出土している。108は竈の覆土中層から下層と東壁際の覆土上層から出土した破片が接合したものである。

所見 時期は、重複関係や出土土器から8世紀後葉に比定できる。



第 69 图 第 224 号住居跡・出土遺物実測図

第224号住居跡出土遺物観察表 (第69図)

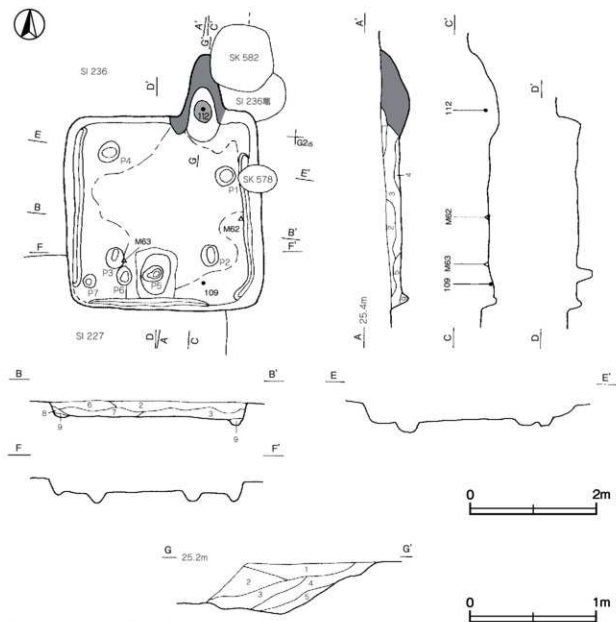
番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴はか	出土位置	備考
107	煎茶器	コップ形土器	8.4	7.5	7.4	灰石・黒色粒子	灰白	普通	体部下端回転ヘラ削り 外面輪付着	東部上層	70% P1.27
108	土脚器	壺	[21.4]	30.8	[8.8]	灰石・石灰・雲母	橙	普通	体部外面ヘラ削り 内面ナデ	壺中層	30%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP6	支脚	(4.6)	5.5	3.8	(72.7)	土(長石・石英)	ナデ 被熱板		

第226号住居跡 (第70・71図)

位置 調査区北部のG 214区で、標高25.2mの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第227・236号住居跡、第24号掘立柱建物跡を掘り込み、第578・582号土坑に掘り込まれている。



第70図 第226号住居跡実測図

規模と形状 長軸3.13m、短軸3.05mの方形で、主軸方向はN-3°-Wである。壁高は13~30cmで、やや外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、四隅を除いて中央部に硬化面が認められる。壁溝が北壁際を除いて通っている。

竈 北壁東寄りに付設されている。遺存状態は不良で、袖部は確認できなかった。焚口部から煙出部まで139cm、燃焼部幅54cmである。煙道部は、壁外へ逆U字状に奥行き84cm、幅54cm掘り込んで構築されている。火床部は床面を10cmほど掘り込み、火床面は火を受けて赤変硬化している。

竈土層解説

- | | |
|-------------------------------|------------------------|
| 1 にぶい褐色 ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子少量 | 4 にぶい褐色 焼土ブロック中量、炭化物少量 |
| 2 にぶい褐色 焼土ブロック・粘土ブロック中量 | 5 明褐色 ロームブロック中量 |
| 3 にぶい褐色 焼土ブロック中量、粘土粒子少量 | |

ピット 7か所。P1~P4は深さ10~17cmで、コーナー部に位置していることから支柱穴である。P5は深さ24cmで、南壁際の中央部に位置していることから出入口施設に伴うピットである。P6・P7は深さ21cm・15cmで、南西コーナー部に位置しているが性格は不明である。

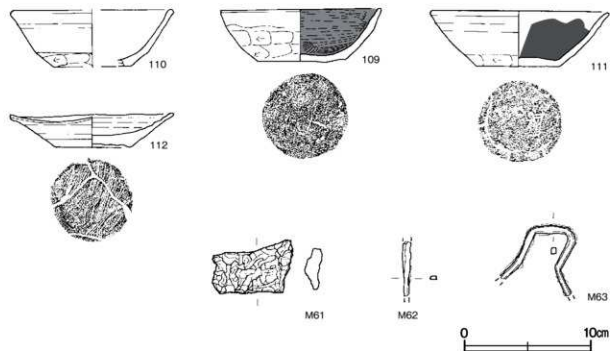
覆土 9層に分層できる。ロームブロックを含み、不規則な堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|-----------------------------|---------------------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・細礫微量 | 6 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子少量、炭化物・細礫微量 |
| 2 黒褐色 炭化物少量、ロームブロック・焼土粒子微量 | 7 黒褐色 ロームブロック・粘土ブロック・炭化物・焼土粒子微量 |
| 3 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 4 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 | 9 黒褐色 焼土粒子微量 |
| 5 暗褐色 焼土ブロック少量、ローム粒子微量 | |

遺物出土状況 土師器坏2点、皿1点、須恵器坏1点、鉄製品2点(釘・門)のほか、土師器片181点(坏76・甕類105)、須恵器片30点(坏14・高台付坏1・蓋1・甕類24)、鉄滓1点が散在した状態で出土している。また、流れ込んだ縄文土器片9点(深鉢)も出土している。112は竈の覆土中層、109は南東部の覆土下層、M63は南西部の覆土下層、M62は東部の床面、110・111・M61は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は、重複関係や出土土器から9世紀後葉に比定できる。



第71図 第226号住居跡出土遺物実測図

第226号住居跡出土遺物観察表 (第71図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴はか	出土位置	備考
109	土師器	坏	12.6	4.2	6.8	灰石・石英	にぶい赤褐色	普通	体部下へう削り 底部一方のへう削り 内面へう磨き	海東部下層	97% P1.27
110	土師器	坏	[12.4]	4.5	[6.0]	灰石・石英・雲母	橙	普通	体部下端手持ちへう削り	覆土中	20%
111	須恵器	坏	14.0	4.3	6.4	灰石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	体部下端手持ちへう削り 内面油漉付着	覆土中	90% P1.28
112	土師器	皿	12.9	2.7	6.2	灰石・雲母・赤色粒子	橙	普通	底部縁なナデ	覆土中層	80% P1.28

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M61	鉄洋	6.4	4.3	1.3	59.9	鉄	若干のまがり	覆土中	
M62	釘	(4.3)	0.7	0.3	(2.9)	鉄	断面長方形の棒状 両端部欠損	東部床面	
M63	円	(5.7)	(6.0)	0.4	(13.9)	鉄	断面長方形 先端部欠損	南西部下層	

第227号住居跡 (第72・73図)

位置 調査区北部のG 24区で、標高25.0mの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第24号掘立柱建物跡を掘り込み、第226号住居、第25号掘立柱建物、第583・622号土坑、第5号ピット群に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.45m、短軸3.17mの方形で、南北軸方向がN-1°-Eである。壁高は3~17cmで、ほぼ直立している。

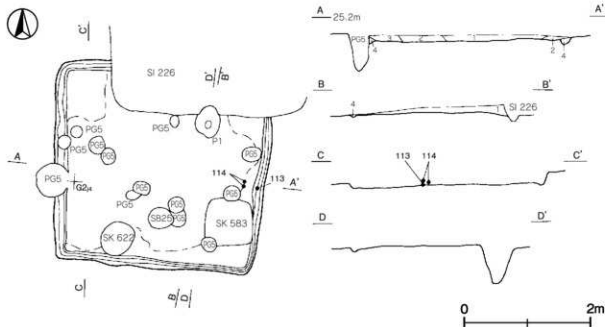
床 ほぼ平坦で、全体に硬化面が認められる。壁溝が全周している。

ピット 深さ65cmで、コーナー部に位置していることから支柱穴と考えられる。

覆土 4層に分層できる。ロームブロックを多く含み、不規則な堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

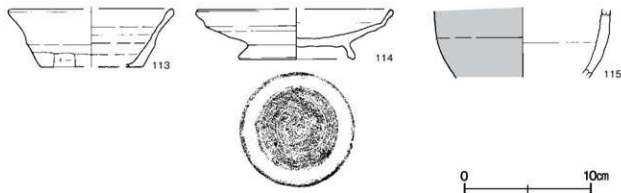
- | | | | |
|-------|-----------------------|-------|----------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・細礫微量 | 3 暗褐色 | ロームブロック多量、焼土ブロック・粘土粒子・細礫微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 |



第72図 第227号住居跡実測図

遺物出土状況 須恵器・壺・灰軸陶器長頸瓶各1点のほか、土師器片71点（坏16・甕類55）、須恵器片9点（坏3・蓋1・甕類5）が散在した状態で出土している。また、流れ込んだ縄文土器片7点（深鉢）も出土している。113は東部の壁溝の覆土中、115は覆土中からそれぞれ出土している。114は東部の覆土下層から出土した破片が接合したものである。

所見 時期は、重複関係や出土土器から9世紀前葉に比定できる。



第73図 第227号住居跡出土遺物実測図

第227号住居跡出土遺物観察表（第73図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴はか	出土位置	備考
113	須恵器	坏	[13.0]	4.6	[8.0]	灰石・石英・雲母	褐色	普通	体部下端手持ちへう割り	東部壁溝内	20%
114	須恵器	壺	[15.3]	4.0	8.9	灰石・石英・雲母	明赤褐色	普通	底部回転へう切り後、高台貼り付け	東部下層	60% PL28
115	灰軸陶器	長頸瓶	-	(3.3)	-	灰石・黒色粒子	灰黄褐色	難密	ロクロ成形 外面施釉	覆土中	5%

第228号住居跡（第74・75図）

位置 調査区北東部のG2h6区で、標高25.3mの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第229号住居、第4号ピット群に掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.57m、短軸4.85mの長方形で、主軸方向はN-7°-Eである。壁高は24~34cmで、ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、コーナー部を除いて硬化面が認められる。壁溝が北東壁際を除いて巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。天井部及び左袖部の大部分は削平されている。確認できた右袖部は、ロームブロック・砂質粘土粒子を含む暗褐色土を積み上げて構築されている。煙道部は、壁外へ弧状に奥行き44cm、幅70cm掘り込んで構築されている。火床部・火床面は確認できなかった。

覆土層解説

- 1 暗褐色 焼土ブロック多量、ロームブロック・砂質粘土粒子
2 暗褐色 ロームブロック多量、焼土粒子・砂質粘土粒子微量、白色粘土ブロック・炭化粒子微量

ピット 10か所。P1~P4は深さ47~80cmで、コーナー部に位置していることから主柱穴である。P5は深さ18cmで、南壁際の中央部に位置していることから出入り口施設に伴うピットである。P6は深さ76cmで、配置からP1の補助柱穴と考えられる。P7~P10は深さ20~34cmで、性格は不明である。

覆土 8層に分層できる。ロームブロックを含み、不規則な堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック微量
2 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化粒子微量
3 極暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量
4 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量

5 極暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化

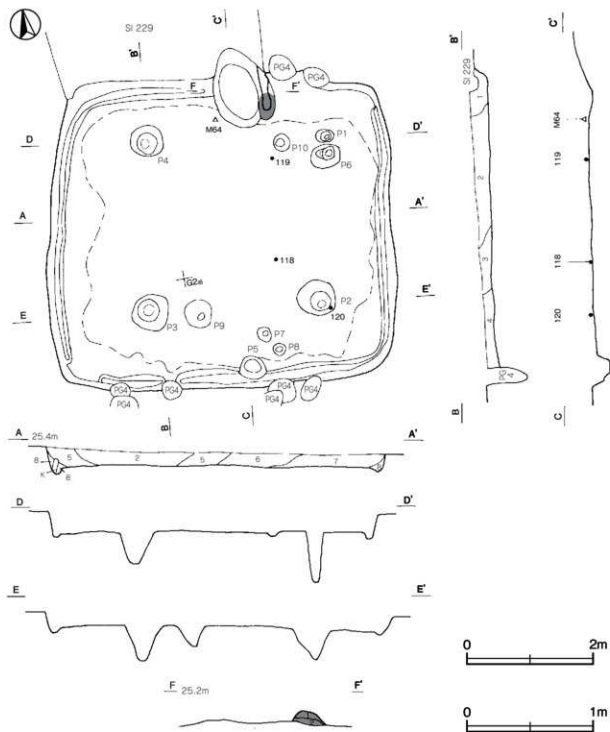
7 黒褐色 焼土ブロック・炭化粒子少量、ローム
粒子微量

6 極暗褐色 焼土ブロック中量、ローム粒子微量

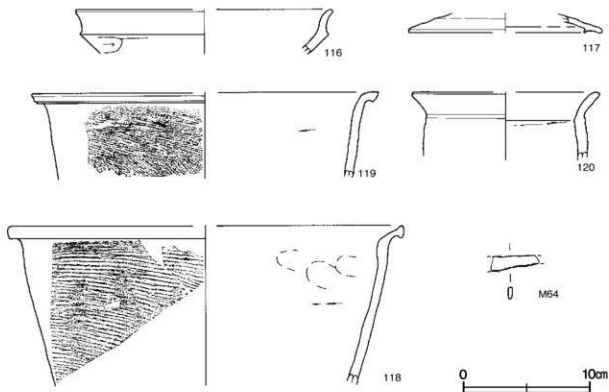
8 暗褐色 ロームブロック多量

遺物出土状況 土師器・甕各1点、須恵器蓋1点、鉢2点、鉄製品1点(刀子)のほか、土師器片428点(坏150・甕類277・瓶1)、須恵器片63点(坏19・蓋8・甕類36)が散在した状態で出土している。また、流れ込んだ縄文土器片27点(深鉢)も出土している。119は北部の床面、118は中央部の床面、120はP2内、M64は北部の覆土中層、116・117は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は、重複関係や出土土器から8世紀前葉に比定できる。



第74図 第228号住居跡実測図



第75図 第228号住居跡出土遺物実測図

第228号住居跡出土遺物観察表 (第75図)

番号	器種	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴はか	出土位置	備考
116	土師器	坏	[20.2]	(3.5)	-	灰石・石英・赤色粒子	灰褐	普通	体部外面へウ張り 内面横ナデ	覆土中	5%
117	須恵器	蓋	[15.4]	(1.5)	-	灰石・石英	黄灰	普通	天井部回転へウ張り	覆土中	5%
118	須恵器	鉢	[31.0]	(12.4)	-	灰石・石英・雲母	灰	普通	体部横位の平行ウ張り 内面ナデ 指頭痕	中央部床面	10%
119	須恵器	鉢	[27.4]	(6.7)	-	灰石・石英	灰	普通	体部斜位の平行ウ張り 内面ナデ 輪轆痕	北部床面	5%
120	土師器	甕	[14.8]	(5.3)	-	灰石・石英	橙	普通	内面ナデ	P2内	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M64	刀子	(3.8)	1.2	0.4	(3.6)	鉄	刃部・基部一部欠損 基部断面長方形	北部中層	P13A

第229号住居跡 (第76図)

位置 調査区北東部のG 2g6区で、標高25.4mの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第228号住居跡を掘り込み、第24号溝、第4号ピット群に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.39m、短軸3.20mの方形で、主軸方向はN-2°-Eである。壁高は7~11cmで、やや外傾して立ち上がっている。

床 ほほ平坦で、南壁から北壁にかけての中央部に硬化面が認められる。確認された範囲を壁溝が全周している。中央部の床面から南部にかけて炭化材が出土している。

ピット 4か所。P1は深さ30cmで、南壁際の中央部に位置していることから出入り口施設に伴うピットである。P2~P4は深さ22~42cmで、北部から中央部に位置しているが、性格は不明である。

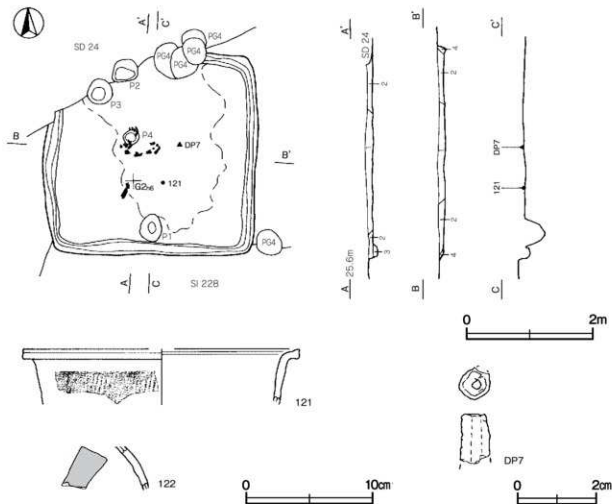
覆土 4層に分層できる。ルームブロックを多く含み、不規則な堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|--------|----------------------------|-------|------------------|
| 1 灰暗褐色 | 焼土ブロック多量、ロームブロック・炭化物
少量 | 3 暗褐色 | ロームブロック多量、炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化粒子微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック多量 |

遺物出土状況 須恵器鉢・灰釉陶器長頸瓶・土製品（管玉）各1点のほか、土師器片87点（坏26・蓋1・甕類60）、須恵器片29点（坏16・高台付坏1・甕類12）が散在した状態で出土している。また、流れ込んだ縄文土器片11点（深鉢）も出土している。121・DP7は中央部の床面、122は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は、重複関係や出土土器から9世紀代に比定できる。床面から炭化材が出土していることから、焼失住居と思われる。



第76図 第229号住居跡・出土遺物実測図

第229号住居跡出土遺物観察表（第76図）

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴はか	出土位置	備考
121	須恵器	鉢	[22.0]	(4.3)	-	長石・雲母	灰黄	普通	体部縦位の平行印き 内面横ナデ	中央部床面	5%
122	灰釉陶器	長頸瓶	-	(3.4)	-	細砂	LS・黄緑	緻密	外面輪軸	覆土中	5%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP7	管玉	0.8	(1.3)	0.25	(0.66)	土（長石・石英）	ナデ	中央部床面	PL34

第230号住居跡 (第77・78図)

位置 調査区北部のG 2h2区で、標高25.4mの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第236号住居、第23・24号独立柱建物、第24号溝、第575・584号土坑、P274に掘り込まれている。

規模と形状 長軸7.87m、短軸4.74mの方形で、主軸方向はN-11°-Wである。壁高は6cmで、やや外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、壁際を除いた部分に硬化面が認められる。壁溝が全周している。

竈 北壁中央部に付設されており、煙出部が第584号土坑、P274に掘り込まれている。遺存する規模は焚口部から煙出部まで113cm、燃焼部幅は54cmである。袖部は床面と同じ高さの地山の上に、焼土ブロック・粘土ブロックを含む黄褐色土を積み上げて構築されている。第15～17層は袖部の構築土である。火床部は床面と同じ高さで、火床面は火を受けて赤変硬化している。

竈土層解説

1 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量	11 暗褐色	粘土ブロック・ローム粒子少量
2 暗灰黄色	粘土ブロック多量、焼土粒子微量	12 暗赤褐色	焼土ブロック中量、灰少量
3 浅黄色	粘土ブロック多量、焼土ブロック少量	13 暗褐色	ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
4 明赤褐色	焼土ブロック・粘土ブロック中量	14 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
5 暗赤褐色	山砂中量、焼土ブロック・炭化物少量	15 黄褐色	粘土ブロック多量、焼土ブロック少量、細礫微量
6 暗赤褐色	焼土ブロック中量、山砂少量		
7 褐色	山砂中量、焼土ブロック・粘土ブロック少量	16 黄褐色	粘土ブロック多量、焼土ブロック中量、細礫微量
8 褐色	ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック・灰少量	17 暗褐色	ロームブロック多量、炭化物・焼土粒子・粘土粒子微量
9 褐色	ロームブロック中量		
10 にぶい黄褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック少量		

ピット 10か所。P1～P4は深さ50～66cmで、コーナー部に位置していることから支柱穴である。P5は深さ15cmで南壁際の中央部に位置していることから出入り口施設に伴うピットである。P6～P10は深さ18～32cmで性格は不明である。

ピット土層解説

1 暗褐色	焼土ブロック中量、ロームブロック・炭化物少量	3 褐色	ロームブロック中量
2 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック中量	4 褐色	ロームブロック多量

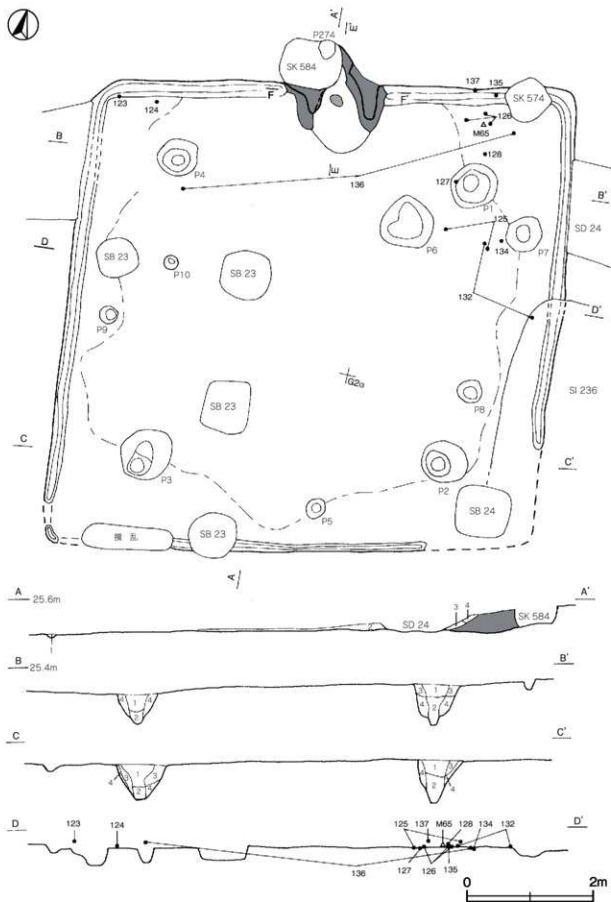
覆土 4層に分層できる。層厚は薄いが、ロームブロックが多く含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

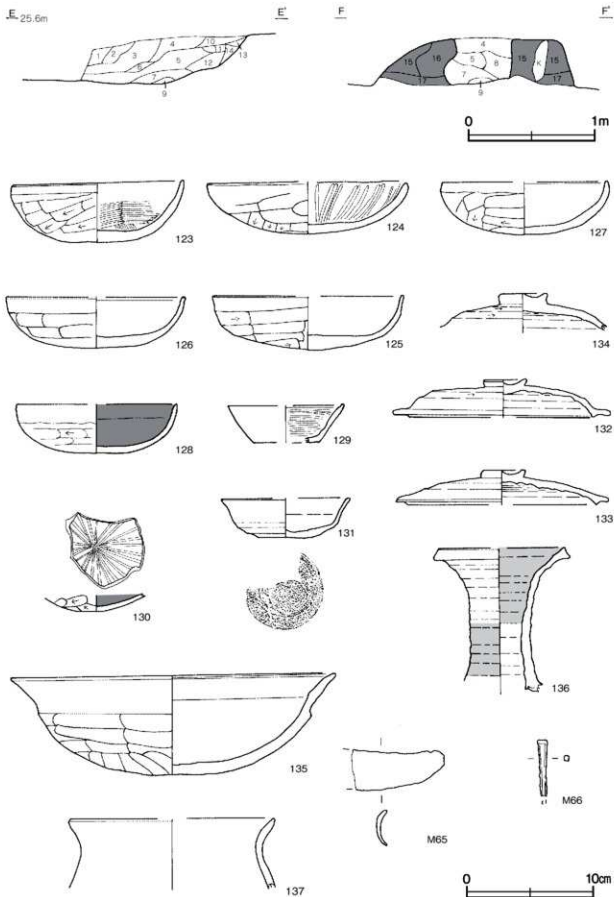
1 暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量	3 黒褐色	炭化物中量、ロームブロック少量、焼土粒子微量
2 極暗褐色	ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量	4 極暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量

遺物出土状況 土師器坏8点、鉢・甕各1点、須恵器坏1点、蓋3点、鉄製品2点(釘・不明)のほか、土師器片580点(坏類291・甕類289)、須恵器片34点(坏19・蓋13・甕類2)が散在した状態で出土している。また、流れ込んだ縄文土器片34点(深鉢)、混入した灰軸陶器片3点(長頸瓶)も出土している。128・M65は北東部の床面、134は東部の床面、127はP1内、135は北部の壁溝の覆土中、124は北部の覆土下層、123・137は北部の覆土上層、133は竈の覆土中、129～131・M66は覆土中からそれぞれ出土している。125は東部の覆土中層から下層にかけて出土した破片、126は北東部の覆土下層から出土した破片、136は北東部の床面から北西部の覆土上層にかけて出土した破片がそれぞれ接合したものである。132は、第236号住居跡から出土した破片と接合している。

所見 時期は、重複関係や出土土器から8世紀前葉と考えられる。



第 77 图 第230号住居跡実測図



第 78 图 第230号住居跡・出土遺物実測図

第230号住居跡出土遺物観察表(第78図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴はか	出土位置	備考
123	土師器	坏	13.6	4.9	-	灰石・石英	にぶい橙	普通	体部外面へう割り 輪轆痕 内面へう磨き	北東上層	80% PL28
124	土師器	坏	[15.8]	4.0	-	灰石・石英・雲母	橙	普通	体部外面へう割り 内面放射状の硝文	北東下層	70% PL28
125	土師器	坏	[15.0]	4.3	-	灰石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部外面へう割り 内面横ナデ	北東中層	75% PL28
126	土師器	坏	[14.0]	4.0	-	灰石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面へう割り 内面横ナデ	北東下層70%	
127	土師器	坏	[13.2]	4.1	-	灰石・石英	橙	普通	体部外面へう割り 内面横ナデ	P1内	40%
128	土師器	坏	[12.2]	3.9	-	灰石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面へう割り 輪轆痕 内面横ナデ	北東部床面	20%
129	土師器	坏	[9.1]	3.5	[5.2]	灰石・石英	にぶい赤橙	普通	内面に接縁 へう磨き	覆土中	20%
130	土師器	坏	-	(1.3)	-	灰石・石英	明赤褐	普通	体部外面へう割り 内面放射状の硝文	覆土中	10%
131	須恵器	坏	[10.2]	3.1	6.0	灰石・石英	灰	普通	底部回転へう切り	覆土中	40% PL28
132	須恵器	蓋	[17.2]	3.0	-	灰石・石英	褐灰	普通	天井部回転へう割り つまみ取り付け	北東下層	50% PL28
133	須恵器	蓋	[17.0]	2.8	-	灰石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	天井部回転へう割り つまみ取り付け 二次焼成	覆土中	50%
134	須恵器	蓋	-	(3.1)	-	灰石・石英	灰	普通	天井部回転へう割り つまみ取り付け	北東部床面	30%
135	土師器	鉢	25.7	7.9	-	灰石・石英	明赤褐	普通	体部外面へう割り 内面横ナデ	北東部床内	60% PL28
136	灰陶輪軸	長頸瓶	[9.8]	(11.3)	-	灰石・黒色粒子	灰白	緻密	内・外面施軸	北東部床面	15%
137	土師器	甕	[16.0]	(5.5)	-	灰石・石英・雲母	橙	普通	内面へうナデ	北東上層	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M55	不明製造品	(7.3)	3.2	0.4	(42.9)	鉄	端部欠損	北東部床面	
M56	釘	(4.5)	0.4	0.4	(2.7)	鉄	断面正方形の棒状 先端部欠損	覆土中	PL34

第231号住居跡(第79・80図)

位置 調査区北西部のG10区で、標高25.2mの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第225号住居跡の中央部を掘り込み、第581号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.70m、短軸3.35mの長方形で、主軸方向はN-7°-Wである。壁高は11cmで、やや外傾している。

床 はほぼ平坦で、壁際を除いた部分に硬化面が認められる。壁溝が北西部側、南部を除いて巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。焚口部から煙出部まで142cm、燃焼部幅は50cmである。袖部は床面と同じ高さの地山の上に、粘土ブロックを含む灰黄褐色土を積み上げて構築されている。第10~12層は袖部の構築土である。煙道部は、壁外へ弧状に奥行き60cm、幅100cm掘り込んで構築されている。火床部は床面を12cm掘り込んでおり、火床面は火を受けて赤変硬化している。

電土層解説

- | | | | |
|----------|-------------------------|---------|---------------------|
| 1 黒褐色 | 炭化粒子少量、ロームブロック・焼土ブロック散見 | 6 黒褐色 | 粘土ブロック・焼土粒子少量 |
| 2 極暗褐色 | 炭化物少量 | 7 褐色 | ロームブロック中量、山砂少量 |
| 3 にぶい黄褐色 | 粘土ブロック中量、焼土ブロック・炭化物少量 | 8 黒褐色 | 灰中量、焼土ブロック・粘土ブロック少量 |
| 4 黒褐色 | 粘土ブロック・灰中量 | 9 黒褐色 | 粘土ブロック中量、焼土ブロック少量 |
| 5 にぶい赤褐色 | 焼土ブロック・粘土ブロック中量 | 10 黒褐色 | 山砂少量 |
| | | 11 暗褐色 | 粘土ブロック少量 |
| | | 12 灰黄褐色 | 粘土ブロック・山砂中量 |

ピット 2か所。P1は深さ6cmで南壁際の中央部に位置していることから出入り口施設に伴うピットである。

P2は深さ12cmで、西部に位置しているが性格は不明である。

覆土 2層に分層できる。層厚は薄いが、ロームブロック・粘土ブロックが含まれていることから埋め戻されている。

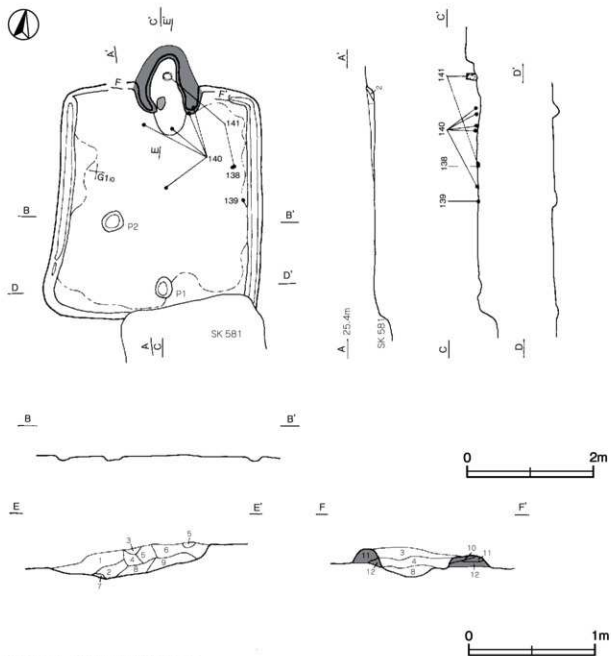
土層解説

1 黒褐色 焼土ブロック・粘土ブロック少量、ロームブロック・炭化粒子微量

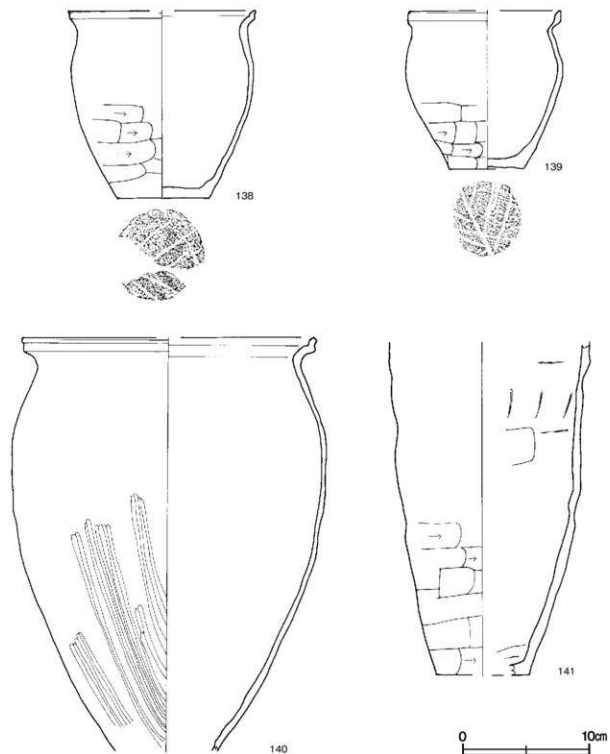
2 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック少量、炭化物微量

遺物出土状況 土師器小形甕2点、甕1点、円筒形土器1点のほか、土師器片59点（坏21・高坏1・甕類37）、須恵器片3点（坏1・甕類2）が散在した状態で出土している。また、流れ込んだ縄文土器片4点（深鉢）も出土している。138・139は東部の床面からそれぞれ出土している。140は右袖部に貼り付けられた状態で出土しており、甕の補強材として使用されていたものである。141は甕の火床部に据えられた状態で出土しており、支脚として使用されていたと考えられる。

所見 時期は、重複関係や出土土器から9世紀前葉から中葉と考えられる。



第79図 第231号住居跡実測図



第80図 第231号住居跡出土遺物実測図

第231号住居跡出土遺物観察表 (第80図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴はか	出土位置	備考
138	土師器	小形壺	14.7	14.8	7.3	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	普通	体部外面へラ削り 内面ナデ	東部床面	70% PL29
139	土師器	小形壺	[11.9]	12.4	6.0	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	普通	体部外面へラ削り 内面ナデ	東部床面	70% PL28
140	土師器	壺	[23.0]	[32.5]	-	長石・石英・雲母	灰褐色	普通	体部外面へラ磨き 内面ナデ	竈下層	40% PL29
141	土師器	円筒形土器	-	[26.2]	[7.3]	長石・石英・雲母・赤鉄質	明赤褐色	普通	体部外面へラ削り 内・外面へラナデ	輪積痕 竈火床部	60% PL29

第232号住居跡 (第81~83図)

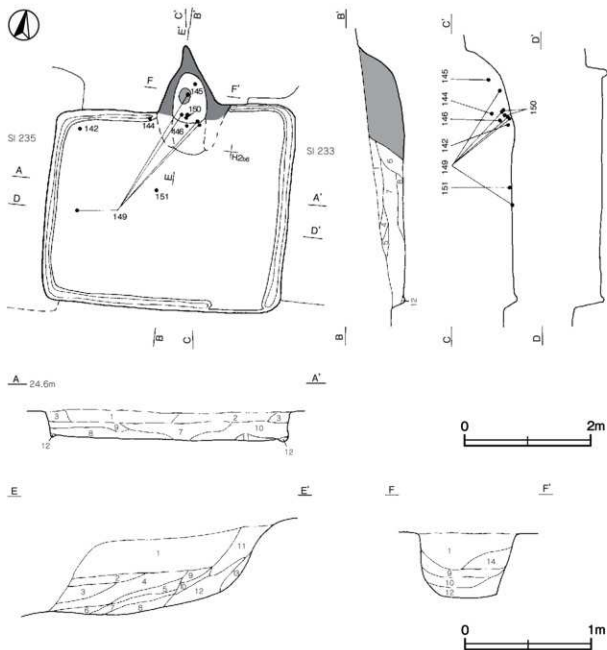
位置 調査区東部のH 2 b5区で、標高24.4mの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第233・235号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸3.84m、短軸3.30mの長方形で、主軸方向はN-7°-Wである。壁高は10~42cmで、やや外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、明確な硬化面は確認できない。壁溝が全周している。

竈 北壁東寄りに付設されている。遺存状態は不良で、袖部は確認できなかった。焚口部から煙出部まで173cm、燃焼部幅64cmである。煙道部は、壁外へ逆U字状に奥行き104cm、幅91cm掘り込んで構築されている。火床部は床面を5cmほど掘り込み、火床面は火を受けて赤変硬化している。



第 81 図 第232号住居跡実測図

覆土層解説

- | | | | |
|----------|------------------------|---------|------------------------------|
| 1 極暗褐色 | 焼土ブロック・炭化物少量、ロームブロック微量 | 9 極暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・白色粒子微量 | 10 黒褐色 | 焼土ブロック少量、ロームブロック微量 |
| 3 黒褐色 | 焼土ブロック・粘土ブロック・炭化物少量 | 11 極暗褐色 | 焼土ブロック少量、ロームブロック・炭化粒子・粘土粒子微量 |
| 4 黒褐色 | 焼土ブロック・粘土ブロック・炭化粒子微量 | 12 極暗褐色 | 焼土ブロック中量、ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 5 オリーブ褐色 | 焼土ブロック中量、細礫微量 | 13 極暗褐色 | ロームブロック・粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 6 黒褐色 | 粘土ブロック・炭化物・焼土粒子・砂粒微量 | 14 極暗褐色 | 炭化物少量、焼土粒子・黄色粒子微量 |
| 7 明褐色 | 砂粒多量、焼土粒子中量 | | |
| 8 黒褐色 | 砂粒・灰多量、焼土ブロック・炭化物少量 | | |

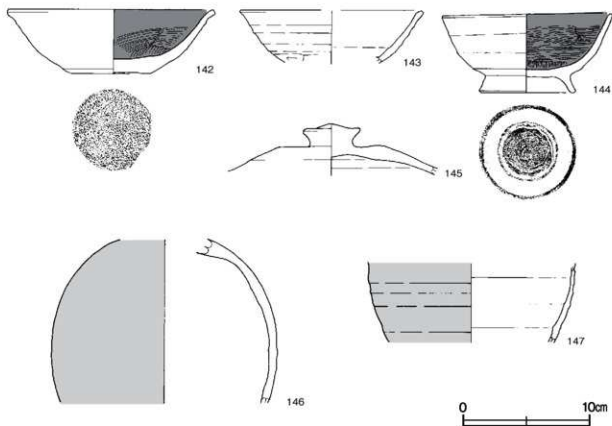
覆土 12層に分層できる。ロームブロックを含み、不規則な堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

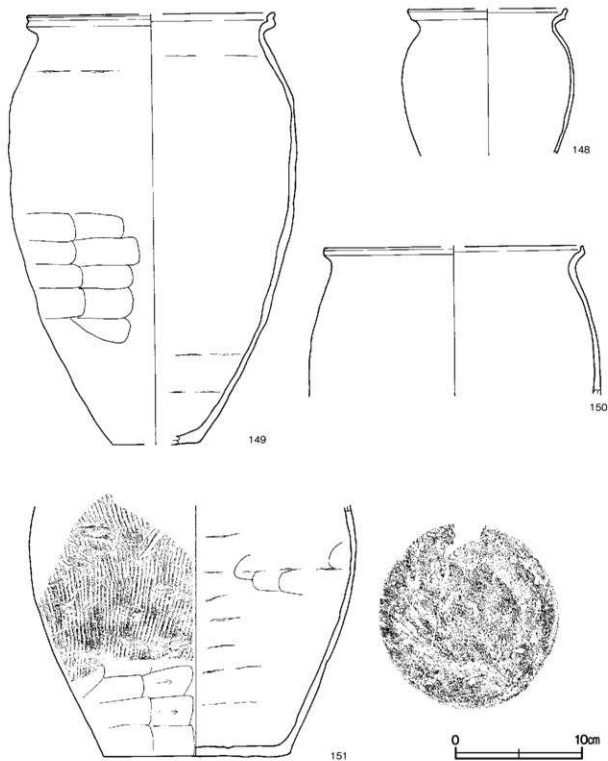
- | | | | |
|-------|-----------------------------------|-----------|-----------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量、粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子・白色粒子微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック・粘土ブロック・炭化物・焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | 焼土ブロック・炭化物少量、粘土ブロック・ローム粒子微量 | 8 暗褐色 | ロームブロック・粘土ブロック・炭化物少量、焼土粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量、粘土ブロック微量 | 9 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 |
| 4 暗褐色 | 粘土ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 10 灰オリーブ色 | 白色粘土ブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 5 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子微量 | 11 灰オリーブ色 | 白色粘土ブロック中量、焼土粒子微量 |
| 6 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化粒子・黄色粒子微量 | 12 淡黄色 | 白色粘土ブロック中量 |

遺物出土状況 土師器杯・高台付碗・小形甕各1点、甕2点、須恵器杯・蓋・甕各1点、灰釉陶器長頸瓶2点のほか、土師器片285点(坏62・高台付坏2・小形甕4・鉢1・甕類216)、須恵器片118点(坏36・蓋6・甕類76)が竈前面を中心に出土している。151は中央部の床面、142は北西部の覆土下層、146は竈の覆土中層、144は北部、145は竈の覆土上層、143・147・148は覆土中からそれぞれ出土している。149は竈の覆土下層から西部にかけて出土した破片、150は竈の覆土下層から出土した破片がそれぞれ接合したものである。

所見 時期は、重複関係や出土土器から9世紀後半に比定できる。



第82図 第232号住居跡出土遺物実測図(1)



第 83 図 第232号住居跡出土遺物実測図(2)

第232号住居跡出土遺物観察表(第82・83図)

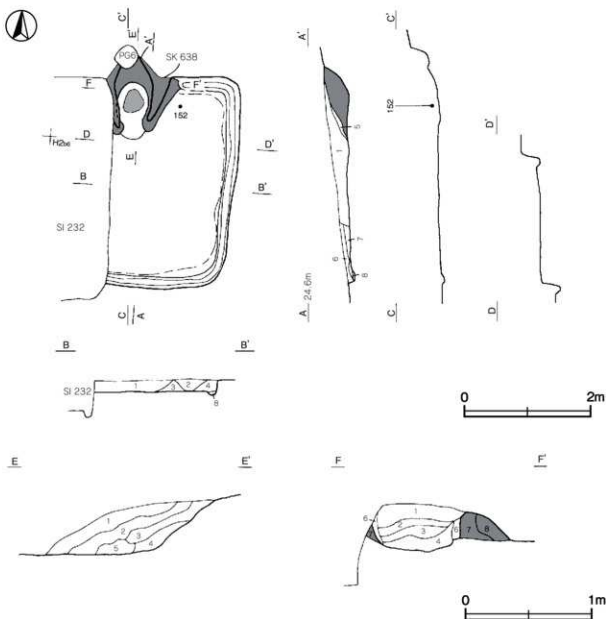
番号	類別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴はか	出土位置	備考
142	土師器	坏	16.2	5.1	6.1	灰石・雲母・赤色粒子	橙	普通	内面ヘラ磨き	北西部下層	100% PL29
143	須恵器	坏	[14.4]	(4.2)	-	灰石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り	覆土中	10%
144	土師器	高台付碗	13.3	6.3	7.2	灰石・赤色粒子・雲母	にぶい黄橙	普通	内面ヘラ磨き	北部上層	100% PL29
145	須恵器	蓋	-	(4.2)	-	灰石・石英・雲母	黄灰	普通	天舟部回転ヘラ削り つまみ取り付け	覆土層	40%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
146	灰輪陶器	長頸瓶	-	(12.9)	-	灰石・黒色粒子	にぶい黄緑	緻密	外面施釉	甕中層	10%
147	灰輪陶器	長頸瓶	-	(6.1)	-	灰石・石英・黒色粒子	にぶい黄	緻密	外面施釉	甕土中	5%
148	土師器	小形甕	[12.8]	(11.8)	-	灰石・石英	にぶい赤黒	普通	内面ナデ	甕土中	20%
149	土師器	甕	[19.7]	34.7	[6.9]	灰石・石英・雲母	明赤輪	明赤輪	体部外面ヘラ削り	甕下層	80% PL.29
150	土師器	甕	[21.0]	(12.0)	-	灰石・石英・雲母・黒色粒子	黄	普通	内面ナデ	甕下層	10%
151	須恵器	甕	-	(20.2)	15.0	灰石・石英・雲母・黒色粒子	輪灰	普通	体部腹位の平行引き 下層ヘラ削り 面施釉	中央部床面	40% PL.30

第233号住居跡 (第84・85図)

位置 調査区東部のH 2 b6区で、標高24.4mの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第638号土坑を掘り込み、第232号住居、第6号ピット群に掘り込まれている。



第 84 図 第233号住居跡実測図

規模と形状 南北軸は3.32mで、東西軸は3.00mだけ確認できた。主軸方向がN-3°-Wの方形と推測できる。壁高は26cmで、ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、コーナー部を除いて硬化面が認められる。壁溝が全周している。

竈 北壁に付設されている。燃焼部幅は51cmで、焚口部から煙出部までは116cmだけ確認できた。袖部は地山を掘り残し、粘土粒子を含む暗オリーブ褐色土を積み上げて構築されている。第7・8層は袖部の構築土である。煙道部は、壁外へ逆U字状に幅76cm掘り込んで構築されている。火床部は床面と同じ高さで、火床面は火を受けて赤変硬化している。

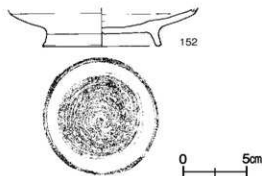
竈土層解説

- | | | | |
|-----------|---------------------------|-----------|-----------------|
| 1 黒褐色 | 粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 黒褐色 | 焼土ブロック中量 |
| 2 オリーブ褐色 | 粘土粒子・砂粒中量、焼土ブロック少量、炭化粒子微量 | 5 赤褐色 | 焼土ブロック中量、炭化粒子微量 |
| 3 暗オリーブ褐色 | 粘土粒子・砂粒中量、焼土ブロック・炭化物少量 | 6 暗赤褐色 | 焼土粒子多量 |
| | | 7 暗オリーブ褐色 | 粘土粒子・砂粒中量 |
| | | 8 オリーブ褐色 | 粘土粒子・砂粒中量 |

覆土 8層に分層できる。不規則な堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|--------------------|---------|-------------------------|
| 1 褐色 | ロームブロック多量 | 6 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・白色粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量、粘土ブロック少量 | 7 暗褐色 | 焼土ブロック少量、粘土ブロック・ローム粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子微量 | 8 濃い黄褐色 | 粘土粒子中量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 | | |
| 5 暗褐色 | ローム粒子・粘土粒子微量 | | |



遺物出土状況 須恵器盤1点のほか、土師器片137点(坏42・甕類95)、須恵器片13点(坏8・甕類5)が竈前面を中心に出土している。また、流れ込んだ縄文土器片2点(深鉢)も出土している。152は北部の覆土中層から出土している。

所見 時期は、重複関係や出土土器から9世紀前葉と考えられる。

第85図 第233号住居跡出土遺物実測図

第233号住居跡出土遺物観察表 (第85図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴はか	出土位置	備考
152	須恵器	盤	-	(3.0)	9.4	灰石・石英・雲母	灰褐色	普通	底部回転へろ切り後、高台貼り付け	北部中層	40%

第234号住居跡 (第86図)

位置 調査区東部のH 2a7区で、標高24.8mの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 南西壁際を第586号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 東側部分は平成12年度の調査区域であるが、前回調査では確認されていない。南北軸は3.09mで、東西軸は1.23mだけ確認できた。形状から主軸方向がN-3°-Wの方形もしくは長方形と推測できる。壁高は9~26cmで、やや外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、全体的に踏み固められている。確認できた範囲を壁溝が全周している。

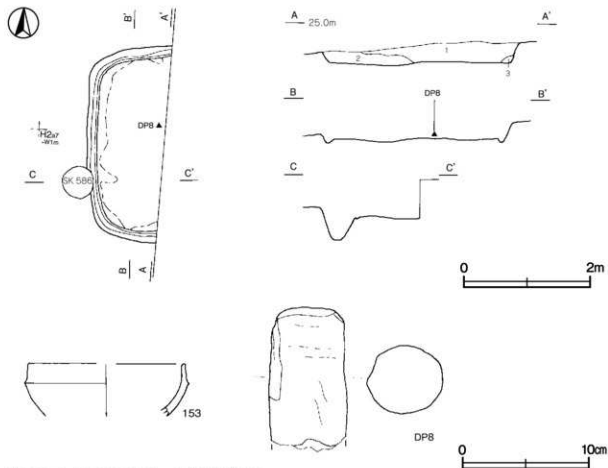
覆土 3層に分層できる。ロームブロックが多く含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

- 1 暗褐色 焼土ブロック・炭化物少量、ローム粒子微量 3 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
 2 褐色 ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器坏1点、土製品1点（支脚）のほか、土師器片28点（坏11・甕類17）、須恵器片3点（坏1・甕類2）が出土している。153は覆土中、DP8は東部の床面からそれぞれ出土している。

所見 本跡は出土土器が細片のため、出土土器からの時期判断は困難であるが、規模と重複関係から9世紀代と考えられる。



第86図 第234号住居跡・出土遺物実測図

第234号住居跡出土遺物観察表（第86図）

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴はか	出土位置	備考
153	土師器	坏	[122]	(4.1)	-	灰石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	内・外面ナデ	覆土中	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP8	支脚	(11.3)	6.2	5.3	(374.0)	土（長石・石英）	ナデ 被熱痕	東部床面	PL34

第235号住居跡（第87図）

位置 調査区中央部のH2b4区で、標高24.4mの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第232号住居に掘り込まれている。

規模と形状 耕作による削平のため遺存状況は不良で、南北軸2.90m、東西軸3.80mだけ確認できた。主軸方向がN-2°-Eの方形と推測できる。壁高は15cmで、やや外傾して立ち上がっている。

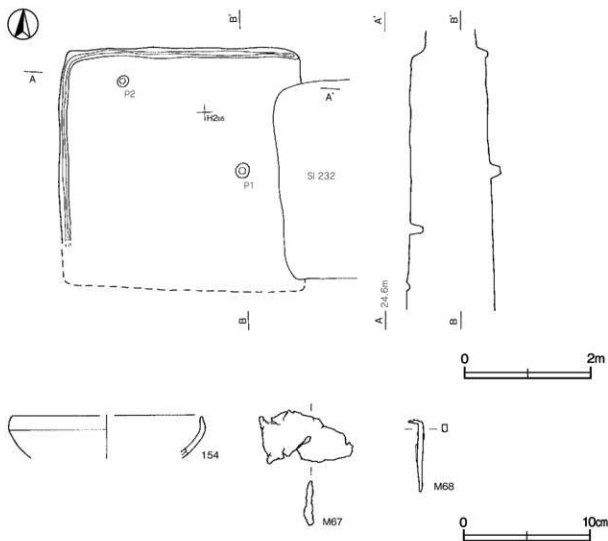
床 ほぼ平坦で、明確な硬化面は確認できない。壁溝が北部と西部に巡っている。

ピット 2か所。P1・P2は深さ19cm・22cmで、性格は不明である。

覆土 覆土がほとんどない状況で、堆積状況は不明である。

遺物出土状況 土師器坏1点、鉄製品2点（釘・不明鉄製品）のほか、土師器片27点（坏7・甕類20）、須恵器片6点（坏3・甕類3）が出土している。そのほか、流れ込んだ縄文土器片3点（深鉢）も出土している。154・M67・68は覆土中から出土している。

所見 本跡の出土土器が細片のため、出土土器からの時期判断は困難であるが、形状と重複関係から9世紀代と考えられる。



第 87 図 第235号住居跡・出土遺物実測図

第235号住居跡出土遺物観察表（第87図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
154	土師器	坏	[15.0]	(3.3)	-	石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	内面横ナデ	覆土中	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M67	不明産品	(7.4)	(4.3)	(0.8)	(27.5)	鉄	一部欠損	覆土中	
M68	釘	5.6	0.4	0.6	(4.8)	鉄	断面長方形の棒状	覆土中	PL34

第236号住居跡 (第88・89図)

位置 調査区北部のG 2 h4区で、標高25.2mの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第230号住居跡を掘り込み、第226号住居、第582号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 覆土が薄く、東西軸4.60m、南北軸3.90mだけ確認できた。主軸方向がN-88°-Eの方形もしくは長方形と推測できる。壁高はわずかで、立ち上がりは判然としない。

床 はほぼ平坦で、中央部に硬化面が認められる。壁溝が北部と西部に認められる。

竈 東壁に付設されており、天井部及び袖部の大部分は削平されている。確認された煙出部までの長さは75cm、燃焼部幅は41cmである。火床部は床面と同じ高さで、火床面は赤変硬化している。

覆土層解説

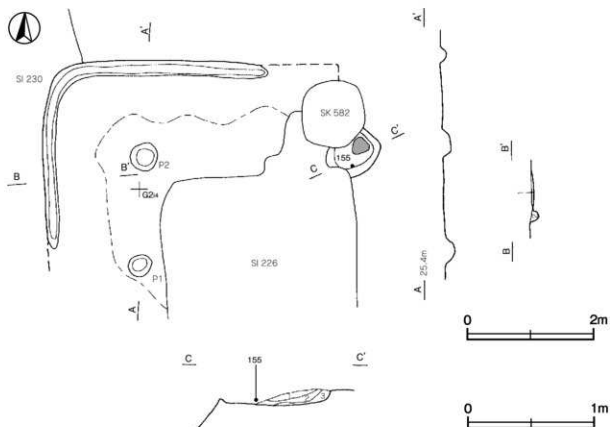
- 1 濃い赤褐色 焼土ブロック中量、山砂少量
 2 暗赤褐色 焼土粒子中量
 3 暗赤褐色 焼土ブロック中量

ピット 2か所。P1・P2は深さ15cm・14cmで、性格は不明である。

覆土 2層に分層できる。覆土がほとんどない状況で確認されており、堆積状況は不明である。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量
 2 褐色 ロームブロック多量



第 88 図 第236号住居跡実測図

遺物出土状況 土師器坏1点のほか、土師器片3点(坏2・甕1)、須恵器片1点(甕)が出土している。155は甕の覆土中層から出土している。



所見 時期は、確定できる出土土器は少ないが、重複関係から9世紀代と考えられる。

第89図 第236号住居跡出土遺物実測図

第236号住居跡出土遺物観察表(第89図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴はか	出土位置	備考
155	土師器	坏	[11.6]	3.7	[6.0]	灰石・石英・雲母	にぶい褐	普通	ロタロ成形	覆土中層	40% P1.30

第237号住居跡(第90・91図)

位置 調査区南部のH2d2区で、標高23.7mの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第12号粘土採掘坑、第585・631号土坑、第6号ピット群に掘り込まれている。

規模と形状 東西軸は4.07mで、南北軸は3.22mだけ確認できた。主軸方向がN-4°-Wの長方形と推測できる。壁高は27cmで、ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、明確な硬化面は確認できない。

竈 北壁西寄りに付設されている。遺存状況が悪く、焚口部から煙出部まで110cm、燃焼部幅は44cmだけ確認できた。袖部は床面を若干掘りくぼめ、粘土ブロックを含む暗オリーブ褐色土を積み上げて構築されたと推測できる。第11層は袖部の構築土である。煙道部は、壁外へ弧状に奥行き52cm掘り込んで構築されている。火床部は床面と同じ高さで、火床面は赤変硬化していない。第12・13層は掘方への埋土である。

竈土層解説

- | | | | |
|-----------|--------------------------|------------|-------------------------|
| 1 黒褐色 | 焼土ブロック少量、粘土ブロック・炭化物微量 | 7 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量 |
| 2 黒褐色 | 焼土ブロック少量、粘土ブロック・炭化物・山砂微量 | 8 暗褐色 | 粘土ブロック少量、炭化物・焼土粒子微量 |
| 3 暗褐色 | 焼土ブロック・粘土ブロック少量、炭化物微量 | 9 黒褐色 | 粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化物・焼土粒子微量 | 10 黒褐色 | 焼土ブロック中量、炭化物微量 |
| 5 黒褐色 | 焼土ブロック少量、炭化物・粘土粒子微量 | 11 暗オリーブ褐色 | 粘土ブロック・炭化物・焼土粒子微量 |
| 6 暗オリーブ褐色 | 粘土ブロック中量、焼土ブロック少量、炭化粒子微量 | 12 極暗赤褐色 | 焼土ブロック・炭化物少量、粘土ブロック微量 |
| | | 13 極暗褐色 | 焼土ブロック・炭化物・灰少量、粘土ブロック微量 |

ピット 2か所。P1は深さ18cmでコーナー部に位置していることから支柱穴である。P2は深さ36cmで南部の中央に位置していることから出入り口施設に伴うピットである。

覆土 4層に分層できる。粘土ブロックを多く含み、不自然な堆積であることから埋め戻されている。

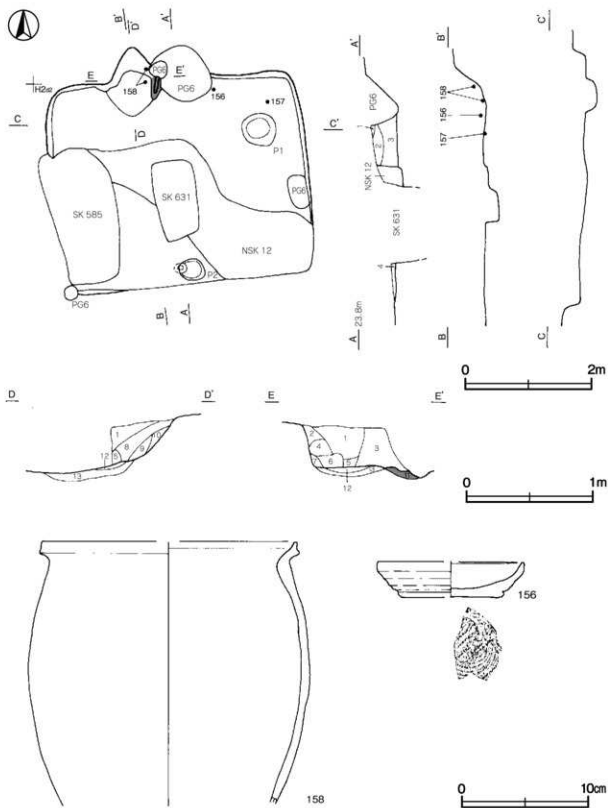
土層解説

- | | | | |
|-------|--------------------------------|-------|-----------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック少量、炭化粒子微量 | 3 黒褐色 | 焼土ブロック・炭化物少量、粘土ブロック微量 |
| 2 黒褐色 | 焼土ブロック・粘土ブロック少量、ロームブロック・炭化粒子微量 | 4 黒褐色 | 粘土ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |

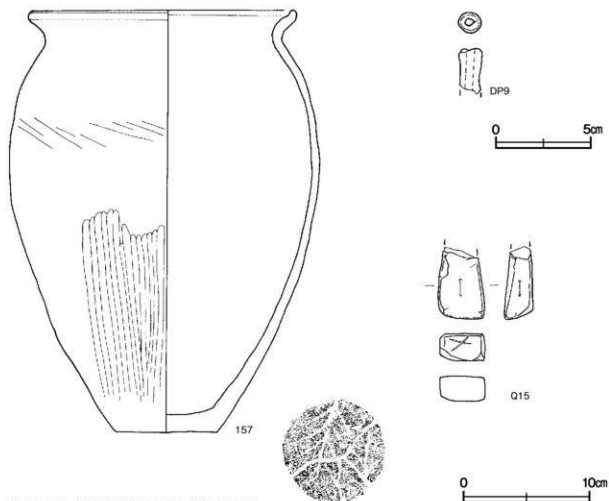
遺物出土状況 土師器坏1点、甕2点、土製品1点(管玉)、石製品1点(砥石)のほか、土師器片261点(坏類110・小形甕1・甕類150)、須恵器片39点(坏11・壺3・甕類25)が北部を中心に出土している。また、流れ込んだ縄文土器片8点(深鉢)も出土している。157は北東コーナー部の床面から潰れた状態で出土してい

る。156は北部の覆土下層、Q15・DP9は覆土中からそれぞれ出土している。158は竈の覆土中層から下層にかけて出土した破片が接合したものである。

所見 時期は、出土土器から9世紀中葉に比定できる。



第90図 第237号住居跡・出土遺物実測図



第 91 図 第237号住居跡出土遺物実測図

第237号住居跡出土遺物観察表 (第90・91図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴はか	出土位置	備考
156	土師器	杯	[11.5]	2.8	[7.7]	灰石・雲母・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	底部回転糸切り痕を残す 内面ヘラナデ	北部下層	35%
157	土師器	甕	20.8	33.5	8.1	灰石・石英・雲母	橙	普通	体部外面へラ磨き 内面ナデ	北東部床面	95% PL30
158	土師器	甕	[20.0]	(20.5)	-	灰石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	内面ナデ 輪積痕	覆中層	20%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP9	碧玉	1.2	(2.4)	0.5	(2.34)	土(石英・細砂)	ナデ 端部欠損	覆土中	PL34

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q15	磁石	(5.7)	3.6	2.2	(62.3)	凝灰岩	端部欠損 断面2面 断面長方形	覆土中	PL34

第238号住居跡 (第92図)

位置 調査区北東部のG 2h7区で、標高25.5mの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第134号住居、第641号土坑、第4号ピット群に掘り込まれている。

規模と形状 東側部分は平成12年度の調査区域であるが、前回調査では確認されていない。南北軸は4.47mで、東西軸は1.60mだけ確認できた。形状から主軸方向がN-0°の方形もしくは長方形と推測できる。壁高は15

～20cmで、やや外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、中央部に硬化面が認められる。確認された範囲を壁溝が全周している。

ピット 4か所。P1は深さ63cmで、配置から支柱穴と考えられる。P2～P4は深さ10～28cmで、性格は不明である。

覆土 3層に分層できる。各層にロームブロックが多く含まれていることから埋め戻されている。

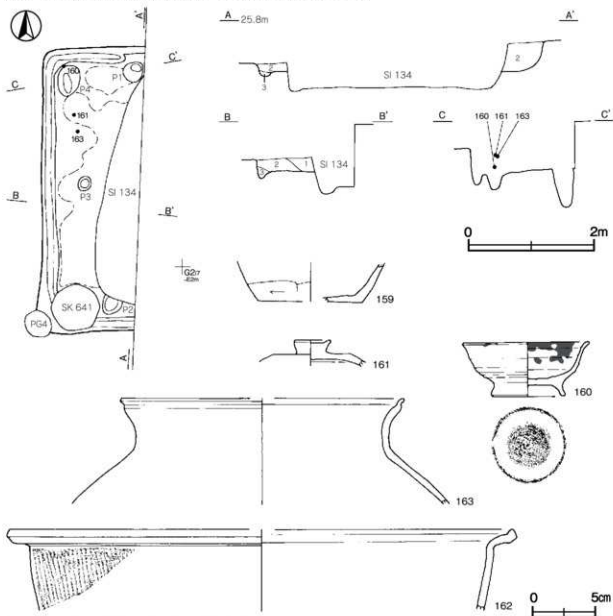
土層解説

1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子少量
2 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子少量

3 黒褐色 ロームブロック多量、焼土粒子微量

遺物出土状況 土師器甕、須恵器坏・高台付坏・蓋・鉢各1点のほか、土師器片149点（坏21・甕類128）、須恵器片30点（坏6・高台付坏1・蓋1・甕類22）が北部を中心に出土している。また、流れ込んだ縄文土器片4点（深鉢）も出土している。160は北部の覆土中層、161・163は北部の覆土上層、159・162は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は、重複関係や出土土器から8世紀後葉に比定できる。



第92図 第238号住居跡・出土遺物実測図

第238号住居跡出土遺物観察表 (第92図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
159	須恵器	坏	-	(3.1)	(8.2)	長石・石英・雲母	褐色	普通	体部下端手持ちへう削り	覆土中	20%
160	須恵器	高台付坏	10.0	4.3	5.8	長石・石英・雲母	褐色	普通	底面回転へう削り後、高台取り付け 内・外面磨削付着	北部中層	95% PL30
161	須恵器	蓋	-	(2.1)	-	長石・石英・雲母	黄灰	普通	天井部回転へう削り つまみ取り付け	北部上層	20%
162	須恵器	鉢	[40.0]	(6.4)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	体部縦位の平行叩き 内面ナデ	覆土中	5%
163	土師器	甕	[22.4]	(8.3)	-	長石・石英 炭化物・赤色粒子	赤褐色	普通	内・外面ナデ	北部上層	10%

表9 奈良・平安時代堅穴住居跡一覧表

番号	位置	平面形	主軸方向	規模(m) (長軸×短軸)	埋高(cm)	床面	構造	内部施設				覆土	出土遺物	時期	備考 新旧関係(古→新)
								土柱穴	出入ヒット	電	電				
134	G 2 17	長方形	N-15°-E	4.70 × 4.02	32-42	平間	全周	1	-	-	-	人土	土師器・須恵器	9 C 前→中	SI238→本跡
224	G 2 a 1	方形	N-9°-E	3.40 × 3.32	3-12	平間	全周	-	-	2	東壁	不明	土師器・須恵器・灰釉陶器	8 C 後	本跡→SK380・591
226	G 2 14	方形	N-3°-W	3.13 × 3.05	13-30	平間	一部	4	1	2	北壁	人土	土師器・須恵器・土製品	9 C 後	SI277・236・SI214→本跡→SK578・582
227	G 2 14	方形	N-1°-E	3.45 × 3.17	3-17	平間	全周	1	-	-	-	人土	土師器・須恵器	9 C 前	SI214→本跡→SI226・SI225・SK383・622・PG 5
228	G 2 16	長方形	N-7°-E	3.57 × 4.85	24-34	平間	全周	4	1	5	北壁	人土	土師器・須恵器・土製品	8 C 前	本跡→SI229・PG 4
229	G 2 a 6	方形	N-2°-E	3.39 × 3.20	7-11	平間	全周	-	1	3	-	人土	土師器・須恵器・土製品	9 C 代	SI228→本跡→SI224・PG 4
230	G 2 b 2	方形	N-11°-W	7.87 × 7.47	6	平間	全周	4	1	5	北壁	人土	土師器・須恵器・灰釉陶器・土製品	8 C 前	本跡→SI236・SI225・24・SI214・SK375・584・P274
231	G 1 10	長方形	N-7°-W	3.70 × 3.35	11	平間	一部	-	1	1	北壁	人土	土師器	9 C 前	SI225→本跡→SK581
232	H 2 16	長方形	N-7°-W	3.84 × 3.30	10-42	平間	全周	-	-	-	北壁	人土	土師器・須恵器・灰釉陶器	9 C 後	SI233・235→本跡
233	H 2 16	方形	N-3°-W	3.32 × 3.00	26	平間	全周	-	-	-	北壁	人土	土師器・須恵器・土製品	9 C 前	SK638→本跡→SI232・PG 6
234	H 2 17	長方形	N-3°-W	3.09 × 1.23	9-26	平間	全周	-	-	-	-	人土	土師器・須恵器・土製品	9 C 代	本跡→SK586
235	H 2 14	[方形]	N-2°-E	3.80 × 2.90	15	平間	全周	-	-	2	-	不明	甕土師器・須恵器・土製品	9 C 前	本跡→SI232
236	G 2 14	[方形]	N-3°-E	[4.60 × 3.90]	-	平間	一部	-	-	2	東壁	不明	土師器・須恵器	9 C 代	SI230→本跡→SI226・SK582
237	H 2 12	長方形	N-4°-W	4.07 × 3.22	27	平間	-	1	1	-	北壁	人土	土師器・須恵器・石製品・土製品	9 C 中	本跡→SK585・631・NSK12・PG 6
238	G 2 17	[長方形]	N-0°	4.47 × 1.60	15-20	平間	全周	1	-	3	-	人土	土師器・須恵器	8 C 後	本跡→SI134・SK641・PG 4

(2) 掘立柱建物跡

第23号掘立柱建物跡 (第93図)

位置 調査区北部のG 2 2区で、標高24.9～25.2mの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第230号住居跡を掘り込んでいる。

規模と構造 桁行3間、梁行2間の掘立柱建物跡で、桁行方向がN-7°-Wの南北棟である。規模は、桁行6.60m、梁行4.20mで、面積は27.72㎡である。柱間寸法は、桁行、梁行ともに2.4m(8尺)を基調とし、均等に配置されている。柱筋はほぼ揃っている。

柱穴 10か所。平面形は円形または方形で、深さは9～46cmである。土層は、第1・2層が柱抜き取り痕で、第3～9層は埋土である。

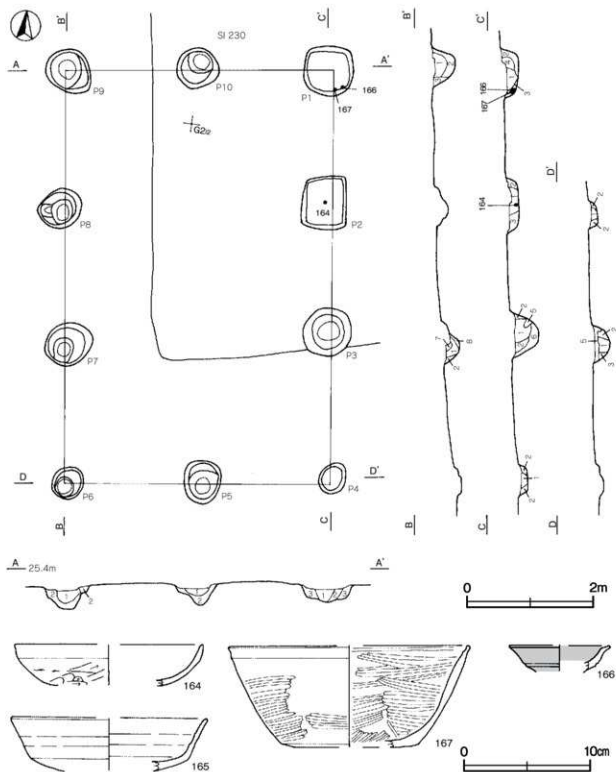
土層解説(各柱穴共通)

1	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子微量	5	褐色	ロームブロック中量
2	黒褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量	6	暗褐色	ロームブロック中量
3	暗褐色	ロームブロック少量	7	暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
4	黒褐色	炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量	8	褐色	ローム粒子中量

遺物出土状況 土師器坏2点、須恵器坏1点のほか、土師器片84点(坏61・甕類23)、須恵器片2点(坏)がP 4・P 5を除く柱穴から出土している。また、流れ込んだ縄文土器片16点(深鉢)、混入した灰釉陶器片1

点(Ⅲ)も出土している。166・167はP 1の埋土、164はP 2、165はP 1の抜き取り痕からそれぞれ出土している。

所見 規模や構造から屋としての機能が想定される。時期は、重複関係や出土土器から8世紀前葉から中葉に比定できる。



第 93 図 第23号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第23号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第93図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
164	土師器	坏	[14.8]	(3.2)	-	長石・石英	明赤褐	普通	体部外面へつளிり 内面横ナデ	P2 覆土下層	10%
165	須恵器	坏	[15.4]	(4.1)	-	長石・石英	黄灰	普通	底部回転へつ切り	P1 覆土中	10%
166	灰釉陶器	皿	[7.8]	(2.0)	-	長石・黒色粒子・細砂	灰黄	緻密	内・外面施釉	P1 覆土中層	10%
167	土師器	鉢	[18.8]	7.9	[11.0]	長石・石英	橙	普通	体部内・外面へつ磨き	P1 覆土中層	20% PL30

第24号掘立柱建物跡（第94・95図）

位置 調査区中央部のG2j4区で、標高24.4～25.0mの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第226・227号住居、第25号掘立柱建物、第5号ピット群に掘り込まれている。

規模と構造 桁行5間、梁行2間の側柱建物跡で、桁行方向がN-1'-Wの南北棟である。規模は、桁行8.70m、梁行5.10mで、面積は44.37㎡である。柱間寸法は、桁行が1.8m（6尺）、梁行は東から1.8m（6尺）、3.3m（11尺）で柱筋はほぼ揃っている。

柱穴 13か所。平面形は円形または楕円形で、深さは10～54cmである。土層は、第1層は柱抜き取り痕で、第2～7層は埋土である。

土層解説（各柱穴共通）

1	極暗褐色	焼土粒子・粘土粒子微量	5	褐色	ロームブロック中量、粘土粒子少量
2	褐色	ロームブロック中量	6	暗褐色	ロームブロック・粘土粒子中量、焼土粒子少量
3	にぶい黄褐色	ロームブロック中量	7	暗褐色	粘土粒子中量
4	暗褐色	ロームブロック中量			

遺物出土状況 土師器坏2点のほか、土師器片61点（坏22・甕類39）、須恵器片4点（坏2・甕類2）が出土している。また、流れ込んだ縄文土器片16点（深鉢）も出土している。168はP2、169はP3の抜き取り痕からそれぞれ出土している。

所見 規模や構造から屋としての機能が想定される。時期は、重複関係や出土土器から8世紀前葉から中葉と考えられる。



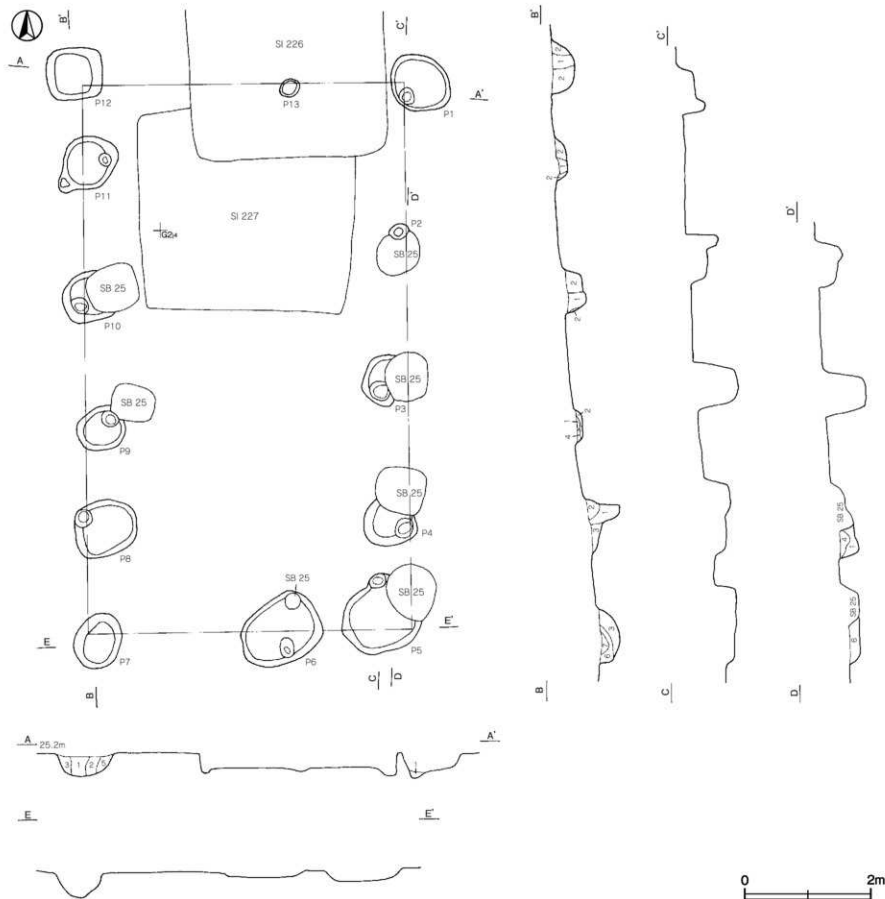
第94図 第24号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第24号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第94図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
168	土師器	坏	[14.4]	(3.7)	-	長石・雲母	灰褐	普通	体部外面へつளிり 内面横ナデ	P2 覆土中	10%
169	土師器	坏	[15.7]	(2.7)	-	長石・石英	明赤褐	普通	内面ナデ	P3 覆土中	5%

表10 奈良・平安時代掘立柱建物跡一覧表

番号	位置	桁行方向	柱間数		規模 (m)		面積 (㎡)	柱間寸法 (m)		柱穴 (cm)			出土遺物	備考
			桁間 × 梁間	桁間 × 梁間	桁間	梁間		構造	柱穴数	平面形	深さ			
23	G2j2	N-7'-W	3 × 2	6.6 × 4.2	27.72	2.4	2.4	側柱	10	円形・方形	9～46	縄文土器・土師器・須恵器・灰釉陶器	SI230→本跡	
24	G2j4	N-1'-W	5 × 2	8.7 × 5.1	44.37	1.8	1.8～3.3	側柱	13	円形・楕円形	10～54	縄文土器・土師器・須恵器	本跡→SI228・227・S25・PG5	



第 95 图 第24号掘立柱建物跡実測図

(3) 粘土採掘坑

今回の調査で、粘土採掘坑11基が確認されている。本跡群は、調査区南部の台地緩斜面部に位置しており、本跡群より南に住居跡は存在しない。これら土坑の平面形は大部分が不定形である。そのうち、第1・2・3・5・6・7・8号粘土採掘坑については文章で説明し、その他の採掘坑については、一覧表(表11)と実測図(第103・108図)を掲載するにとどめる。

第1号粘土採掘坑 (第96・97図)

位置 調査区南部のH2e3区で、標高23mの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第3号粘土採掘坑を掘り込み、第593・594・596号土坑、第6号ピット群に掘り込まれている。

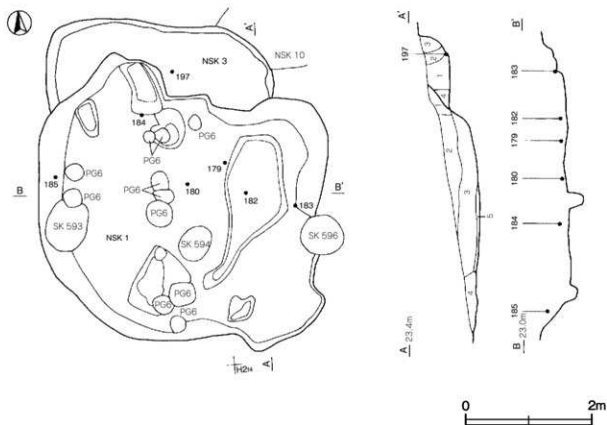
規模と形状 長軸5.25m、短軸4.86mの不定形で、長軸方向はN-29°-Wである。深さは15~48cmで、底面は5か所の落ち込みが確認できるが、ほぼ平坦である。確認面から約25cm下で黄色粘土層の上面が認められ、粘土層を20cmほど採掘している。壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 5層に分層できる。焼土ブロック・粘土ブロックを含み、不規則な堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|-------------------------------|--------------------------------------|
| 1 黒褐色 白色粒子・砂粒少量、焼土ブロック・炭化粒子微量 | 4 黒褐色 焼土ブロック・白色粒子少量、粘土ブロック・炭化粒子・砂粒微量 |
| 2 黒褐色 焼土ブロック多量 | 5 黒褐色 炭化物・焼土粒子・細礫少量 |
| 3 黒褐色 粘土ブロック・炭化物少量、焼土粒子微量 | |

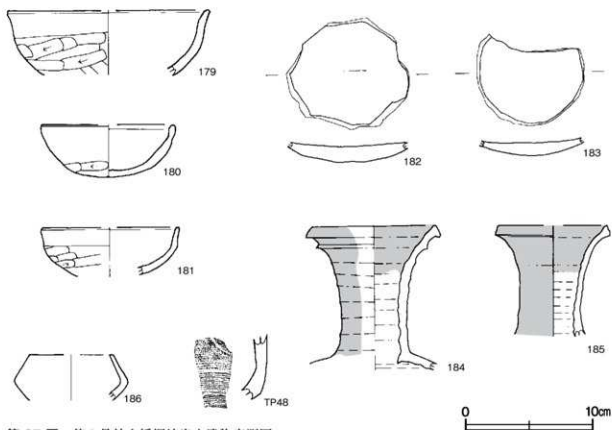
遺物出土状況 縄文土器片13点(深鉢)、土師器片1300点(坏類686・甕類614)、須恵器片75点(坏類26・蓋36・壺類2・甕類11)、灰軸陶器片12点(長頸壺10・長頸瓶2)が散在した状態で出土している。179・180は中央部の覆土下層、183は東部の覆土下層、182は東部の覆土中層、184は北部の覆土中層、185は西部の覆土上層。



第96図 第1・3号粘土採掘坑実測図

181・186・TP48は覆土中からそれぞれ出土している。182・183のように口縁部から体部が破砕され、底部を他に転用したと考えられる土師器坏が25点出土している。

所見 出土土器は、古墳時代後期から奈良時代前期のものが主体である。そのことから、採掘は同時期かそれ以前に始められたものと考えられる。また、土器は、その量及び出土状況から、粘土採掘終了後に投棄されたと考えられる。



第97図 第1号粘土採掘坑出土遺物実測図

第1号粘土採掘坑出土遺物観察表 (第97図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
179	土師器	坏	[15.8]	(5.0)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	体部外面へう削り 内面ナデ	覆土下層	40%
180	土師器	坏	[10.4]	4.1	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面へう削り 内面ナデ	覆土下層	40%
181	土師器	坏	[10.8]	(3.7)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	体部外面へう削り 内面ナデ	覆土中層	30%
182	土師器	坏	-	(1.5)	-	長石・石英・赤鉄子	橙	普通	体部外面へう削り	覆土中層	10%
183	土師器	坏	-	(1.4)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤黄	普通	体部外面へう削り	覆土下層	10%
184	灰輪陶器	長頸瓶	9.8	(11.3)	-	長石・細砂	黄灰	緻密	内・外面施釉	覆土中層	30% PL30
185	灰輪陶器	長頸瓶	[8.5]	(8.7)	-	長石・細砂	灰白	緻密	内・外面施釉	覆土上層	20% PL30
186	埴土器	無頸壺	[6.6]	(3.6)	-	長石・石英	黄灰	普通	ロケロ成形	覆土中層	10%
TP48	埴土器	甕瓶	-	(5.1)	-	長石・雲母	灰	普通	ロケロ成形	覆土中層	破片 PL33

第2号粘土採掘坑 (第98・99図)

位置 調査区南部のH 2e2区で、標高23mの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第592号土坑、第6号ピット群に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.60m、短軸2.66mの不定形で、長軸方向はN-38°-Wである。深さは40~60cmで、底面は平坦である。確認面から約30cm下で黄色粘土層の上面が認められ、粘土層を25cmほど採掘している。壁は外傾して立ち上がっている。

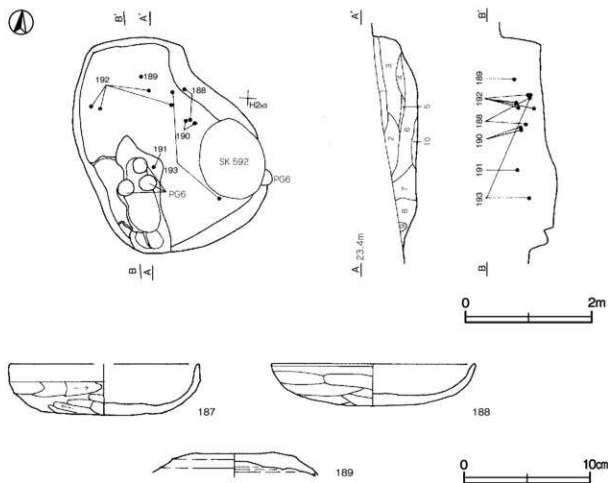
覆土 10層に分層できる。大半の層に炭化物を含み、不規則な堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

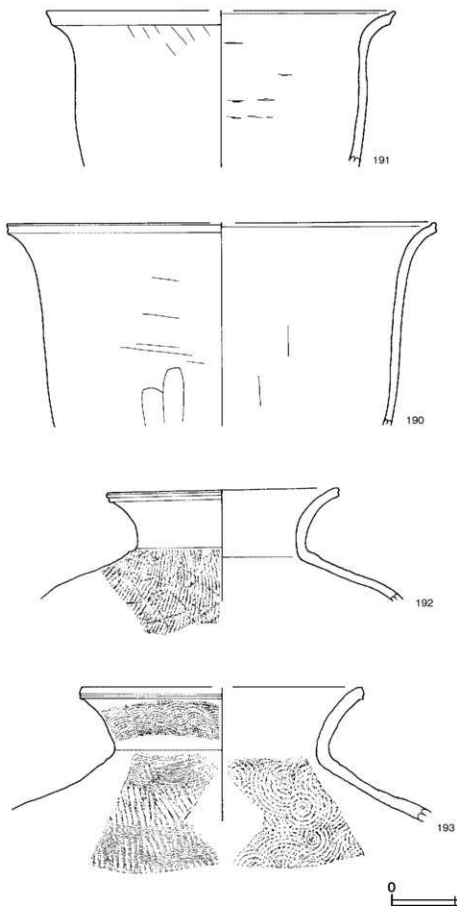
1 黒褐色 炭化物・焼土粒子少量、粘土粒子微量	6 黒褐色 炭化物・砂粒少量、焼土粒子微量
2 黒褐色 炭化物・焼土粒子・細礫少量	7 黒褐色 炭化物・焼土粒子・粘土粒子・砂粒・細礫微量
3 黒褐色 炭化物少量、焼土粒子微量	8 黒褐色 粘土ブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量
4 黒褐色 焼土ブロック多量	9 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
5 黒褐色 炭化物多量、焼土ブロック少量	10 黒褐色 粘土ブロック・炭化物少量、焼土粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片15点（深鉢）、土師器片800点（坏類291・皿1・壺3・甕類505）、須恵器片59点（坏類18・蓋28・甕類13）、灰釉陶器片2点（長頸瓶）、土製品1点（支脚）が散在した状態で出土している。189は北部の覆土上層、191は中央部の覆土上層、187は覆土中からそれぞれ出土している。190は中央部の覆土上層から出土した破片、192は西部の覆土上層から中央部の覆土中層にかけて出土した破片、193は東部の覆土上層から出土した破片、188は北東部の覆土中層から出土した破片がそれぞれ接合したものである。

所見 出土土器は、古墳時代後期から奈良時代前期のものが主体である。そのことから、採掘は同時期かそれ以前に始められたものと考えられる。また、土器は、その量及び出土状況から、粘土採掘終了後に投棄されたと考えられる。



第98図 第2号粘土採掘坑・出土遺物実測図



第 99 图 第 2 号粘土探掘坑出土遗物实测图

第2号粘土採掘坑出土遺物観察表（第98・99図）

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
187	土師器	坏	[14.8]	4.0	-	灰石・石英・赤色粒子	にぶい陶	普通	体部外面へラ削り 内面ナデ	覆土中	50%
188	土師器	坏	16.0	3.3	-	灰石・石英	灰陶	普通	体部外面へラ削り 内面ナデ	覆土中層	80%
189	須恵器	蓋	-	(1.9)	-	灰石・石英・赤色粒子	陶灰	普通	天弁部回転へラ削り	覆土上層	80%
190	土師器	甕	[34.0]	(15.9)	-	灰石・石英・雲母	にぶい陶	普通	内面へラナデ ヘラ当て痕	覆土上層	20%
191	土師器	甕	[17.4]	(12.2)	-	灰石・石英・雲母	にぶい黄陶	普通	ヘラ当て痕 輪轆痕	覆土上層	5%
192	須恵器	甕	18.1	(8.9)	-	灰石・石英・雲母	陶灰	普通	縦位の平行線文に菱形文を組み合わせた叩き	覆土上層-9層	20% PL32
193	須恵器	甕	[22.0]	(10.4)	-	灰石・石英	陶灰	普通	器身外面に7条1単位の輪轆状文、内面同心円文の当て具痕、器口縁位の平行叩き痕、叩き目	覆土上層	10% PL32

第3号粘土採掘坑（第96・100図）

位置 調査区南部のH2 d3区で、標高23mの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第10号粘土採掘坑を掘り込み、第1号粘土採掘坑に掘り込まれている。

規模と形状 南部を第1号粘土採掘坑に掘り込まれているため、東西軸は3.60mで、南北軸は1.10mしか確認できなかった。深さは38cmで、底面は平坦である。確認面から約13cmで黄色粘土層の上面が認められ、粘土層を25cmほど採掘している。壁は外傾して立ち上がっている。

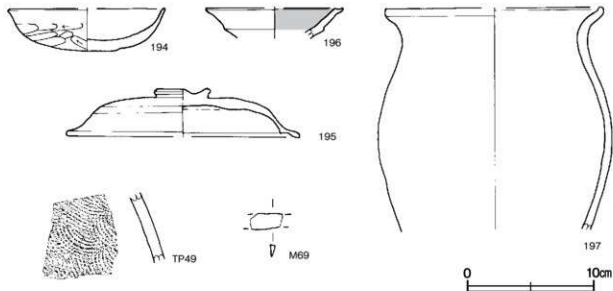
覆土 4層に分別できる。不規則な堆積状況から埋戻されている。

土層解説

- | | |
|-----------------------|------------------------|
| 1 黒褐色 焼土粒子・砂粒微量 | 3 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量 |
| 2 黒褐色 砂粒少量、炭化物・焼土粒子微量 | 4 黒褐色 砂粒少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |

遺物出土状況 縄文土器片9点（深鉢）、土師器片1136点（坏類438・甕類698）、須恵器片65点（坏類30・蓋2・甕類8・長頸瓶1）、灰陶陶器片7点（長頸瓶）、土製品4点（支脚）、鉄製品1点（不明鉄製品）が散在した状態で出土している。197は覆土下層、194・195・196・TP49・M69は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 出土土器は、古墳時代後期から奈良時代前期のものが主体である。そのことから、採掘は同時期かそれ以前に始められたものと考えられる。また、土器は、その量及び出土状況から、粘土採掘終了後に投棄されたと考えられる。



第100図 第3号粘土採掘坑出土遺物実測図

第3号粘土採掘坑出土物観察表 (第100図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴はか	出土位置	備考
194	土師器	坏	[123]	3.4	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部外面へラ振り 内面ナデ	覆土中層	80%
195	須恵器	蓋	[134]	(3.8)	-	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	天井部回転へラ振り つまみ取り付け	覆土中	70%
196	灰胎陶器	瓦蓋瓶	[109]	(2.4)	-	長石・黒色粒子・細砂	灰白	緻密	内面施釉	覆土中	5%
197	土師器	甕	[169]	(17.5)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	内面ナデ	覆土下層	40% PL31
TP49	須恵器	甕	-	(5.5)	-	長石・石英・赤色粒子	黄灰	普通	外面同心円文の叩き	覆土中	破片 PL33

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M69	刀子	(2.6)	1.3	0.4	(3.0)	鉄	端部欠損 断面三角形	覆土中	PL34

第5号粘土採掘坑 (第101・102図)

位置 調査区南部のH2d3区で、標高23mの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第10号粘土採掘坑を掘り込み、第6号ピット群に掘り込まれている。

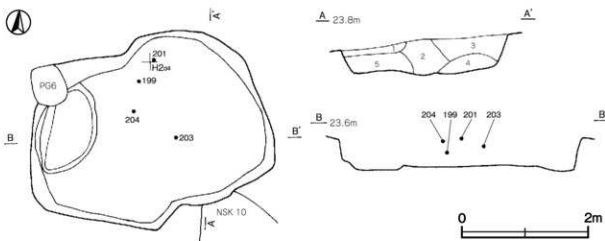
規模と形状 長軸3.94m、短軸2.80mの不定形で、長軸方向はN-67°-Eである。深さは35~51cmで、西部下位に段を有している。確認面から約25cm下で黄色粘土層の上面が認められ、粘土層を25cmほど採掘している。壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 5層に分層できる。大半の層に粘土ブロックを含み、不規則な堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

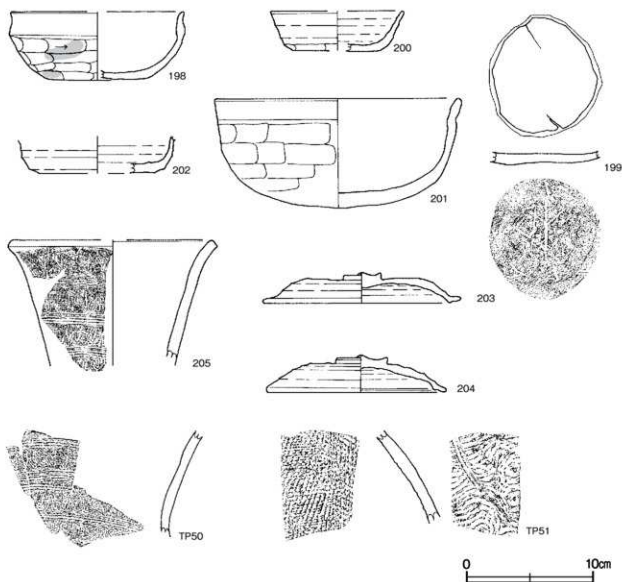
- | | |
|-----------------------------------|----------------------------------|
| 1 黒褐色 焼土ブロック・炭化物少量、ロームブロック・粘土粒子微量 | 4 黒褐色 ロームブロック・粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 焼土ブロック中量、粘土ブロック・炭化粒子微量 | 5 黒褐色 粘土ブロック中量、焼土ブロック少量、炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 焼土ブロック中量、粘土ブロック・炭化物粒子少量 | |

遺物出土状況 縄文土器片21点(深鉢)、土師器片897点(坏類386・皿6・甕類505)、須恵器片68点(坏類41・蓋13・壺3・甕類11)、土製品1点(支脚)が散在した状態で出土している。199は北部の覆土中層、201は北部の覆土上層、203・204は中央部の覆土上層、198・200・202・205・TP50・TP51は覆土中からそれぞれ出土している。第1号粘土採掘坑と同様に、口縁部から体部が破砕され、底部を他に転用したと考えられる土師器坏が14点出土している。



第101図 第5号粘土採掘坑実測図

所見 出土土器は、奈良時代前期のものが主体である。そのことから、探掘は同時期かそれ以前に始められたものと考えられる。また、土器は、その量及び出土状況から、粘土探掘終了後に投棄されたと考えられる。



第 102 図 第 5 号粘土探掘坑出土遺物実測図

第 5 号粘土探掘坑出土遺物観察表 (第102図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴はか	出土位置	備考
198	土師器	杯	[13.4]	5.3	[8.0]	長石・石英・赤色砂子	橙	普通	体部外面へラ削り 赤彩痕 内面ナデ	覆土中	40% PL31
199	土師器	杯	-	(0.9)	3.7	長石・石英・赤色砂子	橙	普通	底部木葉痕	覆土上層	30%
200	須恵器	杯	[10.3]	3.1	[7.0]	長石・石英・黒色砂子	灰黄	普通	体部下端手持ちへラ削り 底部回転へラ切り	覆土中	25%
201	土師器	碗	19.2	8.6	-	長石・石英・赤色砂子	橙	普通	体部外面へラ削り 内面ナデ	覆土上層	50% PL31
202	須恵器	碗	-	(2.9)	[10.6]	長石・石英	灰	普通	底部回転へラ切り痕を残す	覆土中	25%
203	須恵器	蓋	15.6	2.4	-	長石・石英	灰白	普通	天弁部回転へラ削り つまみ貼り付け	覆土上層	75% PL31
204	須恵器	蓋	13.9	2.9	-	長石・石英・雲母	灰白	普通	天弁部回転へラ削り つまみ貼り付け	覆土上層	75% PL31
205	須恵器	壺	[15.8]	(9.8)	-	長石・石英・雲母	黄灰	普通	胴部外面に2条1単位の櫛歯状文	覆土中	5% TP50と同一層位
TP50	須恵器	壺	-	(8.2)	-	長石・石英・雲母	黄灰	普通	胴部外面に3条1単位の櫛歯状文	覆土中	破片 PL33 205と同一層位
TP51	須恵器	甕	-	(7.2)	-	長石・石英	灰	普通	外面櫛格子状の押き 内面同心円文の当て具痕	覆土中	破片 PL33

第6号粘土探掘坑 (第103・104図)

位置 調査区南部のH2e4区で、標高23mの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第8・11号粘土探掘坑、第596号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.15m、短軸2.20mの長方形で、長軸方向はN-7°-Eである。深さは20~68cmで、底面は西部下位に段を有している。確認面から約13cm下で黄色粘土層の上面が認められ、粘土層を10~18cm採掘している。壁は外傾して立ち上がっている。

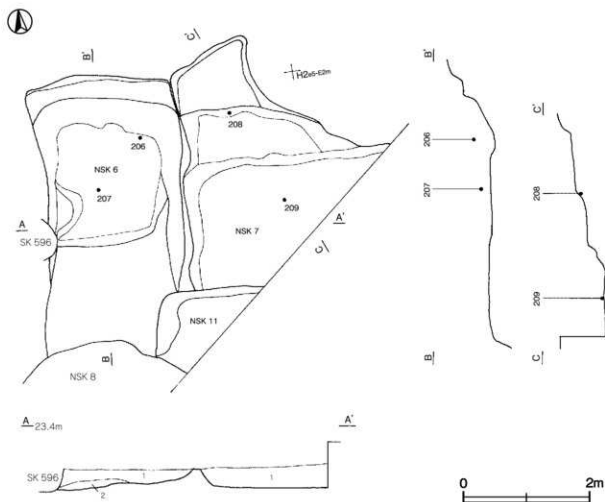
覆土 2層に分層できる。不規則な堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

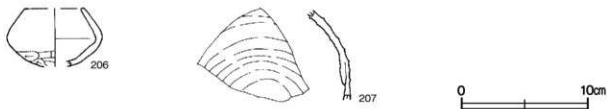
- 1 黒褐色 粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 2 暗灰黄色 砂粒多量

遺物出土状況 縄文土器片8点(深鉢), 土師器片333点(坏類170・甕類163), 須恵器片18点(坏類7・蓋6・壺1・提瓶1・甕類3), 灰軸陶器片3点(長頸瓶), 土製品2点(支脚), 鉄製品1点(不明鉄製品)が散在した状態で出土している。206・207は中央部の覆土中層からそれぞれ出土している。

所見 出土土器は、古墳時代後期から奈良時代前期のものが主体である。そのことから、探掘は同時期かそれ以前に始められたものと考えられる。また、土器は、その量及び出土状況から、粘土探掘終了後に投棄されたと考えられる。



第103図 第6・7・11号粘土探掘坑実測図



第104図 第6号粘土採掘坑出土遺物実測図

第6号粘土採掘坑出土遺物観察表 (第104図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法的特徴ほか	出土位置	備考
206	須恵器	無蓋壺	[4.8]	(4.5)	-	長石・石英	灰黄褐	普通	体基下端へウ張り	覆土中層	30%
207	須恵器	提瓶	-	(7.0)	-	長石・石英・細砂	黄灰	普通	体部内・外面コロナア 胎土円板貼り付け後、ナデ	覆土中層	5%

第7号粘土採掘坑 (第103・105図)

位置 調査区南部のH 2 e5区で、標高23mの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第11号粘土採掘坑に掘り込まれている。

規模と形状 南部が調査区域外であるため、南北軸は3.95mで、東西軸3.30mしか確認できなかった。長軸方向がN-14°-Eの不定形と推測できる。深さは18~66cmで、底面は北部から1.12m、1.91mの位置に段を有している。確認面から約15cm下で黄色粘土層の上面が認められ、粘土層を20cmほど採掘している。壁は外傾して立ち上がっている。

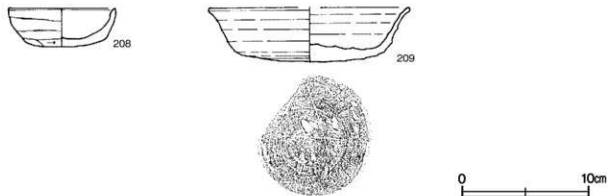
覆土 単一層であることと、含有物から埋め戻されている。

土層解説

- 1 黒 褐 色 炭化物多量、焼土ブロック・砂粒少量

遺物出土状況 縄文土器片7点(深鉢)、土師器片623点(坏類288・甕類335)、須恵器片37点(坏類14・蓋10・甕類13)、灰軸陶器片5点(長頸瓶)が散在した状態で出土している。208は北部の覆土中層、209は南部の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 出土土器は、奈良時代前期のものが主体である。そのことから、採掘は同時期かそれ以前に始められたものと考えられる。また土器は、その量及び出土状況から、粘土採掘終了後に投棄されたと考えられる。



第105図 第7号粘土採掘坑出土遺物実測図

第7号粘土探掘坑出土遺物観察表 (第105図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴はか	出土位置	備考
208	土師器	坏	8.2	3.0	3.7	灰・赤色粒子・黄色粒子	にぶい橙	普通	体部外面へウ張り 内面ナデ 輪轆痕	覆土下層	98% PL31
209	須恵器	坏	[15.6]	4.3	9.5	長石・石英・雲母	褐灰	普通	底部回転へウ切り	覆土下層	60% PL31

第8号粘土探掘坑 (第106・107図)

位置 調査区南部のH24区で、標高23mの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第6・9・11号粘土探掘坑を掘り込んでいる。

規模と形状 南部が調査区域外であるため、東西径は3.50mで、南北径は1.87mだけ確認できた。形状から円形と推測できる。深さは35cmで、底面は平坦である。確認面から約20cm下で黄色粘土層の上面が認められ、粘土層を15cmほど採掘している。壁は外傾して立ち上がっている。

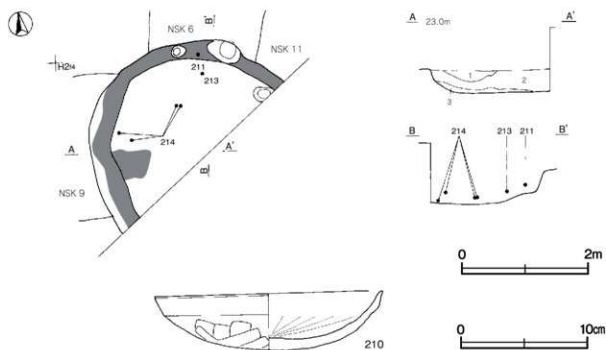
覆土 3層に分層できる。焼土ブロック・炭化粒子を含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

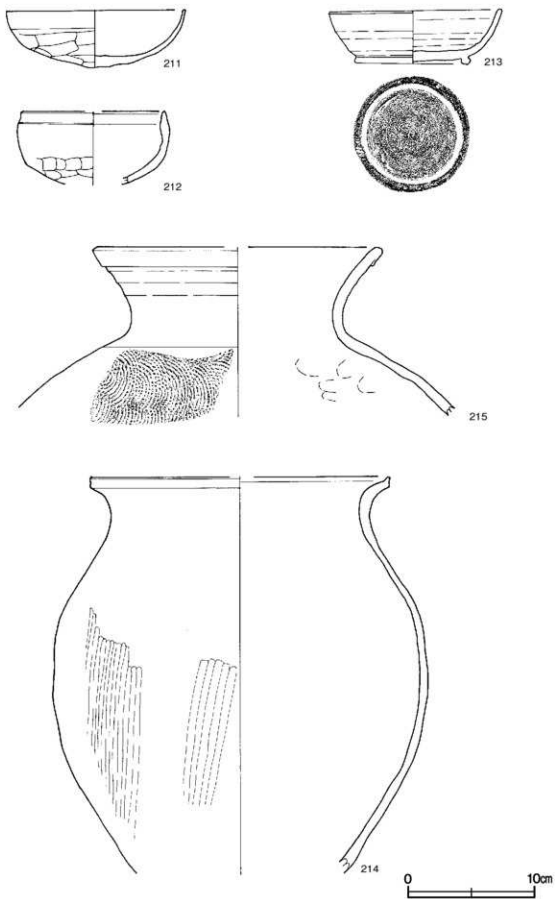
- 1 黒褐色 焼土ブロック中量、炭化粒子・砂粒微量 3 黒褐色 砂粒少量、焼土粒子・炭化粒子微量
2 黒褐色 焼土ブロック・炭化物少量

遺物出土状況 縄文土器片4点(深鉢), 土師器片513点(坏類144・甕類369), 須恵器片60点(坏類17・蓋2・甕類21), 灰軸陶器片5点(長頸瓶)が散在した状態で出土している。211・213は北部の覆土中層, 210・212・215は覆土中からそれぞれ出土している。214は西部の覆土中層から中央部の覆土下層にかけて出土した破片が接合したものである。

所見 出土土器は、奈良時代前期のものが主体である。そのことから、探掘は同時期かそれ以前に始められたものと考えられる。また、土器は、その量及び出土状況から、粘土探掘終了後に投棄されたと考えられる。



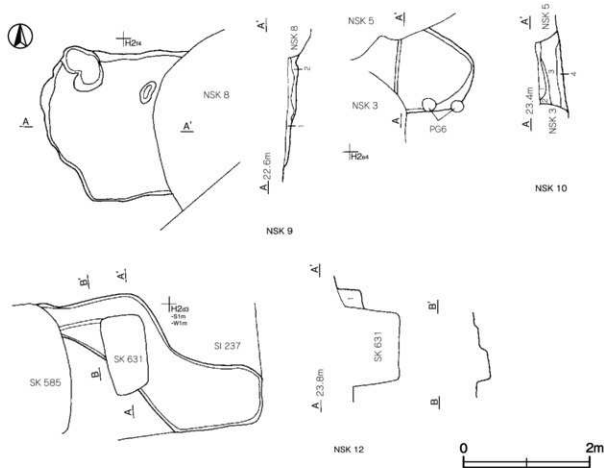
第106図 第8号粘土探掘坑・出土遺物実測図



第 107 图 第 8 号粘土探掘坑出土遗物实测图

第8号粘土探掘坑出土遺物観察表 (第106・107図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
210	土師器	坏	18.1	4.6	-	長石・石英・雲母	にんい赤褐色	普通	体部外面へウ磨り 内面放射状の暗文	覆土中	75% PL32
211	土師器	坏	14.2	4.5	-	長石・石英	赤褐色	普通	体部外面へウ磨り 内面ナゲ	覆土中層	85% PL32
212	土師器	坏	[11.2]	(5.7)	-	長石・雲母・赤色粒子	赤	普通	体部外面へウ磨り 内面ナゲ	覆土中	30% PL32
213	須恵器	高台付坏	13.6	4.4	9.2	長石・石英	明褐色	普通	底部回転へウ切り後、高台貼り付け	覆土中層	80% PL32
214	土師器	甕	[23.8]	(31.3)	-	長石・石英・雲母	明褐色	普通	体部外面へウ磨き	覆土中層	30% PL31
215	須恵器	甕	[22.2]	(13.4)	-	長石・石英	褐色	普通	体部同心円文状の叩き 磨面痕	覆土中	10% PL32



第108図 第9・10・12号粘土探掘坑実測図

第9号粘土探掘坑土層解説

1 黒褐色 焼土ブロック・炭化物少量

2 黒褐色 砂粒少量、焼土粒子・炭化粒子微量

第10号粘土探掘坑土層解説

1 黒褐色 焼土ブロック・炭化物少量、ロームブロック・粘土粒子微量

3 オリーブ色 砂粒多量、黒色粒子微量

2 暗褐色 砂粒中量、焼土ブロック少量

4 暗オリーブ色 砂粒多量

第12号粘土探掘坑土層解説

1 黒褐色 粘土ブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量

表11 粘土採掘坑一覧表

番号	位置	平面形	長軸(方位)	規模 (m, 深さはcm)			壁面	底面	覆土	出土遺物	備考 新旧陶器 (古→新)
				長軸(長) × 短軸(短)	深さ						
1	H 2e3	不定形	N-29°-W	5.25 × 4.86	15-48	緩斜	平坦	人為	縄文土器・土師器・須恵器・灰輪陶器	NSK 3→本跡→SK590-594-596-PG6	
2	H 2e2	不定形	N-38°-W	3.60 × 2.66	40-60	外傾	平坦	人為	縄文土器・土師器・須恵器・灰輪陶器・土製品	本跡→SK592・PG6	
3	H 2d3	不明	-	3.60 × (1.10)	38	外傾	平坦	人為	縄文土器・土師器・須恵器・灰輪陶器・土製品・表製品	NSK11→本跡→NSK1	
5	H 2d3	不定形	N-67°-E	3.94 × 2.80	35-51	外傾	有段	人為	縄文土器・土師器・須恵器	NSK10→本跡→PG6	
6	H 2e4	[長方形]	N-7°-E	(4.15) × 2.20	20-68	外傾	有段	人為	縄文土器・土師器・須恵器・灰輪陶器・土製品・表製品	本跡→NSK8・11・SK596	
7	H 2e5	[不定形]	N-14°-E	(3.95) × (3.30)	18-66	外傾	有段	人為	縄文土器・土師器・須恵器・灰輪陶器	本跡→NSK11	
8	H 2f4	[円形]	-	3.50 × (1.87)	35	外傾	平坦	人為	縄文土器・土師器・須恵器・灰輪陶器	NSK6・9・11→本跡	
9	H 2d3	不定形	N-0°	2.37 × (1.85)	5-17	緩斜	平坦	人為		本跡→NSK8	
10	H 2d4	不明	-	1.35 × (1.20)	40	-	平坦	人為	土師器・須恵器	本跡→NSK3・5・PG6	
11	H 2e4	不明	-	(1.40) × (1.25)	-	-	-	人為	縄文土器・土師器・須恵器	NSK6・7→本跡→NSK8	
12	H 2d2	不定形	N-62°-W	(4.00) × (1.10)	35	直立	平坦	人為	土師器	SI237→本跡→SK585・631	

(4) 土坑

第613号土坑 (第109図)

位置 調査区西部のH 1 a0区で、標高24mの台地緩斜面部に位置している。

規模と形状 長軸1.25m、短軸0.84mの隅丸長方形で、長軸方向はN-82°-Wである。深さは25cmで、底面は平坦である。壁は、外傾して立ち上がっている。

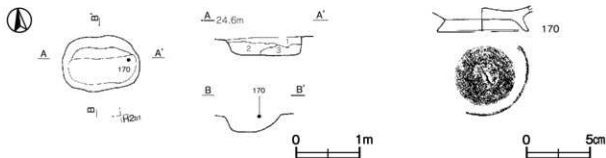
覆土 3層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量 3 褐色 ロームブロック多量、炭化物少量
2 黒褐色 ロームブロック多量、焼土ブロック・炭化物少量

遺物出土状況 土師器片14点(坏7・高台付坏1・甕類6)、須恵器片2点(蓋・甕)のほか、縄文土器片2点が出土している。170は東部の覆土上層から出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀後葉に比定できる。



第109図 第613号土坑・出土遺物実測図

第613号土坑出土遺物観察表 (第109図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴はか	出土位置	備考
170	土師器	高台付坏	-	(1.9)	[7.0]	長石・石英・雲母 にふい赤褐	普通	底部回転切り後、高台貼り付け	内面へラ磨き	覆土上層	

第619号土坑（第110図）

位置 調査区南部のH 2 d3区で、標高23mの台地緩斜面部に位置している。

規模と形状 長径1.49m、短径1.05mの楕円形で、長径方向はN-83°-Eである。深さは50cmで、底面は平坦である。壁は、直立している。

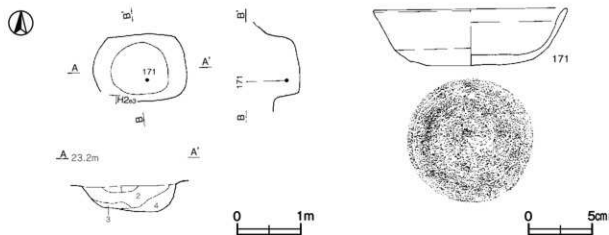
覆土 4層に分層できる。粘土ブロックや炭化物が含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|-----------------------|------------------------------|
| 1 黒褐色 炭化物・山砂少量、焼土粒子微量 | 3 暗褐色 粘土ブロック・炭化物・山砂少量、焼土粒子微量 |
| 2 黒褐色 粘土ブロック・炭化物・山砂少量 | 4 褐色 粘土ブロック少量、焼土粒子・炭化物粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片59点（坏33・甕類26）、須恵器片8点（坏2・蓋3・甕類3）、灰釉陶器片1点（長頸瓶）が出土している。171は中央部の覆土中層から出土している。

所見 時期は、出土土器から8世紀前半に比定できる。



第110図 第619号土坑・出土遺物実測図

第619号土坑出土遺物観察表（第110図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
171	須恵器	坏	15.3	4.5	30.0	炭石・石英・雲母	褐灰	普通	底部回転ヘウ切り	覆土中層	80% PL32

第621号土坑（第111図）

位置 調査区北東部のG 2 i5区で、標高25mの台地緩斜面部に位置している。

規模と形状 長径0.51m、短径0.48mの円形である。深さは12cmで、底面は平坦である。壁は、外傾して立ち上がっている。

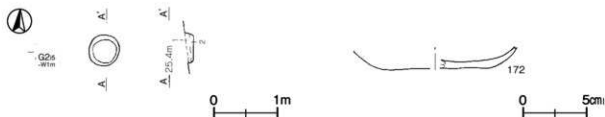
覆土 2層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|-----------------------|----------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック少量、炭化物微量 | 2 褐色 ロームブロック中量 |
|-----------------------|----------------|

遺物出土状況 土師器片7点（坏3・甕類4）が出土している。172は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から8世紀前半と考えられる。



第111図 第621号土坑・出土遺物実測図

第621号土坑出土遺物観察表(第111図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
172	土師器	坏	-	(1.3)	[R2]	細砂	にぶい黄褐	普通	体部外面へう削り 内面ナデ	覆土中	5%

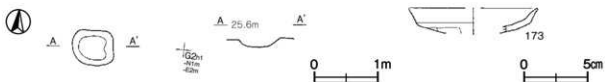
第632号土坑(第112図)

位置 調査区北西部のG2g1区で、標高25mの台地緩斜面部に位置している。

規模と形状 長軸0.65m、短軸0.55mの長方形で、長軸方向はN-85°-Eである。深さは13cmで、底面は皿状である。壁は、緩やかに立ち上がっている。

遺物出土状況 土師器片5点(坏)が出土している。173は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から8世紀前半と考えられる。



第112図 第632号土坑・出土遺物実測図

第632号土坑出土遺物観察表(第112図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
173	土師器	坏	[R2]	(2.0)	-	灰石・炭母・黒色粒子	赤褐	普通	体部外面へう削り 内面ナデ	覆土中	5%

第638号土坑(第113図)

位置 調査区東部のH2a6区で、標高24mの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第233号住居に掘り込まれている。

規模と形状 長径0.58m、短径0.55mの円形である。深さは50cmで、底面は皿状である。壁は、直立している。

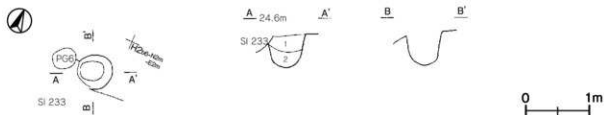
覆土 2層に分層できる。ロームブロック・粘土ブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 2 褐色 粘土ブロック中量、炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片14点(坏6・甕類8)、須恵器片1点(坏)が出土している。細片で図示できない。

所見 時期は、重複関係や出土土器から8世紀代と考えられる。



第113図 第638号土坑実測図

表12 奈良・平安時代土坑一覧表

番号	位置	平面形	長径方向	規模 (m, 深さはcm)		壁面	底面	覆土	出土遺物	備考 新旧関係 (古→新)
				長径(軸) × 短径(軸)	深さ					
613	H 1 a0	隅丸長方形	N-82°-W	1.25 × 0.84	25	外傾	平坦	人為	縄文土器・土師器・須恵器	
619	H 2 d3	楕円形	N-83°-E	1.49 × 1.05	50	直立	平坦	人為	土師器・須恵器・灰陶器	
621	G 2 g5	円形	-	0.51 × 0.48	12	外傾	平坦	人為	土師器	
632	G 2 g1	長方形	N-85°-E	0.65 × 0.35	13	緩斜	皿状	-	土師器	
638	H 2 a6	円形	-	0.58 × 0.35	50	直立	皿状	人為	土師器・須恵器	本跡→SI233

3 その他の遺構と遺物

今回の調査で、古墳時代から平安時代の遺構のほか、年代が明らかでない遺構として掘立柱建物跡2棟、溝跡2条、土坑60基、ピット群3か所が確認されている。以下、それらの遺構と遺物について記述する。

(1) 掘立柱建物跡

第25号掘立柱建物跡 (第114図)

位置 調査区中央部のG 2 j4区で、標高24mの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第227号住居跡、第24号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。

規模と構造 桁行3間、梁行2間の隅柱建物跡で、桁行方向がN-6°-Wの南北棟である。規模は、桁行5.40m、梁行4.20mで、面積は22.68㎡である。柱間寸法は、桁行が1.8m (6尺)、梁行が2.1m (7尺)を基調とし、均等に配置されている。柱筋はほぼ揃っている。

柱穴 10か所。平面形は円形または楕円形で、深さは18~70cmである。土層は、第1~3層が柱抜き取り痕で、第4・5層は埋土である。

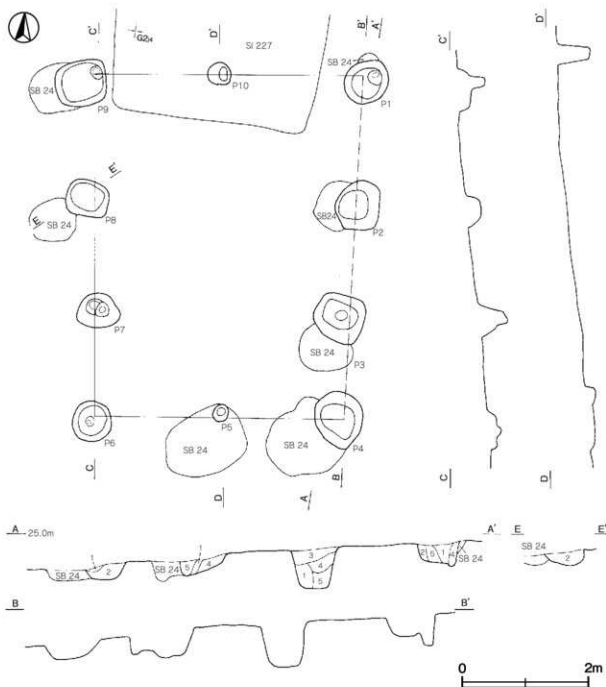
土層解説 (各柱穴共通)

- 1 極暗褐色 ローム粒子・粘土粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子少量
- 3 黒褐色 粘土粒子中量、焼土粒子微量

- 4 褐色 ロームブロック中量、粘土粒子少量
- 5 暗褐色 ロームブロック・粘土粒子中量、焼土粒子少量

遺物出土状況 土師器片2点(坏・甕)が出土している。細片のため図示できない。

所見 規模や構造から屋としての機能が想定される。時期は、出土土器が細片のため不明であるが、中世と考えられる。



第114図 第25号掘立柱建物跡実測図

第26号掘立柱建物跡 (第115図)

位置 調査区東部のG 2j5区で、標高25mの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第606号土坑、第4号ピット群を掘り込んでいる。

規模と構造 桁行2間、梁行1間の側柱建物跡で、桁行方向がN-89°-Eの東西棟である。規模は、桁行4.20m、梁行2.70mで、面積は11.34㎡である。柱間寸法は、桁行2.1m(7尺)、梁行2.7m(9尺)で均等に配置されている。柱筋はほぼ揃っている。

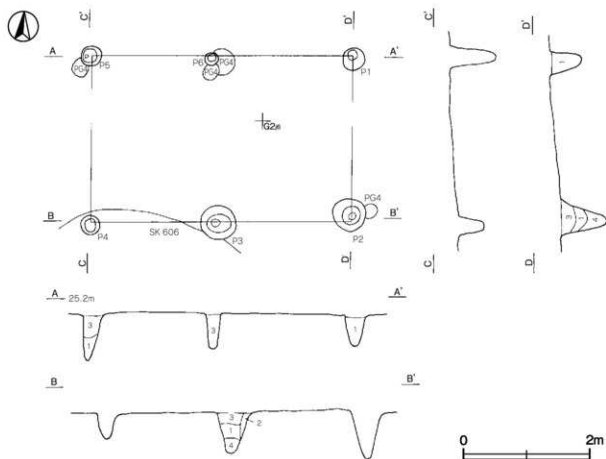
柱穴 6か所。平面形は円形で、深さは40~78cmである。土層は、第1~4層が柱抜き取り痕である。

土層解説 (各柱穴共通)

- | | |
|-----------------|-------------------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック中量 | 3 極暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック少量 | 4 極暗褐色 ロームブロック多量 |

遺物出土状況 土師器片10点(坏6・甕4)、須恵器片1点(蓋)が出土している。細片で図示できない。

所見 出土土器が細片のため不明であるが、時期は中世と考えられる。



第115図 第26号掘立柱建物跡実測図

表13 時期不明掘立柱建物跡一覧表

番号	位置	桁行方向	柱間数		規模(m)		面積(m ²)	柱間寸法(m)		柱穴 (cm)			出土遺物	備考 新旧関係(古→新)
			桁間×梁間	桁間×梁間	桁間	梁間		構造	柱穴数	平面形	深さ			
25	G2J4	N-6°-W	3×2	5.4×4.2	22.68	1.8	2.1	竪柱	10	円形・楕円形	18~70	土師器	SI227・SI234 →本跡	
26	G2J5	N-89°-E	2×1	4.2×2.7	11.34	2.1	2.7	竪柱	6	円形	40~78	土師器・須恵器	SK606・PG4 →本跡	

(2) 溝跡

今回の調査で、時期不明の溝跡2条が確認されている。以下、それらの遺構と遺物について記述する。

第24号溝跡 (第64・116・117図)

位置 調査区北部のG 2h1～G 2g7区で、標高25mの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第229・230号住居跡を掘り込み、第572・607・642号土坑、第4号ピット群に掘り込まれている。

規模と形状 G 2h1区から北東方向(N-73°-E)へ直線的に延び、G 2g7区で調査区域外となっている。

東側部分は平成12年度の調査区域であるが、前回調査では確認されていない。確認された長さは25.35mで、上幅0.74～2.04m、下幅0.10～0.47m、深さ30～46cmである。断面形は弧状を呈し、壁は緩やかに立ち上がっている。

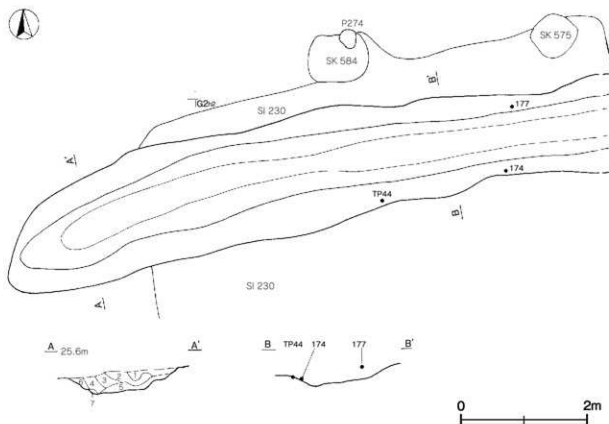
覆土 7層に分層できる。大半の層にロームブロックを含み、堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

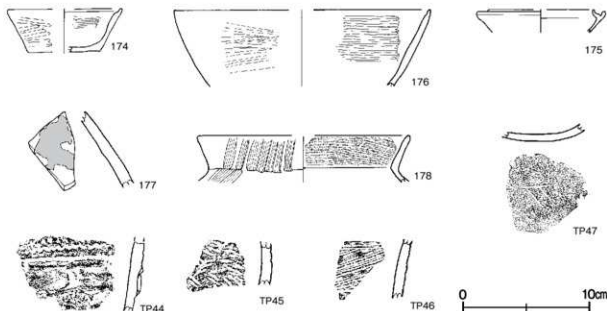
1	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	5	褐色	ロームブロック多量、焼土粒子微量
2	黒褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	6	褐色	ロームブロック少量
3	黒褐色	ロームブロック・焼土粒子微量	7	褐色	ローム粒子中量、炭化粒子微量
4	暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量			

遺物出土状況 縄文土器片35点(深鉢)、土師器片255点(坏類253・甕類2)、須恵器片36点(坏類16・蓋1・甕類19)、灰釉陶器片2点(長頸壺)が出土している。174は覆土中層、177・TP44は覆土上層、175・176・178・TP45～47は覆土中からそれぞれ出土している。いずれも埋め戻された際の混入と考えられる。

所見 覆土は埋め戻されているが、時期・性格ともに不明である。



第116図 第24号溝跡実測図



第117図 第24号溝跡出土遺物実測図

第24号溝跡出土遺物観察表（第117図）

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法的特徴ほか	出土位置	備考
174	土師器	坏	[90]	(3.4)	[5.6]	長石・石英	にぶい赤褐	普通	体部内・外面へラ磨き	覆土中層	30%
175	須恵器	坏身	[10.2]	(1.8)	-	長石・細砂	黄灰	普通	ロケロ成形	覆土中	5%
176	土師器	鉢	[20.4]	(6.1)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部内・外面へラ磨き	覆土中	10%
177	灰輪陶器	笠	-	(6.2)	-	細砂	黄灰	緻密	内・外面施軸	覆土上層	5%
178	土師器	甕	[16.8]	(3.8)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	内・外面ハケ目調整	覆土中	5%
TP44	縄文土器	深鉢	-	(5.5)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	断面三角形の発帯部に1条の角押文 流状沈線文	覆土上層	破片 P1.33
TP45	縄文土器	深鉢	-	(3.4)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	具段復線文	覆土中	破片 P1.33
TP46	縄文土器	深鉢	-	(4.7)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	手織竹管による沈線文	覆土中	破片 P1.33
TP47	土師器	坏	-	(1.4)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部外面へラ磨り 底部木葉痕	覆土中	破片 P1.33

第25号溝跡（第64・118図）

位置 調査区中央部のH2c2～H2b5区で、標高24mの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第617号土坑、第6号ピット群に掘り込まれている。

規模と形状 H2c2区から北東方向（N-76°-E）へ直線的に延びているが、覆土が薄いため全体の規模は不明である。確認された長さは13.8mで、上幅0.35～0.71m、下幅0.12～0.26m、深さ4～6cmである。断面形は浅いU字状を呈し、壁は緩やかに立ち上がっている。

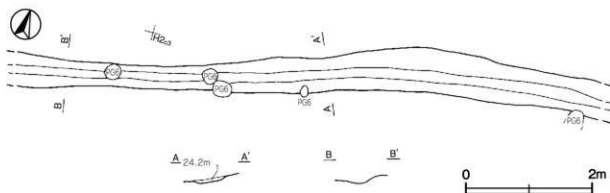
覆土 単一層で層厚が薄く、堆積状況は不明である。

土層解説

- 1 黒 褐色 焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量

遺物出土状況 土師器片4点（坏類2・甕類2）が出土している。細片のため図示できない。

所見 時期・性格ともに不明である。



第118図 第25号溝跡実測図

表14 時期不明溝跡一覧表

番号	位置	方向	断面形	規模 (m, 深さ12cm)				壁面	底面	覆土	出土遺物	備考 新旧関係(古→新)
				長さ	上幅	下幅	深さ					
24	G 2 b1-G 2 g7	N-73°-E	弧状	(25.35)	0.74~2.04	1.10~0.47	30~46	外傾	平坦	人為	縄文土器・土師器・須恵器・須恵陶器	SI229-230→本跡→SK572-607-642-PG 4
25	H 2 c2-H 2 b5	N-76°-E	U字形	(13.8)	0.35~0.71	0.12~0.26	4~6	緩斜	平坦	不明	土師器	本跡→SK617-PG 6

(3) 土坑

今回の調査で、時期不明の土坑60基が確認されている。そのうち、第581・587・588・592・596・606・607・609号土坑については文章で説明し、その他の土坑については、一覧表(表15)と実測図(第128~131図)を掲載するとともに定める。

第581号土坑 (第119図)

位置 調査区北西部のG 1 i0区で、標高25mの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第225・231号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸2.25m、短軸1.20mの長方形で、長軸方向はN-73°-Eである。深さは20~30cmで、底面は皿状である。壁は緩やかに立ち上がっている。

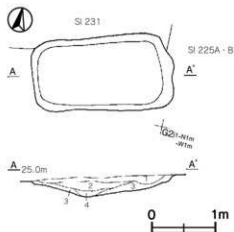
覆土 4層に分層できる。大半の層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子微量
- 2 極暗褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック微量
- 3 黒褐色 ロームブロック中量
- 4 暗褐色 ロームブロック多量

遺物出土状況 縄文土器片3点、土師器片26点(坏類18・甕類8)、須恵器片1点(甕)が、覆土中から出土している。細片のため図示できない。

所見 覆土は埋め戻されているが、時期・性格ともに不明である。



第119図 第581号土坑実測図

第587号土坑 (第120図)

位置 調査区東部のH 2c6区で、標高24mの台地緩斜面部に位置している。

規模と形状 長径1.72m, 短径1.16mの楕円形で、長径方向はN-65°-Wである。深さは22cmで、底面は平坦である。壁は緩やかに立ち上がっている。

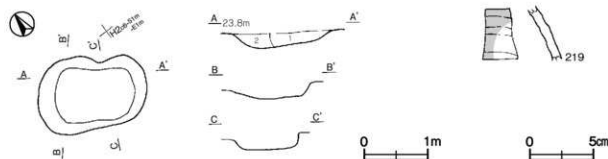
覆土 2層に分層できる。粘土ブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

- 1 黒褐色 焼土ブロック少量、粘土ブロック・炭化粒子微量
2 黒褐色 粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片4点(深鉢), 土師器片50点(坏類21・甕類29), 須恵器片3点(坏類2・甕類1), 灰軸陶器片1点(長頸瓶)が出土している。219は覆土中から出土している。

所見 覆土は埋め戻されているが、時期・性格ともに不明である。



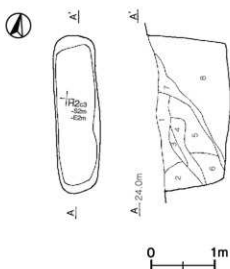
第120図 第587号土坑・出土遺物実測図

第587号土坑出土遺物観察表 (第120図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴はか	出土位置	備考
219	灰軸陶器	長頸瓶	-	(41)	-	石英・細砂	灰白	緻密	外面施釉	覆土中	5%

第588号土坑 (第121図)

位置 調査区中央部のH 2c3区で、標高24mの台地緩斜面部に位置している。



規模と形状 長軸2.51m, 短軸0.70mの長方形で、長軸方向はN-8°-Wである。深さは117cmで、底面は平坦である。壁は直立している。

覆土 8層に分層できる。粘土ブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

- 1 黒褐色 粘土ブロック・焼土粒子微量
2 黄褐色 粘土粒子・砂粒中量
3 黒褐色 粘土ブロック多量、焼土粒子微量
4 黒褐色 粘土ブロック少量、炭化物・焼土粒子微量
5 オリーブ褐色 粘土ブロック多量、焼土ブロック・炭化粒子微量
6 灰オリーブ色 粘土ブロック多量、砂粒少量、焼土ブロック微量
7 黒褐色 焼土ブロック・粘土ブロック・炭化物微量
8 オリーブ褐色 粘土ブロック中量、砂粒少量、焼土粒子微量

第121図 第588号土坑実測図

遺物出土状況 土師器片2点(坏・甕)が出土している。細片のため図示できない。

所見 覆土は埋め戻されているが、時期・性格ともに不明である。

第592号土坑 (第122図)

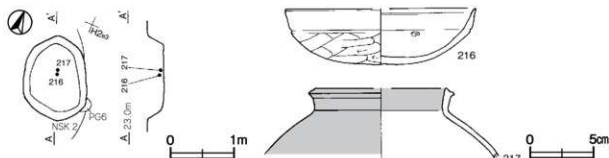
位置 調査区南部のH2e2区で、標高23mの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第2号粘土採掘坑、第6号ピット群を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.32m、短径1.02mの楕円形で、長径方向はN-23°-Wである。深さは25cmで、底面は平坦である。壁は外傾して立ち上がっている。

遺物出土状況 縄文土器片2点、土師器片102点(坏類28・甕類74)、須恵器片6点(坏類4・蓋1・甕1)、灰釉陶器片4点(長頸壺3・短頸壺1)が出土している。216・217は中央部の覆土下層から出土している。いずれも第2号粘土採掘坑からの流れ込みと考えられる。

所見 時期・性格ともに不明である。



第122図 第592号土坑・出土遺物実測図

第592号土坑出土遺物観察表 (第122図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴はか	出土位置	備考
216	土師器	坏	[15.1]	4.4	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部外面へツクリ 内面ナテ 磨炭	覆土下層	70% P1.32
217	灰釉陶器	短頸壺	[10.2]	(3.6)	-	石英・細砂	灰白	酸密	内・外面施釉	覆土下層	5% P1.33

第596号土坑 (第123図)

位置 調査区南部のH2e4区で、標高23mの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第1・6号粘土採掘坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径0.71m、短径0.66mの円形である。深さは46cmで、底面は平坦である。壁は直立している。

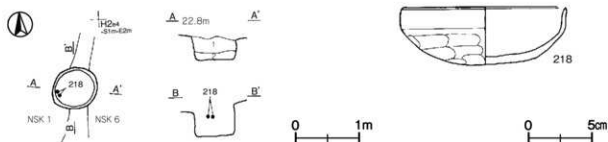
覆土 2層に分層できる。炭化粒子・礫が含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

- 1 黒褐色 小礫中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量 2 黒色 小礫中量、炭化粒子多量

遺物出土状況 土師器片1点(坏)が西部の覆土上層から出土している。

所見 覆土は埋め戻されているが、時期・性格ともに不明である。



第123図 第596号土坑・出土遺物実測図

第596号土坑出土遺物観察表(第123図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴はか	出土位置	備考
218	土師器	坏	13.1	4.5	-	灰石・石英	明褐色	普通	体部外面へラ開リ 内面ナデ	覆土中	90% PL32

第606号土坑(第124・125図)

位置 調査区東部のG 2j5区で、標高25mの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第26号掘立柱建物跡、第4号ピット群に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.96m、短軸2.16mの隅丸長方形で、長軸方向はN-75°-Wである。深さは43cmで、底面は皿状である。壁は緩やかに立ち上がっている。

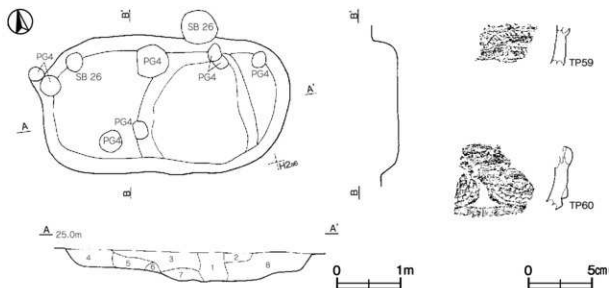
覆土 8層に分層できる。大半の層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

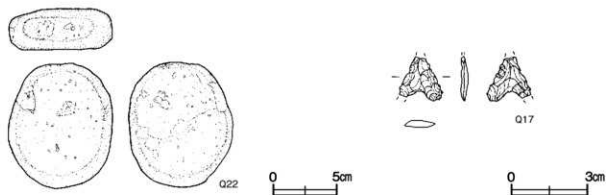
1	暗褐色	ロームブロック中量	5	黒褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量
2	黒褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量	6	黒褐色	ロームブロック多量
3	黒褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	7	黒褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック少量
4	暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量	8	暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片24点(深鉢)、土師器片131点(坏類55・甕類76)、須恵器片13点(坏類5・壺3・壺2・甕類3)、灰釉陶器片3点(長頸壺)、石製品2点(鎌・敲石)が出土している。TP59・60、Q17・22は覆土中から出土している。

所見 覆土は埋め戻されているが、時期・性格ともに不明である。



第124図 第606号土坑・出土遺物実測図



第125図 第606号土坑出土遺物実測図

第606号土坑出土遺物観察表 (第124・125図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP99	縄文土器	深鉢	-	(32)	-	長石・石英・雲母	赤褐色	普通	隆帯輪に一条の角押文	覆土中	破片 PL33
TP90	縄文土器	深鉢	-	(5.0)	-	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	隆帯輪に一条の角押文	覆土中	破片 PL33

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q17	石鏝	(1.8)	(1.7)	0.3	(0.73)	安山岩	無基 押圧調整による調整 先端部と基部欠損	覆土中	PL34
Q22	磁石	100	8.3	3.2	347.0	磁灰岩	磁打痕1ヶ所	覆土中	

第607号土坑 (第126図)

位置 調査区北部のG 2g5区で、標高25mの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第24号溝跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.03m、短径0.75mの楕円形で、長径方向はN-73°-Wである。深さは65cmで、底面は皿状である。壁は外傾して立ち上がっている。

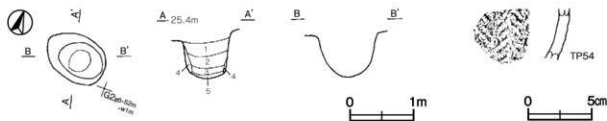
覆土 5層に分層できる。大半の層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

1	黒暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量	4	褐色	ロームブロック中量
2	黒褐色	ローム粒子少量、焼土粒子微量	5	褐色	ロームブロック多量
3	暗褐色	ロームブロック中量			

遺物出土状況 縄文土器片1点(深鉢)が覆土中から出土している。

所見 覆土は埋め戻されているが、時期・性格ともに不明である。



第126図 第607号土坑・出土遺物実測図

第607号土坑出土遺物観察表（第126図）

番号	類別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴はか	出土位置	備考
TP54	縄文土器	深鉢	-	(4.0)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	普通	早期縄文による縦位の羽状縄文	覆土中	破片 PL33

第609号土坑（第127図）

位置 調査区中央部のH2a3区で、標高24mの台地緩斜面部に位置している。

規模と形状 長径0.75m、短径0.68mの楕円形で、長径方向はN-25°-Eである。深さは13cmで、底面は平坦である。壁は外傾して立ち上がっている。

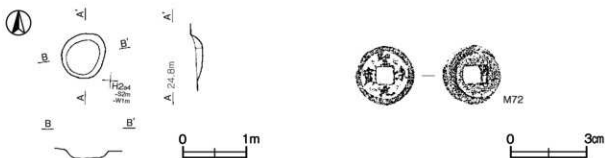
覆土 単一層であることと、含有物から埋め戻されている。

土層解説

1 層 色 ロームブロック中量、砂粒少量

遺物出土状況 土師器片5点（坏類3・甕類2）、古銭1点（聖宋元寶）が覆土中から出土している。

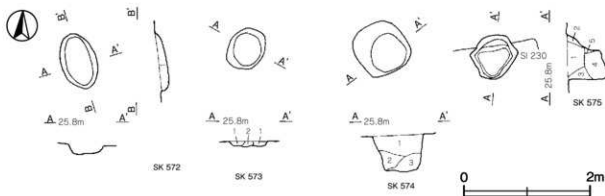
所見 覆土は埋め戻されているが、時期・性格ともに不明である。



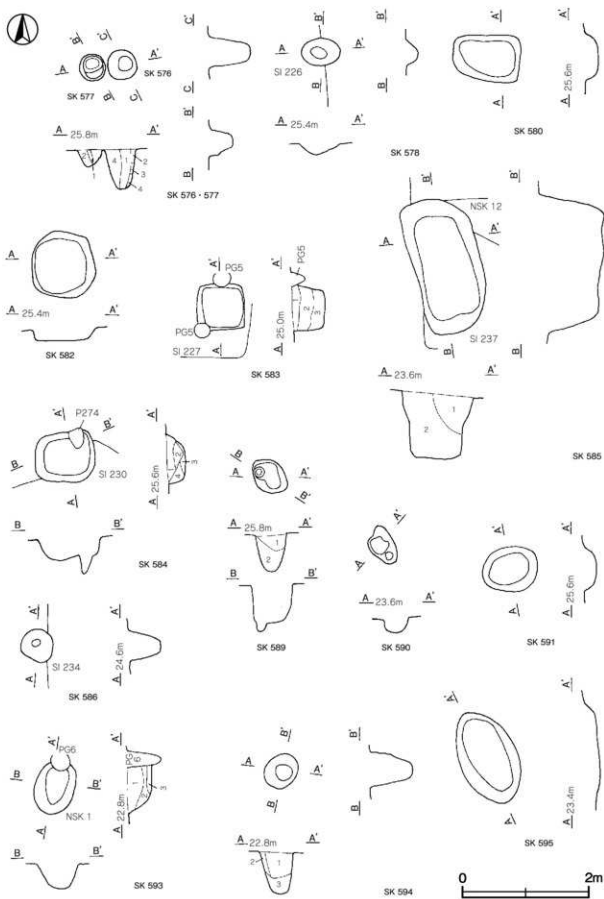
第127図 第609号土坑・出土遺物実測図

第609号土坑出土遺物観察表（第127図）

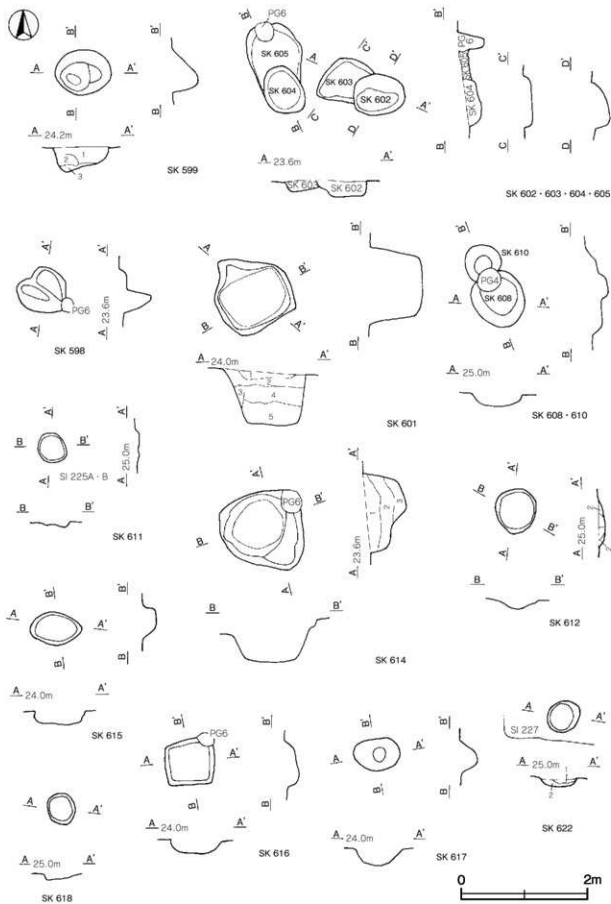
番号	銭名	径	孔径	厚さ	重量	鋳年	材質	特徴	出土位置	備考
M72	聖宋元寶	2.3	0.7	0.12	2.38	1101	銅	北宋銭 行書 無背	覆土中	PL34



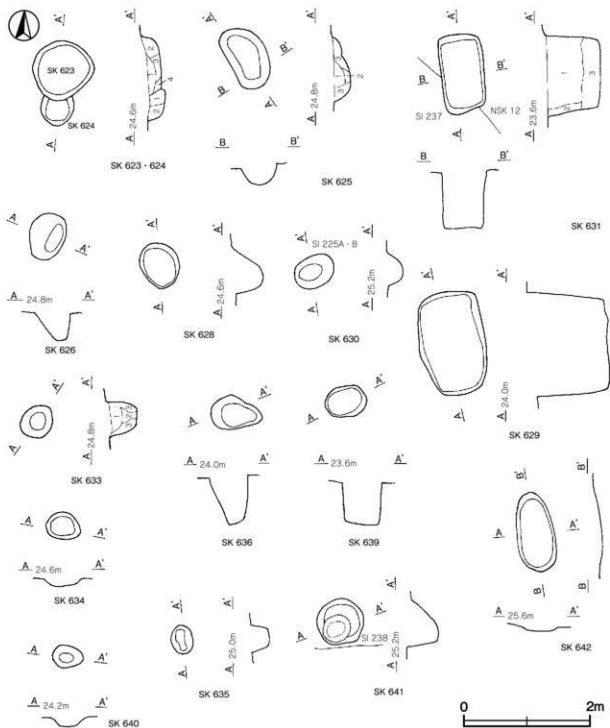
第128図 時期不明土坑実測図(1)



第 129 图 时期不明土坑实测图(2)



第 130 图 时期不明土坑实测图(3)



第131図 時期不明土坑実測図(4)

第572号土坑土層解説

1 黒 褐色 ロームブロック少量, 炭化物・焼土粒子微量

第573号土坑土層解説

1 黒 褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子微量

2 褐 色 ロームブロック多量, 焼土粒子微量

第574号土坑土層解説

1 暗 褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2 暗 褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

3 褐 色 ロームブロック多量

第575号土壌土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------|-------|---------------------|
| 1 黒褐色 | 焼土ブロック少量、ロームブロック・炭化物微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 黒褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 | | |

第576号土壌土層解説

- | | | | |
|-------|--------------------|-------|---------|
| 1 黒褐色 | 炭化物少量、ローム粒子・焼土粒子微量 | 3 黒褐色 | ローム粒子微量 |
| 2 褐色 | 焼土ブロック中量 | 4 褐色 | ローム粒子中量 |

第577号土壌土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------|------|-------------------|
| 1 暗褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 | 2 褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
|-------|---------------------|------|-------------------|

第583号土壌土層解説

- | | | | |
|-------|------------------|-------|------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 | 3 暗褐色 | ロームブロック多量、粘土粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子少量 | | |

第584号土壌土層解説

- | | | | |
|--------|------------------|-------|------------------|
| 1 極暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 | 3 暗褐色 | ロームブロック多量 |
| 2 黒褐色 | 焼土ブロック少量、ローム粒子微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック多量、焼土粒子微量 |

第585号土壌土層解説

- | | | | |
|-----------|------------------------|-------|--------------------------|
| 1 黄オリーブ褐色 | 粘土ブロック・砂粒中量、炭化物・焼土粒子微量 | 2 黒褐色 | 粘土ブロック中量、焼土ブロック少量、炭化粒子微量 |
|-----------|------------------------|-------|--------------------------|

第589号土壌土層解説

- | | | | |
|-------|-----------|------|-----------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック多量 | 2 褐色 | ロームブロック多量 |
|-------|-----------|------|-----------|

第593号土壌土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | 焼土ブロック少量、炭化物・山砂微量 | 3 黒褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 | | |

第594号土壌土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------|-------|----------|
| 1 黒褐色 | 焼土ブロック・炭化物・砂粒微量 | 3 黒褐色 | 焼土ブロック微量 |
| 2 黒褐色 | 焼土ブロック・砂粒微量 | | |

第599号土壌土層解説

- | | | | |
|-------|-----------|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量 | 3 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量 | | |

第601号土壌土層解説

- | | | | |
|----------|------------------------|----------|-----------------------------|
| 1 黒褐色 | 焼土ブロック少量、炭化粒子微量 | 5 灰オリーブ色 | 粘土ブロック多量、焼土ブロック少量、炭化粒子・砂粒微量 |
| 2 黒褐色 | 粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | | |
| 3 オリーブ灰色 | 粘土ブロック多量、砂粒中量 | | |
| 4 黒褐色 | 焼土ブロック・粘土ブロック少量、炭化粒子微量 | | |

第612号土壌土層解説

- | | | | |
|-------|-----------|------|-----------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量 | 2 褐色 | ロームブロック中量 |
|-------|-----------|------|-----------|

第614号土壌土層解説

- | | | | |
|-------|--------------------|-------|-----------------------|
| 1 暗褐色 | 焼土粒子・砂粒微量 | 3 黒褐色 | 粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量 | | |

第622号土壌土層解説

- | | | | |
|-------|------------------|------|-----------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子微量 | 2 褐色 | ロームブロック多量 |
|-------|------------------|------|-----------|

第623号土壌土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------|-------|--------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 | 3 暗褐色 | ロームブロック中量、粘土粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化物少量、焼土粒子微量 | 4 暗褐色 | 粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |

第624号土壌土層解説

- | | | | |
|--------|--------------------|------|--------------------|
| 1 極暗褐色 | ロームブロック少量、粘土ブロック微量 | 2 褐色 | ロームブロック多量、粘土ブロック微量 |
|--------|--------------------|------|--------------------|

第625号土壌土層解説

- | | | | |
|-------|-----------|------|-----------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量 | 3 褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量 | | |

第631号土壌土層解説

- | | | | |
|----------|-------------------------------|----------|--------------------------|
| 1 黒褐色 | 焼土ブロック・粘土ブロック・炭化物少量、ロームブロック微量 | 3 オリーブ褐色 | 粘土ブロック中量、焼土ブロック少量、炭化粒子微量 |
| 2 オリーブ褐色 | 粘土ブロック中量、焼土ブロック・砂粒少量、炭化粒子微量 | | |

第633号土壌土層解説

- | | | | |
|-------|-----------|------|-----------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量 | 3 褐色 | ロームブロック多量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量 | | |

表15 時期不明土坑一覽表

番号	位置	平面形	長径(軸)方角	規模 (m, 深54cm)		壁面	底面	覆土	出土遺物	備考
				長径(軸) × 短径(軸)	掘深					
572	G 2 g5	楕円形	N-19°-W	0.90 × 0.55	15	外傾	平坦	人瓦	縄文土器・土師器・須恵器	
573	G 2 g7	楕円形	N-42°-E	0.70 × 0.58	10	外傾	平坦	人瓦		
574	G 2 g3	円形	-	0.86 × 0.82	61	外傾	屈状	人瓦		
575	G 2 g3	不整形	-	0.77 × 0.73	62	外傾	平坦	人瓦	土師器・須恵器	SI230→本跡
576	G 2 g3	円形	-	0.50 × 0.49	65	外傾	屈状	人瓦	土師器	
577	G 2 g3	円形	-	0.44 × 0.41	37	外傾	屈状	人瓦		
578	G 2 i4	楕円形	N-86°-E	0.62 × 0.45	19	緩斜	屈状	人瓦	土師器・須恵器	SI226→本跡
580	G 2 g1	長方形	N-82°-W	1.08 × 0.73	20	外傾	屈状	人瓦		
581	G 1 i0	長方形	N-73°-E	2.25 × 1.20	20~30	外傾	屈状	人瓦	縄文土器・土師器・須恵器	SI225A・B・231→本跡
582	G 2 i4	円形	-	1.13 × 1.07	18	外傾	平坦	人瓦	土師器・須恵器	SI226・236→本跡
583	G 2 i4	方形	N-90°-E	0.77 × 0.75	52	直立	平坦	人瓦	縄文土器・土師器・須恵器・陶器	SI227→本跡→PG5
584	G 2 g2	長方形	N-85°-E	0.96 × 0.79	34	外傾	屈状	人瓦	土師器	SI230→本跡→P274
585	H 2 d2	隅丸長方形	N-13°-W	1.16 × 1.04	104	外傾	屈状	人瓦	土師器	SI231・NSK12→本跡
586	H 2 a6	円形	-	0.52 × 0.50	50	外傾	平坦	人瓦		SI234→本跡
587	H 2 e6	楕円形	N-65°-E	1.72 × 1.16	22	緩斜	平坦	人瓦	土師器・須恵器・灰釉陶器	
588	H 2 c3	長方形	N-8°-W	2.51 × 0.70	117	直立	平坦	人瓦	土師器	
589	G 2 g4	楕円形	N-55°-W	0.65 × 0.48	60~70	直立	有段	人瓦	土師器	
590	H 2 d6	不整形	N-21°-W	0.63 × 0.40	27	外傾	屈状	-		
591	G 2 g1	楕円形	N-65°-E	0.90 × 0.75	20	緩斜	屈状	人瓦		
592	H 2 e2	楕円形	N-23°-W	1.32 × 1.02	25	外傾	平坦	-	縄文土器・土師器・須恵器・灰釉陶器	NSK2・PG 6→本跡
593	H 2 e3	楕円形	N-24°-E	0.85 × 0.63	40	外傾	屈状	人瓦	縄文土器・土師器・須恵器	NSK1→本跡→PG6
594	H 2 c3	楕円形	N-48°-E	0.58 × 0.48	65	外傾	屈状	人瓦	縄文土器・土師器	NSK1→本跡
595	H 1 d0	楕円形	N-25°-W	1.53 × 0.90	16	緩斜	平坦	-		
596	H 2 e4	円形	-	0.71 × 0.66	46	直立	平坦	人瓦	土師器	NSK1・6→本跡
598	H 2 d6	不定形	-	0.80 × 0.75	10~41	外傾	有段	-		
599	H 1 b9	楕円形	N-87°-E	0.90 × 0.71	42	外傾	屈状	人瓦		
601	H 2 c3	不整形	N-57°-E	1.28 × 1.23	83	直立	平坦	人瓦	土師器・須恵器	
602	H 2 d5	楕円形	N-75°-E	0.83 × 0.65	27	外傾	屈状	-		SK603→本跡
603	H 2 d5	不定形	-	0.75 × (0.52)	14	-	平坦	-		本跡→SK602
604	H 2 d5	楕円形	N-35°-W	0.80 × 0.60	24	-	平坦	-		SK605・PG6→本跡
605	H 2 d5	(楕円形)	N-20°-W	0.80 × (0.74)	10	-	平坦	-		本跡→SK604・PG6
606	G 2 j5	隅丸長方形	N-75°-W	3.95 × 2.16	43	-	屈状	人瓦	縄文土器・土師器・須恵器・陶器	本跡→PG6・SI226
607	G 2 g5	楕円形	N-73°-W	1.03 × 0.75	65	外傾	屈状	人瓦	縄文土器	SI24→本跡
608	G 2 j6	楕円形	N-25°-W	1.00 × 0.82	19	緩斜	平坦	人瓦		本跡→PG4
609	H 2 a3	楕円形	N-25°-E	0.75 × 0.68	13	外傾	平坦	人瓦	土師器	
610	G 2 j6	[円形]	-	0.61 × (0.40)	15	緩斜	平坦	-		本跡→PG4
611	G 1 i9	楕円形	N-50°-W	0.50 × 0.44	9	外傾	平坦	人瓦		SI225A・B→本跡
612	G 1 i9	円形	-	0.70 × 0.65	13	緩斜	屈状	人瓦	須恵器	
614	H 2 d4	楕円形	N-42°-W	1.38 × 1.13	55	外傾	平坦	人瓦	縄文土器・土師器・須恵器・灰釉陶器	本跡→PG6
615	H 2 e4	楕円形	N-88°-E	0.84 × 0.52	20	外傾	平坦	人瓦	縄文土器・土師器・須恵器	
616	H 2 c5	長方形	N-82°-E	0.80 × 0.72	15	外傾	屈状	人瓦	縄文土器・土師器	本跡→PG6
617	H 2 i5	楕円形	N-81°-E	0.74 × 0.50	26	外傾	屈状	人瓦	土師器	
618	G 2 j5	楕円形	N-20°-W	0.50 × 0.43	9	外傾	緩斜	人瓦		
622	G 2 j4	楕円形	N-43°-E	0.56 × 0.49	10	緩斜	屈状	人瓦		SI227→本跡
623	H 2 a5	円形	-	0.99 × 0.90	20	外傾	平坦	人瓦	縄文土器・土師器・須恵器	SK624→本跡

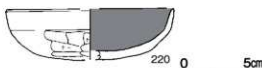
番号	位置	平面形	長径(軸)方向	規模 (m, 深さ12cm)		壁面	底面	覆土	出土遺物	備考
				長径(軸) × 短径(軸)	深さ					
624	H 2 a5	円形	-	0.55 × 0.54	23	外傾	平坦	人為		新田関係(古→新) 本跡→SK623
625	H 2 a3	楕円形	N-35°-W	1.05 × 0.63	27	緩斜	皿状	人為		
626	H 2 a3	楕円形	N-25°-E	0.75 × 0.58	42	外傾	皿状	-		
628	H 2 a6	楕円形	N-19°-W	0.73 × 0.60	46	外傾	皿状	-	土師器・須恵器	
629	H 2 c3	長方形	N-13°-W	1.68 × 1.06	120	直立	平坦	人為	縄文土器・土師器・須恵器	
630	G 1 b9	楕円形	N-61°-E	0.67 × 0.52	25	外傾	皿状	-	縄文土器・土師器	SI225A・B→本跡
631	H 2 d2	長方形	N-8°-W	1.25 × 0.70	90	直立	平坦	人為		SI237・NSK12→本跡
633	H 2 a4	楕円形	N-41°-E	0.55 × 0.48	46	外傾	平坦	人為		
634	H 2 a3	楕円形	N-74°-W	0.55 × 0.43	13	外傾	平坦	-		
635	G 2 j4	楕円形	N-11°-W	0.45 × 0.32	28	直立	平坦	-		
636	H 2 c2	楕円形	N-82°-W	0.81 × 0.53	78	直立	皿状	-		
639	H 2 d3	楕円形	N-66°-E	0.63 × 0.47	65	直立	平坦	-		
640	H 1 b0	楕円形	N-75°-W	0.48 × 0.35	14	緩斜	平坦	-		
641	G 2 j7	円形	-	0.75 × 0.72	45	外傾	皿状	-		SI238→本跡
642	G 2 g5	長楕円形	N-10°-W	1.26 × 0.59	5	緩斜	平坦	-	土師器	

(4) ビット群

今回の調査で、3か所のビット群が確認された。各ビットの形状や規模は様々であるが、平面形は円形または楕円形を呈し、径25～35cm、深さ15～25cmのものが多い。一部のビットには土層断面図中に柱痕跡が認められ、何らかの建物の一部であった可能性もあるが、建物の配列や構造を特定することはできない。また、これらのビットから出土した土器は細片が多く、遺物から時期を判断することができない。以下、実測図と計測表で紹介する。また、群をしない単独のビットも4か所確認されている。単独ビットに関しては、計測表のみを掲載し、平面図は遺構全体図(第64図)で掲載すると定める。

第4号ビット群(第132・133図)

調査区東部のG 2 g6～G 2 j7区にかけての東西8.9m、南北13.7mの範囲から、柱穴状のビット84か所が確認された。平面形は長径20～60cmの円形あるいは楕円形で、深さは5～71cmである。分布状況から建物は

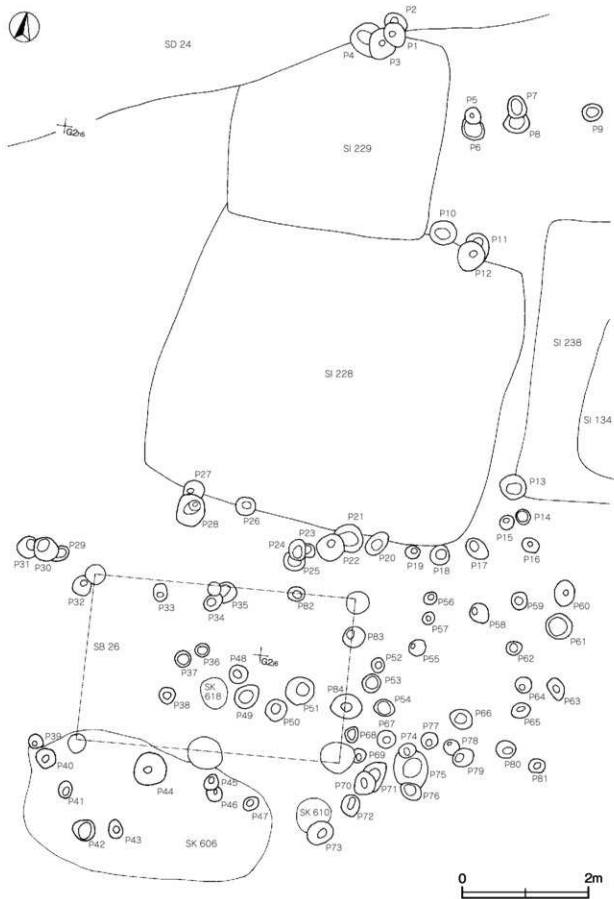


第132図 第4号ビット群出土遺物実測図

想定できない。縄文土器片8点(深鉢)、土師器片44点(坏類22・甕類22)、須恵器片4点(坏類3・甕類1)が出土している。220はP 2の覆土中から出土している。いずれも流れ込んだ可能性が高く、時期は不明である。

第4号ビット群出土遺物観察表(第132図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
220	土師器	坏	[132]	4.0	-	長石・赤色粒子	緑	普通	体部外面へう張り 内面ナデ	P 2覆土中	10%



第 133 図 第 4 号ピット群実測図

ビット計測表

ビット 番号	規 模 (cm)			ビット 番号	規 模 (cm)			ビット 番号	規 模 (cm)		
	長径 × 短径	深さ			長径 × 短径	深さ			長径 × 短径	深さ	
1	43 × 38	56		29	23 × (18)	23		57	20 × 18	12	
2	(36) × (14)	17		30	43 × 33	62		58	35 × 28	14	
3	49 × 48	39		31	35 × (28)	44		59	30 × 26	23	
4	53 × 49	24		32	32 × 28	38		60	42 × 32	33	
5	25 × 25	23		33	32 × 23	37		61	44 × 41	25	
6	40 × 35	5		34	30 × 26	67		62	25 × 24	26	
7	37 × 28	8		35	42 × (30)	50		63	36 × 22	22	
8	43 × 34	6		36	22 × 22	5		64	26 × 25	22	
9	33 × 28	19		37	26 × 26	20		65	31 × 24	18	
10	45 × 37	-		38	27 × 26	40		66	37 × 31	34	
11	38 × (20)	35		39	25 × 25	27		67	31 × 30	56	
12	45 × 45	38		40	33 × 32	54		68	27 × 20	17	
13	47 × 40	30		41	30 × 22	46		69	24 × (20)	10	
14	24 × 24	6		42	60 × 58	46		70	28 × 27	22	
15	24 × 23	32		43	30 × 24	63		71	(37) × 36	40	
16	28 × 24	29		44	54 × 52	71		72	35 × 27	23	
17	41 × 26	30		45	28 × 22	26		73	42 × 37	32	
18	34 × 30	26		46	27 × 25	23		74	30 × (21)	33	
19	24 × 21	16		47	25 × 20	16		75	(62) × 52	45	
20	45 × 28	27		48	31 × 30	46		76	37 × (22)	17	
21	45 × (30)	-		49	44 × 34	11		77	27 × 26	30	
22	46 × 40	35		50	35 × 35	20		78	24 × (21)	8	
23	23 × (18)	13		51	46 × 45	31		79	36 × 32	37	
24	35 × 26	40		52	24 × 20	30		80	30 × 28	38	
25	36 × 26	20		53	30 × 30	15		81	25 × 23	24	
26	32 × 30	55		54	32 × 25	13		82	27 × 25	35	
27	32 × (24)	33		55	27 × 25	16		83	36 × 34	36	
28	51 × 45	32		56	21 × 20	18		84	52 × 40	46	

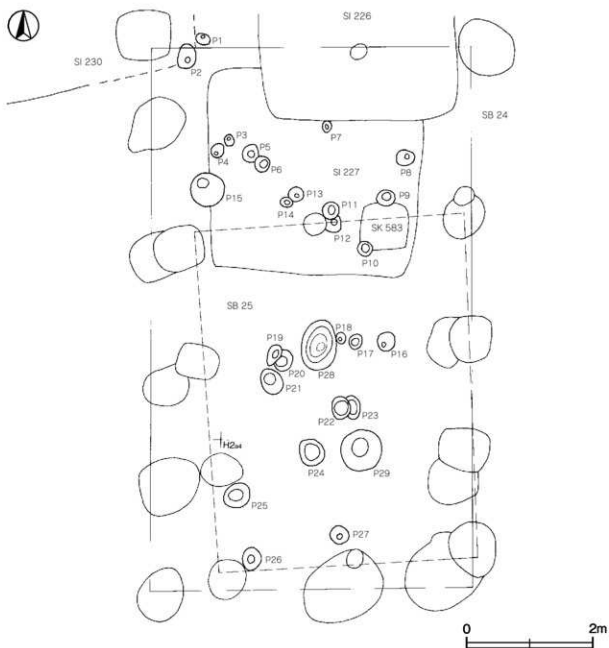
第5号ビット群 (第134図)

調査区中央部のG 2i3~H 2a4区にかけての東西3.8m, 南北8.5mの範囲から、柱穴状のビット29か所が確認された。平面形は長径18~80cmの円形あるいは楕円形で、深さは10~78cmである。縄文土器片2点(深鉢), 土師器片6点(坏類1・甕類5), 須恵器片3点(坏類)が出土しているが、いずれも流れ込んだ細片のため、時期は不明である。ビット群域には、倉庫的な機能をもつ建物と想定される第24・25号掘立柱建物跡が位置していることから、それらの建物群と関連していたと考えられる。

ビット計測表

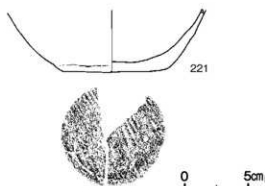
ビット 番号	規 模 (cm)			ビット 番号	規 模 (cm)			ビット 番号	規 模 (cm)		
	長径 × 短径	深さ			長径 × 短径	深さ			長径 × 短径	深さ	
1	23 × 17	38		4	22 × 18	36		7	18 × 14	20	
2	38 × 28	50		5	28 × 25	49		8	28 × 23	43	
3	18 × 18	10		6	26 × 23	34		9	28 × (20)	35	

ピット 番号	規模 (cm)			ピット 番号	規模 (cm)			ピット 番号	規模 (cm)					
	長径	×	短径		深さ	長径	×		短径	深さ	長径	×	短径	深さ
10	25	×	23	35	17	25	×	20	60	24	46	×	35	22
11	27	×	27	23	18	28	×	23	42	25	46	×	40	21
12	27	×	(25)	21	19	30	×	22	42	26	38	×	30	19
13	27	×	25	12	20	35	×	24	35	27	33	×	27	29
14	19	×	17	11	21	45	×	35	29	28	80	×	58	58
15	55	×	52	58	22	38	×	30	49	29	70	×	70	40
16	30	×	28	78	23	40	×	(17)	22					



第 134 図 第 5 号ピット群実測図

が確認された。平面形は長径17～105cmの円形、楕円形または方形で、深さは6～85cmである。分布状況から建物は想定できない。縄文土器片1点(深鉢)、土師器片122点(坏類33・甕類89)、須恵器片21点(坏類10・蓋3・甕類8)、灰軸陶器片1点(長頸瓶)が出土している。221はP66の覆土中から出土している。いずれも流れ込んだ可能性が高く、時期は不明である。



第136図 第6号ピット群出土遺物実測図

第6号ピット群出土遺物観察表(第136図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴はか	出土位置	備考
221	土師器	坏	-	(4.9)	8.0	長径・石灰・雲母・赤色粒子	橙	普通	内・外面摩滅 輪郭痕	P66覆土中	50%

ピット計測表

ピット番号	規模 (cm)				ピット番号	規模 (cm)				ピット番号	規模 (cm)			
	長径	×	短径	深さ		長径	×	短径	深さ		長径	×	短径	深さ
1	30	×	25	13	28	23	×	22	13	55	28	×	28	50
2	23	×	23	16	29	25	×	20	10	56	33	×	27	38
3	20	×	17	25	30	40	×	36	15	57	35	×	(28)	54
4	54	×	37	43	31	45	×	41	30	58	28	×	26	59
5	37	×	32	28	32	28	×	28	40	59	45	×	43	-
6	50	×	37	27	33	35	×	30	45	60	19	×	16	12
7	26	×	23	52	34	26	×	22	16	61	32	×	30	22
8	30	×	28	72	35	29	×	28	29	62	40	×	35	44
9	30	×	26	12	36	35	×	31	61	63	35	×	32	29
10	35	×	30	55	37	30	×	27	42	64	23	×	18	28
11	22	×	21	10	38	28	×	24	8	65	26	×	20	48
12	30	×	25	7	39	26	×	22	24	66	36	×	35	23
13	35	×	30	21	40	44	×	37	34	67	30	×	29	40
14	27	×	25	35	41	28	×	25	35	68	38	×	32	45
15	37	×	30	64	42	38	×	30	56	69	32	×	28	36
16	30	×	25	28	43	42	×	35	38	70	42	×	35	42
17	33	×	27	14	44	32	×	28	60	71	27	×	22	13
18	23	×	23	16	45	36	×	33	39	72	37	×	32	23
19	22	×	22	6	46	60	×	50	66	73	80	×	77	70
20	45	×	32	11	47	45	×	(28)	61	74	105	×	93	80
21	49	×	43	21	48	35	×	23	69	75	65	×	62	15
22	35	×	(19)	30	49	39	×	34	28	76	26	×	20	19
23	40	×	36	56	50	26	×	25	40	77	45	×	35	36
24	26	×	25	20	51	24	×	23	30	78	35	×	27	31
25	45	×	38	34	52	24	×	23	34	79	23	×	22	35
26	30	×	30	34	53	21	×	21	25	80	30	×	23	30
27	17	×	15	42	54	35	×	33	45	81	18	×	17	30

ビット 番号	規 模 (cm)			ビット 番号	規 模 (cm)			ビット 番号	規 模 (cm)		
	長径 × 短径	深さ			長径 × 短径	深さ			長径 × 短径	深さ	
82	30 × 25	30		108	21 × 16	13		133	47 × 40	30	
83	30 × 27	35		109	28 × 21	25		134	30 × 26	33	
84	76 × 68	45		110	25 × 23	31		135	32 × 30	53	
85	39 × 29	53		111	21 × 18	42		136	17 × 17	35	
86	38 × 36	26		112	31 × 29	51		137	32 × 28	19	
87	32 × 23	32		113	89 × 78	85		138	46 × 40	35	
88	35 × 22	30		114	70 × 65	75		139	27 × 26	36	
89	32 × 30	63		115	36 × 30	39		140	33 × 32	43	
90	34 × 26	56		116	53 × 31	—		141	26 × 24	30	
91	47 × 42	73		117	45 × 44	12		142	48 × 48	20	
92	25 × 23	74		118	30 × 27	45		143	30 × 25	40	
93	30 × 20	54		119	40 × 35	12		144	50 × 28	30	
94	37 × 24	39		120	34 × 30	10		145	30 × 30	13	
95	18 × 14	38		121	25 × 25	18		146	26 × 22	45	
96	25 × 24	35		122	60 × 54	72		147	32 × 30	30	
97	33 × 28	38		123	23 × 20	52		148	21 × 21	33	
98	20 × 18	24		124	20 × 19	23		149	30 × 25	48	
99	32 × 30	45		125	32 × 30	67		150	26 × 24	—	
100	33 × 30	48		126	19 × 15	24		151	28 × 26	—	
101	23 × 22	66		127	20 × 17	23		152	29 × 25	—	
102	39 × 39	42		128	24 × 22	35		153	31 × 30	32	
103	19 × 19	22		129	27 × 21	8		154	40 × 40	33	
104	25 × 22	52		130	25 × 22	22		155	27 × 25	20	
105	24 × 22	26		131	(29) × 28	20		156	42 × 38	42	
106	15 × 15	11		132	46 × 23	20		157	40 × 40	50	
107	19 × 19	33									

単独ビット計測表

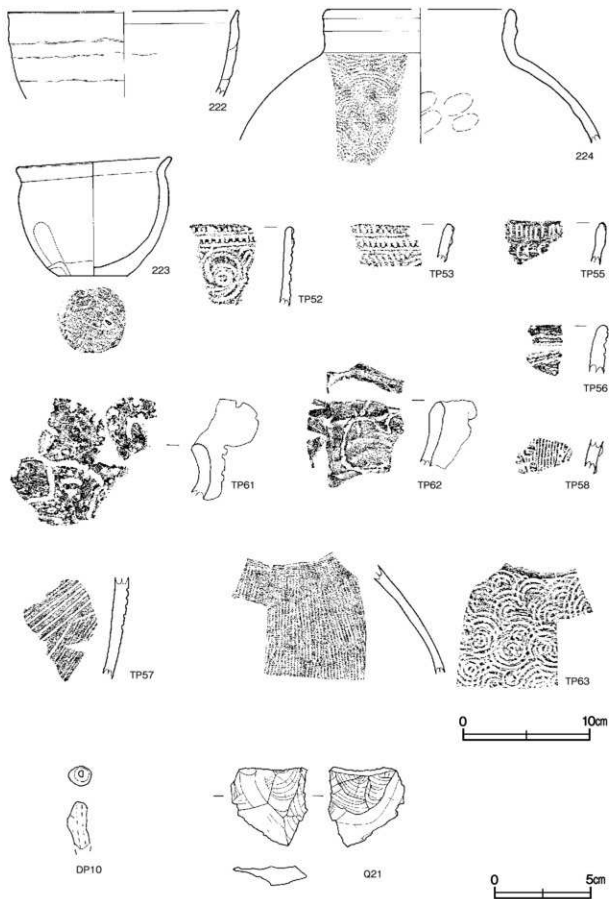
ビット 番号	規 模 (cm)			ビット 番号	規 模 (cm)		
	長径 × 短径	深さ			長径 × 短径	深さ	
271	30 × 25	13		273	21 × 21	25	
272	23 × 23	16		274	35 × 33	45	

表16 時期不明ビット群一覧表

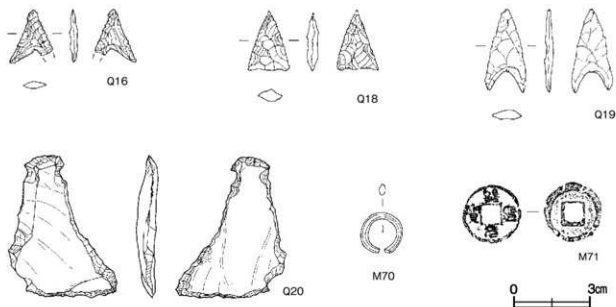
番号	位 置	柱穴 (長さの単位12cm)					出 土 遺 物	備 考
		柱穴	平面形	長径	短径	深さ		
4	G 2g6~G 2j7	84	円形・楕円形	20~60	18~58	5~71	縄文土器・土師器・須恵器	
5	G 2i3~H 2a4	29	円形・楕円形	18~80	14~70	10~78	縄文土器・土師器・須恵器	
6	H 2a3~H 2i3	157	円形・楕円形・方形	17~105	14~93	6~85	縄文土器・土師器・須恵器・灰輪陶器	

(5) 遺構外出土遺物

今回の調査で出土した遺構に伴わない遺物のうち、特徴的なものを実測図 (第137・138図) と観察表で記載する。



第 137 图 遺構外出土遺物実測図(1)



第138図 遺構外出土遺物実測図(2)

遺構外出土遺物観察表(第137・138図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
222	土師器	鉢	[18.3]	(6.9)	-	灰石・石英・雲母	橙	普通	内面ナデ 輪轆痕	表土	
223	土師器	小形壺	12.0	9.4	5.4	灰石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	体部下端へツ振り 内・外面一部煤付着	表土	
224	煎茶器	直口壺	[14.6]	(10.6)	-	灰石・石英・細砂	黄灰	普通	体部同心円文状の印き 内面指痕	表土	
TP52	織文土器	深鉢	-	(6.3)	-	灰石・石英・雲母	暗褐	普通	刺突文 扉体押圧及び円形刺突文	表土	
TP53	織文土器	深鉢	-	(3.0)	-	灰石・石英・雲母	暗赤褐	普通	刺突文 短沈線	表土	
TP55	織文土器	深鉢	-	(3.4)	-	灰石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口縁部にキザミ 貝殻織線文	SE230	
TP56	織文土器	深鉢	-	(3.7)	-	灰石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	手織竹管による押引文 円形刺突文	SE225	
TP57	織文土器	深鉢	-	(8.0)	-	灰石・石英・赤色粒子	橙	普通	手織竹管による沈線文 貝殻織線連続波状文	表土	
TP58	織文土器	深鉢	-	(2.7)	-	灰石・石英・赤色粒子	赤褐	普通	手織竹管による縦位の沈線文 刺突を伴う円形印り付けこ	SE225	
TP61	織文土器	深鉢	-	(8.0)	-	灰石・石英・雲母	赤褐	普通	口縁部にキザミを有す扇状突起 角押文	SE225	
TP62	織文土器	深鉢	-	(5.6)	-	灰石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	縦位の突起 隆帯脇に一条の角押文	SE226	
TP63	煎茶器	壺	-	(8.8)	-	灰石・石英	褐灰	普通	縦位の平行印き 内面同心円状の当て具痕	表土	

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP10	管玉	1.2	(2.5)	0.5	(1.9)	土(石英・細砂)	ナデ 端部欠損	表土	PL34

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q16	石鏡	2.1	1.7	0.3	(0.55)	チャート	無基 押圧調整による調整 基部欠損	SE226	PL34
Q18	石鏡	2.2	1.7	0.4	1.32	チャート	無基 押圧調整による調整	SE233	PL34
Q19	石鏡	3.3	1.6	0.4	1.22	安山岩	無基 押圧調整による調整	SE224	PL34
Q20	石砧	5.6	4.4	0.8	11.2	珉質頁岩	外縁部押圧調整による調整	NSK1	PL34
Q21	銅片	4.2	4.1	1.0	13.6	チャート	押圧調整痕	表土	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M70	耳環	1.6	1.7	0.5	3.82	鉄地金銅貼り	開口部有り	表土	PL34

番号	鏡名	径	孔径	厚さ	重量	初押年	材質	特徴	出土位置	備考
M71	銅聖元寶	2.3	0.8	0.12	2.18	1094	銅	北宋鏡 篆書 無背	SR26	PL34

第5節 ま と め

上野陣場遺跡は、平成12年度の第1次調査で縄文時代から近世までの複合遺跡であることが明らかにされているが、第2次調査で当遺跡はさらに北部の台地先端部まで広がっていることを確認した。各時代ごとのあり方については、『茨城県教育財団文化財調査報告第182集』¹⁾において詳細に述べられているが、今回報告の第2・3次調査によって得られた成果を加え、各時代の様相について記述する。

1 縄文時代

当時代の遺構は、標高26mの台地平坦部に堅穴住居跡8軒（前期7・中期1）、陥し穴1基、土坑14基（早期終末から前期初頭2・前期4・中期6・後期1・不明1）が確認されている。早期終末から前期初頭にかけた住居跡は確認されていないが、北部から陥し穴と土坑が確認されていることから、周辺に集落の存在が推測できる。前期前葉の住居跡は、台地の中央部から確認されており、住居跡の分布状況から南部の6軒と、北の1軒（第34号住居跡）の2グループに分けることができる。南部の6軒は、東側の3軒（第126・160・208号住居跡）と西側の3軒（第175・195・196号住居跡）の間に約20mの空間があり、2つの単位集団を想定することも可能である。次の中期の住居跡は1軒（第103号住居跡）のみであるが、北部の台地先端部から同期の土坑が確認されていることと、台地の様相から、集落は調査区の西側及び北側に展開している可能性がある。

2 弥生時代

当時代の遺構は、台地平坦部から堅穴住居跡5軒、台地先端部から1軒が確認されている。時期は、出土土器から後期前葉とみられる。住居跡の分布状況は、中央部に3軒（第10・38・40号住居跡）がまとまり、その南方34mに1軒（第107号住居跡）、さらに南西40mに1軒（第139号住居跡）および北方約55mに1軒（第222号住居跡）で、住居跡の在り方は集落としての様相を呈していない。しかも、中央部の3軒は規模が大きいが、北部の住居跡を除いた2軒は、小規模で、前者とは主軸方向も異にしている。時期不明の住居跡のなかにこの時代の住居跡が含まれている可能性があり、本来は一つの集落を構成していたと考えられる。

3 古墳時代

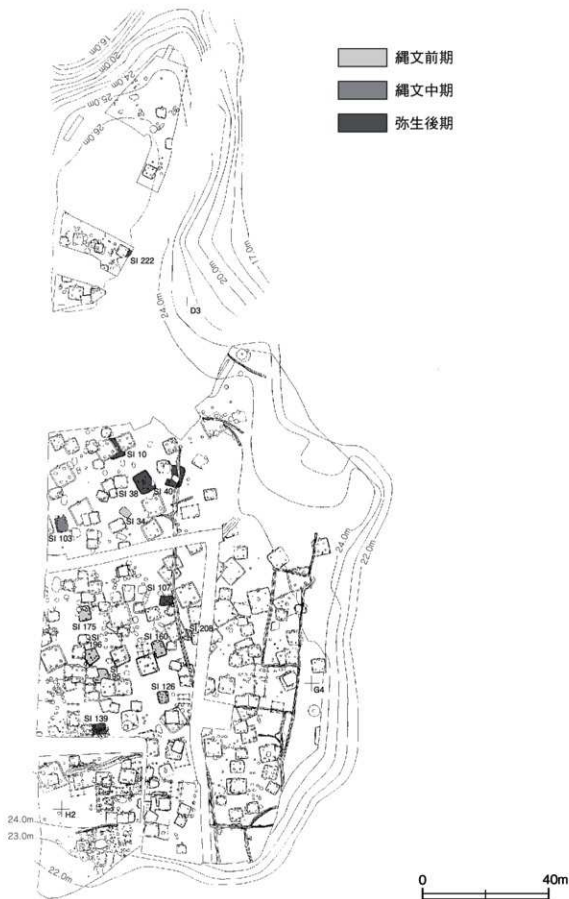
当時代の遺構は、台地平坦部を中心として台地縁辺部まで一面に分布している。ここでは、土器の様相²⁾をもとに4世紀中葉、5世紀末葉、6世紀後葉、7世紀前葉、7世紀中葉、7世紀後葉の6期に区分して集落の様相について述べる。

I期

当期の遺構は、堅穴住居跡5軒、土坑1基が確認されている。該当する遺構は、第136・152・178号住居跡と第128号土坑で、第138・186号住居跡もこの時期の遺構と考えられる。時期は、出土土器の様相から4世紀中葉に比定できる。住居跡は、台地の南側に比較的大形の住居跡2軒を含む4軒がまとまり、北へ22m離れて1軒が存在している。いずれも同時期と見られることから、一つの単位集団で、1世代で他所へ移動していったものと考えられる。

II期

当期の遺構は、堅穴住居跡2軒、土坑1基が確認されている。該当する遺構は、第70・125号住居跡、第487号土坑で、時期は出土土器の様相から5世紀末葉に比定できる。住居跡は、台地の東寄りに主軸方向を



第 139 図 縄文・弥生時代遺構分布図

同じくして東西に並んでいる。集落としては体をなしていないことから、調査区域外の台地西側に集落の本体が存在している可能性がある。

Ⅲ期

当期の遺構は、竪穴住居跡22軒が確認されている。該当する遺構は、第4・21・28・37・47・49・51・57・58・61・65・77・86・97・99・108・133・144・170・172・174・213号住居跡で、時期は出土土器の様相から6世紀後葉に比定できる。住居跡は、台地東端寄りに大形の第61号住居跡を中心として中形・小形の合わせて9軒（第47・49・51・57・58・61・65・77・86号住居跡）が一つのまとまりをみせている。その南方約27mの台地南端寄りには2軒（第97・99号住居跡）、西方約20mの台地中央部には6軒（第108・133・144・170・172・174号住居跡）、北西方約20mの台地北寄りには4軒（第4・21・28・37号住居跡）の住居跡がそれぞれグループをなし、単位集団を形成している。また、北西方、約90mにも1軒（第213号住居跡）の住居跡が存在し、未確認の住居跡を含めてグループをなしていたものと想定でき、集落としての広がりを見せている。この時期の竈は、北壁と北西壁に設けられているものがある。台地の形状と住居跡の分布状況から、集落はさらに西方に広がり、大集落であったことが想定できる。前期のⅡ期との間には時間的な空白がみられ、この時期に何らかの理由によって大集落が突如形成されている。この時期以降、集落は10世紀中葉まで継続して営まれている。

Ⅳ期

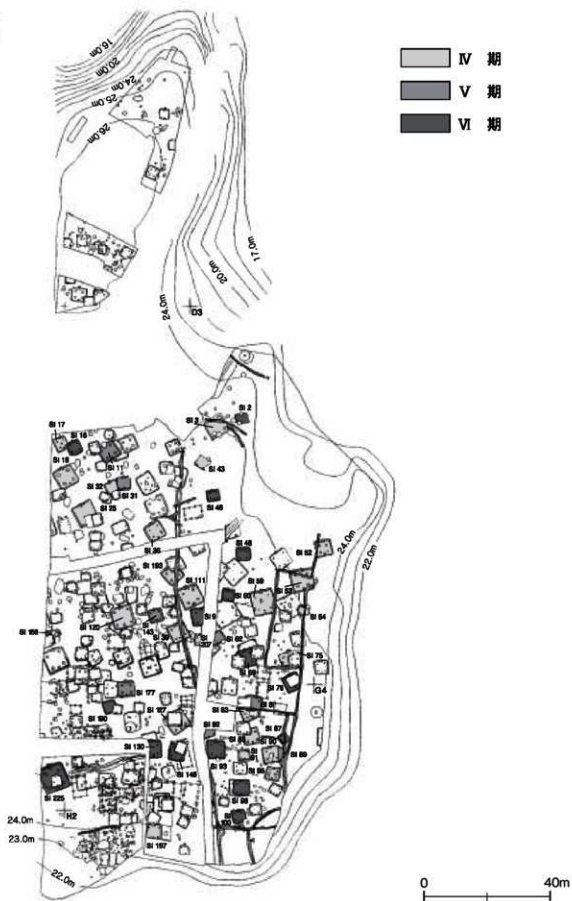
当期の遺構は、竪穴住居跡24軒が確認されている。該当する遺構は、第3・17・18・25・32・36・39・43・52～54・59・75・83・85・90・91・95・111・120・127・193・197・207号住居跡で、時期は出土土器の様相から7世紀前葉に比定できる。これらの住居跡は、台地東端寄りに大形の第53・59号住居跡を中心として5軒（第52・53・54・59・75号住居跡）の住居跡からなるグループ①、その南方に6軒（第83・85・90・91・95・127号住居跡）の住居跡からなるグループ②、グループ①の西側に5軒（第39・111・120・193・207号住居跡）の住居跡からなるグループ③のほか、グループ②の南西に位置する1軒（第197号住居跡）、グループ③の北東に位置する2軒（第3・43号住居跡）、同じく北西に位置する5軒（第17・18・25・32・36号住居跡）に分けることが可能である。グループ①～③以外は、調査区域外に位置していると考えられる未確認の住居跡を含めてグループをなしていたものと思われ、Ⅲ期と同様に台地全域に広がっていた大集落であったことが看取できる。この時期の竈も、北壁と北西壁に設けられているものがある。

Ⅴ期

当期の遺構は、竪穴住居跡9軒が確認されている。該当する遺構は、第11・31・62・81・89・92・143・168・177号住居跡で、時期は出土土器の様相から7世紀中葉に比定できる。これらの住居跡は、台地南東部に位置する3軒（第81・89・92号住居跡）、その北西の台地中央部に位置する3軒（第62・143・177号住居跡）、さらにその北西の台地北側に位置する2軒（第11・31号住居跡）および西端に位置する1軒（第168号住居跡）の4グループに分けることが可能である。西端に位置する1軒は、調査区域外に位置していると考えられる未確認の住居跡を含めてグループをなしていたものと想定できる。前期よりグループ数および構成する住居跡の軒数が減少しており、集落としては衰退の傾向にあると想定することも可能であるが、集落の中心部が調査区域外の台地西方に移動している可能性や集落が分化したことなども想定できる。

Ⅵ期

当期の遺構は、竪穴住居跡16軒が確認されている。該当する遺構は、第2・9・16・46・48・60・69・76・87・93・98・100・130・146・190・225号住居跡で、時期は出土土器の様相から7世紀後葉に比定でき



第 141 圖 古墳時代(2)遺構分布図

る。これらの住居跡は、台地南東部に6軒（第69・76・87・93・98・100号住居跡）が集中して1グループをなしているほかは、台地南部から北側にかけて10～40mの間隔で点在している。住居跡の軒数は前期よりも増加しているが、グループの想定が困難である。この時期の竈は、西壁や北西壁に設けられているものもみられるが、大部分は北壁に設けられている。

4 奈良時代

当時代の遺構も、台地平坦部を中心として台地縁辺部まで一面に分布している。ここでは、土器の様相をもとに8世紀前葉、中葉、後葉の3期に区分して集落の様相について述べる。なお、期名は古墳時代から継続してⅦ期からとする。

Ⅶ期

当期の遺構は、竪穴住居跡18軒が確認されている。該当する住居跡は、第8・27・50・56・64・74・84・94・101・109・123・167・194・210・214・221・228・230号住居跡で、時期は出土土器の様相から8世紀前葉に比定できる。これらの住居跡は、台地南部に位置する2軒（第228・230号住居跡）、台地南東部に位置する3軒（第84・94・101号住居跡）、その北側に位置する5軒（第50・56・64・74・123号住居跡）、その北西側に位置する4軒（第27・109・167・194号住居跡）からなる4グループ、およびその北側に30～40mの間隔で点在する4軒に分けることが可能である。そのうち北側に点在する住居跡は、調査区が連続していないことから、未確認の住居跡を含めて2ないし3グループをなしていた可能性がある。この時期の竈は、一部に例外があるが、概ね北壁に設けられている。住居の在り方は、前期よりも台地北側に拡散しているが、概ね前期の在り方を踏襲している。

住居跡以外に、この時期の遺構とみられる大形円形土坑が3基存在する。台地の北東端に第3号土坑、南東端に第1号土坑および南部に第2号土坑が位置しており、3基の土坑を結ぶと三角形になる。しかも第3号土坑と第1号土坑の間隔が120m、第1号土坑と第2号土坑の間隔が60mと、計画的に配置された様相がうかがえる。いずれも底面中央部に円形の浅い掘り込みを有する播り鉢状の土坑で、氷室と考えられているものである。

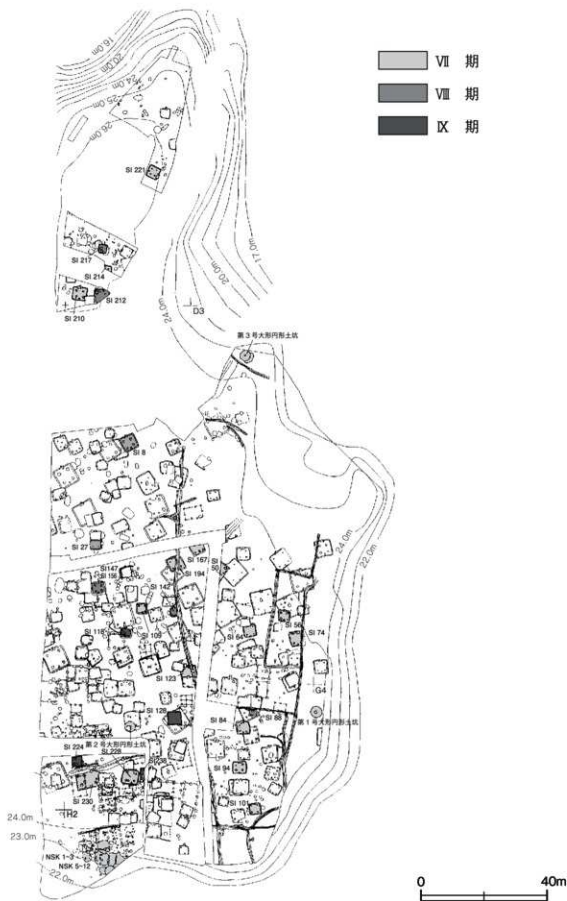
また台地南部には、古墳時代後期からこの時期までの遺物が大量に投棄された粘土採掘坑が11基確認されている。前期以降住居跡の数が減少しているが、集落の中心部が調査区域外の台地西方に移動している可能性も想定できる。

Ⅷ期

当期の遺構は、竪穴住居跡6軒が確認されている。該当する住居跡は、第88・142・147・156・212・217号住居跡で、時期は出土土器の様相から8世紀中葉に比定できる。これらの住居跡は、台地中央部に位置する3軒（第142・147・156号住居跡）、台地北側に位置する2軒（第212・217号住居跡）、および南東部に離れて単独で存在する1軒（第88号住居跡）の3グループに分けられる。竈は、北壁に統一されている。前期よりグループ数および構成する住居跡の数が減少しており、集落としては衰退の傾向にあると想定することも可能であるが、集落の中心部が調査区域外の台地西方に移動している可能性や集落が分化したことなども想定できる。

Ⅸ期

当期の遺構は、竪穴住居跡4軒が確認されているだけである。該当する住居跡は、第118・128・224・238号住居跡で、時期は出土土器の様相から8世紀後葉に比定できる。住居跡は、台地南部に位置する3軒（第



第142図 奈良時代遺構分布図

128・224・238号住居跡)、台地中央部に1軒(第118号住居跡)の2グループに分けられる。前期より住居跡の軒数が大幅に減少しており、集落としては衰退したと想定することも可能であるが、集落の中心部が調査区域外の台地西方に移動している可能性や集落が分化したことなども想定できる。

5 平安時代

当時代の遺構も、台地平坦部を中心として台地縁辺部まで一面に分布している。ここでは、土器の様相もとに9世紀前葉、中葉、後葉、10世紀前葉、中葉の5期に区分して集落の様相について述べる。期名は奈良時代から継続してX期からとする。なお、掘立柱建物跡が25棟確認されており、この時代と考えられるものも存在するが、時期の特定が極めて困難であることから、ここでは検討の対象から外している。

X期

当期の遺構は、堅穴住居跡7軒が確認されている。該当する住居跡は、第29・122・134・137・227・231・233号住居跡で、時期は出土土器の様相から9世紀前葉に比定できる。住居跡は、台地南部に位置する6軒(第122・134・137・227・231・233号住居跡)と約60m北側に離れて位置する1軒(第29号住居跡)の2グループに分けられる。この時期も集落としては衰退したと想定することも可能であるが、集落の中心部が調査区域外の台地西方に移動している可能性が想定できる。

XI期

当期の遺構は、堅穴住居跡18軒が確認されている。該当する住居跡は、第33・63・67・68・72・96・153・173・182・184・189・200・209・211・219・220・223・237号住居跡で、時期は出土土器の様相から9世紀中葉に比定できる。住居跡は、台地南部に2軒(第200・237号住居跡)で存在するグループ①、台地東側に5軒(第63・67・68・72・184号住居跡)で存在するグループ②、その西側に4軒(第153・173・182・189号住居跡)で存在するグループ③、やや離れた台地北側に3軒(第209・211・223号住居跡)で存在するグループ④、さらに北側の台地先端部に2軒(第219・220号住居跡)で存在するグループ⑤のほか、グループ③とグループ④の間に単独で存在するもの、および南東隅に単独で存在するものがある。全体的には、台地の南側に集中している傾向がうかがえる。住居跡の数は、前期より大幅に増加しており、8世紀前葉のⅢ期の段階にもどっている。この時期の竈は北壁に設けられているものが多いが、東壁に設けられているものもみられる。

XII期

当期の遺構は堅穴住居跡13軒が確認されている。該当する住居跡は、第7・30・41・82・121・132・135・140・161・188・199・226・232号住居跡で、時期は出土土器の様相から9世紀後葉に比定できる。住居跡は、台地南側に6軒(第132・135・161・199・226・232号住居跡)で位置するグループ、その北側に3軒(第41・82・121号住居跡)で位置するグループ、その西側に2軒(第140・188号住居跡)で位置するグループ、その北側に60m離れて2軒(第7・30号住居跡)で位置するグループの4グループに分けることができる。住居跡の数は前期よりやや減少しているが、台地の南側に集中している傾向は前期を踏襲している。この時期の竈は北壁に設けられているものが多いが、東壁に設けられているものも若干存在する。

XIII期

当期の遺構は、堅穴住居跡7軒が確認されている。該当する住居跡は、第6・12・13・26・35・145・176号住居跡で、時期は出土土器の様相から10世紀前葉に比定できる。住居跡は、台地中央部に6軒(第6・12・13・26・35・145号住居跡)がまとまり、その南側約35mに単独の1軒(第176号住居跡)が存在している。

住居跡の数は前期より減少しているが、集落の中心部が調査区域外の台地西方に移動している可能性が想定できる。

Ⅲ期

当期の遺構は、竪穴住居跡11軒が確認されている。該当する住居跡は、第14・23・112・148・150・162・163・165・169・202・206号住居跡で、時期は出土土器の様相から10世紀中葉に比定できる。住居跡は、台地南端部に3軒（第169・202・206号住居跡）で存在するグループ、北西に約50m離れ6軒（第112・148・150・162・163・165号住居跡）で存在するグループ、その北側に2軒（第14・23号住居跡）で存在するグループに分けることができる。南端部の3軒以外は、前期の位置を踏襲しており、集落の中心部は調査区域外の台地西方にあるものとみられる。竈は、東壁に設けられたものが主体的となる。集落は、この時期をもって終焉を迎えている。

以上述べてきたように、陣場の集落は、縄文時代（前期・中期）と弥生時代（後期）及び古墳時代前期・中期においては断続的に生まれ、古墳時代後期の6世紀後葉から平安時代の10世紀中葉までは、若干の盛衰を繰り返しながら継続して営まれていたことが判明した。調査区は集落の東半部にあたり、集落としての中心部は西側に拡がっていたものとみられる。

註

- 1) 川上直登はか「上野陣場遺跡 中根・金田台特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅴ」
「茨城県教育財団文化財調査報告」第182集 2002年3月
- 2) 植田義弘「熊の山遺跡 島名・福田坪一体型特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅶ」
「茨城県教育財団文化財調査報告」第190集 2002年3月

抄 録

ふりがな	うえのじんばいせき								
書名	上野陣場遺跡2								
副書名	中根・金田台特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書								
巻次	XI								
シリーズ名	茨城県教育財団文化財調査報告								
シリーズ番号	第323集								
編著者名	川井正一 齋藤和浩								
編集機関	財団法人茨城県教育財団								
所在地	〒310-0911 茨城県水戸市見和1丁目356番地の2 TEL.029-225-6587								
発行年月日	2009(平成21)年3月23日								
ふりがな所取遺跡	ふりがな所在地	コード	北緯	東経	標高	調査期間	調査面積	調査原因	
うえのじんばいせき 上野陣場遺跡	いばひおけん 茨城県つくば市 おねがすとのなかぎなひ 大字上野字成井 ばら 895番地の1ほか	08220 509	36度 6分 57秒 〔36度 7分 00秒〕	140度 7分 15秒 〔140度 7分 21秒〕	25 ~ 28m	20060601 ~ 20060831 20070401 ~ 20070531	1,813m ² 1,579m ²	中根・金田台特定土地区画整理事業に伴う事前調査	
所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物			特記事項	
上野陣場遺跡	集落跡	縄文	陥し穴	1基	縄文土器(深鉢)、石器(鎌)、銅片				
			土坑	6基					
			弥生	竪穴住居跡					1軒
	古墳	竪穴住居跡	2軒	土師器(坏、甕)					
				須恵器(坏、甕)、土製品、石製品(小玉)					
	奈良	竪穴住居跡	11軒	土師器(坏、碗、高台付坏、甕)					
		掘立柱建物跡	2棟	須恵器(坏、甕、盤、甕、鉢、コップ)					
		粘土探掘坑	11基	形土器)					
	平安	陥し穴住居跡	16軒	灰釉陶器(長頸瓶)					
		土坑	8基	金属製品(刀子、鑑状金具、釘、鎌)					
			土師器(坏、高台付坏、皿、甕、円筒形土器)						
中世・近世	墓坑	4基	土師器(甕)						
	掘立柱建物跡	2棟	土師質土器(皿)						
	土坑	3基	金属製品(釘、古銭)						
時期不明	竪穴住居跡	1基							
	土坑	115基							
	溝跡	2条							
		ピット群	6カ所						
要約	今回報告するのは、第182集で報告した調査第1区の北側(2区)と南側(3区)の部分である。縄文時代から近世まで断続的に集落が営まれた複合遺跡で、特に古墳時代から平安時代にかけて隆盛した集落跡であることが明らかになっている。								

茨城県教育財団文化財調査報告第323集

上野陣場遺跡 2

中根・金田台特定土地区画整理
事業地内埋蔵文化財調査報告書XI

平成21(2009)年3月18日 印刷
平成21(2009)年3月23日 発行

発行 財団法人茨城県教育財団
〒310-0911 水戸市見和1丁目356番地の2
茨城県水戸生涯学習センター分館内
TEL 029-225-6587

印刷 有限会社 クリエイティブサンエイ
〒311-4302 茨城県東茨城郡城里町那珂西1879-5
TEL 029-288-7778

写 真 图 版



上野陣場出土遺物



2区北部完掘状况



2区南部完掘状况

PL2

2区



第1号陥し穴
完掘状況



第503・504号土坑
完掘状況



第558号土坑
完掘状況

第 569 号 土 坑
完 掘 状 况



第 569 号 土 坑
遗 物 出 土 状 况



第 222 号 住 居 跡
完 掘 状 况



PL 4

2区



第 213 号住居跡
完掘状況



第 213 号住居跡
葦遺物出土状況



第 210 号住居跡
完掘状況

第210号住居跡
完掘状況



第212号住居跡
完掘状況



第212号住居跡
遺物出土状況



PL6

2区



第214号住居跡
完掘状況



第214号住居跡
遺物出土状況



第217号住居跡
完掘状況

2区

PL7

第218号住居跡
完掘狀況



第218号住居跡
竈完掘狀況



第219号住居跡
完掘狀況



PL8

2区



第 219 号住居跡
完 掘 状 況



第 221 号住居跡
完 掘 状 況



第 221 号住居跡
遺 物 出 土 状 況



第 527 号 土 坑
遗 物 出 土 状 况



第 534 号 土 坑
完 掘 状 况



第 6 号 墓 坑
人 骨 出 土 状 况



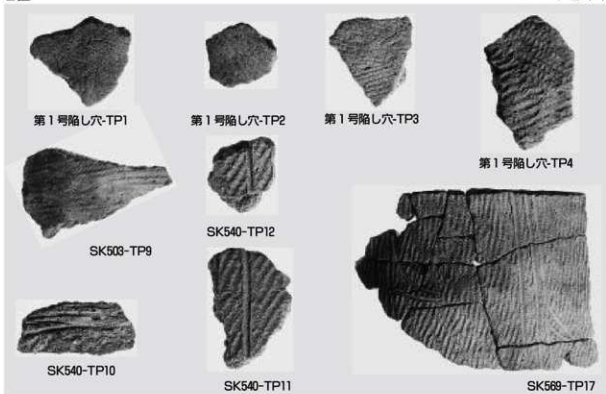
第 7 号墓坑
人骨出土状况



第 8 号墓坑
人骨出土状况



第 537 号土坑
完掘状况



第1号陥し穴、第503・540・569号土坑、第210・212・213号住居跡出土遺物





SI 220-70



SI 221-74



SI 223-78



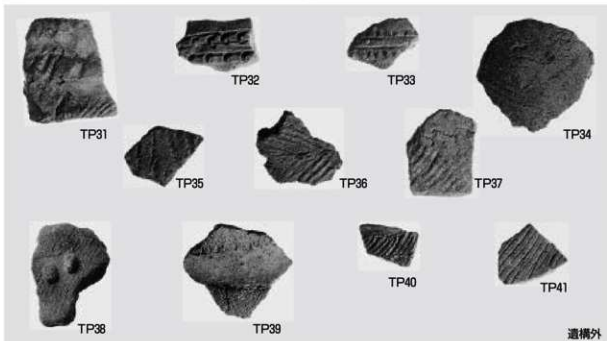
SI 221-73



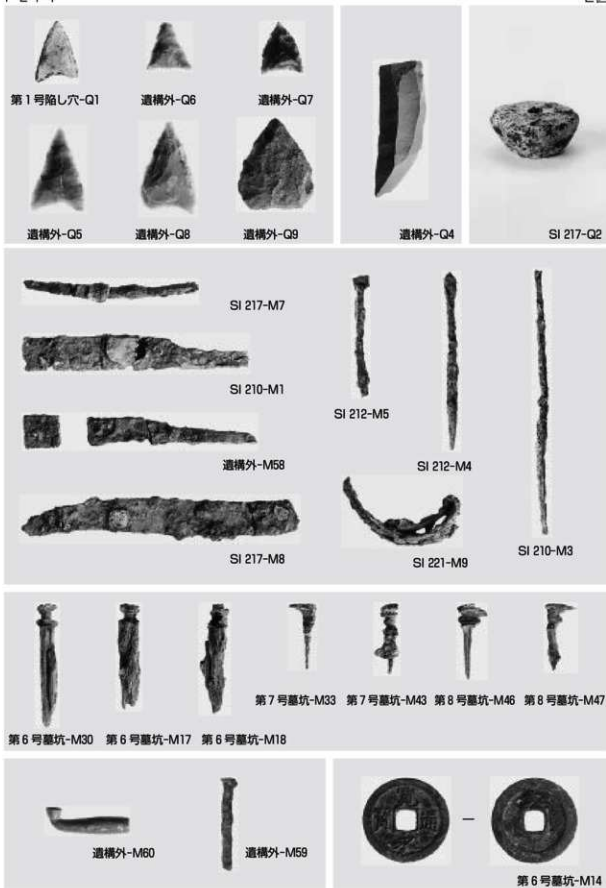
SK514-87



SI 221-TP29



遺構外



石器，石製品，金屬製品



3区完掘状況（南西側から）



3区完掘状況（北東側から）

PL16

3区



第225号住居跡
完掘状況



第225・231号住居跡
遺物出土状況



第225号住居跡
遺物出土状況

第225号住居跡
遺物出土状況



第225号住居跡
掘完掘状況



第134・238号住居跡
掘完掘状況



PL18

3区



第 224 号住居跡
第 580・591 号土坑
完 掘 状 况



第 224 号住居跡
遺 物 出 土 状 况



第 224 号住居跡
完 掘 状 况

第224号住居跡
竈遺物出土状況



第226号住居跡
完掘状況



第226・227号住居跡
完掘状況





第228号住居跡
完掘状況



第228号住居跡
遺物出土状況



第229号住居跡
完掘状況

第229号住居跡
遺物出土状況



第230号住居跡
完掘状況



第230号住居跡
竈完掘状況





第 231 号住居跡
完掘状況



第 231 号住居跡
完掘状況



第 231 号住居跡
遺物出土状況

第232号住居跡
完掘状況



第232号住居跡
竈完掘状況



第233号住居跡
完掘状況





第232・233号住居跡
遺物出土状況



第233号住居跡
掘完掘状況



第234号住居跡
遺物出土状況

第23号掘立柱建物跡
完掘狀況



第24・25号掘立柱建物跡
完掘狀況



第1号粘土探掘坑
遺物出土狀況





第7号粘土探掘坑
遺物出土狀況



第8号粘土探掘坑
遺物出土狀況



第24号溝跡
完掘狀況









SI 236-155



SI 238-160



SB23-167



NSK1-185



NSK1-184

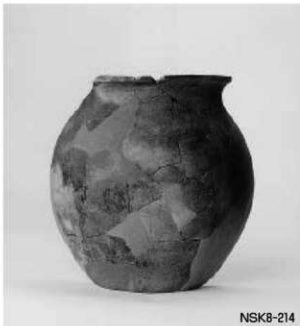


SI 237-157



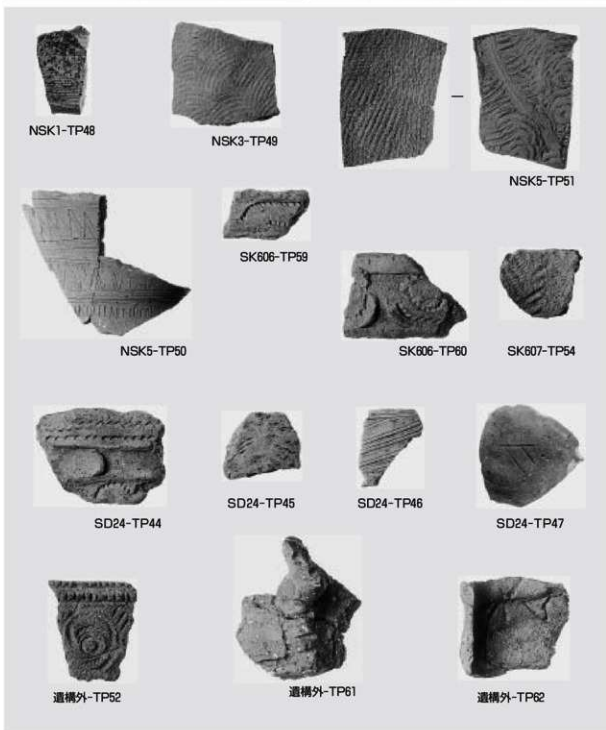
SI 232-151

第232・236・237・238号住居跡，第23号掘立柱建物跡，第1号粘土探掘坑出土遺物

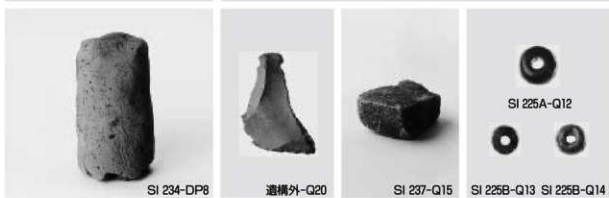
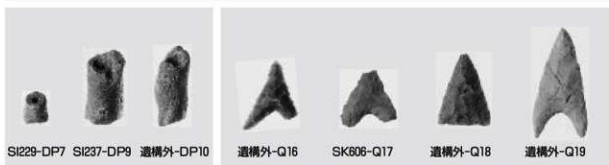




第2・8号粘土探掘坑，第592・596・619号土坑出土遺物



第1・3・5号粘土探掘坑，第592・606・607号土坑，第24号溝跡，遺構外出土遺物



遺構外出土遺物、土製品、石器、石製品、金屬製品